

第2期
登別市まち・ひと・しごと
創生総合戦略



令和2年3月（策定）
令和6年3月（改訂）

登別市

【 目 次 】

第1章 人口ビジョン.....	1
1. 我が国の人口推移.....	2
2. 人口の現状分析.....	3
(1) 人口の推移.....	3
(2) 社会増減（転入・転出）.....	7
(3) 自然増減（出生数・死亡数）.....	12
(4) 社会増減と自然増減の関係性.....	15
3. 人口の将来推計と分析.....	16
(1) 将来人口推計と分析.....	16
(2) 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析.....	18
4. 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析、考察.....	25
(1) 1人当たりの地方税の負担増加.....	25
(2) 基盤施設維持管理費の増大の可能性.....	26
(3) 小・中学校の減少の可能性.....	27
(4) 地域産業の担い手の減少.....	28
5. 人口の将来展望.....	29
(1) 将来展望の検討に必要な調査分析.....	29
(2) 現状の問題点と目指すべき将来の方向性.....	33
(3) 人口の将来展望.....	35
第2章 第1期総合戦略の検証.....	38
1. 第1期総合戦略策定からこれまでの経過.....	39
2. 基本目標における数値目標の検証.....	39
3. 基本目標ごとの数値目標と重要業績評価指標（KPI）の検証...	40
(1) 基本目標1 子どもを生み育てやすいまちへ.....	41
(2) 基本目標2 安心して老いを迎えることができるまちへ.....	43
(3) 基本目標3 各産業が元気に展開されるまちへ.....	45
(4) 基本目標4 観光地としての魅力づくり.....	47
(5) 基本目標5 移住・定住したいまちへ.....	48

第3章 第2期総合戦略.....	50
1. 総合戦略の位置づけ.....	51
(1) 総合戦略策定の目的.....	51
(2) 総合戦略の位置づけ.....	52
(3) 総合戦略の対象期間.....	52
(4) 総合戦略の名称.....	52
(5) 総合戦略の全体構成.....	52
2. 地方創生に対する基本的な考え方.....	53
3. 地方創生のための重点戦略.....	56
4. 新たな視点.....	58
5. 具体施策と数値目標.....	61
(1) 基本目標1 子どもを生み育てやすいまちへ.....	61
(2) 基本目標2 安心して老いを迎えることができるまちへ.....	64
(3) 基本目標3 各産業が元気に展開されるまちへ.....	67
(4) 基本目標4 観光地としての魅力を高め選択されるまちへ.....	71
(5) 基本目標5 移住・定住・応援したいまちへ.....	74
参考資料 アンケート調査結果.....	77
1. 調査概要.....	78
(1) 調査目的.....	78
(2) 調査日時.....	78
(3) 対象者.....	78
(4) 配布回収数.....	78
(5) 調査結果.....	78
2. 調査結果.....	79
(1) 子育て施策向けアンケート結果.....	79
(2) 高齢者施策向けアンケート結果.....	100
(3) 雇用・経済施策向けアンケート（高校生）結果.....	117
(4) 雇用・経済施策向けアンケート（専門学生）結果.....	131
(5) 雇用・経済施策向けアンケート（事業所）結果.....	144

第1章 人口ビジョン

1. 我が国の人口推移

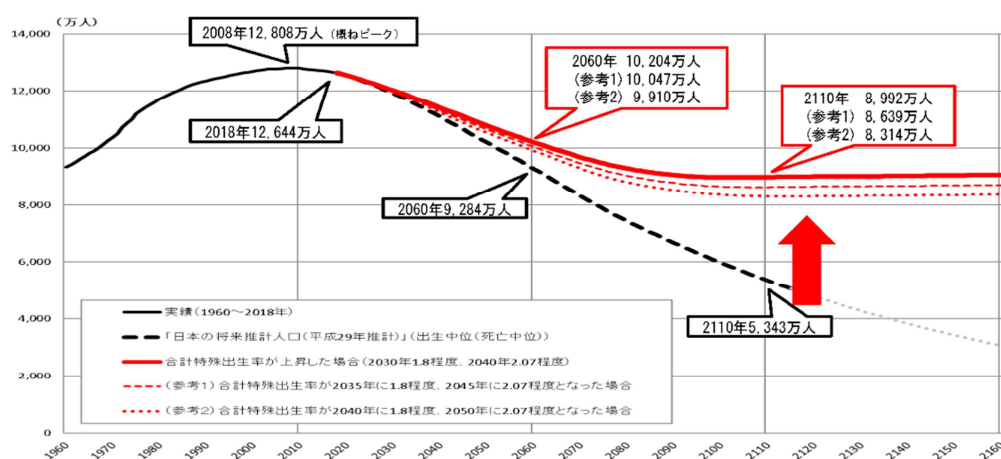
国の見通しによると平成20年（2008年）に始まった人口減少は、今後も進行し、令和42年（2060年）には約9,300万人まで人口が減少すると予測され、生産年齢人口の減少による経済活動力の低下や、高齢者の増加による社会保障に関わる負担の増加などが懸念されています。また、道内の人口も平成9年（1997年）をピークに減少を始めており、今後も減少が続く予測です。

そのため、国は、平成26年（2014年）11月に将来に渡って活力ある日本社会を維持していくことを目的とした「まち・ひと・しごと創生法案」を制定するとともに、同年12月に令和42年時点で1億人程度の人口維持を目指した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を示しました。

これを受け、当市でも、国が公表した将来人口推計、地域性、アンケート調査結果から捉えられる住民や事業者等のニーズなどを踏まえ、その対策を講じることで、将来的に見込まれる人口減少を緩やかにすることを目指し、平成27年（2015年）10月に「人口ビジョン」を策定しました。

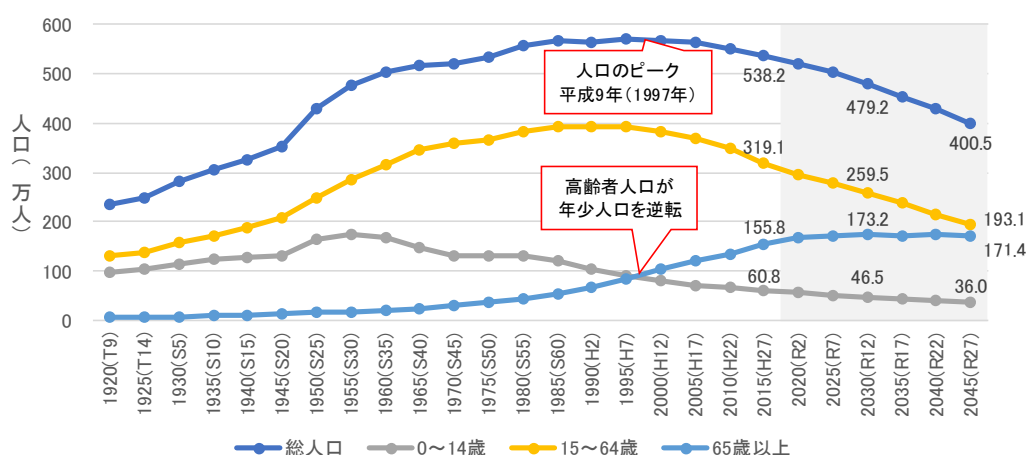
なお、当市としては、令和2年度（2020年度）を始期とする第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定にあたり、「人口ビジョン」策定以降、さらに加速した人口減少の状況など鑑み、「人口ビジョン」に時点修正を加え、改訂することとします。

わが国の人口の推移と長期的な見通し



資料：「まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」パンフレット（内閣官房）」

道内人口の推移と長期的な見通し



資料：「北海道人口ビジョン」骨子案より

2. 人口の現状分析

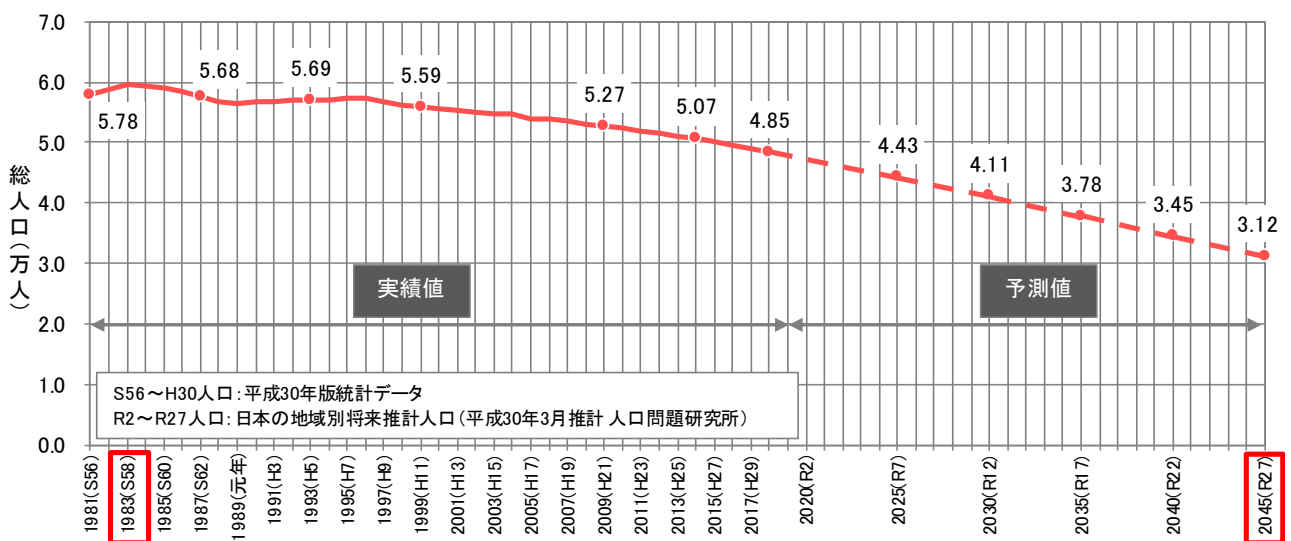
(1) 人口の推移

① 総人口の推移

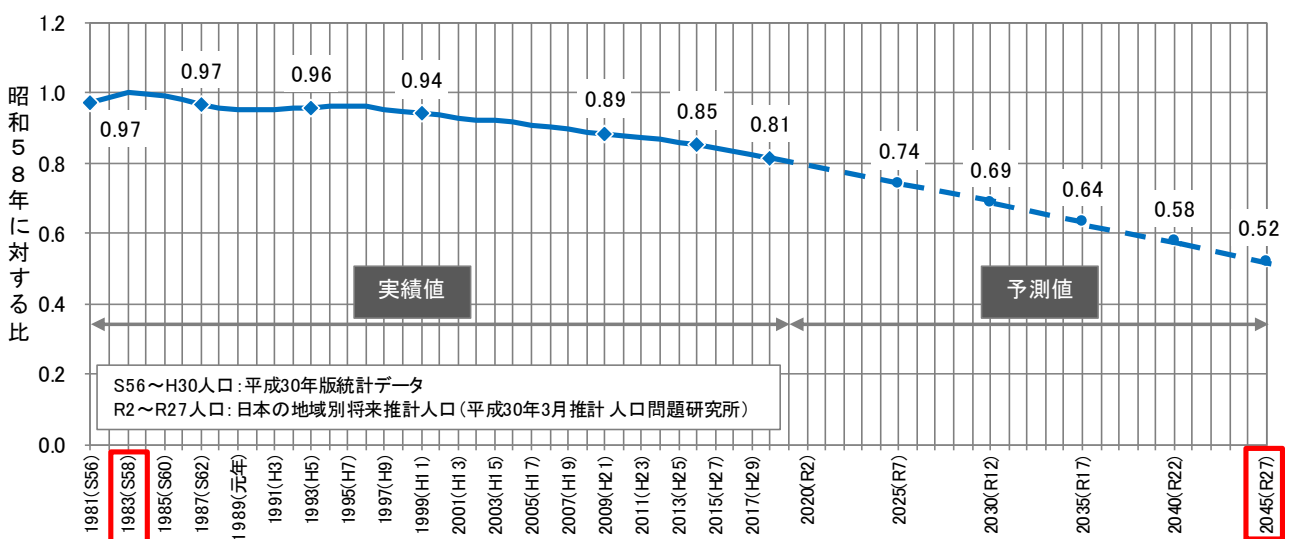
当市の人口は、工業都市室蘭市の人口増加とともに増加し続けてきましたが、昭和58年（1983年）をピークに年々減少しており、平成7年（1995年）頃わずかに増加したものの、以降は減少が続いています。

今後、人口は減少し続けると予測されており、令和27年（2045年）には31,170人となり、昭和58年時点の半数程度にまで減少するとされています。

登別市の総人口の推移と将来人口



昭和58年（1983年）人口に対する各年度の人口比

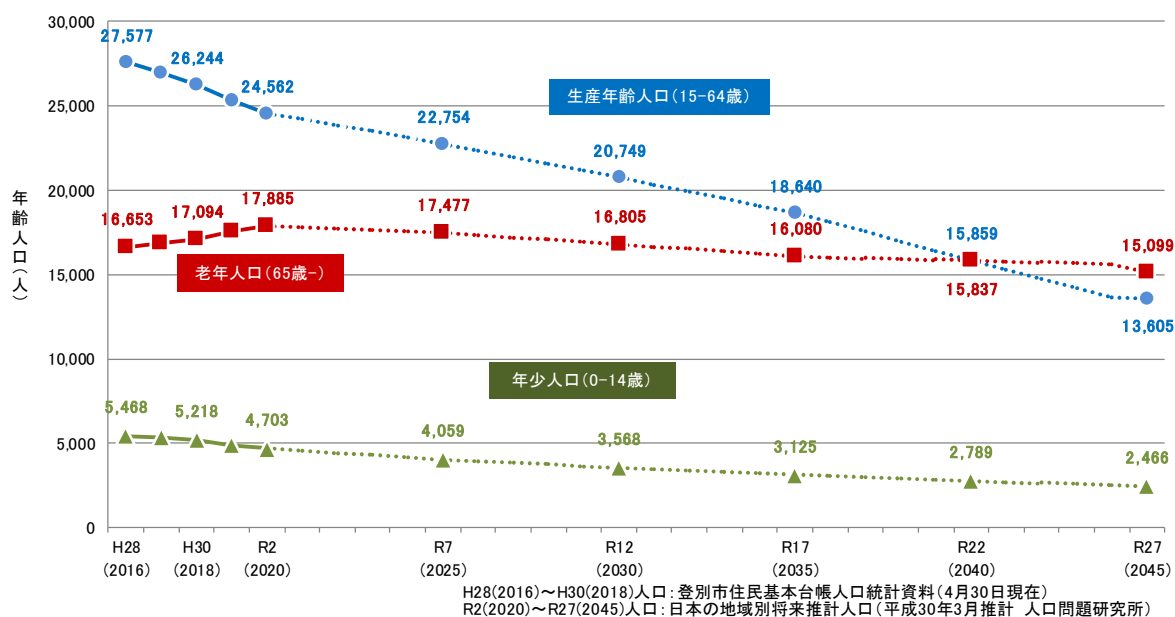


② 年齢別人口の推移

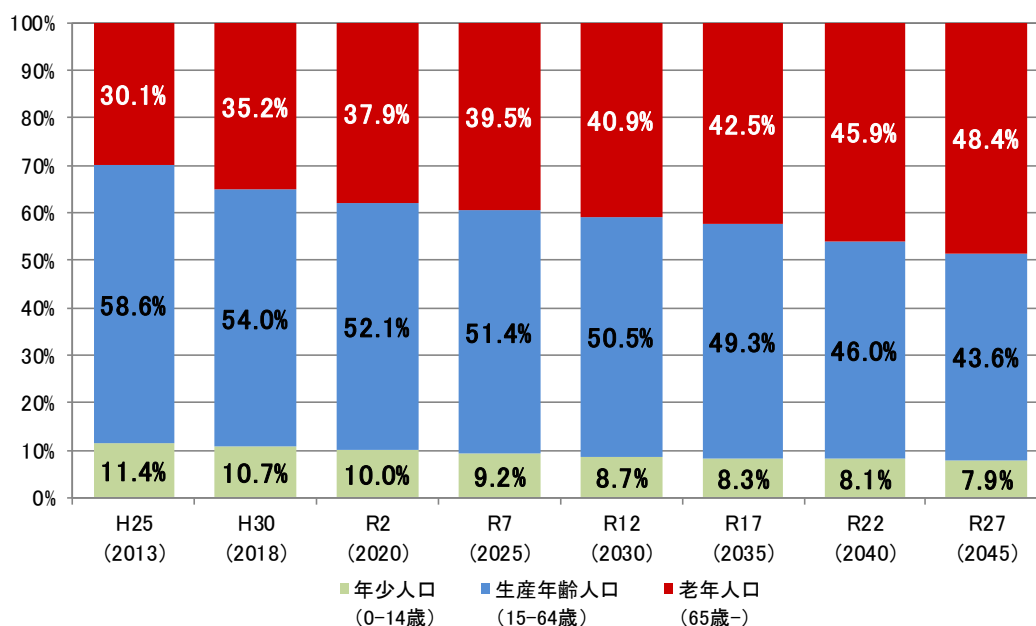
年齢3区分別の人口をみると、老年人口（65歳以上）が令和2年（2020年）までは増加するものの、年少人口（0-14歳）及び生産年齢人口（15-64歳）は減少が続くと予測されています。老年人口も令和3年以降は減少に転じると予測されています。

高齢化率（65歳以上）は、将来的にますます高まり、令和27年（2045年）には48.4%に達すると予測されています。

登別市の年齢別人口の推移と将来人口



登別市の年齢別人口構成比の推移



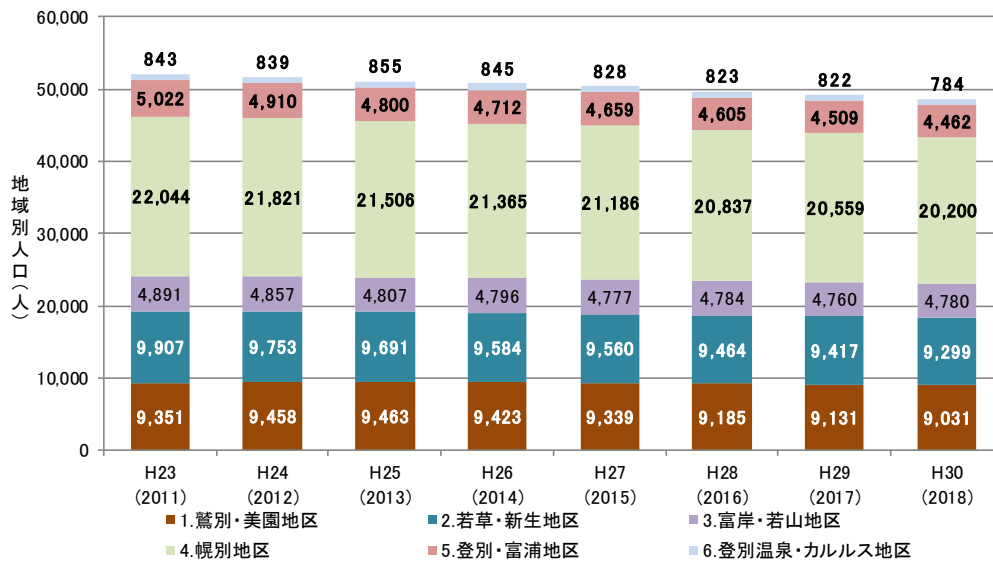
H25・H30人口：登別市住民基本台帳人口統計資料（4月30日現在）
R2～R27人口：日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計 人口問題研究所）

③ 地域別人口の推移

平成30年（2018年）の地域別人口をみると、全地区共通で平成23年（2011年）に比べ減少しています。

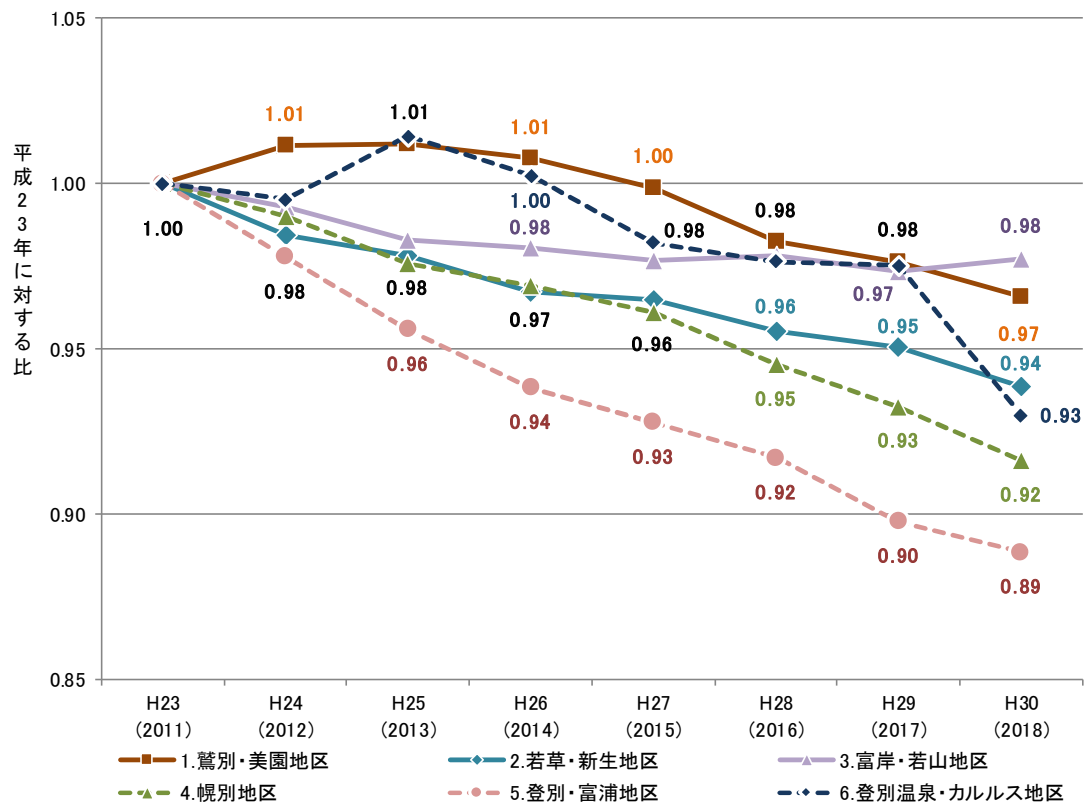
特に、登別・富浦地区の平成30年の人口は、平成23年と比べ0.11ポイント減少し、市の中で最も減少が著しい状況です。

地域別人口の推移



資料：登別市住民基本台帳人口統計資料（4月30日現在）

平成23年（2011年）人口に対する各年度の人口比

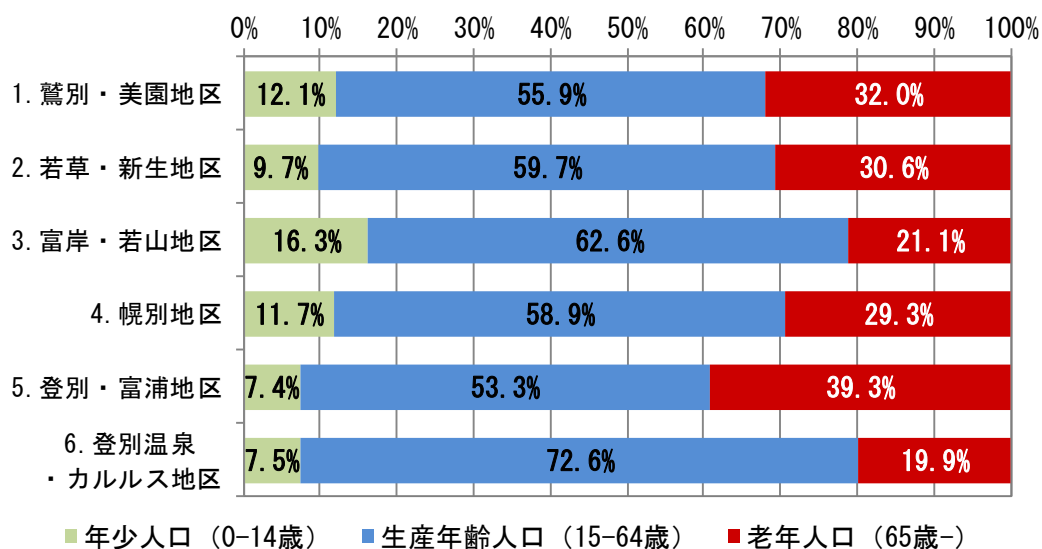


資料：登別市住民基本台帳人口統計資料（4月30日現在）

地域別・年齢別の人口構成比をみると、ここ5年で全地区共通で、老年人口（65歳以上）の割合が増加し、生産年齢人口（15-64歳）の割合が減少しています。

地域別・年齢別の人口構成比

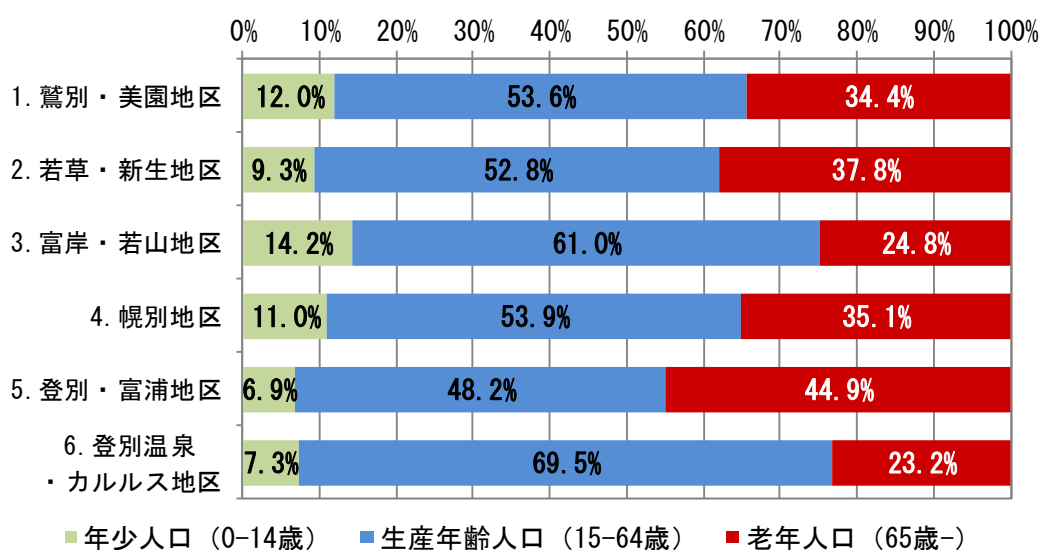
平成25年（2013年）地域別・年齢別の人口構成比（%）



資料：登別市住民基本台帳人口統計資料（平成25年4月30日現在）



平成30年（2018年）地域別・年齢別の人口構成比（%）



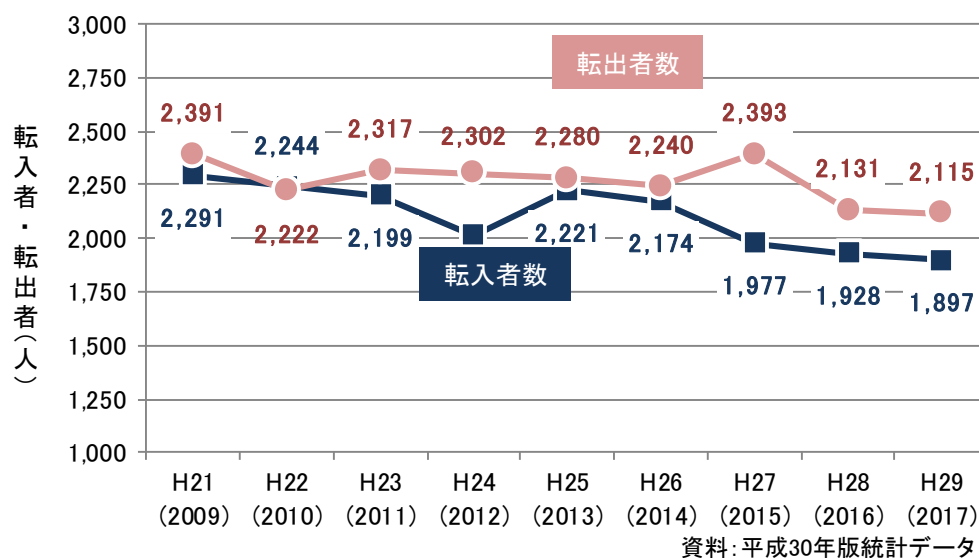
資料：登別市住民基本台帳人口統計資料（平成30年4月30日現在）

(2) 社会増減（転入・転出）

① 転入・転出者数の推移

近年の転入・転出者数をみると、年によってばらつきはありますが、平成22年（2010年）を除き、転出超過の状況となっています。

転入・転出者数の推移（社会増減）

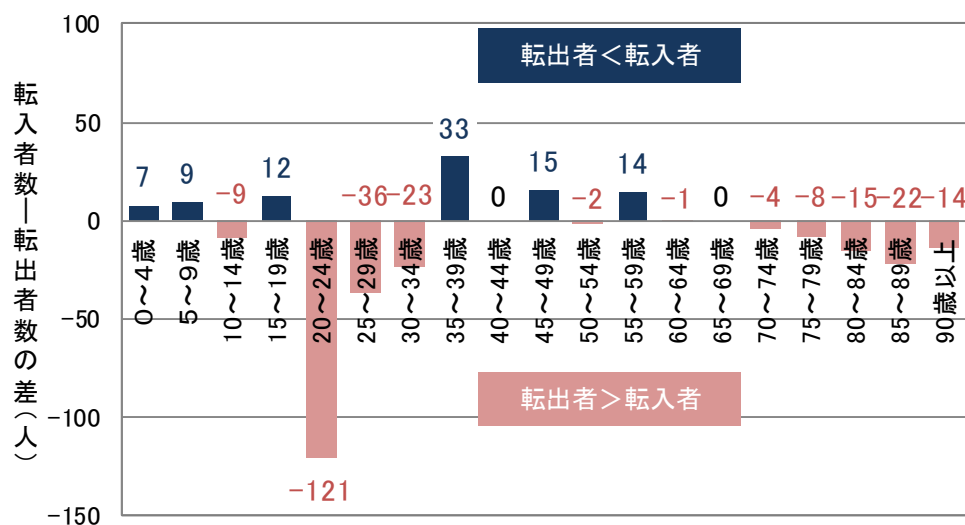


② 年齢階級別の人口移動

年齢階級別に、平成30年（2018年）の人口移動（転入転出の差）をみると、学生と思われる15～19歳では転入者が転出者を上回っています。また、35～39歳とその子どもとも考えられる0～4歳、5～9歳で転入者が転出者を上回っています。さらに、45～49歳、55～59歳も転入者が転出者を上回っています。

一方、20～24歳では転出者が転入者を大きく上回っており、就職などに伴い移動が行われる様子がうかがえます。

年齢階級別の人口移動の状況〔平成30年（2018年）〕

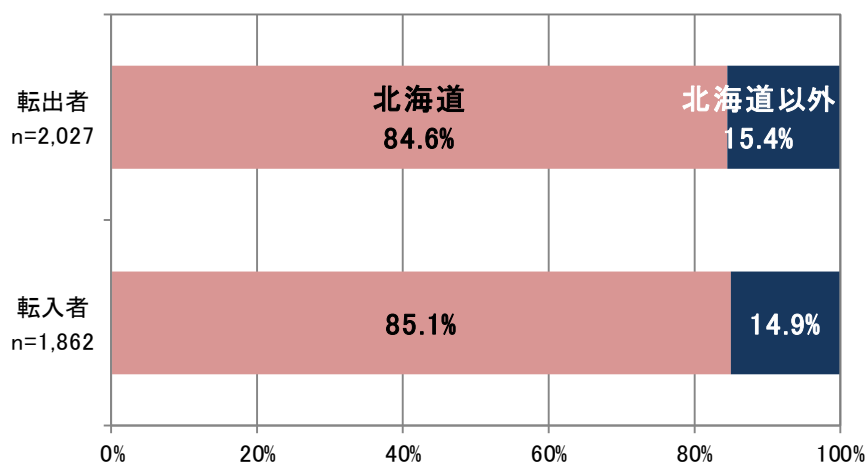


資料：住民基本台帳人口移動報告 詳細分析表 第1表より

③ 地域別の人口移動

転入・転出者は、北海道内での人口移動が大半を占めていますが、北海道以外との人口移動についても、転出では15.4%・転入では14.9%を占めています。

地域別（道内外）の人口移動の状況〔平成30年（2018年）〕

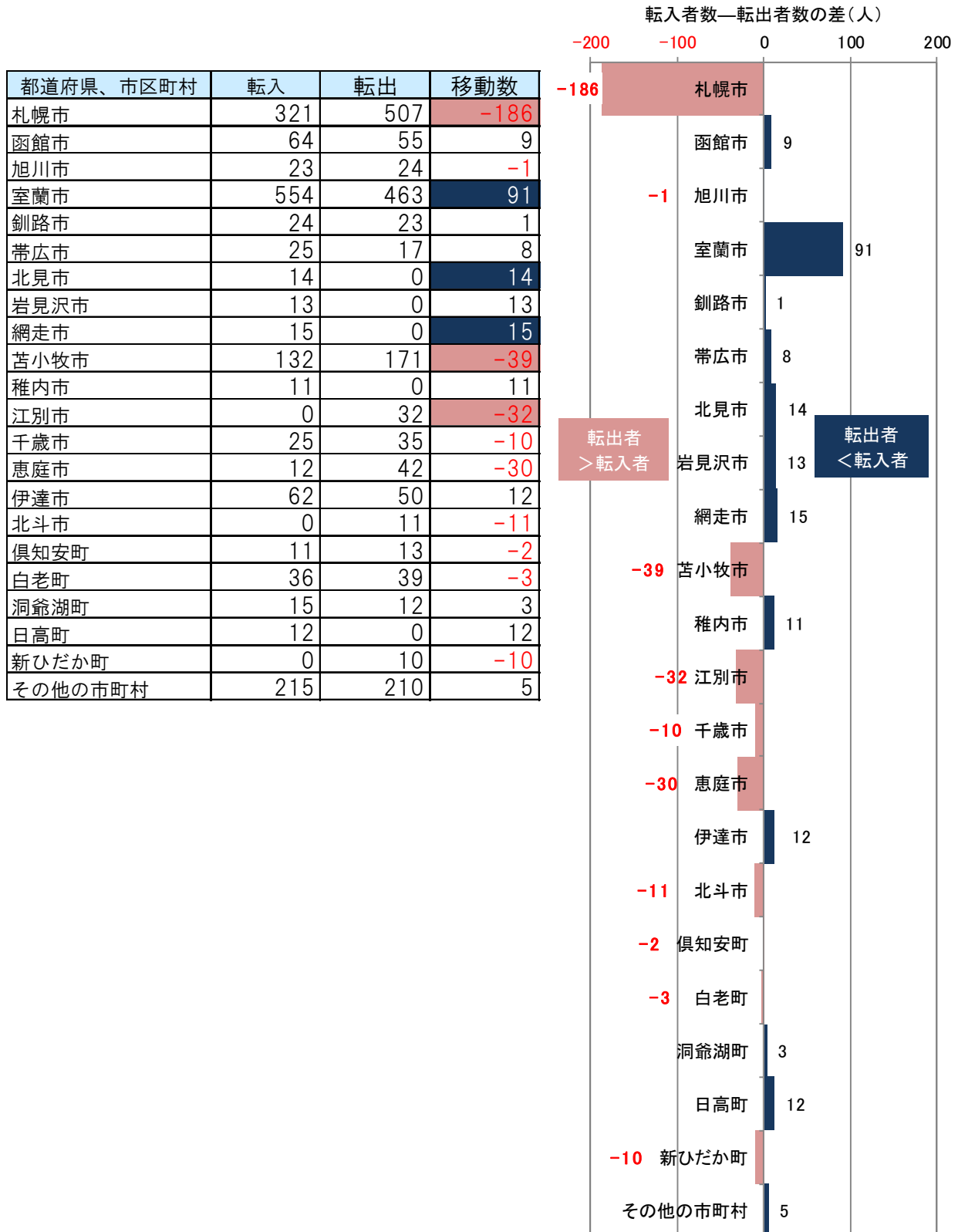


資料：住民基本台帳人口移動報告 詳細分析表 第1表より

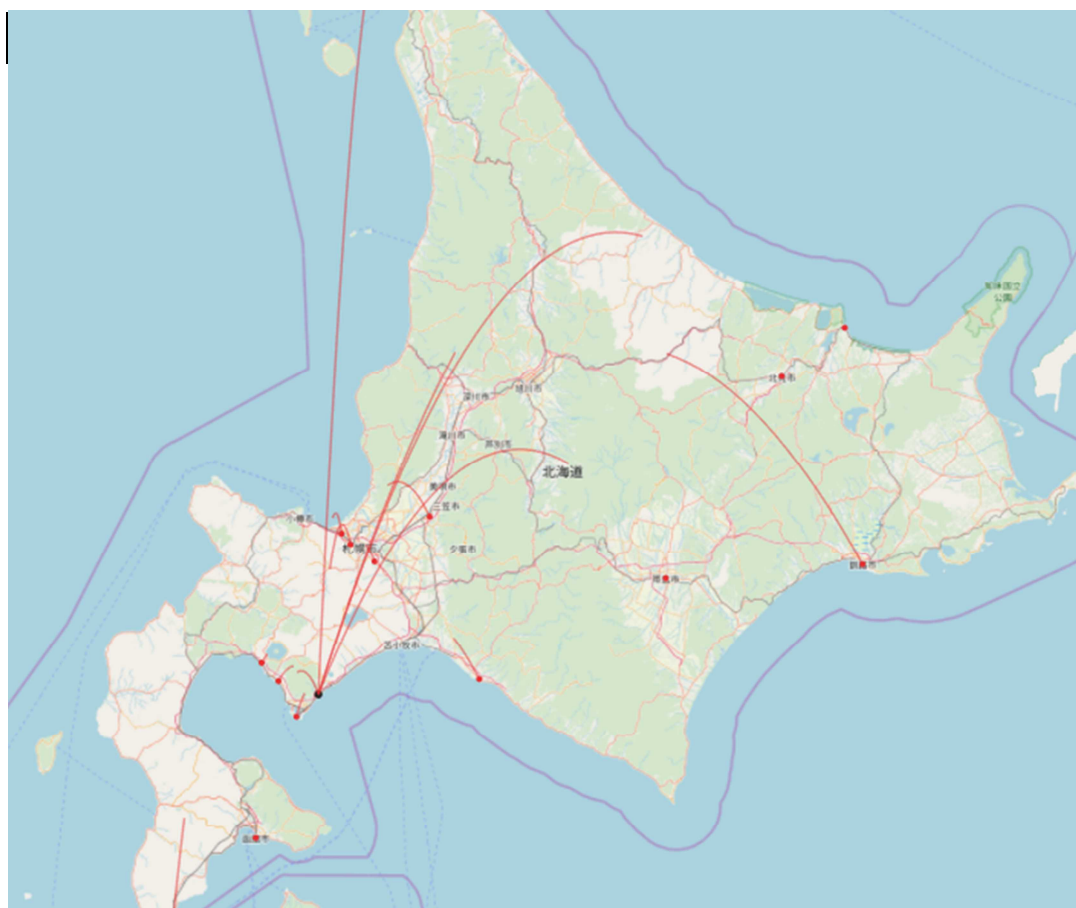
平成30年（2018年）における、転入・転出者の道内での人口移動をみると、室蘭市からの転入が多いことが特徴的です。室蘭市から、住宅購入などを契機とした移動が考えられます。

一方、転出者は、札幌市への転出が圧倒的に多く、苫小牧市や江別市が続いています。

地域別（道内）の人口移動の状況〔平成30年（2018年）〕



地域別（道内）の人口移動の状況図



転出超過の状況図



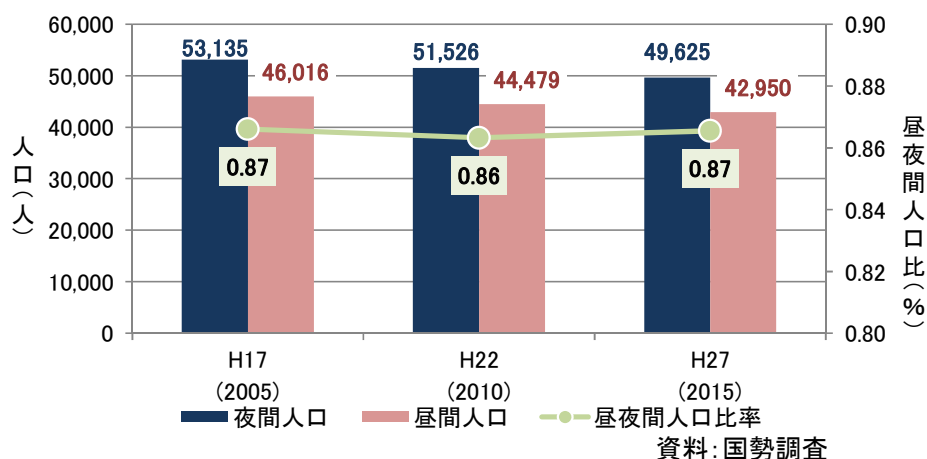
出典：RESAS（地域経済分析システム）より

④ 通勤・通学に伴う移動

昼夜間比（昼間人口/夜間人口）をみると、1.00を下回っており、市外への通勤・通学が中心であることがうかがえます。

また、平成27年（2015年）における就業者・通学者の移動をみると、当市から室蘭市への移動が40%弱、または室蘭市から当市への移動が16%と室蘭市との結びつきが強いことが特徴的です。

昼間・夜間人口の推移



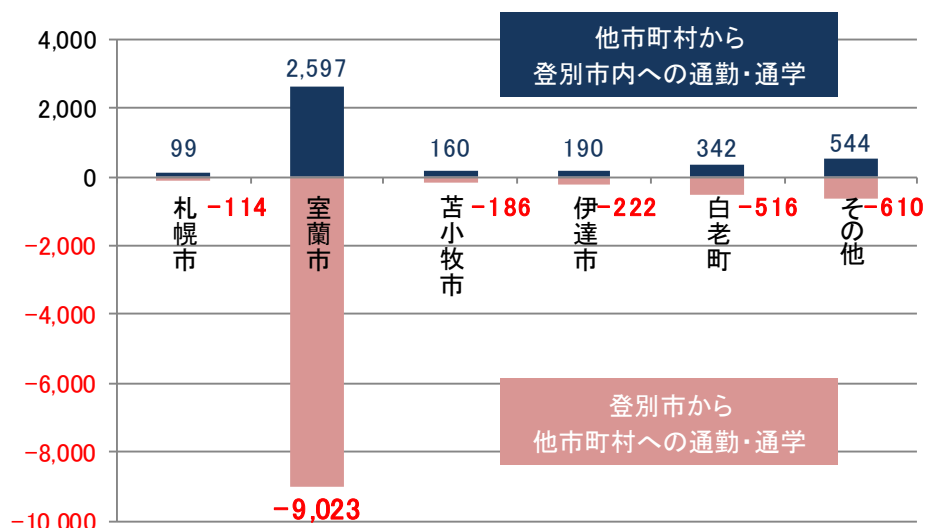
地域別（道内）の通勤・通学の状況〔平成27年（2015年）〕

				就業者・通学者数						就業者・通学者数	
常住人口※1				23,013	100.0%	従業人口※2				16,274	100.0%
内 訳	登別市	⇒	登別市	12,342	53.6%	内 訳	登別市	⇒	登別市	12,342	75.8%
			札幌市	114	0.5%				札幌市	99	0.6%
			室蘭市	9,023	39.2%				室蘭市	2,597	16.0%
			苫小牧市	186	0.8%				苫小牧市	160	1.0%
			伊達市	222	1.0%				伊達市	190	1.2%
			白老町	516	2.2%				白老町	342	2.1%
			その他	610	2.7%				その他	544	3.3%

※1 常住人口：本市に常住する15歳以上の就業者・通学者

資料：平成27年度国勢調査

※2 従業人口：本市に就業・通学する15歳以上の者



資料: 平成27年度国勢調査

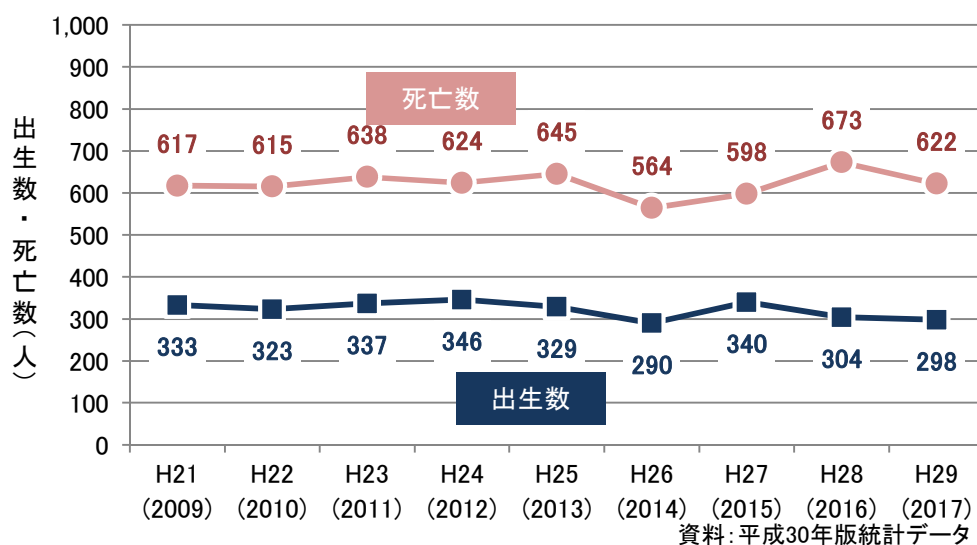
(3) 自然増減（出生数・死亡数）

① 出生数・死亡数の推移

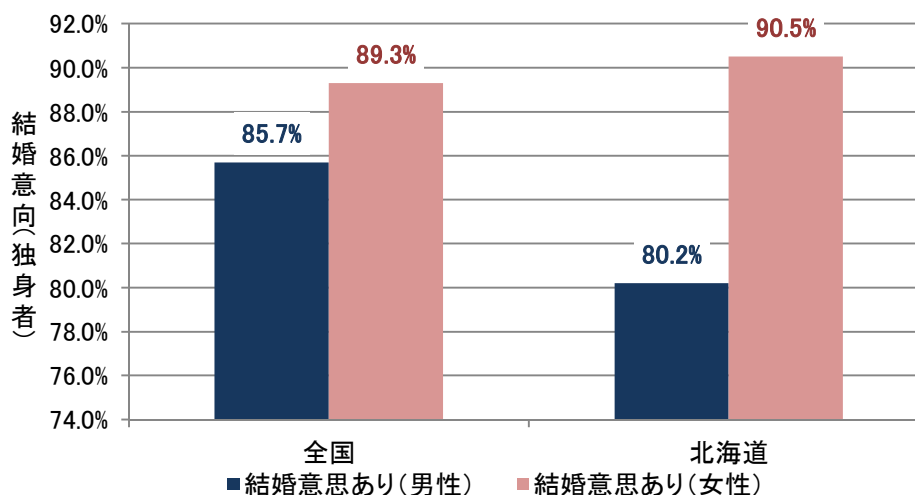
出生数・死亡数をみると、死亡数が出生数を上回っており、自然減が続いています。

また、国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）が実施した出生動向調査から、道内独身者の結婚意向をみると、男性は全国値より低く、女性は全国値より高い状況にあります。

出生数・死亡数の推移（自然増減）



結婚意向（独身者）

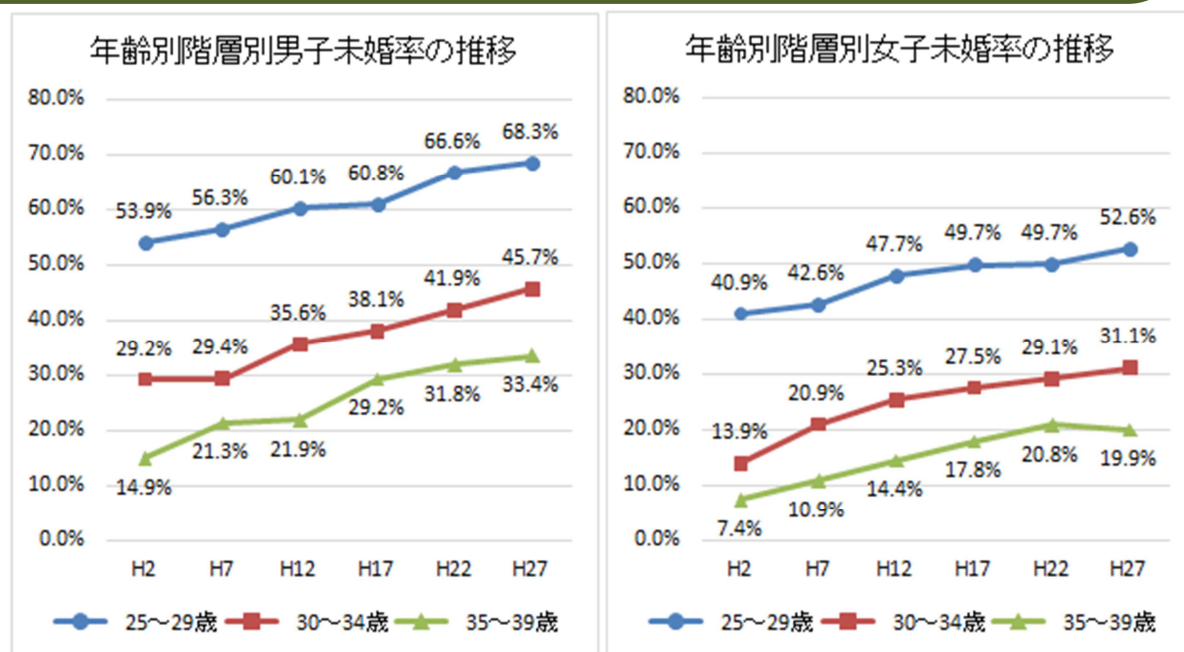


第15回出生動向基本調査(平成27年 人口問題研究所)

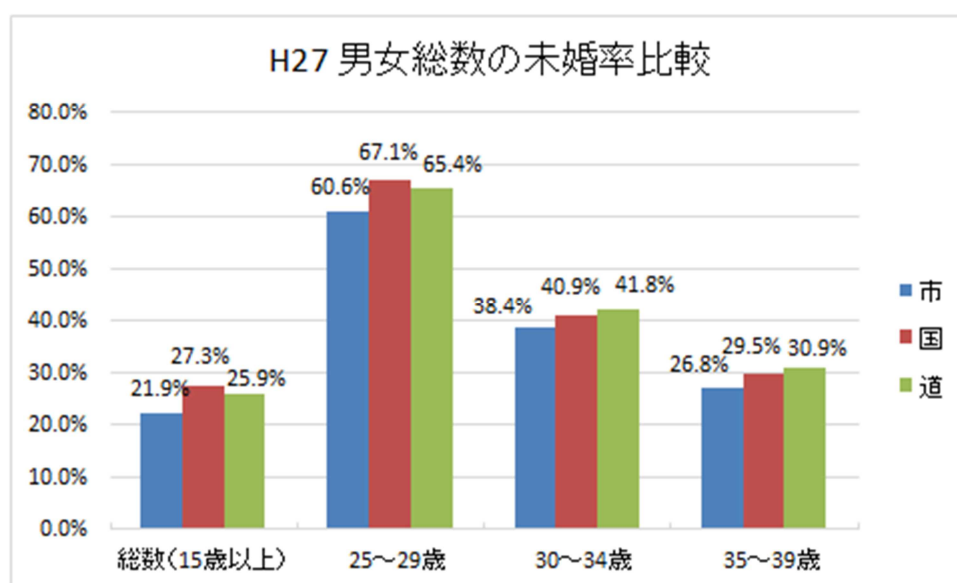
② 未婚率の推移

当市の25歳～39歳の未婚率の推移をみると、男女ともに増加傾向にあります。また、グラフには示していませんが、男女ともに25歳から54歳の年齢階層の未婚率は、平成2年（1990年）よりも10%以上増加しています。また、男性の方が女性よりも未婚率が高い状況が続いています。

国勢調査の結果をみると、当市の未婚率は、全国値と全道値よりも低い状況となっています。



資料：平成2年～平成27年国勢調査

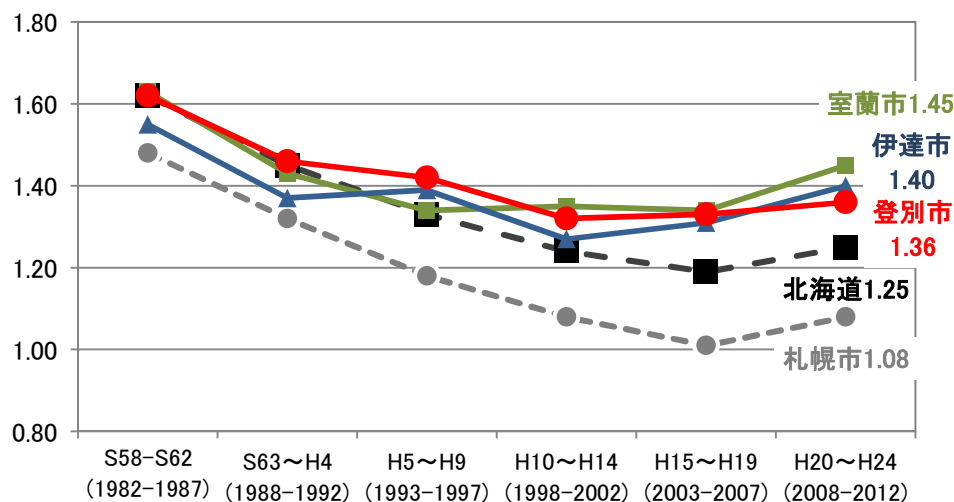


資料：平成27年国勢調査

③ 合計特殊出生率の推移

当市の合計特殊出生率※は、北海道と比較して高い水準となっていますが、近隣の室蘭市・伊達市と比べると低く推移しています。

合計特殊出生率の推移

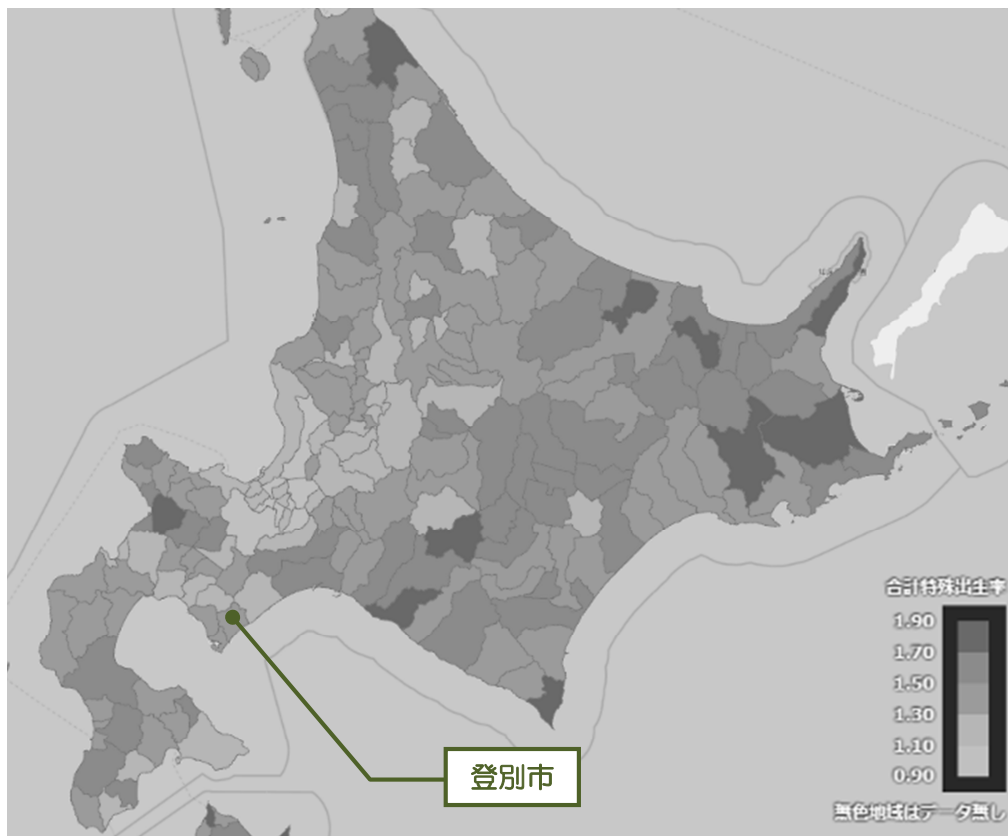


資料：人口動態保健所・市区町村別統計（厚生労働省）

※ 合計特殊出生率（TFR）：1人の女性が一生に産む子どもの平均数

※ 合計特殊出生率は、地域ごとに平成20年～平成24年の15歳から49歳までの女性の5歳階級別出生率（年率）の5倍を合計して算出。

北海道の市町村別の合計特殊出生率

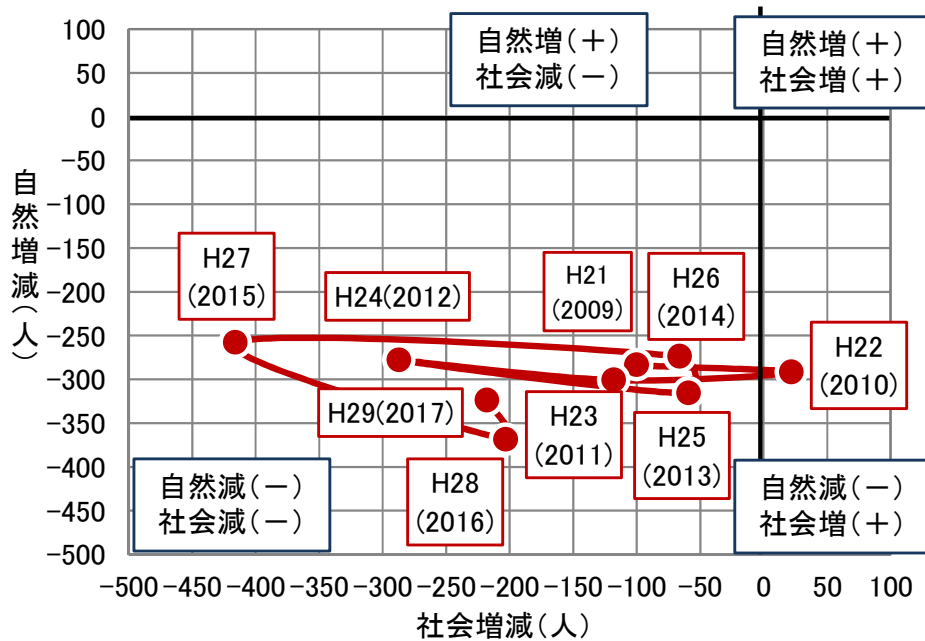


出典：RESAS（地域経済分析システム）より

(4) 社会増減と自然増減の関係性

縦軸に自然増減をとり、横軸に社会増減をとって、各年の自然増減（出生数-死亡数）と社会増減（転入者数-転出者数）の経年変化をみると、各年でばらつきがありますが、大きな経年変化としては、自然減が大きくなっている状況が読み取れます。

社会増減・自然増減の関係性



3. 人口の将来推計と分析

(1) 将来人口推計と分析

社人研推計によると、当市の将来人口は平成27年（2015年）の48,862人から、令和27年（2045年）には31,170人となり、約36%減少（約17,700人減少）する予測となっています。

また、令和42年（2060年）には21,906人まで減少し、平成27年の約半数の人口になると予測されています。

■社人研データによるコーホート要因法による人口推計（市全体）

推計手法	・ 年齢別のコーホートに対して、社人研推計による「生残率、純移動率、子ども女性比」を用いて人口を推計（コーホート要因法） ・ 同手法を用いて、平成 27 年を基準に令和 42 年までの地区別人口推計 ・ 令和 27 年以降の生残率、純移動率、子ども女性比については、令和 22 年→令和 27 年の社人研推計値と同様と仮定																																																																						
利用データ	・ 実績値：国勢調査小地域人口（平成 12 年～平成 27 年） ・ 推計値：国立社会保障・人口問題研究所推計（令和 2 年～令和 27 年） ・ // ：生残率、純移動率、子ども女性比の令和 22 年→令和 27 年の社人研推計値を用いて、推計（令和 32 年～令和 42 年）																																																																						
推計結果	コーホート要因法による年齢別の推計人口（市全体） <table><thead><tr><th>Year</th><th>Total Population</th><th>Youth Population</th><th>Working-age Population</th><th>Elderly Population</th></tr></thead><tbody><tr><td>H12 (2000)</td><td>54,757</td><td>7,135</td><td>36,294</td><td>11,328</td></tr><tr><td>H17 (2005)</td><td>53,135</td><td>6,855</td><td>35,294</td><td>11,085</td></tr><tr><td>H22 (2010)</td><td>51,500</td><td>6,575</td><td>34,294</td><td>10,830</td></tr><tr><td>H27 (2015)</td><td>48,862</td><td>6,295</td><td>33,294</td><td>10,575</td></tr><tr><td>R2 (2020)</td><td>48,200</td><td>6,015</td><td>32,294</td><td>10,320</td></tr><tr><td>R7 (2025)</td><td>44,290</td><td>5,735</td><td>31,294</td><td>10,065</td></tr><tr><td>R12 (2030)</td><td>41,122</td><td>5,455</td><td>30,294</td><td>9,810</td></tr><tr><td>R17 (2035)</td><td>37,845</td><td>5,175</td><td>29,294</td><td>9,555</td></tr><tr><td>R22 (2040)</td><td>34,485</td><td>4,895</td><td>28,294</td><td>9,300</td></tr><tr><td>R27 (2045)</td><td>31,170</td><td>4,615</td><td>27,294</td><td>9,045</td></tr><tr><td>R32 (2050)</td><td>27,626</td><td>4,335</td><td>26,294</td><td>8,790</td></tr><tr><td>R37 (2055)</td><td>24,759</td><td>4,055</td><td>25,294</td><td>8,535</td></tr><tr><td>R42 (2060)</td><td>21,906</td><td>1,683</td><td>9,279</td><td>10,944</td></tr></tbody></table>	Year	Total Population	Youth Population	Working-age Population	Elderly Population	H12 (2000)	54,757	7,135	36,294	11,328	H17 (2005)	53,135	6,855	35,294	11,085	H22 (2010)	51,500	6,575	34,294	10,830	H27 (2015)	48,862	6,295	33,294	10,575	R2 (2020)	48,200	6,015	32,294	10,320	R7 (2025)	44,290	5,735	31,294	10,065	R12 (2030)	41,122	5,455	30,294	9,810	R17 (2035)	37,845	5,175	29,294	9,555	R22 (2040)	34,485	4,895	28,294	9,300	R27 (2045)	31,170	4,615	27,294	9,045	R32 (2050)	27,626	4,335	26,294	8,790	R37 (2055)	24,759	4,055	25,294	8,535	R42 (2060)	21,906	1,683	9,279	10,944
Year	Total Population	Youth Population	Working-age Population	Elderly Population																																																																			
H12 (2000)	54,757	7,135	36,294	11,328																																																																			
H17 (2005)	53,135	6,855	35,294	11,085																																																																			
H22 (2010)	51,500	6,575	34,294	10,830																																																																			
H27 (2015)	48,862	6,295	33,294	10,575																																																																			
R2 (2020)	48,200	6,015	32,294	10,320																																																																			
R7 (2025)	44,290	5,735	31,294	10,065																																																																			
R12 (2030)	41,122	5,455	30,294	9,810																																																																			
R17 (2035)	37,845	5,175	29,294	9,555																																																																			
R22 (2040)	34,485	4,895	28,294	9,300																																																																			
R27 (2045)	31,170	4,615	27,294	9,045																																																																			
R32 (2050)	27,626	4,335	26,294	8,790																																																																			
R37 (2055)	24,759	4,055	25,294	8,535																																																																			
R42 (2060)	21,906	1,683	9,279	10,944																																																																			

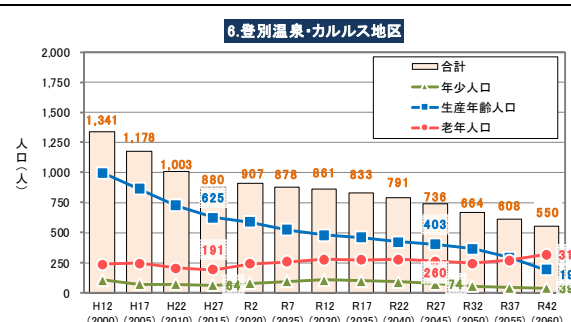
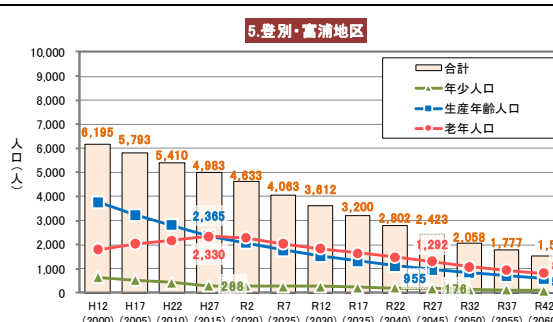
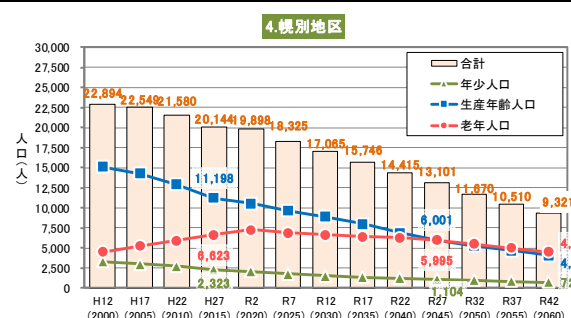
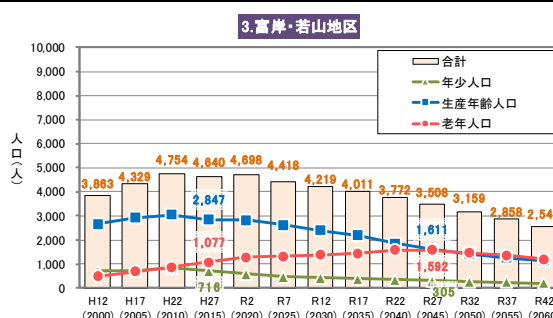
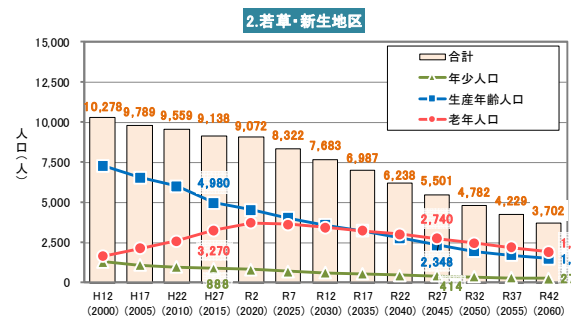
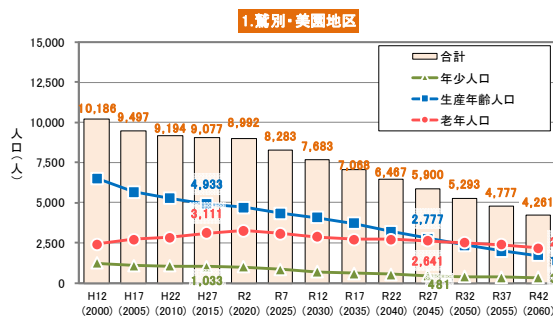
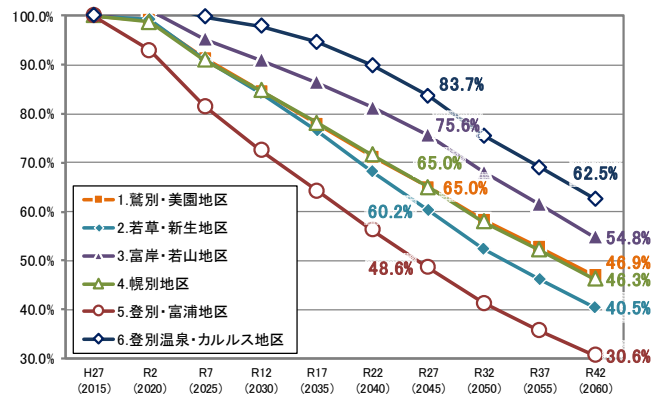
当市の地域別に将来人口をみると、登別・富浦地区は、平成 27 年（2015 年）から令和 27 年（2045 年）にかけて、約半数（48.1%）に、令和 42 年（2060 年）にかけては 1/3（30.6%）になると予測されます。

地区別の生産年齢人口は、全地区共通で、平成 27 年から令和 27 年にかけて、減少すると予測され、特に、登別・富浦地区では、生産年齢人口と高齢者がほぼ同数になります。

一方、富岸・若山地区や登別温泉・カルルス地区の高齢者人口は緩やかに増加し続け、令和 27 年までの期間には減少の局面へは移行しません。

■社人研データによるコーホート要因法による人口推計（地域別）

平成27年を基準とした場合の割合（地域別）



※ 地域別人口の合算値が市全体の人口と整合するように調整しています。

(2) 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析

将来人口の算定は、不確定な要素が多く難しいものがあります。そこで、自然増減と社会増減については、次のように仮定を行ったうえで予測を行いました。

シミュレーション	自然増減	社会増減
シミュレーション1	・ 合計特殊出生率が、令和12年（2030年）までに1.80※、令和22年（2040年）までに2.07※まで上昇した場合 ・ 生残率の変更なし（社人研の設定値のまま）	・ 純移動率の変更なし（過去の傾向を維持する社人研の設定値のまま）
シミュレーション2	・ 合計特殊出生率が、直ちに（平成27年：2015年）2.07※まで上昇したとした場合 ・ 生残率の変更なし（社人研の設定値のまま）	・ 純移動率の変更なし（過去の傾向を維持する社人研の設定値のまま）
シミュレーション3	・ 自然増減の仮定については、シミュレーション1に準拠 ・ 生残率の変更なし（社人研の設定値のまま）	・ 社会増減均衡（社会減が減少するか社会増が増加し、差し引きがゼロとした場合）

※ 合計特殊出生率 1.80 とは、若い世代の結婚・子育ての希望が実現した場合の国民希望出生率となっています。

※ 合計特殊出生率 2.07 とは、人口が増加も減少もしない均衡した状態の合計特殊出生率である「人口置換水準」のことです（国立社会保障・人口問題研究所により算出）。

※ なお、3つの仮定のうち、シミュレーション1は国が「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」において示した「令和42年（2060年）に総人口1億人程度」との見込みと同様の仮定としています。

次ページより、上記のシミュレーション結果を示します。

① 自然増減の仮定を設定した場合のシミュレーション

a) シミュレーション1

合計特殊出生率（1人の女性が一生に産む子どもの平均数）が、令和12年（2030年）までに1.80、令和22年（2040年）までに2.07に上昇すると仮定した場合、令和22年推計人口は、35,144人と社人研推計の1.02倍になります。また、令和42年推計人口（24,625人）は、平成22年の約48%になる予測となっています。

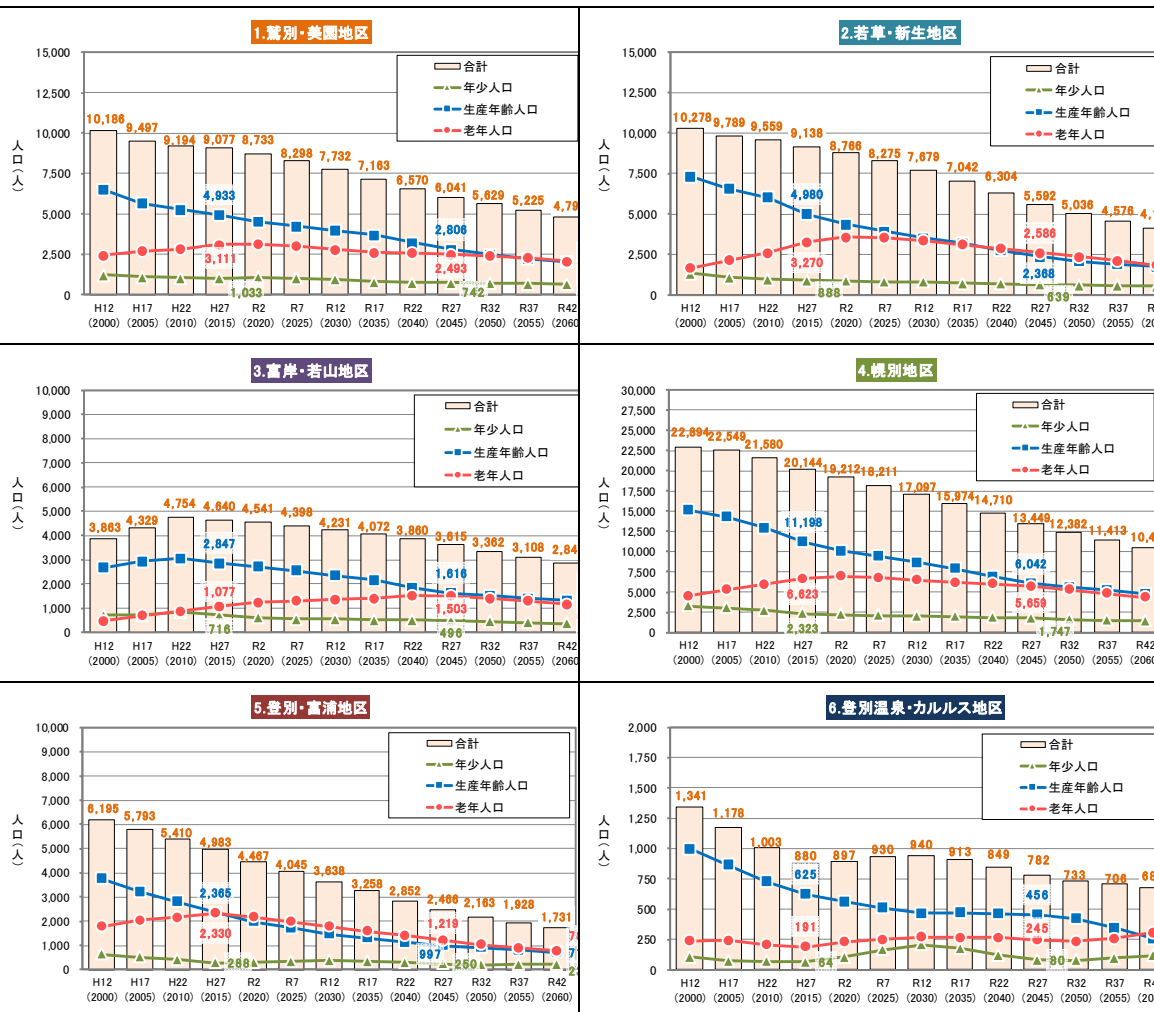
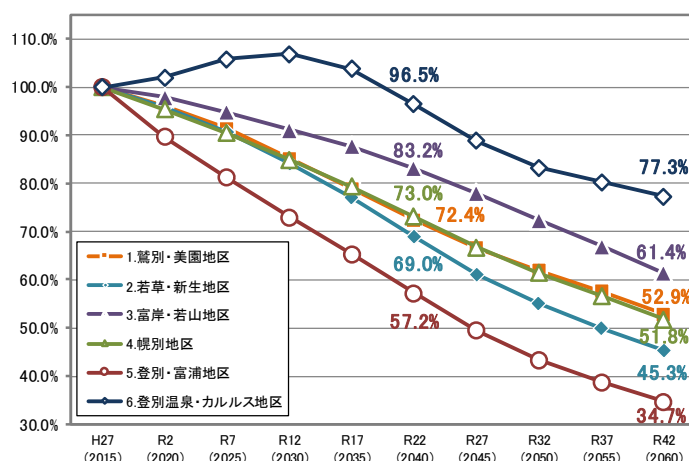
■シミュレーション1（市全体）：合計特殊出生率 （2030年までに1.80、2040年までに2.07まで上昇）	
推計手法	- 合計特殊出生率が令和12年（2030年）までに1.80、令和22年（2040年）までに2.07まで上昇すると仮定 「生残率、純移動率」については、社人研データに準拠 - 同手法を用いて、平成27年（2015年）を基準に令和42年（2060年）までの地区別人口を推計し、その合算値を市全体の人口としました。 - 令和27年以降の生残率、純移動率、子ども女性比については、令和22年→令和27年の社人研推計値と同様と仮定
利用データ	- 実績値：国勢調査小地域人口（平成12年～平成27年） - 推計値：国立社会保障・人口問題研究所公表の生残率・純移動率（平成27年～令和27年） Ⅱ：生残率、純移動率、子ども女性比の令和17年→令和27年の社人研推計値を用いて、推計（令和32年～令和42年）
推計結果	推計人口（市全体） 年齢別の推計人口（市全体）

合計特殊出生率が、国民希望出生率にまで上昇した場合の当市の地域別将来人口をみると、社人研推計の地区別推計と比べて、減少傾向は緩やかになります。特に、富岸・若山地区の令和27年（2045年）推計人口は、平成12年（2000年）と概ね同程度の人口規模を維持します。

また、登別温泉・カルルス地区の生産年齢人口は、令和12年（2030年）を基準にゆるやかな増加に転じます。

■シミュレーション1（地区別）：合計特殊出生率（2030年：1.80、2040年：2.07）

平成27年を基準とした場合の割合（地域別）



b) シミュレーション2

合計特殊出生率が、ただちに（平成 27 年：2015 年）人口置換水準である 2.07 まで上昇した場合、令和 27 年（2045 年）の推計人口は、32,527 人と社人研推計の 1.04 倍になります。

■シミュレーション2（市全体）：合計特殊出生率 （2015 年に 2.07 まで上昇）

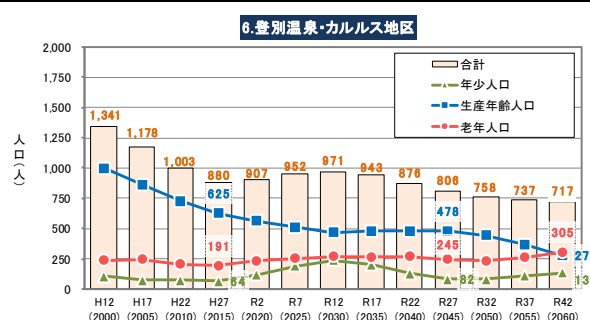
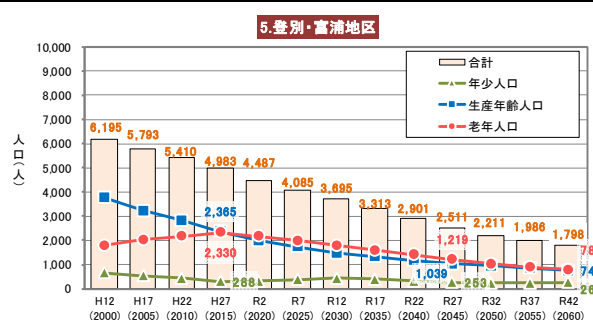
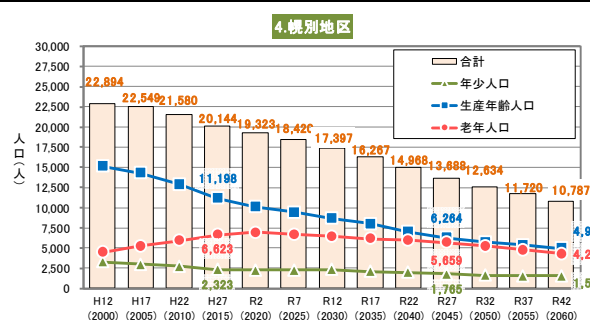
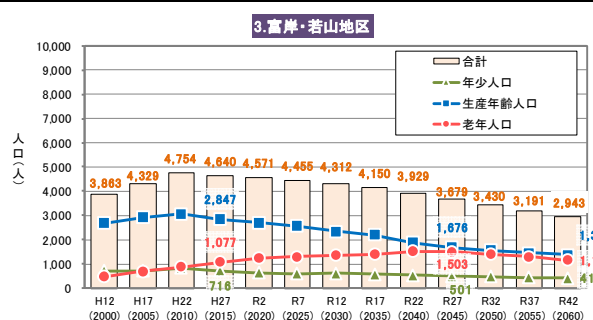
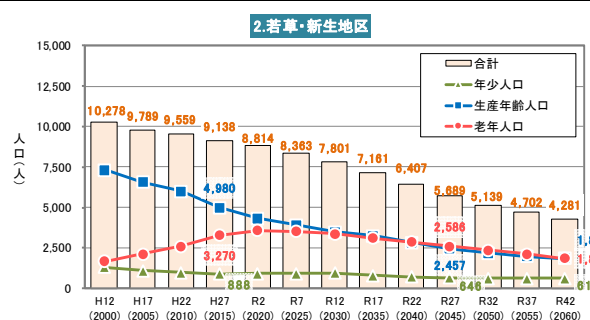
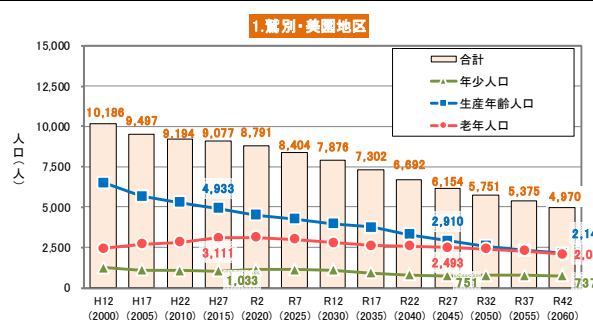
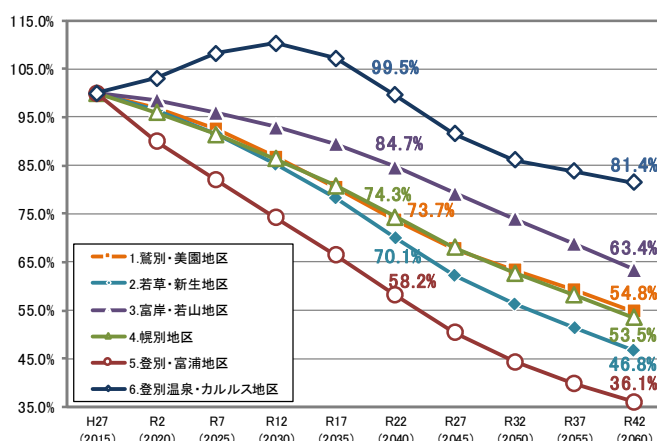
推計手法	- 合計特殊出生率が、直ちに（平成 27 年：2015 年）2.07 まで上昇すると仮定 「生残率、純移動率」については、社人研データに準拠 - 同手法を用いて、平成 27 年（2015 年）を基準に令和 42 年（2060 年）までの地区別人口を推計し、その合算値を市全体の人口としました。 - 令和 27 年以降の生残率、純移動率、子ども女性比については、令和 22 年→令和 27 年の社人研推計値と同様と仮定																																																																																																																														
利用データ	- 実績値：国勢調査小地域人口（平成 12 年～平成 27 年） - 推計値：国立社会保障・人口問題研究所公表の生残率・純移動率（平成 27 年～令和 27 年） // 生残率、純移動率、子ども女性比の令和 17 年→令和 27 年の社人研推計値を用いて、推計（令和 32 年～令和 42 年）																																																																																																																														
推計結果	推計人口（市全体） <table border="1"><thead><tr><th>年</th><th>実績値</th><th>社人研推計値</th><th>シミュレーション2</th></tr></thead><tbody><tr><td>H12 (2000)</td><td>54,757</td><td></td><td></td></tr><tr><td>H17 (2005)</td><td>53,135</td><td></td><td></td></tr><tr><td>H22 (2010)</td><td>51,500</td><td></td><td></td></tr><tr><td>H27 (2015)</td><td>48,862</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R2 (2020)</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R7 (2025)</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R12 (2030)</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R17 (2035)</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R22 (2040)</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R27 (2045)</td><td></td><td>31,170</td><td>32,527</td></tr><tr><td>R32 (2050)</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R37 (2055)</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R42 (2060)</td><td></td><td></td><td>25,495</td></tr></tbody></table> 年齢別の推計人口（市全体） <table border="1"><thead><tr><th>年</th><th>合計</th><th>年少人口</th><th>生産年齢人口</th><th>老年人口</th></tr></thead><tbody><tr><td>H12 (2000)</td><td>54,757</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>H17 (2005)</td><td>53,135</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>H22 (2010)</td><td>51,500</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>H27 (2015)</td><td>48,862</td><td>5,312</td><td>26,948</td><td>16,602</td></tr><tr><td>R2 (2020)</td><td>46,893</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R7 (2025)</td><td>44,677</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R12 (2030)</td><td>42,051</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R17 (2035)</td><td>39,137</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R22 (2040)</td><td>35,773</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R27 (2045)</td><td>32,527</td><td>3,998</td><td>14,824</td><td>13,706</td></tr><tr><td>R32 (2050)</td><td>29,923</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R37 (2055)</td><td>27,710</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R42 (2060)</td><td>25,495</td><td>3,701</td><td>11,339</td><td>10,455</td></tr></tbody></table>	年	実績値	社人研推計値	シミュレーション2	H12 (2000)	54,757			H17 (2005)	53,135			H22 (2010)	51,500			H27 (2015)	48,862			R2 (2020)				R7 (2025)				R12 (2030)				R17 (2035)				R22 (2040)				R27 (2045)		31,170	32,527	R32 (2050)				R37 (2055)				R42 (2060)			25,495	年	合計	年少人口	生産年齢人口	老年人口	H12 (2000)	54,757				H17 (2005)	53,135				H22 (2010)	51,500				H27 (2015)	48,862	5,312	26,948	16,602	R2 (2020)	46,893				R7 (2025)	44,677				R12 (2030)	42,051				R17 (2035)	39,137				R22 (2040)	35,773				R27 (2045)	32,527	3,998	14,824	13,706	R32 (2050)	29,923				R37 (2055)	27,710				R42 (2060)	25,495	3,701	11,339	10,455
年	実績値	社人研推計値	シミュレーション2																																																																																																																												
H12 (2000)	54,757																																																																																																																														
H17 (2005)	53,135																																																																																																																														
H22 (2010)	51,500																																																																																																																														
H27 (2015)	48,862																																																																																																																														
R2 (2020)																																																																																																																															
R7 (2025)																																																																																																																															
R12 (2030)																																																																																																																															
R17 (2035)																																																																																																																															
R22 (2040)																																																																																																																															
R27 (2045)		31,170	32,527																																																																																																																												
R32 (2050)																																																																																																																															
R37 (2055)																																																																																																																															
R42 (2060)			25,495																																																																																																																												
年	合計	年少人口	生産年齢人口	老年人口																																																																																																																											
H12 (2000)	54,757																																																																																																																														
H17 (2005)	53,135																																																																																																																														
H22 (2010)	51,500																																																																																																																														
H27 (2015)	48,862	5,312	26,948	16,602																																																																																																																											
R2 (2020)	46,893																																																																																																																														
R7 (2025)	44,677																																																																																																																														
R12 (2030)	42,051																																																																																																																														
R17 (2035)	39,137																																																																																																																														
R22 (2040)	35,773																																																																																																																														
R27 (2045)	32,527	3,998	14,824	13,706																																																																																																																											
R32 (2050)	29,923																																																																																																																														
R37 (2055)	27,710																																																																																																																														
R42 (2060)	25,495	3,701	11,339	10,455																																																																																																																											

合計特殊出生率が、ただちに（平成27年：2015年）2.07まで上昇した場合の当市の地域別将来人口をみると、社人研推計の地区別推計と比べて、人口の減少傾向は緩やかになります。特に、富岸・若山地区の令和27年（2045年）推計人口は、令和17年（2035年）以上の人口規模を維持します。

また、社人研推計では、生産年齢人口と高齢者人口が同規模であった登別・富浦地区では、生産年齢人口が持ち直す結果となっています。

■シミュレーション2（地区別）：合計特殊出生率（2015年に2.07まで上昇）

平成27年を基準とした場合の割合（地域別）



② 自然増減と社会増減の仮定を設定した場合のシミュレーション

a) シミュレーション3

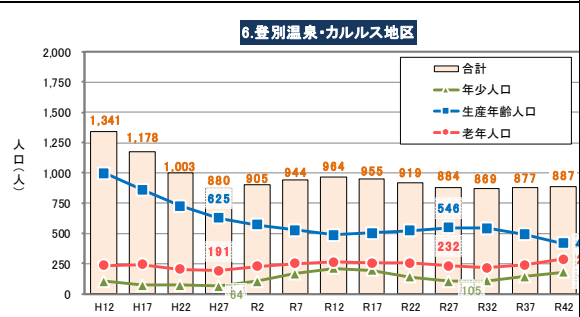
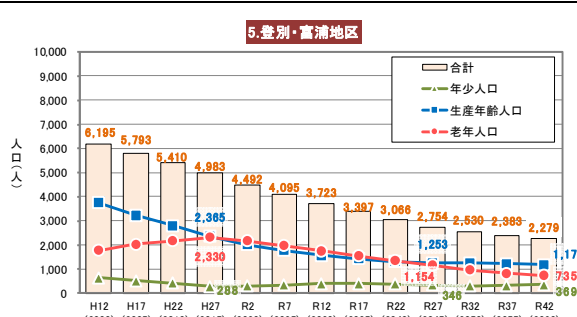
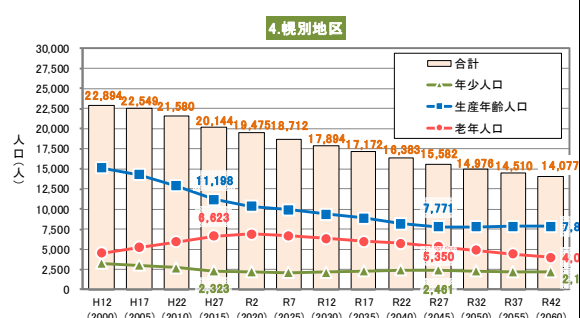
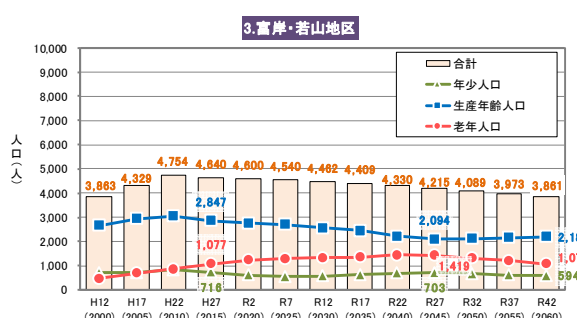
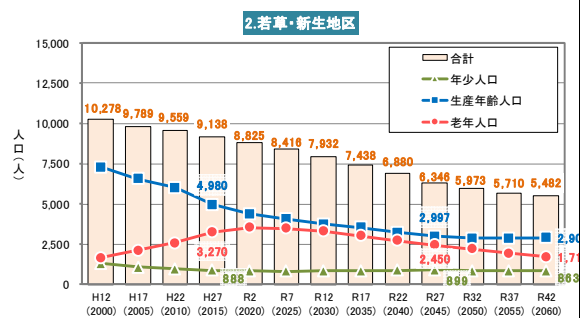
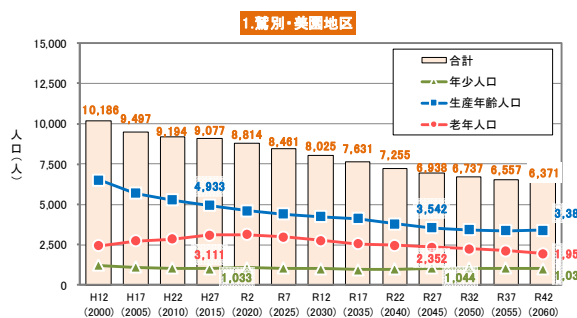
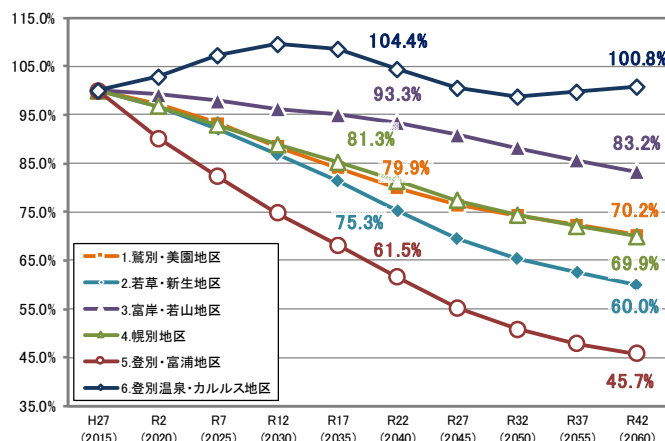
自然増減をシミュレーション1と同じとし、社会増減は社人研の純移動率をもとに、平成28年（2016年）以降、15歳未満人口及び15～64歳人口の社会減が均衡すると仮定した場合、令和27年（2045年）の推計人口は36,719人と社人研推計の1.18倍になります。

■シミュレーション3（市全体）：社会減の均衡（2016年以降）																																																																																																																															
推計手法	・ 社人研の純移動率をもとに2016年以降、15歳未満人口及び15～64歳人口の社会減が均衡したと仮定 ・ なお、自然増減の仮定については、シミュレーション1と同じ ・ 同手法を用いて、平成27年（2015年）を基準に令和42年（2060年）までの地区別人口を推計し、その合算値を市全体の人口としました。 ・ 令和27年以降の生残率、純移動率、子ども女性比については、令和22年→令和27年の社人研推計値と同様と仮定																																																																																																																														
利用データ	・ 実績値：国勢調査小地域人口（平成12年～平成27年） ・ 推計値：国立社会保障・人口問題研究所公表の生残率・純移動率（平成27年～令和27年） ・ // ：生残率、純移動率、子ども女性比の令和22年→令和27年の社人研推計値を用いて、推計（令和32年～令和42年）																																																																																																																														
推計結果	推計人口（市全体） <table border="1"><caption>推計人口（市全体）データ</caption><thead><tr><th>年</th><th>実績値</th><th>社人研推計値</th><th>シミュレーション3</th></tr></thead><tbody><tr><td>H12 (2000)</td><td>54,757</td><td></td><td></td></tr><tr><td>H17 (2005)</td><td>53,135</td><td></td><td></td></tr><tr><td>H22 (2010)</td><td>51,500</td><td></td><td></td></tr><tr><td>H27 (2015)</td><td>48,862</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R2 (2020)</td><td></td><td>47,111</td><td></td></tr><tr><td>R7 (2025)</td><td></td><td>45,168</td><td></td></tr><tr><td>R12 (2030)</td><td></td><td>43,001</td><td></td></tr><tr><td>R17 (2035)</td><td></td><td>41,004</td><td></td></tr><tr><td>R22 (2040)</td><td></td><td>38,832</td><td></td></tr><tr><td>R27 (2045)</td><td></td><td>31,170</td><td>36,719</td></tr><tr><td>R32 (2050)</td><td></td><td></td><td>35,174</td></tr><tr><td>R37 (2055)</td><td></td><td></td><td>34,009</td></tr><tr><td>R42 (2060)</td><td></td><td></td><td>32,956</td></tr></tbody></table> 年齢別の推計人口（市全体） <table border="1"><caption>年齢別の推計人口（市全体）データ</caption><thead><tr><th>年</th><th>合計</th><th>年少人口</th><th>生産年齢人口</th><th>老年人口</th></tr></thead><tbody><tr><td>H12 (2000)</td><td>54,757</td><td>8,000</td><td>35,000</td><td>11,757</td></tr><tr><td>H17 (2005)</td><td>53,135</td><td>7,500</td><td>34,000</td><td>11,135</td></tr><tr><td>H22 (2010)</td><td>51,500</td><td>7,000</td><td>33,000</td><td>11,500</td></tr><tr><td>H27 (2015)</td><td>48,862</td><td>6,500</td><td>31,500</td><td>10,862</td></tr><tr><td>R2 (2020)</td><td>47,111</td><td>6,000</td><td>30,000</td><td>11,111</td></tr><tr><td>R7 (2025)</td><td>45,168</td><td>5,500</td><td>28,500</td><td>11,168</td></tr><tr><td>R12 (2030)</td><td>43,001</td><td>5,000</td><td>27,000</td><td>11,001</td></tr><tr><td>R17 (2035)</td><td>41,004</td><td>4,500</td><td>25,500</td><td>11,004</td></tr><tr><td>R22 (2040)</td><td>38,832</td><td>4,000</td><td>24,000</td><td>10,832</td></tr><tr><td>R27 (2045)</td><td>36,719</td><td>5,558</td><td>21,203</td><td>9,958</td></tr><tr><td>R32 (2050)</td><td>35,174</td><td>5,000</td><td>20,000</td><td>10,174</td></tr><tr><td>R37 (2055)</td><td>34,009</td><td>4,500</td><td>19,000</td><td>10,009</td></tr><tr><td>R42 (2060)</td><td>32,956</td><td>5,239</td><td>17,937</td><td>9,780</td></tr></tbody></table>	年	実績値	社人研推計値	シミュレーション3	H12 (2000)	54,757			H17 (2005)	53,135			H22 (2010)	51,500			H27 (2015)	48,862			R2 (2020)		47,111		R7 (2025)		45,168		R12 (2030)		43,001		R17 (2035)		41,004		R22 (2040)		38,832		R27 (2045)		31,170	36,719	R32 (2050)			35,174	R37 (2055)			34,009	R42 (2060)			32,956	年	合計	年少人口	生産年齢人口	老年人口	H12 (2000)	54,757	8,000	35,000	11,757	H17 (2005)	53,135	7,500	34,000	11,135	H22 (2010)	51,500	7,000	33,000	11,500	H27 (2015)	48,862	6,500	31,500	10,862	R2 (2020)	47,111	6,000	30,000	11,111	R7 (2025)	45,168	5,500	28,500	11,168	R12 (2030)	43,001	5,000	27,000	11,001	R17 (2035)	41,004	4,500	25,500	11,004	R22 (2040)	38,832	4,000	24,000	10,832	R27 (2045)	36,719	5,558	21,203	9,958	R32 (2050)	35,174	5,000	20,000	10,174	R37 (2055)	34,009	4,500	19,000	10,009	R42 (2060)	32,956	5,239	17,937	9,780
年	実績値	社人研推計値	シミュレーション3																																																																																																																												
H12 (2000)	54,757																																																																																																																														
H17 (2005)	53,135																																																																																																																														
H22 (2010)	51,500																																																																																																																														
H27 (2015)	48,862																																																																																																																														
R2 (2020)		47,111																																																																																																																													
R7 (2025)		45,168																																																																																																																													
R12 (2030)		43,001																																																																																																																													
R17 (2035)		41,004																																																																																																																													
R22 (2040)		38,832																																																																																																																													
R27 (2045)		31,170	36,719																																																																																																																												
R32 (2050)			35,174																																																																																																																												
R37 (2055)			34,009																																																																																																																												
R42 (2060)			32,956																																																																																																																												
年	合計	年少人口	生産年齢人口	老年人口																																																																																																																											
H12 (2000)	54,757	8,000	35,000	11,757																																																																																																																											
H17 (2005)	53,135	7,500	34,000	11,135																																																																																																																											
H22 (2010)	51,500	7,000	33,000	11,500																																																																																																																											
H27 (2015)	48,862	6,500	31,500	10,862																																																																																																																											
R2 (2020)	47,111	6,000	30,000	11,111																																																																																																																											
R7 (2025)	45,168	5,500	28,500	11,168																																																																																																																											
R12 (2030)	43,001	5,000	27,000	11,001																																																																																																																											
R17 (2035)	41,004	4,500	25,500	11,004																																																																																																																											
R22 (2040)	38,832	4,000	24,000	10,832																																																																																																																											
R27 (2045)	36,719	5,558	21,203	9,958																																																																																																																											
R32 (2050)	35,174	5,000	20,000	10,174																																																																																																																											
R37 (2055)	34,009	4,500	19,000	10,009																																																																																																																											
R42 (2060)	32,956	5,239	17,937	9,780																																																																																																																											

自然増減をシミュレーション1と同じとし、社会増減は均衡するとした場合、当市の地域別将来人口をみると、概ねシミュレーション2と同様の結果となっています。ただし、富岸・若山地区の人口は、令和27年（2045年）でほぼ横ばいになっています。

■シミュレーション3（地区別）：社会減の均衡（2016年以降）

平成27年を基準とした場合の割合（地域別）



4. 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析、考察

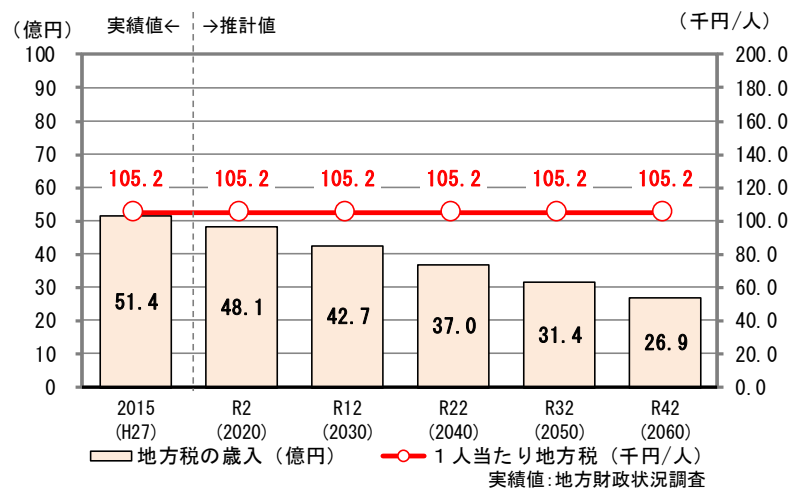
将来の人口変化が、公共施設や商業・地域産業などに対して、どのような影響を与えるのか分析を行いました。なお、使用する将来の人口は、16ページの「社人研推計におけるコーホート要因法による人口推計結果」とします。

(1) 1人当たりの地方税の負担増加

平成27年（2015年）の1人当たりの地方税の負担額105.2千円を踏まえると、今後の人口減少に伴い、令和42年（2060年）には、地方税の歳入は26.9億円となり、平成27年の約半分の水準になってしまふことが想定されます。

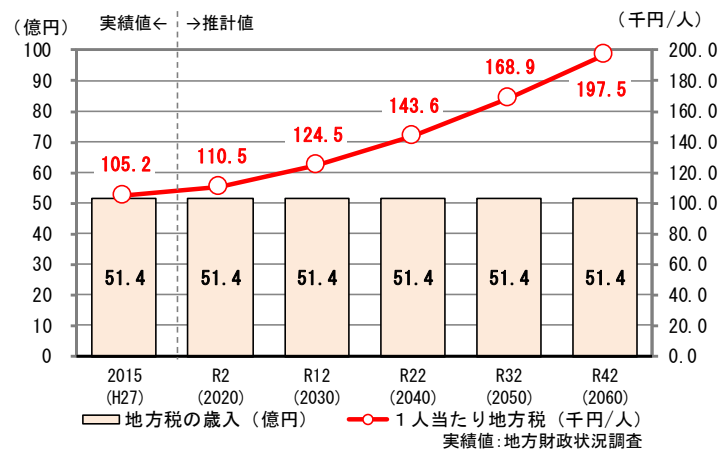
また、平成27年の地方税の歳入51.4億円を維持するためには、令和42年には平成27年の約1.9倍（197.5千円/人÷105.2千円/人）の負担となってしまいます。

地方税の歳入の推計（1人当たりの地方税固定）



※ 1人当たりの地方税負担が将来も変化しないと仮定

1人当たりの地方税の負担額の推計（地方税の歳入固定）



※ 地方税の歳入を維持すると仮定

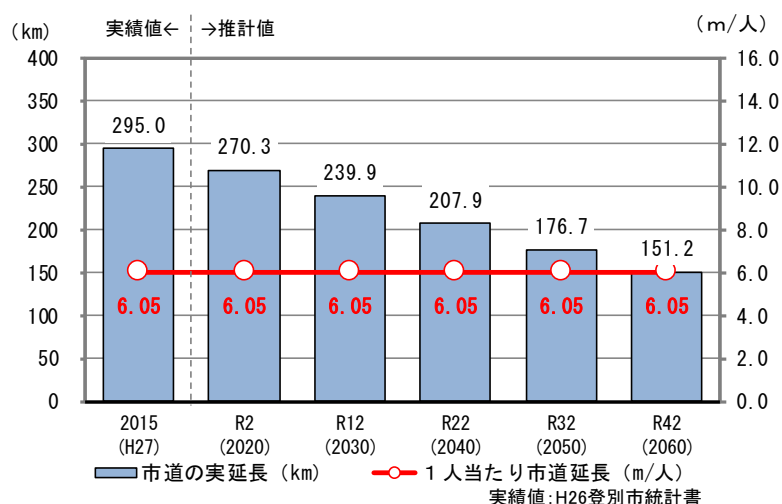
(2) 基盤施設維持管理費の増大の可能性

平成 27 年度（2015 年度）の市道の実延長は 295.0km で、人口 1 人あたりに割り戻すと 6.05m/人に相当し、これは、1 人が市道 6.05m を維持・管理しているとも考えられます。

1 人当たりの維持・管理延長が変わらないと仮定すると、今後の人口減少に伴い令和 42 年（2060 年）に維持可能な市道延長は 151.2km に減少してしまいます。

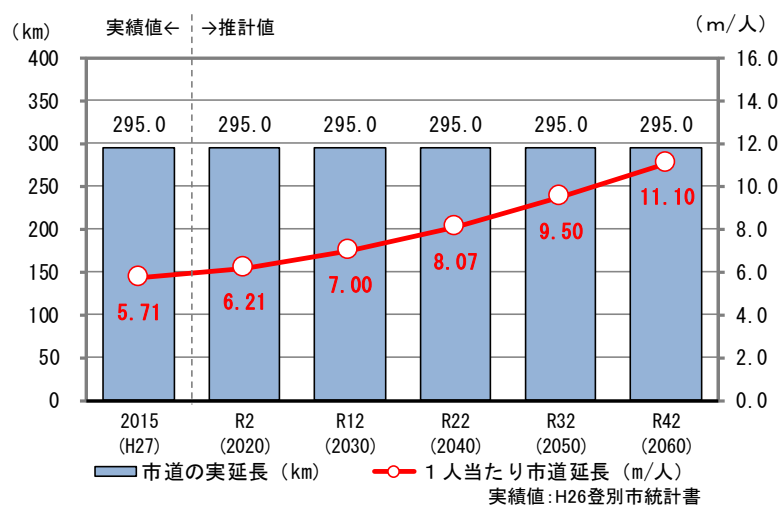
なお、平成 27 年の市道延長 295.0km を将来も維持するには、令和 42 年には 1 人当たり負担すべき市道延長は 11.1m/人となり、平成 27 年の約 1.9 倍（11.10m/人÷5.71m/人）になる見込みです。これは、1 人当たりの維持管理費負担が増大することを意味します。

維持可能な市道延長の推計



※ 1 人当たりの市道延長が将来も変化しないと仮定

1 人当たりの市道延長の推計



※ 市道の実延長を将来も維持すると仮定

(3) 小・中学校の減少の可能性

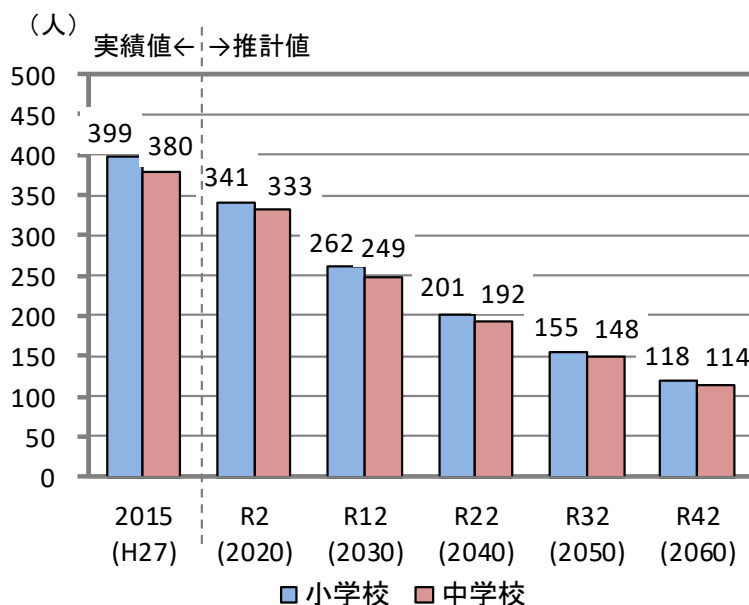
市内には、平成27年（2015年）時点で小学校8校、中学校5校が配置されています。市内の児童・生徒数は、平成27年時点では小学校で一学年399人、中学校で一学年380人ですが、令和42年（2060年）には小学校で一学年118人、中学校で一学年114人まで減少する見込みであり、統廃合の必要性も高まることが予測されます。統廃合に伴い、送迎やスクールバスなどさらなる課題も生じる可能性があります。

小学校・中学校の児童数の推計

小学校		単位：人					
		実績値	推計値				
		2015 (H27)	R2 (2020)	R12 (2030)	R22 (2040)	R32 (2050)	R42 (2060)
小学校	児童数 A	2,395	2,049	1,573	1,206	932	709
	児童数/学年 A/6	399	341	262	201	155	118
5歳階級別人口	5～9歳 B	1,828	1,517	1,191	916	707	538
	10～14歳 C	2,019	1,774	1,336	1,021	790	601
	合計 B+C	3,847	3,291	2,527	1,937	1,497	1,139
	割合 A/(B+C)	62.3%	(H27実績値と同じ割合より、児童数を推計)				
※小学校：6歳～12歳		生徒数はH27時点					
中学校		単位：人					
		実績値	推計値				
		2015 (H27)	R2 (2020)	R12 (2030)	R22 (2040)	R32 (2050)	R42 (2060)
中学校	生徒数 A	1,139	999	747	577	445	341
	生徒数/学年 A/3	380	333	249	192	148	114
5歳階級別人口	10～14歳 B	2,019	1,774	1,336	1,021	790	601
	15～19歳 C	2,174	1,905	1,414	1,102	847	654
	合計 B+C	4,193	3,679	2,750	2,123	1,637	1,255
	割合 A/(B+C)	27.2%	(H27実績値と同じ割合より、児童数を推計)				
※中学校：12歳～15歳		生徒数はH27時点					

※ 生徒数/5歳階級別人口の比は、将来も同様と仮定

小中学校の一学年当たりの児童・生徒数の変化



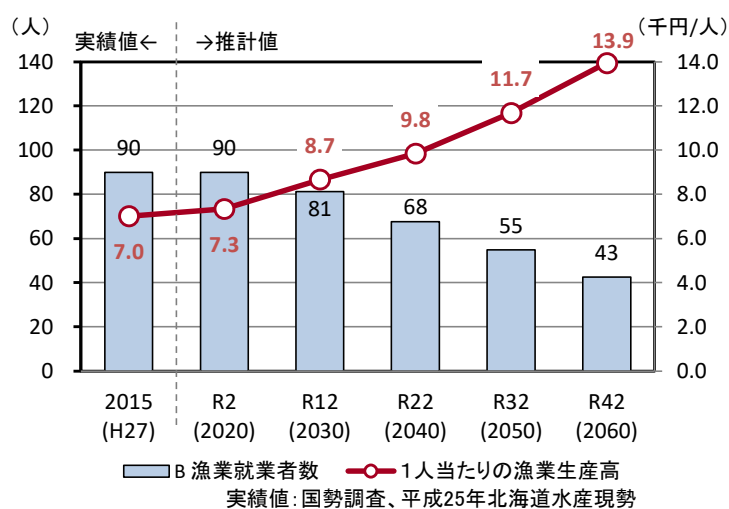
実績値：H27登別市統計書

(4) 地域産業の担い手の減少

平成27年（2015年）の漁業の総生産高を今後も維持するためには、漁業就業者数の減少が見込まれるため、1人当たりの生産高を高める必要があります。単純計算では、令和42年（2060年）の1人当たりの漁業生産高は、平成27年の約2.0倍（13.9千円/人÷7.0千円/人）にする必要があります。

農業に関しても同様の考え方に立つと、農業就業者数の減少が見込まれるため、平成27年と同様の耕地面積を維持するためには、令和42年の1人当たりの耕地面積は、平成27年の約2.6倍（11.0ha/人÷4.2ha/人）とする必要があります。

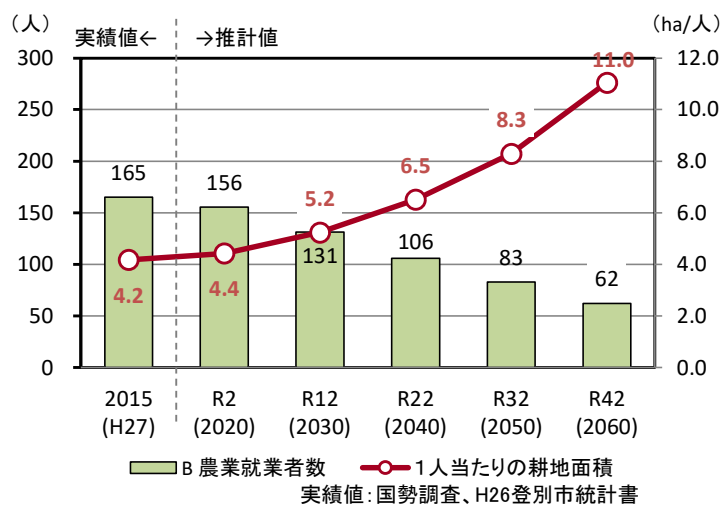
漁業就業者数と1人当たりの生産高の推計



※ 将来の漁業生産高は、平成25年（2013年）の実績値と同様と仮定

※ 年齢別の漁業就業者数/年齢別の人口の比より、年齢別の漁業就業者数を推計

農業就業者数と1人当たりの耕地面積の推計



※ 将来の耕地面積は、平成26年（2014年）の実績値と同様と仮定

※ 年齢別の農業就業者数/年齢別の人口の比より、年齢別の農業就業者数を推計

5. 人口の将来展望

(1) 将来展望の検討に必要な調査分析

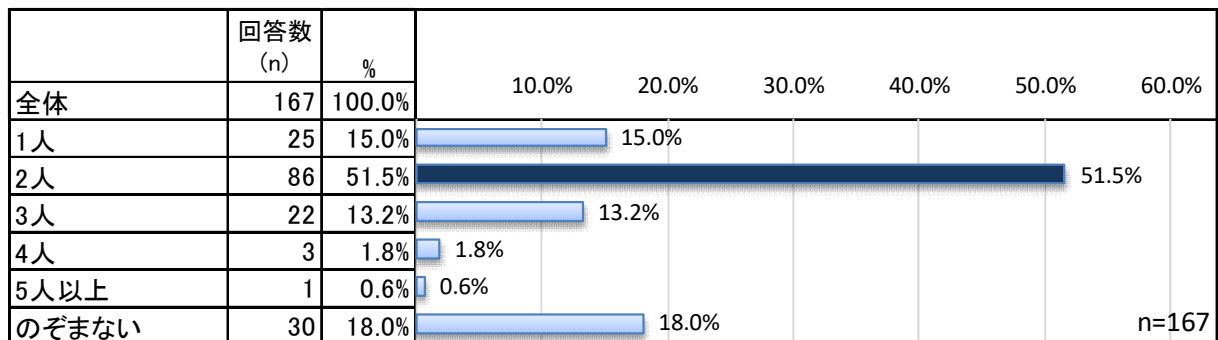
① 子育て施策向けアンケート

過去に実施した子育て世帯への意向調査結果をみると、当市では、将来的に2人の子どもが欲しいと考えている子育て世代が半数を占めることがわかりました。一方、結婚に関しては、結婚に向けた出会いの機会の創出や費用面での支援などが求められています。

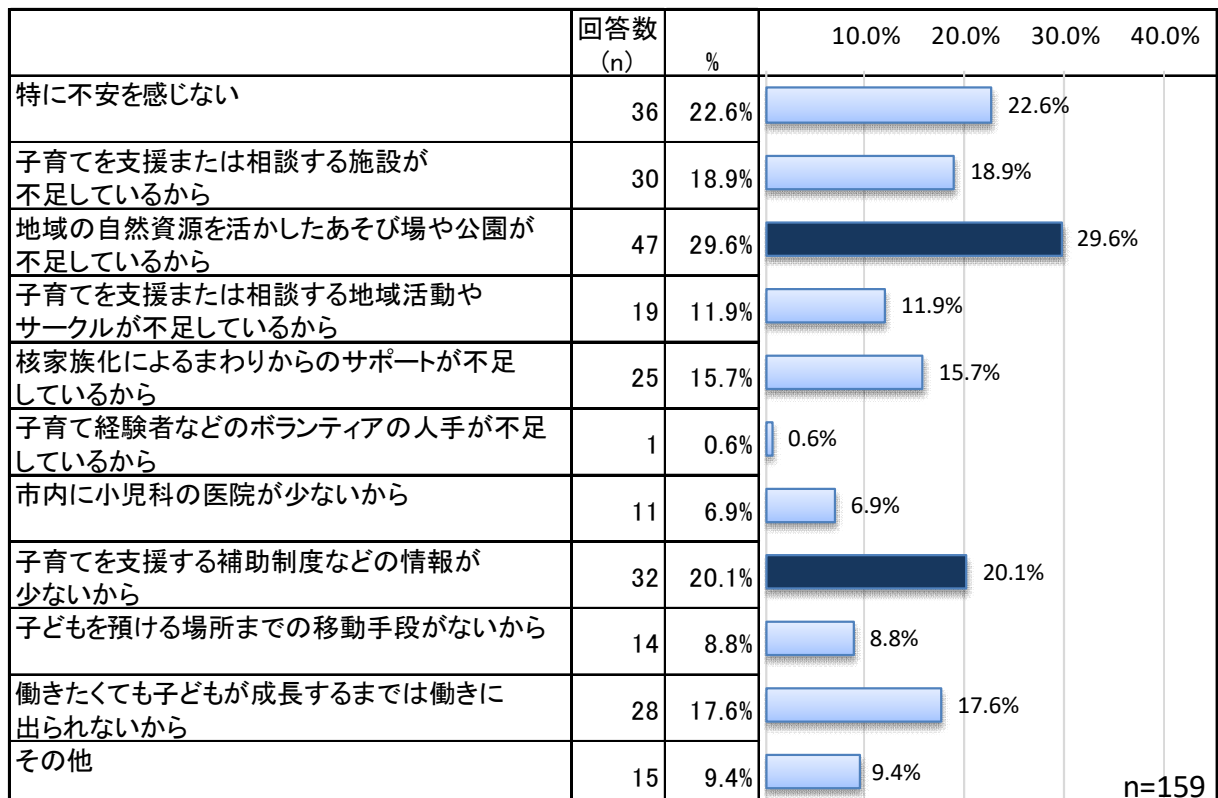
出産・子育てに関しては、医療費等の費用面の支援だけでなく、補助制度などの情報提供が求められています。

また、子育て世代が子どもと一緒に訪れることができる自然資源を活かしたあそび場や公園、子育てを支援する施設、子育てについて相談する施設が求められています。

将来希望する子どもの人数について



子育て環境に関する印象や不安について



※有効回答数 159 票に対する割合

② 高齢者施策向けアンケート

高齢者世帯への意向調査結果をみると、子どもの自立等により、夫婦のみの世帯が半数以上となっており、将来にわたって転居する可能性も低いことが確認されました。

一方、日々の生活については、「貯蓄・年金のみの生活」や「体が不自由になった際の介護サービスや補助支援制度」に対する不安が多く挙げられており、これらの支援も求められています。

また、シニア世代の地域協力の意向は高く、特に「保育所などでの幼児との交流・保育サポート」などの子育て支援への参画の可能性があることがわかりました。

高齢者の登別市以外に転居する可能性

	回答数 (n)	%	20.0%	40.0%	60.0%	80.0%
全体	224	100.0%				
転居はしない	134	59.8%			59.8%	
今後、転居する可能性がある	17	7.6%	7.6%			
現時点では分からない	73	32.6%		32.6%		
n=224						

日々の生活で不満を感じる要因

	回答数 (n)	%	25.0%	50.0%	75.0%	100.0%
住まいを確保・維持できるかどうか不安だから	17	26.2%	26.2%			
生きがいや趣味を見つけられるかどうか不安だから	3	4.6%	4.6%			
今後、仕事ができるかどうか不安だから	14	21.5%	21.5%			
貯蓄や年金だけでは生活できるかどうか不安だから	50	76.9%			76.9%	
独り身なった場合、相談・話し相手の機会や場所があるかどうか不安だから	5	7.7%	7.7%			
親族と疎遠で、身寄りがあるかどうか不安だから	1	1.5%	1.5%			
福祉・介護サービスや補助支援制度など、体の自由がきかなくなった場合にどうしたらよいのか不安だから	35	53.8%		53.8%		
医療施設や福祉施設が近くにないから	25	38.5%		38.5%		
老後の健康管理ができるかどうか不安だから	13	20.0%	20.0%			
生活のための移動手段をどうしたらよいのか不安だから	2	3.1%	3.1%			
n=65						

※有効回答数 65 票に対する割合

技術や知識を含めた地域協力の可能な分野

	回答数 (n)	%	10.0%	20.0%	30.0%
忙しい両親に代わって、乳幼児の預かりなどの保育サポート	26	14.4%	14.4%		
保育所などに伺い、幼児との交流・保育サポート	38	21.1%		21.1%	
伝承遊びや絵本の読み聞かせなどの出前講座	12	6.7%	6.7%		
小・中学校の教育サポート(家庭教師など)	27	15.0%		15.0%	
就職活動支援のための高等学校や大学への出前講座	15	8.3%	8.3%		
登別の観光案内などを行うボランティアガイド	25	13.9%		13.9%	
地域の防犯・防災活動への参画	21	11.7%		11.7%	
地域の人々が住みやすくなるような町内会の活動	39	21.7%		21.7%	
自分の趣味の知識を活かした市民活動	33	18.3%		18.3%	

※有効回答数 180 票に対する割合

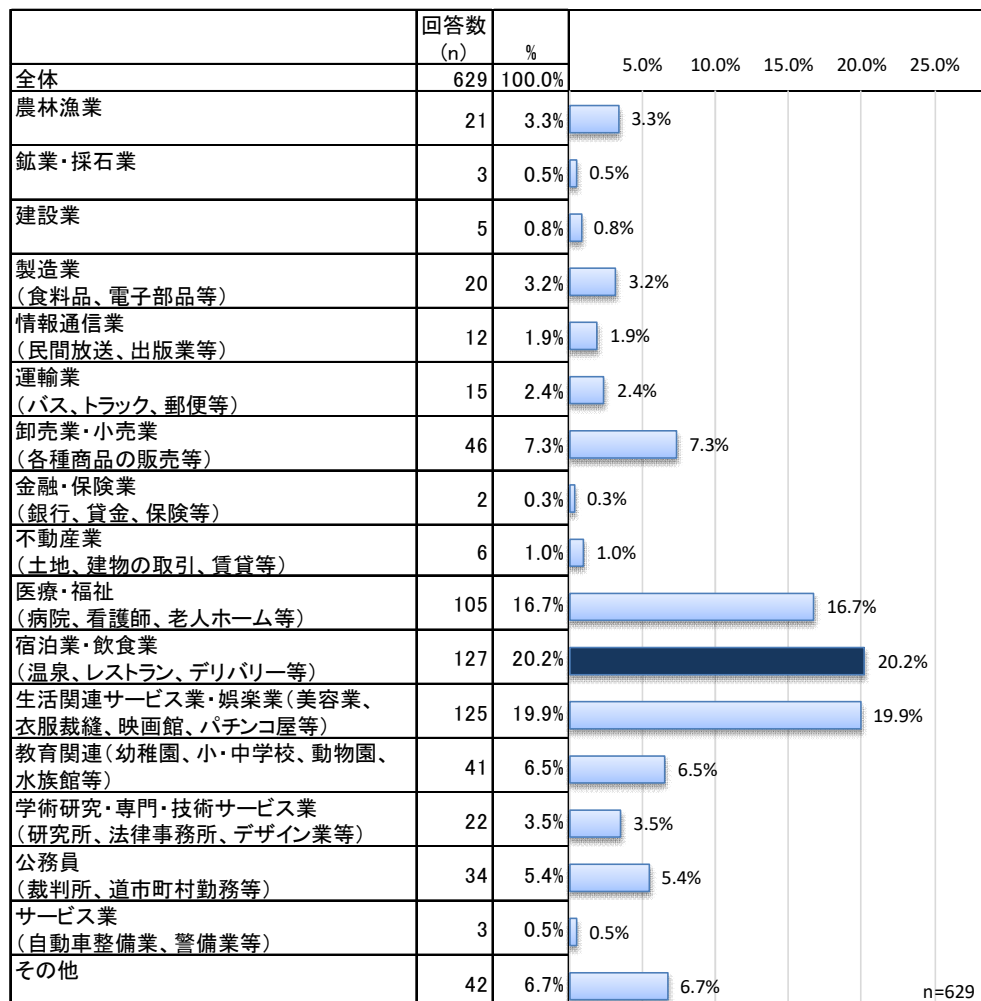
③ 雇用・経済施策向けアンケート（高校生・専門学校生）

高校生・専門学校生アンケート調査結果をみると、市外への就職理由として、市内に志望する企業が少ないという指摘も挙げられています。特に、「医療・福祉」や「宿泊業・飲食業」、美容室などの「生活関連サービス業」などの業種が求められています。

市外の就職理由（上段：高校生、下段：専門学校生）



今後市内で増えると思う働き口（高校生）

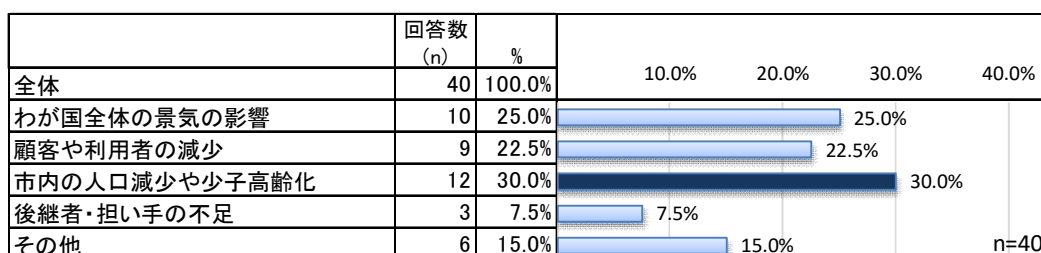


④ 雇用・経済施策向けアンケート（事業所）

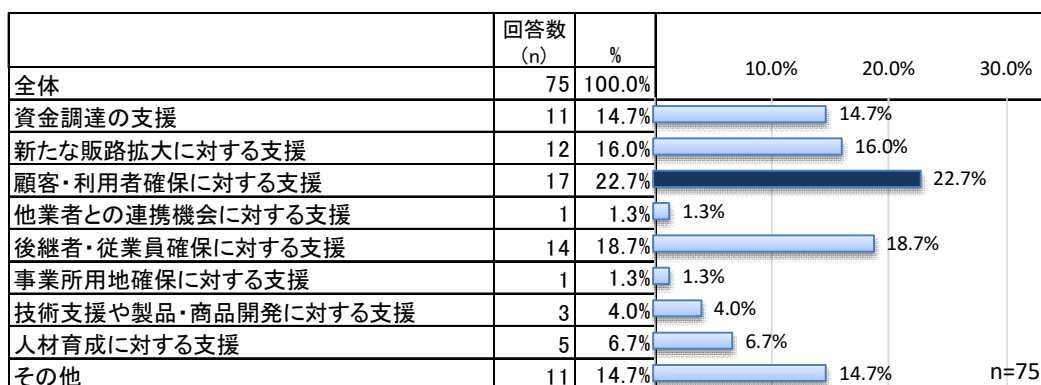
昨今の売上低迷については、人口減少や少子高齢化の影響が大きいと回答しており、人口に関する各種対策が求められています。また、今後、市内で事業を継続していくための「顧客・利用者確保に対する支援」、「新たな販路拡大に対する支援」、「後継者・従業員確保に対する支援」などが求められています。

事業所の地域連携に関しては、地域連携を行っている事業所は1割程度に留まっていますが、将来的に、業務上連携が可能な分野としては、「医療福祉」や「学術研究・専門・技術サービス業」などが挙げられています。

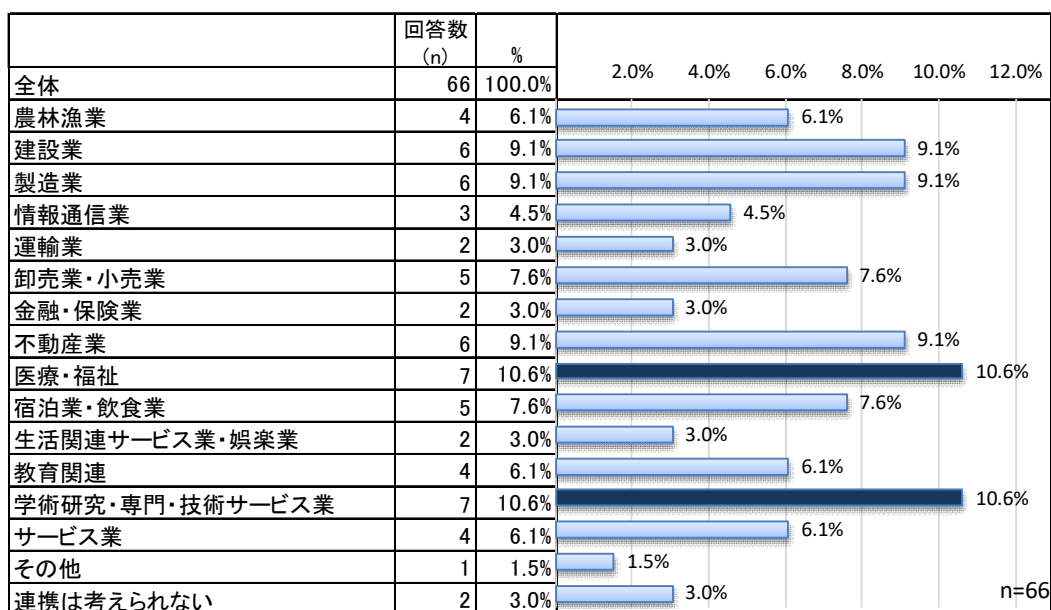
売上減少の主な原因



市内での事業継続のために必要な支援策



業務提携が可能な分野



(2) 現状の問題点と目指すべき将来の方向性

当市が抱える現状及び将来の問題点やアンケート調査結果を踏まえ、目指すべき将来の方向性については、以下の4点に重点を置き、出生率の向上・定住促進を図ることとします。

現状の問題点と目指すべき将来の方向性

人口	◎ 将来人口（令和 27 年 31,170 人）は、ピーク時（昭和 58 年）の 5 割程度 ◎ 高齢者人口は、令和 2 年まで増加傾向（高齢者率は 37.9%） ◎ 生産年齢・年少人口は、今後も減少 ◎ 登別・富浦地区が最も人口減少が著しい状況	将来人口	◎ 令和 27 年の将来人口は、平成 27 年の約 36%減の見込み ◎ 令和 42 年の将来人口は、平成 27 年の約 45%になる見込み ◎ 将来人口の減少により、地方税の負担増加や小・中学校の減少、地域産業の担い手の減少など各分野への影響の可能性あり
社会・自然増減	◎ 転出超過の状況（特に 20～24 歳の転出） ◎ 転出・転入ともに北海道内での移動が 85%程度 ◎ 転入元は室蘭市、転出先は札幌市の状況 ◎ 死亡数が出生数を上回る状況（自然減） ◎ 出生率は、道内平均より高いが、近隣市より低い	アンケート結果	◎ 将来の子どもの希望人数と現状のかい離 ◎ 出産・子育てに関する支援や環境づくりの要望 ◎ 高齢者の日々の生活の不安の軽減 ◎ シニア世代の地域協力の可能性あり ◎ 高校生・専門学校生の希望就職先と市内事業所のかい離 ◎ 事業所の市内継続に向けた支援策の要望



目指すべき将来の方向性	出生率の向上の実現のため、安心して子どもを産み育てられるまちを目指します
	高齢者が活躍できる長寿社会を目指します
	定住人口の増加に向けた安定した雇用・就業環境づくりを目指します
	交流・関係人口の増加に向けた魅力ある観光地づくりを目指します

①出生率の向上の実現のため、安心して子どもを生み育てられるまちを目指します

結婚・出産・子育てについては、自由な選択ができるような環境づくりを前提とし、安心して子どもを生み育てられるまちづくりが求められています。

そのため、「個人と地域で支える子育て環境」を作ることにより、「子育てに対する不安と負担の軽減」を図り、出生率の向上を目指します。

②高齢者が活躍できる長寿社会を目指します

今後、ますます高齢化率が増加する中で、ひとり暮らしの高齢者も含めて、活動・活躍できる社会づくりや生きがいづくりが求められます。

そのため、高齢者については、「支えられる人ではなく、支える人へ」という意識の醸成を行うことにより、高齢者も活躍できる長寿社会の実現を目指します。

③定住人口の増加に向けた安定した雇用・就業環境づくりを目指します

若い世代の札幌市や周辺市への流出を防ぐため、若い世代が魅力を感じ、生涯を通して働きたいと思う環境づくりや市内産業の育成・創出が求められます。

そのため、市内産業を担う新たな企業の創出や、既存の市内産業の他分野への連携、活動範囲の拡大、さらには周辺市からの受け皿づくりを行うことで、若い世代が生涯を通して働きたい・働ける雇用・就業環境づくりを目指します。

また、若い世代の定住は、結婚・出産・子育てへ結びつく可能性もあることから、出生率の向上など相乗的な効果も期待されます。

④交流・関係人口の増加に向けた魅力ある観光地づくりを目指します

当市は、登別温泉など日本有数の温泉地を保有しています。また、温泉地は、多くの従業員が働く貴重な就業環境でもあります。

そのため、魅力ある観光地づくりを行うことにより、交流・関係人口を増加させるだけでなく、安定した雇用・就業環境を創出することを目指します。

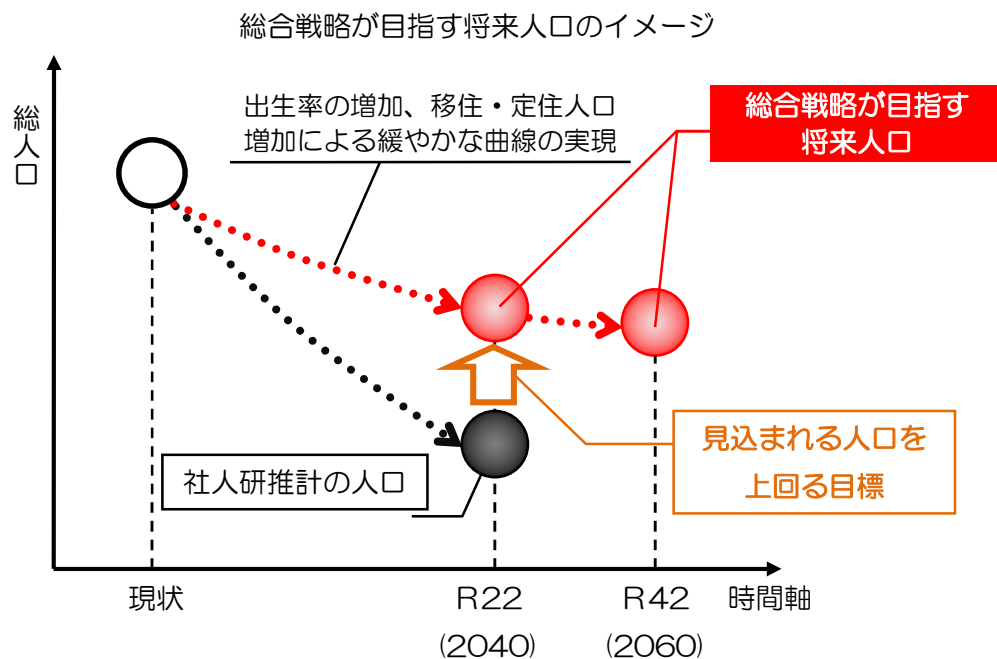
(3) 人口の将来展望

当市の現状や将来人口推計（国立社会保障・人口問題研究所）の見通しだけでなく、アンケート調査結果による住民や事業者等の意見を踏まえ、総合戦略の人口の将来展望を検討します。

総合戦略の将来人口については、過去3か年平均の人口減少率を加味して設定した令和2年（2020年）の人口を基準に、社人研推計により、見込まれている人口を上回る人口を目標とします。

また、自然増減にかかわる合計特殊出生率については、アンケート調査結果の意向を踏まえ、令和22年（2040年）までに2.00まで上昇させることを目標に、各種施策を展開させます。

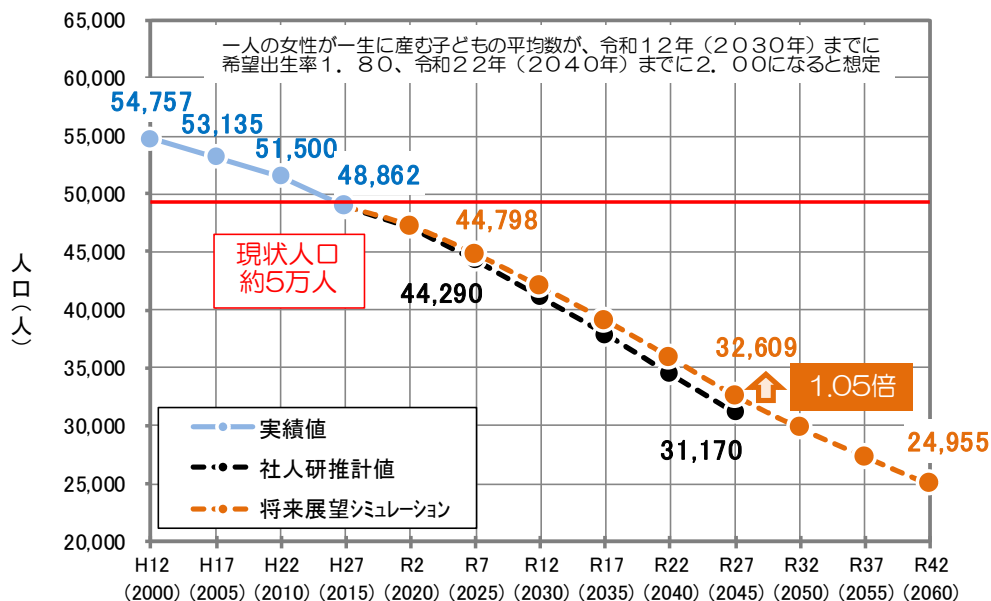
さらに、総合戦略の目標人口達成に向けては、社会増減にかかわる人口移住や定住施策を展開していきます。



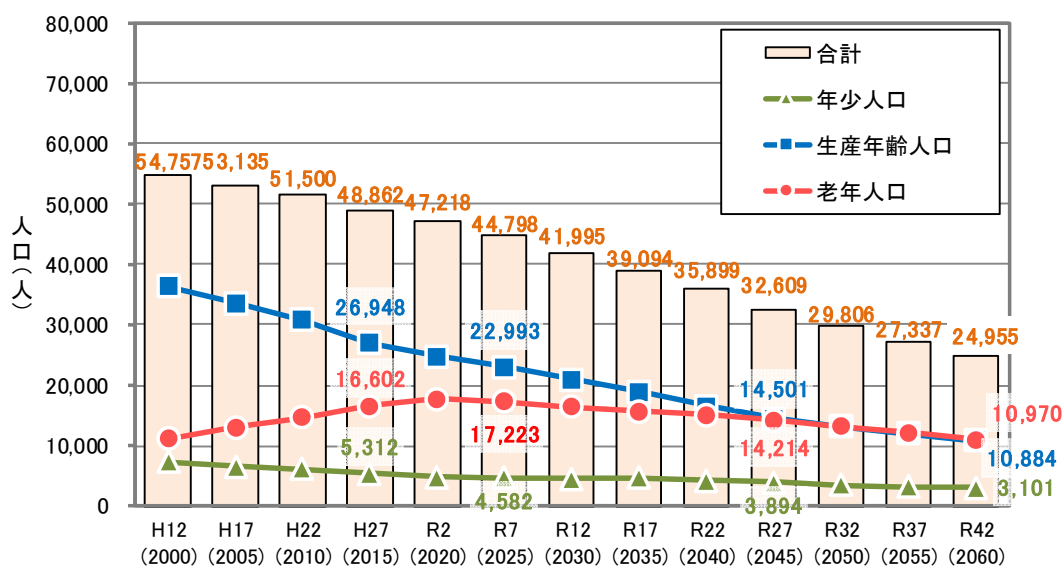
[人口の将来展望のための想定]

- ◎ 令和2年（2020年）の人口を過去3か年平均の人口減少率を加味して設定
- ◎ 合計特殊出生率を令和12年（2030年）までに1.80、令和22年（2040年）までに2.00まで上昇すると想定
- ◎ 毎年20人が登別市へ移住すると想定
- ◎ 生残率・純移動率等は、社人研推計値に準拠

総人口の推移



年齢別人口の推移



[総合戦略の目標人口]

令和7年時点の社人研の人口推計 44,290人

この推計値に対して、様々な施策に複合的に取り組むことで、
人口の将来展望のための想定の実現を目指す。

令和7年時点の目標人口 約44,800人

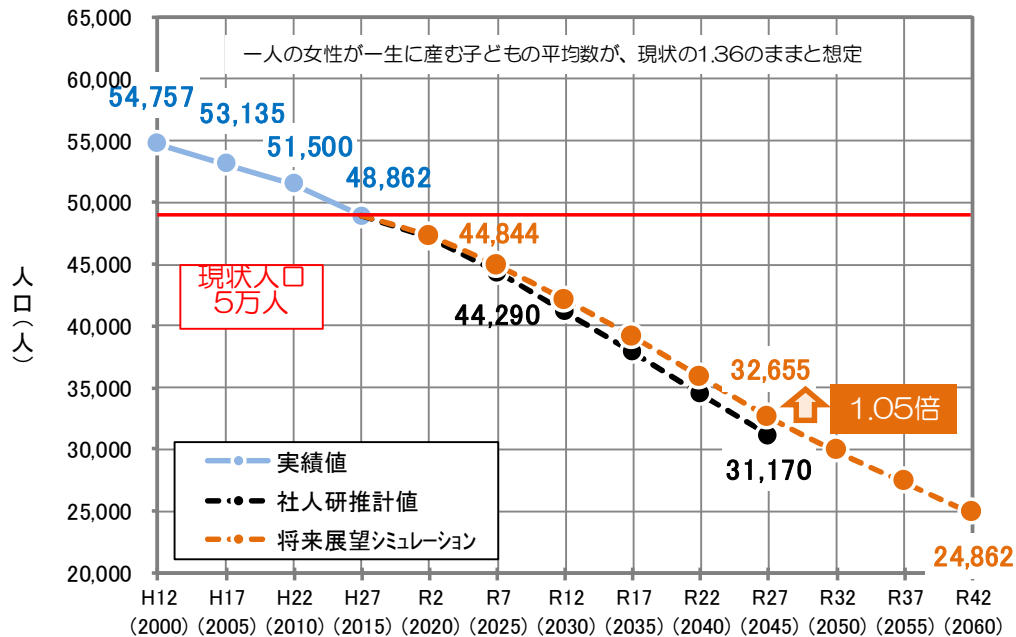
令和27年時点の目標人口 約32,600人

（推計される人口減少の2割程度を緩和した人口）

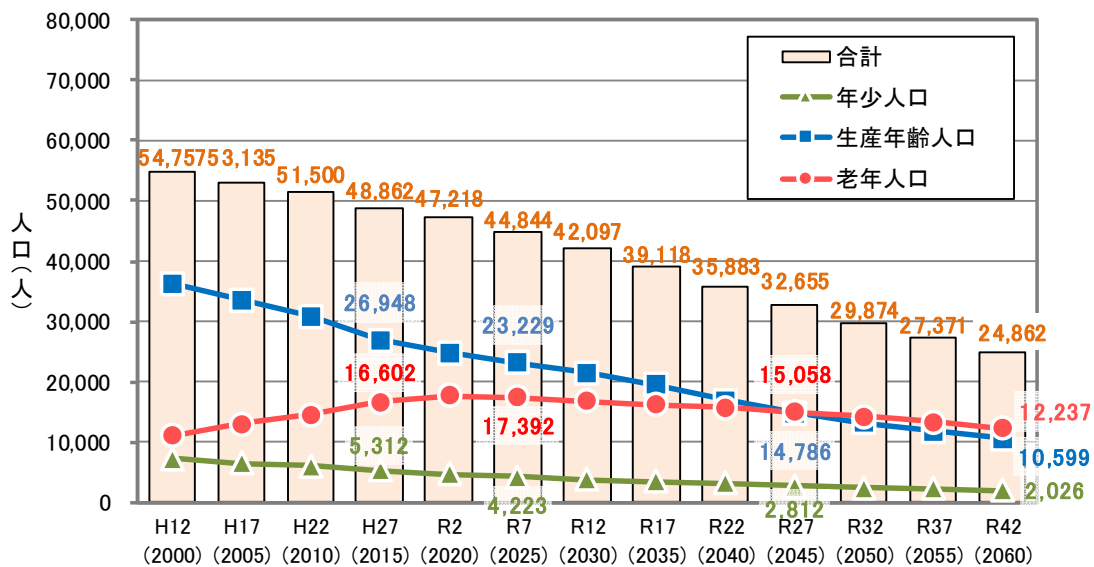
[参考 現状の合計特殊出生率1.36を維持した場合]

現状の合計特殊出生率 1.36 を維持した場合の将来人口推計結果を参考として、以下に示します。

総人口の推移



年齢別人口の推移



合計特殊出生率が現状の 1.36 を維持した場合、令和 27 年時点の目標人口 約 32,600 人と同水準の人口を実現するためには、毎年 110 人の市内移住が必要となる。

移住・定住施策だけでなく、出生率の向上に向けた取組が必要

第2章 第1期総合戦略の検証

1. 第1期総合戦略策定からこれまでの経過

当市は、人口減少・少子高齢化の進展など、社会情勢の変化に適切に対応し、福祉、防災、産業振興、教育などさまざまな政策、施策にどのように取り組んでいくのかを指し示す羅針盤として総合計画を定め、これまでも安全安心で住みよいまちづくりに取り組んできました。

国は、急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、地方の人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目的として、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。この法律では、市町村においても、地方の特性に応じた「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「地方版総合戦略」という。）」の策定に努めなければならないとされました。

こうしたことから、地方創生の名のもと、それぞれの自治体が総合戦略を策定し、取り組むことが求められており、当市においては、国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」などを勘案しながら、総合計画第3期基本計画に連なるものとして、このまちに住み続けたい、住んでみたいと思える魅力あるまちを目指し平成27年10月に第1期「登別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、その推進にあたっては、幅広い市民や関係者からご意見をいただくなど、毎年度、施策等の効果検証を行いながら取り組んできており、令和元年度は5年間の計画期間の最終年度となります。

2. 基本目標における数値目標の検証

登別市の将来人口 約48,000人（令和2年目標）

〔人口の将来展望のための想定〕

- 合計特殊出生率を令和12年度までに1.80、令和22年度までに2.00まで上昇
- 国が示す純移動率に基づく社会増減数に加え、毎年20人が当市へ移住
- 生存率・純移動率等は、社人研推計値に準拠

第1期総合戦略では、「住み続けたい、住んでみたいと思える魅力あるまち」を目指すべきまちの姿と定め、その目標に近づくことで、当市の人口減少のスピードを鈍化させ、将来においては緩やかであったとしても上昇に転ずることに繋げていくことを目指しました。

社人研が、平成22年の国勢調査に基づき、平成25年に公表した人口推計によると令和2年の人口は47,345人と見込まれていましたので、当市としては、総合戦略の各施策の推進により、合計特殊出生率の上昇と市内への移住増加を想定し、減少が見込まれる人数を2割緩やかにすることを目標に、平成31年度末時点で人口48,000人を上回るという数値目標を設定していました。

第1期総合戦略策定後の人口の推移としては、平成31年3月末時点で48,000人を下回ったことから、数値目標の達成には至りませんでした。令和元年9月末時点の人口が社人研が平成25年と平成30年に公表した人口推計と比較し、それぞれを上回っていることから、国が見込んだ人口減少よりは緩やかな減少となっていると考えられます。

しかし、社人研の人口推計が平成25年公表値よりも平成30年公表値の方がさらに減少していること、東京圏への人口一極集中が是正されず、地方においては人口減少に歯止めが効かない

ことから、さらに人口減少が進んでいく見込みとされています。

第2期総合戦略の策定にあたっては、各施策の推進により、減少が見込まれる人数を緩やかにするという目標と将来展望のための想定は変えませんが、平成30年に公表された社人研の人口推計を基に改めて登別市の将来人口目標を見直します。

3. 基本目標ごとの数値目標と重要業績評価指標（KPI）の検証

第1期総合戦略では、5つの基本目標ごとに、その接近度を捉えられるよう数値目標を定めました。また、基本目標ごとの数値目標を達成するために講ずべき施策の方向性を定めるとともに、施策ごとに重要業績評価指標（以下、「KPI」という。）を定めました。数値目標やKPIは、これまで、本市が取り組んできた多くの事務事業により、得ようとする、あるいは得られた成果であり、これらの達成状況については、幅広い市民や関係団体からご意見をいただきながら、次のとおり分類し、毎年度、検証を行いました。

平成30年度末までの達成状況としては、数値目標については、5項目中1項目が「進展」、2項目が「継続」、2項目が「遅延」となっています。KPIについては、19項目中8項目が「達成」、7項目が「進展」、2項目が「継続」、2項目が「遅延」となっており、これまでの取組により、78.9%が達成・進展となっています。

第1期総合戦略に基づく取組により、目指すべき姿に着実に近づいていますが、人口減少と少子高齢化は依然として深刻な状況であることから、第2期総合戦略の策定にあたっては、これまでの取組を継続・深化させていくことを基本としながらも、新たな視点を加える必要があります。

【評価分類】

「達成」

実績値が目標値を上回っているもの。

「進展」

実績値が目標値を下回っているが、基準値を上回っているもの。基準値がない場合は、実績値が前年度実績値を上回っているもの。

「継続」

実績値が基準値と同程度のもの。基準値がない場合は、実績値が前年度実績値と同程度のもの。

「遅延」

実績値が基準値を大きく下回っているもの。基準値がない場合は、実績値が前年度実績値を大きく下回っているもの。

(1) 基本目標1 子どもを生み育てやすいまちへ

① 数値目標

数値目標	単位	基準値 (H24)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
子育て施策への市民満足度	%	79.5	85.0	80.9	—	—	76.2	継続

② 重要業績評価指標（KPI）

a) 子育ての不安と負担の軽減

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
子育て支援拠点数	力所	3	4	3	3	3	4	達成

b) 地域に根ざした魅力ある学校づくり

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
一斉学校公開日の来校者に占める地域住民の割合	%	7.0	10.0	9.4	8.5	9.1	7.4	継続

c) 生涯にわたるスポーツ振興の推進

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
全国体力運動能力調査（小学生）20mシャトルランでT得点の全国平均を上回る	点	47.4	50.0	48.6	47.9	50.8	50.7	達成

d) 快適な住環境づくり

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
都市公園の遊具健全度	%	70.0	95.0	72.7	73.0	74.1	78.4	進展

③ 効果検証

数値目標である「子育て施策への市民満足度」は横ばいとなりましたが、各KPIは、ハード整備などを中心に向上が図られました。

子育て支援拠点については、中心地などに大型施設を建設するのではなく、身近な地域での親・子ともに利用しやすい環境を整備するとともに、ネイチャーセンターふおれすと鉱山やキウシト湿原などの自然体験施設の充実に加え、西いぶり定住自立圏の枠組を活用することとし、新たに、鷺別児童館、鷺別放課後児童クラブの移転・開設と鷺別子育て支援センターを設置しました。

また、保護者等の経済的負担の軽減を図るため、「特定不妊治療費の助成」や「子ども医療費助成制度の拡大」、「幼児教育・保育の無償化」など、子育て不安の解消と保護者の負担の軽減に向けて取り組みました。

④ 主な事業・取組

I. 鷺別児童館、鷺別放課後児童クラブの移転・開設
II. 鷺別子育て支援センターの新設
III. 認定こども園、2園の創設
IV. 子どもの医療助成の対象拡大
V. 特定不妊治療費助成事業の開始
VI. 鷺別小学校の建替
VII. オリンピアンを招いた講演会・実技指導の実施
VIII. 登別市景観とみどりの条例を施行、市民や関係団体と協働の緑化推進

(2) 基本目標2 安心して老いを迎えることができるまちへ

① 数値目標

数値目標	単位	基準値 (H24)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
高齢者施策への市民満足度	%	71.4	76.0	73.4	—	—	74.1	進展

② 重要業績評価指標（KPI）

a) 高齢者福祉の確立

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
老後に不安を持っている人の割合	%	52.0	47.0	73.2	—	—	80.2	遅延

b) 自立した暮らしへの支援

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H27年度から実施)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
生活困窮者自立支援法に基づく相談件数	件/年	—	30	54	30	23	80	達成

c) 暮らしの安心を支える制度

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
特定健康診査の受診率	%	30.3	35.0	31.6	31.7	33.4	34.7	進展

d) 地域医療の充実

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
救急医療の受入時間	時間/日	24	24	24	24	24	24	達成

e) 市民の主体的な学習の推進

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
図書館を利用した市民の割合	%	10.7	13.0	10.8	10.7	10.2	10.0	継続

③ 効果検証

高齢者施策への市民満足度は、目標値を下回りましたが、基準値からは進展しました。

高齢者の方が培ってきた知識、経験、能力、技術などの財産を地域に還元していただける環境づくりや、一般介護予防事業の実施や認知症サポーターの養成など高齢者の暮らしを支える制度の充実による高齢者福祉の確立、JCHO 登別病院の移転・開設や消防署東支署の建設、消防本部新庁舎の建設に向けた検討などによる地域医療の充実、登別市シルバー人材センターへの支援や生涯学習や市民活動の活性化などによる生きがいづくりの推進などに取り組んできた成果であると捉えています。

今後においても、市民のニーズを的確に捉えながら、適切な対応に努めていくことで、安心して老いを迎えることができるまちの実現を目指していきます。

④ 主な事業・取組

I. 一般介護予防事業の推進
II. 在宅医療・介護連携推進事業の推進
III. 認知症サポーターの養成
IV. 老人クラブやシルバー人材センター等への支援による生きがい作りの推進
V. JCHO登別病院の移転・開設
VI. 消防本部新庁舎の建設に向けた検討
VII. 消防署東支署の建設

(3) 基本目標3 各産業が元気に展開されるまちへ

① 数値目標

数値目標	単位	基準値 (H25)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
基本計画第3章（観光経済）の市民満足度	%	69.2	74.0	65.1	—	—	68.6	継続

② 重要業績評価指標（KPI）

a) 活力ある複合的産業基盤の形成

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H24)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
商業販売額（卸・小売販売額）	千円/年	39,297,000	39,297,000	—	55,225,000	—	—	達成

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H25)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
製造品出荷額	千円/年	15,330,290	15,330,290	—	12,419,030	18,061,260	19,329,390	達成

b) 雇用の安定と快適な就業環境づくりの推進

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
有効求人倍率	倍	0.92	1.00	1.02	1.26	1.36	1.47	達成

c) 魅力ある観光地づくり（各産業が元気に展開されるまちへ）

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
観光入込客数	千人/年	3,536	4,400	3,913	3,851	4,048	3,783	進展

d) 特色ある農業・漁業の推進

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
乳牛1頭当たりの生産乳量	kg/年	8,590	9,000	8,475	8,639	8,461	8,755	進展

③ 効果検証

数値目標である基本計画第3章（観光経済）の市民満足度は、基準値を下回りましたが、全てのKPIについて基準値を上回り、着実に達成・進展につなげていることから、ニーズに対応した取組が成果を上げているものと考えています。

市民レベルでは経済の好影響をあまり感じられていないこと、また、各取組の対象が明確である分、対象とならない市民や企業が、恩恵を感じにくいことも満足度が向上しなかった理由として想定されますが、各産業が元気に展開されるよう、時代に即した取組をスピード感を持って実施していることから、事業の開始から期間が短い取組もありますので、今後も一貫して継続的に進める必要があります。

また、市民の皆さんが観光都市のぼりべつの一員であることを自覚していただく機会を設けることで、市を挙げてのおもてなしの機運を醸成し、観光産業に関する取組を感じていただくことで、満足度の向上に繋げていく必要があります。

④ 主な事業・取組

I. 商店街の活性化に向けた取組への支援
II. 創業支援事業計画の策定、創業支援事業の推進
III. 登別ブランド推奨品の認定による、販路拡大の支援や高付加価値化の推進
IV. 広域連携の枠組みや民間活力を活用した外国人観光客向けキャッシュレス決済環境の整備
V. 地元の牛乳や海産物をはじめとした一次産品の認知度向上、販路拡大、高付加価値化

(4) 基本目標4 観光地としての魅力づくり

① 数値目標

数値目標	単位	基準値 (H25)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
観光施策の市民満足度	%	79.1	84.0	76.6	—	—	73.9	遅延

② 重要業績評価指標（KPI）

a) 魅力ある観光地づくり（観光地としての魅力づくり）

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
観光入込客数	千人/年	3,536	4,400	3,913	3,851	4,048	3,783	進展

b) 文化の保存・継承

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
歴史文化施設入館者数	人/年	5,490	5,700	5,016	5,369	4,776	4,225	遅延

② 効果検証

数値目標である観光施策の市民満足度は基準値を下回りましたが、KPIである観光入込客数（年間）は基準値を上回り進展しました。また、歴史文化施設入館者数は、基準値を下回っていることから、取り組みの強化を図る必要があります。

国のアイヌ政策推進交付金を活用して郷土資料館の魅力の向上を図るなど、地域の特色を活かした魅力ある観光地づくりを進めるとともに、積極的な誘客により観光客は増加基調で推移する一方で、民族共生象徴空間ウポポイの開設、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催、マラソン・競歩の札幌開催などをきっかけにして、ますます増加が見込まれる観光客に対し、特にインバウンド向けには、現在の環境では十分な観光案内や各種情報の発信ができない恐れがあり、不十分な対応により登別観光のイメージや観光客の満足度の低下を招くことなく選ばれる観光地となるよう対応を進めていく必要があります。

③ 主な事業・取組

I. 近隣市町との連携による、滞在型観光の推進
II. 外国人観光客向けキャッシュレス決済環境の整備
III. 登別閻魔やきそばの提供開始
IV. 民族共生象徴空間ウポポイ開設をきっかけとする更なる誘客促進策の検討
V. 札幌市、函館市と連携した観光PRの実施
VI. 民族共生象徴空間ウポポイ開設をきっかけとするアイヌ文化振興策の検討

(5) 基本目標5 移住・定住したいまちへ

① 数値目標

数値目標	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
ちょっと暮らし（体験移住者）	人/年	96	200	172	190	37	28	遅延

② 重要業績評価指標（KPI）

a) 国内における交流の場と機会の拡大

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
姉妹都市（四五都市を含む）都市間交流人数	人/年	480	700	918	583	395	580	進展

b) 海外との交流の場と機会の拡大

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
国際理解講座への参加者数	人/年	53	70	122	130	169	447	達成

c) 定住の地を求める人の勧誘と定住支援

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値				進捗 状況
				H27	H28	H29	H30	
移住ワンストップ窓口への相談者数	人/年	39	55	36	70	63	51	進展

③ 効果検証

数値目標であるちょっと暮らし（体験移住者）の人数は、平成28年度までは順調にその数を増やしてきましたが、民間施設と連携して提供している登別温泉地区の利用可能部屋数が平成29年度から大きく減少したことに伴い、実績も減少しています。現状では、利用可能部屋数の稼働率を最大限高め、1人でも多くの方に当市の魅力を知っていただける機会を設けるよう努めるとともに、実際に移住・定住した後の生活をイメージしやすいよう、登別温泉地区以外での移住体験を提供しています。

また、首都圏などで開催される各種移住フェアへの参加や移住・定住ポータルサイトの情報の拡充により本市の移住としての魅力を積極的にPRし、完全移住はもとよりショートステイ、シーズステイなど多様な移住スタイルを進めています。

④ 主な事業・取組

I.	宮城県白石市、神奈川県海老名市との姉妹都市盟約に基づく交流の推進
II.	四五都市連絡協議会を構成する東京都福生市、滋賀県守山市との交流の推進
III.	東京登別げんきかいや札幌のぼりべつ会を通じた、首都圏の人々との情報交換
IV.	デンマーク友好都市中学生派遣交流事業の実施
V.	ホストタウン事業の実施
VI.	移住・定住ポータルサイトの情報拡充
VII.	ふるさとまちづくり応援寄附金の取組の推進
VIII.	民間企業や団体等との連携による各種取組の推進

第3章 第2期総合戦略

1. 総合戦略の位置づけ

(1) 総合戦略策定・改訂の趣旨

国は、平成31年（2019年）3月に「第2期『まち・ひと・しごと創生総合戦略』の策定に関する有識者会議」を開催し、第1期の検証と併せて、第2期総合戦略策定に向けて議論を開始し、6月には「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」（以下「基本方針」という。）を閣議決定しました。基本方針では、第1期での地方創生について、「継続を力」にし、必要な強化を行うことや、新たな視点に重点を置いて施策を推進することなどが示されました。

令和元年（2019年）12月には、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定し、第1期「総合戦略」の成果と課題を検証し、総仕上げに取り組むとともに、第2期「総合戦略」においては、地方創生の目指すべき将来と、令和2年度（2020年度）を初年度とする目標や施策の方向性等を策定し、人口減少や東京圏への一極集中がもたらす危機を国と地方公共団体がしっかりと共有した上で、国が司令塔として、関係省庁の連携を強め、将来にわたって「活力ある地域社会」の実現と、「東京圏への一極集中」の是正をともに目指すこととしています。

また、地方公共団体に対しても、国の「総合戦略」を勘案し、地方創生の充実・強化に向け、切れ目ない取組を進めるため、次期「地方版総合戦略」を策定するよう努めなければならないとしています。

次期地方版総合戦略の策定においては、人口減少に抗うため、長期的な視点に立って、切れ目なく、粘り強く取組を続けていくことが重要です。

また、当市の第1期総合戦略は、10年先を見据え、平成28年度（2016年度）に策定した第3期基本計画に連なるものとして策定したものであり、長期的なスパンで取り組むことで成果に結びつけていくこととしていることから、5つの基本目標と具体施策についても「継続を力」にして、引き続き取組を続けていくことを基本としながら、国や北海道の総合戦略を勘案し、新しい視点を加えた、第2期「登別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を令和2年（2020年）3月に策定しました。

国においては、令和4年（2022年）12月23日付けで従来の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を改訂し、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す「デジタル田園都市国家構想総合戦略」が閣議決定されました。当市においても、第2期総合戦略に掲げた取組を、今後はデジタルの力をこれまで以上に活用しながら継承・発展させていくことが肝要であると考えています。

住みよい環境を確保し、将来にわたって活力ある地域社会の実現を目指すため、地方創生の充実・強化に向けた切れ目ない取組を進めることに加え、国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を勘案し、デジタルの力を活用した当市の社会課題解決や魅力向上の取組の加速化・深化を図るため、第2期「登別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を一部改訂します。

なお、第3期基本計画と第2期総合戦略に齟齬が生じないよう、第3期基本計画と終了年度を一致させることとし、第2期総合戦略は令和2年度（2020年度）から令和7年度（2025年度）までの6か年を計画期間とします。

(2) 総合戦略の位置づけ

総合戦略策定・改訂の目的を踏まえ、当市においては、引き続き、総合計画第3期基本計画に連なるものとして、第2期「登別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。

総合戦略に示す各種施策については、市の今後の重点施策として、推進していくものです。

(3) 総合戦略の対象期間

総合戦略の期間は、令和2年度（2020年度）から令和7年度（2025年度）の6年間とします。

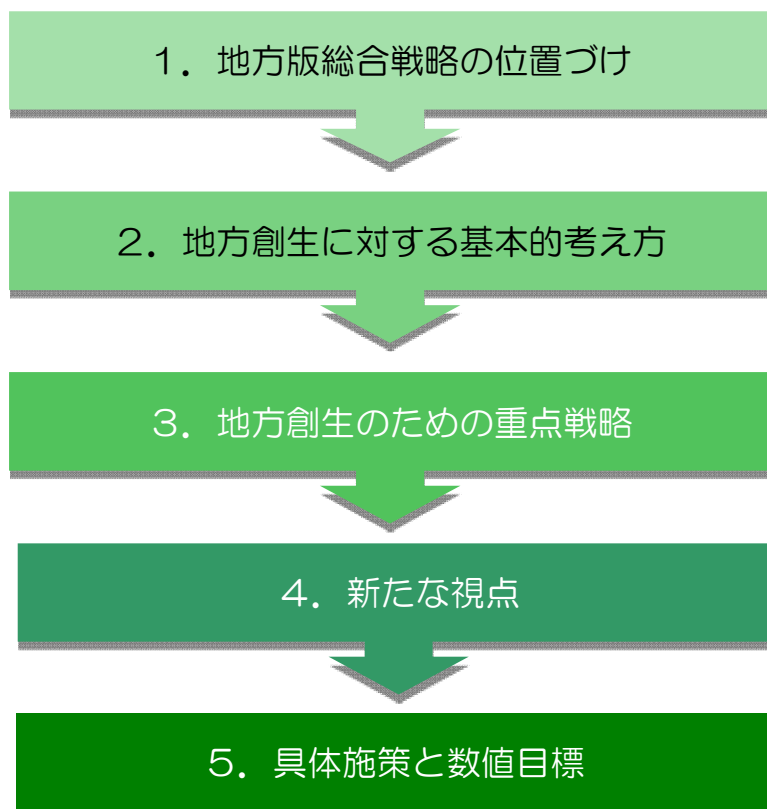
(4) 総合戦略の名称

総合戦略の名称については、第2期「登別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」とします。

ただし、国は総合戦略の名称を「デジタル田園都市国家構想総合戦略」に変更したことから、令和8年度（2026年度）からの新たな総合戦略の名称については変更を検討することとします。

(5) 総合戦略の全体構成

総合戦略では、「人口ビジョン」で示した人口の将来展望やデジタル田園都市国家構想総合戦略の方向性を踏まえて、総合戦略や地方創生に対する基本的な考え方、地方創生のための重点戦略及び具体の施策及び数値目標を設定します。



2. 地方創生に対する基本的な考え方

① 登別市が取り組む地方創生

「人口ビジョン」で試算したように、当市の人口が徐々に減少し続けているなかで、人口減少にどのように対応していくのか、的確に施策を展開することが求められます。

総合計画におけるあるべきまちの姿を踏まえ、人口ビジョンの試算により抽出した課題をもとに、当市が、「このまちに住みたい、住んでみたいと思える魅力あるまち」の実現を目指して、当市の人口減少のスピードを鈍化させ、将来においては緩やかであったとしても上昇に転ずることを目標に策定するものです。

このため、人口減少対策を進めることが必要であり、「人口ビジョン」で見えた課題を踏まえ、以下のまちづくりの方向性を示しています。

人口ビジョンを踏まえたまちづくりの方向性

- ① 出生率の向上の実現のため、安心して子どもを生み育てられるまちを目指します
- ② 高齢者が活躍できる長寿社会を目指します
- ③ 定住人口の増加に向けた安定した雇用・就業環境づくりを目指します
- ④ 交流・関係人口の増加に向けた魅力ある観光地づくりを目指します

総合戦略では、これら将来の方向性を踏まえ、目指すべきまちの姿を「住みたい、住んでみたいと思える魅力あるまちへ」とし、「住んでみたいと思えるまちへ」（定住人口の確保）、「行ってみたいと思えるまちへ」（交流・関係人口の増加）を目指すべき目標とします。

② 戦略の基本的な考え方（原則）

当市のさらなる創生を目指すため、国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」における施策の方向を踏まえて、施策を検討します。

デジタルの力を活用した地方の社会課題解決

1. 地方に仕事をつくる

専門学校等との連携、中小・中堅企業 DX、観光 DX 等

2. 人の流れをつくる

「転職なき移住」の推進、関係人口の創出・拡大、二地域居住等の推進、地方大学・高校の魅力向上、女性や若者に選ばれる地域づくり 等

3. 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

デジタル技術を活用した子育て支援等の推進、結婚・出産・子育てへの支援、仕事と子育てが両立できる環境整備 等

4. 魅力的な地域をつくる

質の高い教育、公共交通・物流・インフラ分野の DX、まちづくり DX、脱炭素・エネルギーの地産地消、防災・減災、国土強靱化等、地域コミュニティ機能の維持・強化 等

デジタル実装の基礎条件整備

1. デジタル基盤の整備

デジタルインフラの整備、マイナンバーカードの普及促進・利活用拡大、データ連携基盤の構築、エネルギーインフラのデジタル化 等

2. デジタル人材の育成・確保

デジタル人材育成プラットフォームの構築、高等教育機関等におけるデジタル人材の育成、女性や若者のデジタル人材の育成・確保 等

3. 誰一人取り残されないための取組

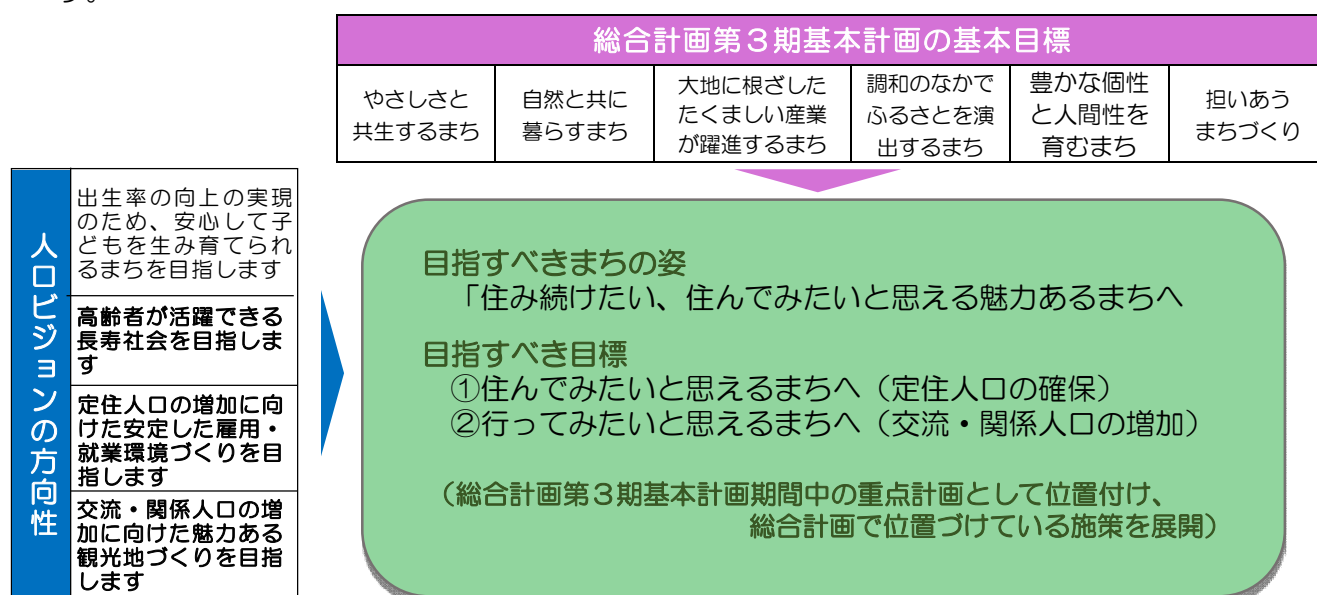
デジタル推進委員の展開、デジタル共生社会の実現、利用者視点でのサービスデザイン体制確立 等

地方のデジタル実装を支援

③ 戦略推進の考え方

a) 総合計画との連携

登別市総合計画第3期基本計画は、平成28年（2016年）に策定しました。この基本計画における基本目標としては、基本構想でまちづくりの5つのテーマとして位置付ける「やさしさと共生するまち」「自然と共に暮らすまち」「大地に根ざしたたくましい産業が躍進するまち」「調和の中でふるさとを演出するまち」「豊かな個性と人間性を育むまち」に、「担いあうまちづくり」を加えた6点を掲げています。これら6つの基本目標と、人口ビジョンで示した4つの方向性を踏まえ、総合戦略では総合計画で位置づけている施策にもとづき、人口減少と地域経済縮小の克服、まち・ひと・しごと創生と好循環の確立を実現する観点から、戦略的に政策を進めていきます。



b) 官民連携・広域連携による推進

「まち・ひと・しごと創生」を実行するためには、市民、行政だけではなく、産官学金労言士などのさまざまな知見を有した方の参加・協力が重要であることから、総合戦略の策定・運用においては多様な主体が連携し施策を推進してきており、今後についても連携による推進を継続します。また、デジタル関連の施策を実効性の高いものとするため、新たにデジタル分野に精通する有識者等に参画していただき、デジタルを活用した施策の更なる推進を図ります。

さらに、北海道が策定する総合戦略を勘案するとともに周辺の市町とも連携しながら施策を推進します。

c) 施策間及び地域間の連携

国のデジタル田園都市国家構想総合戦略においては、地域ビジョンの実現を総合的・効果的に支援する観点から、必要な施策間の連携をこれまで以上に強化し、地方の自主的・主体的な取組を支援するとともに、同様の社会課題を抱える複数の地方公共団体が連携し、効果的かつ効率的に課題解決に取り組むことができるよう、地域間連携のあり方などを提示しています。

総合戦略に基づく各種施策の実施にあたっては、本市が掲げるデジタルを活用した取組等の推進の考え方や方向性とも歩調を合わせ、あらゆる分野におけるデジタルの活用を推進するとともに、施策間連携を進め効果的かつ効率的な取組を推進します。また、デジタル技術を活用して地域課題の解決を図るため、西いぶり定住自立圏形成協定等に基づいた関係市町との連携した取組などに努めてまいります。

d) PDCA による目標達成評価

総合戦略は、計画策定（Plan）、推進（Do）、点検・評価（Check）、改善（Action）の各過程において、市民はもとより産官学金労言士など多様な主体が関わる体制を引き続き構築し、着実に検証していきます。このため、具体施策については、それぞれに対して、客観的な重要業績評価指標（KPI）を設定し、施策の成果を検証していきます。

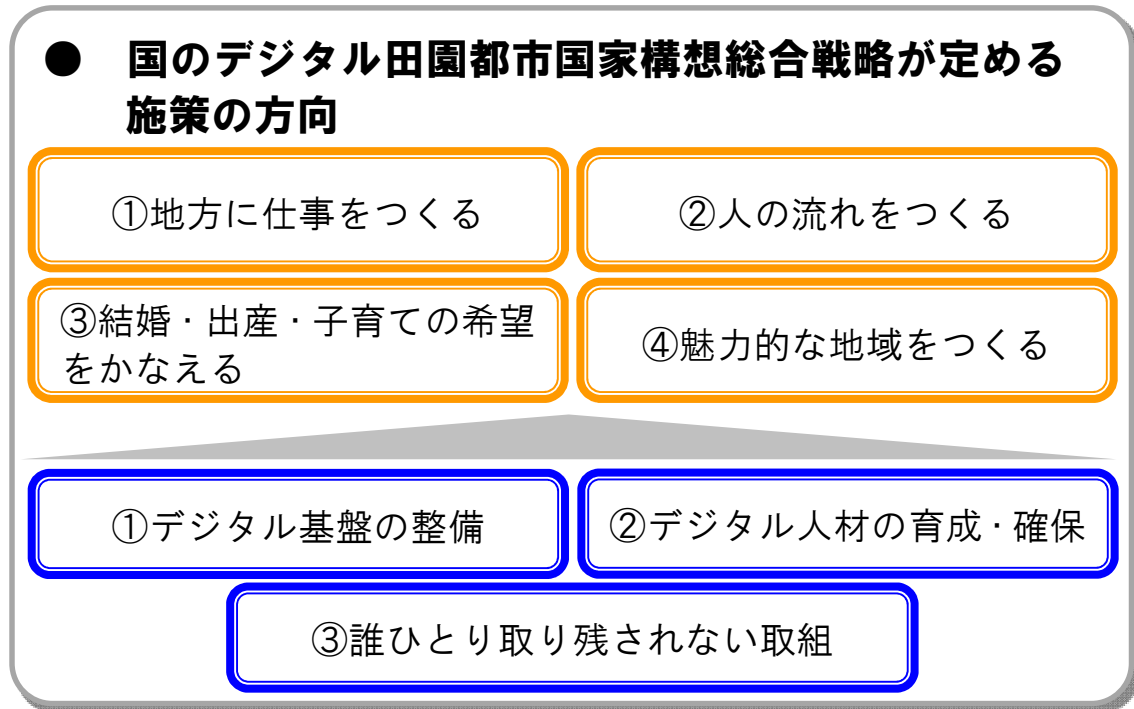
重要業績評価指標（KPI）

Key Performance Indicator の略称。

施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標をいう。

3. 地方創生のための重点戦略

国のデジタル田園都市国家構想総合戦略が定める施策の方向を踏まえ、目指すべきまちの姿である「住みたい、住んでみたいと思える魅力あるまちへ」向け、当市が進める地方創生のための基本目標を以下の通り設定します。



● **登別市の地方創生のための基本目標**

基本目標① 子どもを生き育てやすいまちへ

基本目標② 安心して老いを迎えることができるまちへ

基本目標③ 各産業が元気に展開されるまちへ

基本目標④ 観光地としての魅力を高め選択されるまちへ

基本目標⑤ 移住・定住・応援したいまちへ

【基本目標における数値目標】

登別市の将来人口 約44,800人（令和7年9月末）

ー戦略の体系についてー

* 目指すべきまちの姿

「住み続けたい、住んでみたいと思える魅力あるまちへ」

* 目指すべき目標

①「住んでみたいと思えるまちへ」（定住人口の確保）

②「行ってみたいと思えるまちへ」（交流・関係人口の増加）

* 目指すべき目標を実現させるための基本目標

【住んでみたいと思えるまちへ】

①子どもを生み育てやすいまちへ

②安心して老いを迎えることができるまちへ

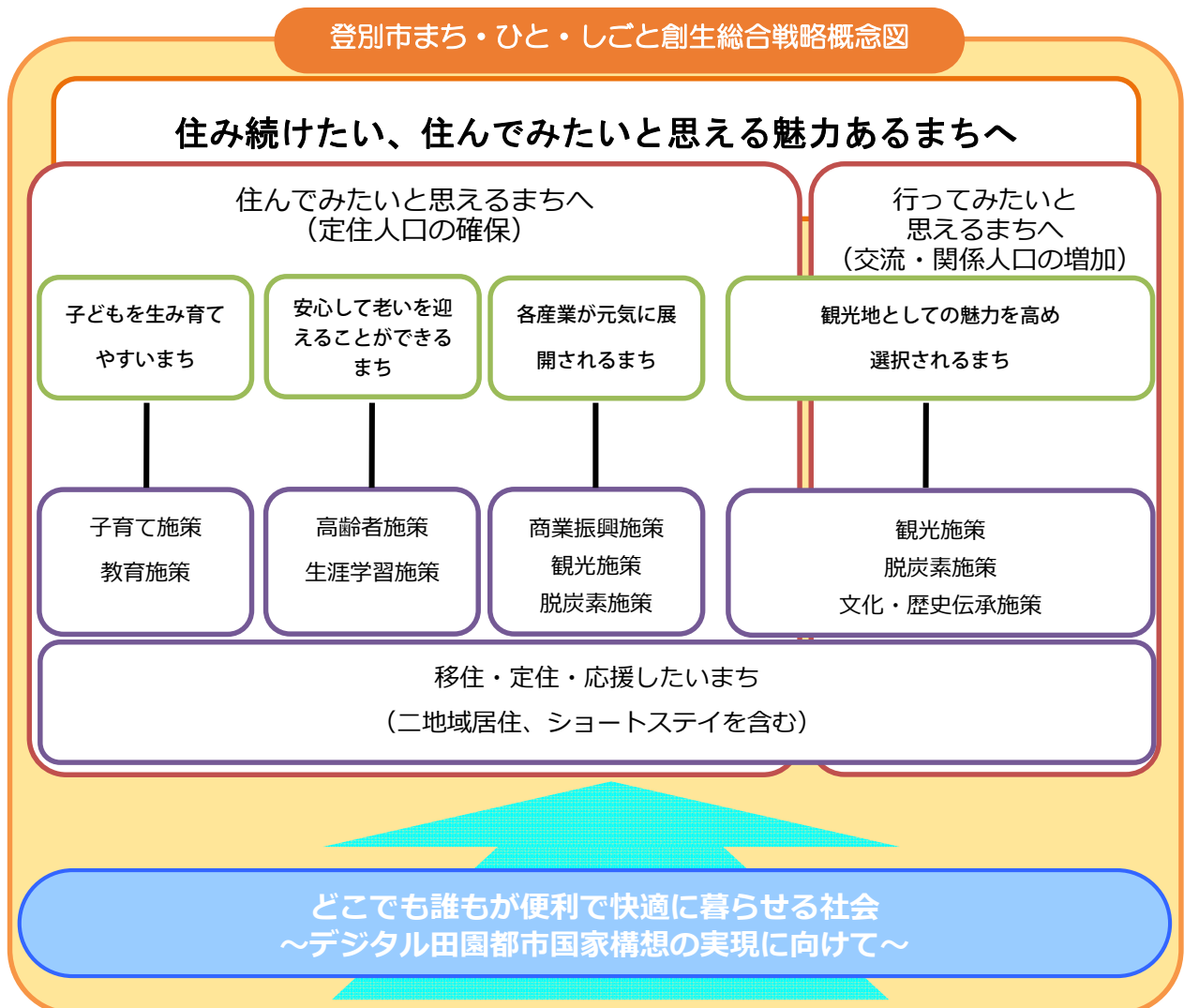
③各産業が元気に展開されるまちへ

【行ってみたいと思えるまちへ】

①観光地としての魅力を高め選択されるまちへ

≪複合的に施策に取り組むことで≫

①移住・定住・応援したいまちへ（二地域居住、ショートステイを含む）



●さまざまな施策を複合的にを行い、まちの総体的な魅力や市民満足度（Well-being）の向上に努めることで、移住・定住・応援したいまちの実現に向けた原動力とします。

4. 新たな視点

(1) 地域ビジョン

令和元年度（2019年度）に第2期総合戦略を策定し、取組を進めてきましたが、当市を取り巻く環境は変化してきています。これら社会情勢等の変化を踏まえ対応していくためには、国などが示している新たな視点に着目した取組を進めていく必要があると考えています。

また、総合戦略に基づく取組の推進にあたっては、かけがえのない地球環境を守り、多様性と包摂性のある社会の実現に向けて、国連で採択された「持続可能な開発目標：SDGs（Sustainable Development Goals）」の理念を意識した検討・実行が必要であるため、具体施策ごとにSDGsのロゴを掲載することで、改めて理念を共有し、さらなる取組の推進につなげていきます。

さらに、デジタル技術が急速に発展する中、デジタルは地方の社会課題を解決する鍵であり、新たな価値を生み出す源泉となっており、デジタルの実装を通じ、地域の社会課題の解決と魅力の向上を図っていくことが重要であるため、各種施策ごとのあらゆる分野でデジタルを活用した取組の推進につなげていきます。

(2) 関係人口の創出・拡大

定住人口が減少する中においては、当市への移住を直接促す取組に加え、地域課題の解決や将来的な移住に向けた裾野を拡大するため、定住には至らないものの、都市部の住民が当市と継続的かつ多様な形で関わり、地域課題の解決に資する関係人口の創出と拡大を図っていく視点が求められています。

北海道の第2期創生総合戦略では、「北海道らしい関係人口の創出・拡大」を重点戦略プロジェクトに掲げており、「ほっかいどう応援団会議の展開」や「ふるさと納税の活用推進」、「北海道型ワーケーションの普及・展開」など、関係人口の創出・拡大に向けた取組が推進されます。

当市においても、首都圏在住の登別市出身者などで構成されるふるさと会「東京登別げんきかい」の展開、「ふるさとまちづくり応援寄附金」による魅力の発信、魅力ある安全安心な観光地づくりによるリピーターの増加など、当市らしい関係人口の創出と拡大を図っていく必要があります。

(3) 持続可能なまちづくり

近隣市町との広域連携、生活サービス機能の集約・確保、高齢者の見守り、公共交通の維持確保、老朽インフラの更新、医療と介護の連携、雇用就労の維持確保、環境への配慮など、当面の人口減少を前提としつつ将来にわたり安心して暮らすことのできる地域づくりをこれまで以上に意識し、対応していく必要があります。

(4) 未来を支えるひとづくり

将来当市を支える人材の育成や、中長期を見据えた地域創生を担う「ひと」の創生が重要です。ICT社会に対応できる教育、未来技術を活用した教育、英語教育の充実・強化等により、学習の幅の拡大など「ひと」づくりに資する取組を進めるとともに、一度当市を離れた方のUターンを促進する上でも、学校と地域が一体的に子どもたちを育むことでこのまちへの愛着も育む機会の確保を推進する必要があります。

(5) 多様な人材が活躍できる環境づくり

人口減少、少子高齢化が進展する中、地域経済や地域での暮らしを活性化させるためには、女性や高齢者、障がい者など多様な人材が活躍する全員参加型社会の実現が求められていますので、安心して働くことができる環境づくりをさらに進めていく必要があります。

(6) 外国人材の受入拡大・共生

人口減少による労働力不足への対策として、外国人材の受入拡大に向けた取組が求められていますので、事業者や地域における受入環境の整備を進めるとともに効果的な情報発信が必要です。

また、令和元年度（2019年度）から取り組んでいる「多文化共生推進事業」などにより、海外の先住民の歴史や文化、取組について理解を深めることで、将来的に多文化共生社会づくりを担っていく人材の育成も重要です。

(7) 地方から世界へ

アジアをはじめとする中間層・富裕層の拡大等を背景とした消費や観光の需要の更なる高まりなどが見通されています。直近では、令和元年（2019年）のラグビーワールドカップ、令和2年（2020年）の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、令和3年（2021年）のワールドマスタースゲームズ関西、令和7年（2025年）の大阪・関西万博の開催が予定されています。こうしたことから、地方から世界へ直接結び付く機会が増大しており、「地方から世界へ」という観点を持った上で、地方創生を実現していくことが重要です。

北海道の第2期創生総合戦略で掲げている重点戦略プロジェクト「磨き高め輝く・北海道価値」プロジェクトにおいても、令和2年（2020年）に実施された7空港一括民間委託、ウポボイのオープン、令和3年（2021年）に実施された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のマラソン・競歩の札幌開催等について触れ、この機会を逃さず、北海道がより一層輝きを増すよう取り組みを強化するとしています。

当市においても、ウポボイのオープン、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のマラソン・競歩等の実施により、多くの観光客が訪れることが見込まれますので、絶好の機会と捉え、当市が有する自然や食などの資源を最大限に活かし、海外にアピールしていくとともに、市民の皆様のホスピタリティ向上や多文化理解に資する取組を行っていく必要があります。

また、海外の友好都市等との交流など、市民の皆様の国際感覚の醸成に効果的な取組についても継続して行っていく必要があります。

(8) デジタル田園都市国家構想の実現に向けた取組

国においてはデジタルは地方の社会課題を解決する鍵、新たな価値を生み出す源泉であるとして、デジタル技術の活用により、地域の個性を活かしながら地方を活性化する「デジタル田園都市国家構想」の実現を目指しております。

北海道の第2期創生総合戦略では、労働力人口の減少、人手不足の深刻に伴い、生産性の向上が求められていることから、概ね10年後を想定し、未来技術を活用した活力あふれる北海道の未来の姿を示す「北海道 Society5.0」の実現に向けて計画を策定しております。

当市においても、ICT を積極的に利活用し、デジタル化に対応した市民サービスの抜本的な改革に取り組むとともに、これまで進めてきた行政情報化と地域情報化の取組をさらに推進するため令和4年（2022年）3月に「登別市 DX 推進計画」を策定するとともに、令和5年（2023年）4月から当市にDX推進室を組織しました。

さらに、デジタルフェローの知見を積極的に活用し、DXの推進や教育の指導力の向上を図るため、DX分野に精通した外部人材に令和5年（2023年）1月付けで「登別市デジタルフェロー」を委嘱したこと、また、AIやデジタルを活用した先端技術やデータ活用など、デジタルの効果を最大限に活かし、まちづくりや行政経営において「デジタルファースト」で取り組むことを令和5年（2023年）2月に表明しています。

本戦略に基づく各種施策の実施にあたっては、こうした方向性と整合を図りつつ、社会情勢の変化や地域の課題の変化に注視しながら「住み続けたい、住んでみたいと思える魅力あるまち」を実現できるよう、あらゆる分野におけるデジタルを活用した取組の推進を図っていく必要があります。

（9）ゼロカーボンシティへの挑戦

北海道においては国に先駆け、令和2年（2020年）3月に「2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロ」を目指すことを表明し、北海道地球温暖化対策推進計画に基づき、気候変動問題の解決と世界に誇る北海道の創造に向けて、北海道が有する豊かな自然や地域資源を利用した再生可能エネルギーと広大な森林など吸収源の最大限の活用により、環境と経済、社会を調和しながら成長を続ける北の大地「ゼロカーボン北海道」の実現を目指していくこととしている。

当市においても、令和4年（2022年）2月に「ゼロカーボンシティ」を表明し、豊かな自然を有し、世界的にも有名な国際観光都市として、今後も持続可能な発展を続けていき、将来世代にこの自然をより美しい状態で引き継ぐ必要があります。

また、市役所本庁舎の建替に伴い、再生可能エネルギーの活用や最新の省エネ技術を組み合わせることでNearly ZEBを目指すこととし、この取組を核として、公共施設や企業等での太陽光発電設備の導入や省エネ機能の向上等を進めていく必要があります。

5. 具体施策と数値目標

(1) 基本目標1 子どもを生み育てやすいまちへ

① 数値目標

数値目標	単位	基準値 (H24)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
子育て施策への市民満足度	%	79.5	85.0	80.9	—	—	76.2

② 重要業績評価指標（KPI）

a) 子育ての不安と負担の軽減



重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
子育て支援拠点数	力所	3	4	3	3	3	4

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H30)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
子育て支援拠点等の利用者数（延べ）	人/年	21,875	22,000	19,166	17,564	17,342	21,875

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (R3)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
母子健康手帳アプリ登録割合	%	—	70.0	—	—	—	—

b) 地域に根ざした魅力ある学校づくり



重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
一斉学校公開日の来校者に占める地域住民の割合	%	7.0	14.0	9.4	8.5	9.1	7.4

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (R3)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
デジタルコンテンツ（デジタル教科書及び独自の教材）活用数	数	8	14	—	—	—	—

c) 生涯にわたるスポーツ振興の推進



重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
全国体力運動能力調査（小学生）20mシャトルランでT得点の全国平均を上回る	点	47.4	50.0	48.6	47.9	50.8	50.7



d) 快適な住環境づくり

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
都市公園の遊具健全度	%	70.0	100.0	72.7	73.0	74.1	78.4

③ 講すべき施策に関する基本方向

少子化に歯止めをかけるためには、若い世代が抱えている結婚・出産・子育てに関する不安を解消し、負担を軽減することで、出生率を増加させることが必要です。

一方、当市の出生率は、道内平均よりは高いものの、全国平均に比べ、低い現状となっています。過去の子育て世代への意向調査結果をみると、当市では、将来的に2人の子どもが欲しいと考えている子育て世代が半数を占めることがわかっています。出生率の低下の背景としては、近年の晩婚化や晩産化、非正規雇用などの低所得者の増加、若い世代の経済的安定に向けた男女の働き方の変化などが考えられ、結婚に向けた出会いの機会の創出や経済的支援などが求められています。

第2期総合戦略の計画期間においては、これまでの取組に加え、保育所の民間委託による民間のノウハウの活用や、保護者の更なる負担の軽減、保護者と地域が一体となった育みや相互支援などの活用により、きめ細やかな見守り・相談・支援体制をしっかりと構築し、地域で子どもを育てることのできるまちづくりを進め、市民満足度の向上につなげていきます。

また、放課後児童クラブの利用に係る負担の軽減、子育て世代がワンストップで相談できる体制の整備などにより、子育ての不安と負担の軽減を図るとともに、小中学校の耐震化や英語教育の充実・強化、児童・生徒が高度情報化社会へ対応できるようICTを活用した教育環境を整備など地域に根差した魅力ある学校づくりの推進のほか、高齢化や人口減少などの将来を見据えたまちづくりや公共交通のあり方の検討などの快適な住環境づくりの推進など、仕事を続けながらも安心して『子どもを生み育てやすいまち』を実現することで、出生率の向上を目指します。

④ 主な事業・取組

- | | |
|--|--|
| 保育所の民営化を進め、これまで公立保育所で培ってきた「保育」と民間の技術や手法を取り入れた「教育」の一体的な提供を図るとともに、保育需要に柔軟に対応する保育サービス、地域の子育て支援を充実 | |
| Ⅱ. 保護者の経済的な負担の軽減を図るため、放課後児童クラブの利用者の負担の軽減を図る。 | |
| Ⅲ. 市総合福祉センター内に新たに子育て世代包括支援センターを設置し、妊産婦や乳幼児の実情把握、各種相談に応じるなど、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援 | |
| Ⅳ. オンラインやアプリを活用した妊娠期から出産・子育てまで一貫した「伴走型相談支援」の強化 | |
| Ⅴ. 児童・生徒が高度情報化社会に対応できるよう、児童・生徒1人1台のパソコンの整備に向けた計画的な導入やネットワーク環境の整備を図るなど、ICTを活用した教育環境の整備 | |
| Ⅵ. 教職員の業務を軽減し、子どもと向き合う時間を増やし、きめ細やかな指導につなげるよう「校 | |

	務支援システム」を導入
VII.	防犯対策を強化する認定こども園を支援し、安全対策を強化
VIII.	児童・生徒の安全・安心を図るため、小・中学校の校舎の改修や耐震化
IX.	東京 2020 オリパラで夢を育むスポーツ推進事業の実施
X.	東京 2020 オリパラ デンマーク王国のホストタウン事業の実施
XI.	都市計画マスタープランの改訂及びコンパクトなまちづくりを推進するための立地適正化計画の策定
XII.	高齢化や人口減少を見据え、公共交通網形成計画策定

⑤ 第3期基本計画における体系図

施策	基本的な方向	主要な施策
子育ての不安と負担の軽減	1 地域での子育て支援	① 地域子育て支援拠点の充実 ② 地域子育てボランティアの育成と活用 ③ 地域子育てグループ活動への支援 ④ 子育てについての学習、体験機会の充実 ⑤ 子育て家庭への相談・情報提供の支援
	2 男女共同による子育ての推進	① 家事、育児への男性参画の推進
	3 子育て環境の整備	① 保育所、幼稚園等における保育・教育の充実及び環境の整備 ② 認定こども園の推進 ③ 民間活用による柔軟な保育環境の整備 ④ 乳幼児等保育の充実 ⑤ 児童館、放課後児童クラブなどの充実
	4 経済的負担等の軽減の支援	① 医療費、保育料、教育費等の支援 ② 子どものいる家庭等への経済的支援等の充実
地域に根ざした魅力ある学校づくり	1 教育環境の充実	① 学校の適正規模等 ② 児童生徒の安全確保 ③ 安心で衛生的な教育環境の充実 ④ 特別支援教育体制づくり ⑤ 教員の資質の向上
生涯にわたるスポーツ振興の推進	1 健康・体力づくりの推進	① 関係機関の連携 ② 温水を利用した健康づくり ③ 豊かな自然を利用した健康づくり
快適な住環境づくり	1 身近な公園・緑地等の創出と保全	① 安全で安心できる公園整備の推進 ② 民間活力による公園・緑地の管理・運営 ③ みどりの創出と保全

(2) 基本目標2 安心して老いを迎えることができるまちへ

① 数値目標

数値目標	単位	基準値 (H24)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
高齢者施策への市民満足度	%	71.4	76.0	73.4	—	—	74.1

② 重要業績評価指標（KPI）

a) 高齢者福祉の確立



重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
老後に不安を持っている人の割合	%	52.0	40.0	73.2	—	—	80.2

b) 自立した暮らしへの支援



重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H27年度から実施)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
生活困窮者自立支援法に基づく相談件数	件/年	—	50	54	30	23	80

c) 暮らしの安心を支える制度



重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
特定健康診査の受診率	%	30.3	45.0	31.6	31.7	33.4	34.7

d) 地域医療の充実



重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
救急医療の受入時間	時間/日	24	24	24	24	24	24

e) 市民の主体的な学習の推進



重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
図書館を利用した市民の割合	%	10.7	15.0	10.8	10.7	10.2	10.0

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (R3)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
蔵書のWeb予約数	件	7,118	8,000	—	—	—	—

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (R4)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
スマホ教室開催回数	回	9	8	—	—	—	—

③ 講すべき施策に関する基本方向

社人研の推計によれば令和27年（2045年）には、当市の総人口に占める65歳以上人口の割合が45%を超えるとされており、高齢者の方が当市で安心して老いを迎えることができるように、環境を整備することが重要です。

過去の高齢者への意向調査結果をみると、子どもの自立等により、夫婦のみの世帯が半数以上となっており、将来にわたって転居する可能性も低いことが確認されています。

一方、日々の生活については、「貯蓄・年金のみの生活」や「体が不自由になった際の介護サービスや補助支援制度」に対する不安が多く挙げられており、これらの支援も求められています。

また、シニア世代の地域協力の意向は高く、特に「保育所などでの幼児との交流・保育サポート」などの子育て支援への参画の可能性があります。

このような時代背景や市民意向を踏まえ、「高齢者福祉の確立」や「高齢者の暮らしを支える制度」、万一の際の「地域医療の充実」など、引き続き環境の充実を進めます。

また、高齢者の方の知恵や知識を後世に伝えるため、「市民の主体的な学習の推進」に一翼を担うことなど、生きがいづくりを推進します。

第2期総合戦略の計画期間においては、これまでの取組に加えて、地域ケア会議推進事業を拡大します。本事業は、平成27年度（2015年度）から継続して実施してきましたが、今後は多職種の専門職に参加いただきながら介護予防のための地域ケア個別会議を定期開催することで、専門的助言を得て、要支援者等の生活行為の課題等を明らかにし、介護予防に資するケアプランの作成とプランに即したケアを提供することにより状態を改善に導き、自立を促すことで「高齢者のQOLの向上」の実現を目指すとともに、事例の積み重ねにより、地域に不足する資源等の行政課題の発見・解決策の検討につなげていきます。

また、後期高齢者の特性を踏まえた健康支援として、平成30年（2018年）4月に厚生労働省が示したガイドラインでは、これまでの肥満対策に重点を置いた生活習慣病対策から、体重や筋肉量の減少を主因とした低栄養や口腔機能、運動機能、認知機能の低下等に着目した対策への転換が必要であるとされました。これを受けて、当市においても厚生労働省のガイドラインに沿って、後期高齢者の方を対象とした歯科検診による口腔ケアや、糖尿病性腎症重症化予防を実施することで、生活習慣病の発症予防よりも、重症化予防の取組に重点を置くとともに、高齢者の保健事業と介護予防等との一体的な実施を推進することで、引き続き『安心して老いを迎えることができるまち』の実現を目指します。

④ 主な事業・取組

I.	高齢者が自分の健康を自ら意識して管理できるよう介護予防事業を充実し、健康づくりの支援に努める。
II.	介護予防のための地域ケア個別会議を開催し、高齢者のQOLの向上と行政課題の発見・解決策の検討につなげる。
III.	後期高齢者の方を対象とする重症化予防の取組に重点を置くとともに、高齢者の保健事業と介護予防等との一体的な実施を推進する。
IV.	ひとり暮らし高齢者等の日常生活の不安解消や人命の安全を確保するため、高齢者緊急通報システム等の充実を図る。
V.	消防署の適正配置を進めるほか、消防車両等や救急資器材の充実に努め、高度な救命処置ができる救急救命体制の整備を図る。
VI.	図書館におけるネット予約サービスや電子書籍の積極的な利用を促すとともに、電子書籍の充実を図る。
VII.	高齢者をはじめとしたデジタル活用に不安がある市民に、スマートフォンの基本的な操作を学ぶことができるスマホ教室の開催。

⑤ 第3期基本計画における体系図

施策	基本的な方向	主要な施策
高齢者福祉の確立	1 長寿社会の基盤づくり	① 高齢者の生きがいづくりの場と機会の充実 ② 高齢者の健康づくり活動の支援 ③ 高齢者の生活基盤の整備
	2 高齢者福祉の充実	① 生活支援サービス機能の充実 ② ひとり暮らし老人の支援 ③ 認知症高齢者の支援 ④ 高齢者の権利擁護 ⑤ 介護保険事業の適切な運営 ⑥ 地域包括支援センターによる介護サービスの充実 ⑦ 質の高い介護サービスの展開
自立した暮らしへの支援	1 自立した暮らしへの支援	① 生活安定対策の推進 ② ひとり親家庭への支援
暮らしの安心を支える制度	1 安心を支える確かな制度	① 社会保障制度の適切な運用等
地域医療の充実	1 地域医療体制の確保	① 地域医療体制の確保 ② 包括的な医療等サービスの提供
	2 救急医療体制の整備	① 救急医療体制の整備 ② 救急救命体制の整備
市民の主体的な学習の推進	1 生涯学習環境の充実	① 生涯学習施設の確保と充実 ② 生涯学習支援者の育成と確保 ③ 図書館機能の充実

(3) 基本目標3 各産業が元気に展開されるまちへ

① 数値目標

数値目標	単位	基準値 (H25)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
基本計画第3章（観光経済）の市民満足度	%	69.2	74.0	65.1	—	—	68.6

② 重要業績評価指標（KPI）

a) 活力ある複合的産業基盤の形成



重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H24)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
商業販売額（卸・小売販売額）	千円/年	39,297,000	39,297,000	—	55,225,000	—	—

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H25)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
製造品出荷額	千円/年	15,330,290	15,330,290	—	12,419,030	18,061,260	19,329,390

b) 雇用の安定と快適な就業環境づくりの推進



重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
有効求人倍率	倍	0.92	1.00	1.02	1.26	1.36	1.47

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (R3)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
サテライトオフィス等を利用する企業数	社	0	10	—	—	—	—

c) 魅力ある観光地づくり（各産業が元気に展開されるまちへ）



重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
観光入込客数	千人/年	3,536	4,460	3,913	3,851	4,048	3,783

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (R4)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
ワーケーション受入企業数	社	30	30	—	—	—	—



d) 特色ある農業・漁業の推進

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
乳牛1頭当たりの 生産乳量	kg/年	8,590	9,000	8,475	8,639	8,461	8,755

③ 講すべき施策に関する基本方向

産業の活性化や雇用の創出は、地域の活力向上と人口流出を是正するための基礎となるものです。

過去の事業所へのアンケート調査結果をみると、営業年数が30年以上の事業所が多く、約9割以上が、今後も市内で事業を継続していくことを考えています。

経済の活性化を図るためには、人口減少や少子高齢化の緩和などに資する各種対策が求められています。また、今後、市内で事業を継続していくための「顧客・利用者確保に対する支援」、「新たな販路拡大に対する支援」、「後継者・従業員確保に対する支援」などが求められています。

一方、過去の高校生・専門学校生アンケート調査結果をみると、市外への就職理由として、市内に志望する企業が少ないという指摘も挙げられています。

当市では、かねてより取り組んでいる加工食品のブランド化やご当地グルメの開発など地域の特色を活かした取組について情報発信するほか、企業間の連携や、新たな企業の創出・育成支援などをより深化させ、今後も「活力ある複合的産業基盤の形成」を図っていきます。

また、若年層や高齢者の就業支援はもとより、仕事と家庭の両立を支援するために、女性の就業支援など「雇用の安定と快適な就業環境づくりの推進」を図っていきます。

一方、市内の主力産業の一つである観光産業については、何度も訪れていただける魅力ある観光地づくりを進めるため、入湯税の超過税率分の税収を活用し、JR登別駅のエレベーター設置に向けた取組を進め、産業の活性化につなげます。

さらに、農業・漁業については、特色ある取組と高付加価値化を目指すとともに、新規就農者・担い手農業者への支援など、時代に応じた取組を行い、「特色ある農業・漁業の推進」を図ります。

当市が連携する登別ブランド推進協議会では、登別ブランド推奨品の認定を行うことで高付加価値化を図るとともに、当市により商談会等への出展経費を支援するなどし、販路拡大をサポートしてきましたが、令和元年度（2019年度）に実施したまちづくり意識調査では、実際に登別ブランド推奨品を購入したことがあると回答した市民の方は5割に満たないという結果になりました。第2期総合戦略の計画期間においては、これまでの取組強化に加えて、登別ブランド推奨品のインターネット販売や認知度向上に資する取組などを支援することでさらに深化させていきます。

また、SDGsの考え方を活用し国が提唱した、地域特性に応じて異なる資源を持続的に循環させる自立・分散型の地域を形成する「地域循環共生圏」の実現や、地域経済の活性化に向けて、再生可能エネルギーの地産地消について研究を深めていくなど、引き続き、『各産業が元気に展開されるまち』を目指します。

④ 主な事業・取組

I.	（仮称）登別市情報発信拠点施設の整備による観光情報の発信と商店街の活性化
II.	登別ブランド推進協議会の取組強化と認知度向上等に向けた新たな取組の推進
III.	商談会等出展補助金の活用促進に向けた見直し
IV.	アドバイザーの派遣により、商店街活性化に関するアドバイスや各商店街の課題解決セミナー等の開催を促し、各商店街の課題抽出と課題解決に向けた取組や支援策・補助金の活用を検討することにより、商店街のにぎわい創出のきっかけづくりとする。
V.	白老町での民族共生象徴空間ウポポイのオープンに合わせ、アイヌ文様を施した新商品等を開発・販売・配付することで、市民や観光客へアイヌ文化の普及を図るとともに、市内経済の活性化を図る。
VI.	地域循環共生圏の実現等に向けた、再生可能エネルギーの地産地消についての研究
VII.	起業家教育や創業無関心者に対し、創業への興味・関心を喚起する創業機運醸成事業を実施し、創業者の掘り起しを行う。
VIII.	雇用創出のための企業誘致の継続、市内施設を活用したサテライトオフィスの検討
IX.	テレワーク環境を整備し、テレワークやワーケーションに取り組む企業の進出を促進することで、当市への新しい人の流れを創出し、市内経済の活性化及び活力ある地域社会の実現を図る。
X.	市内事業者等による自家消費型太陽光発電設備等の導入を促し、再生可能エネルギーの利用を促進し、地域の脱炭素化を図る。
XI.	一次産品生産者等と協力し、市内の宿泊施設や飲食店での利用促進及び食材サンプル提供を継続するとともに、フォローアップを行うことでより有効な普及促進を検討する。

⑤ 第3期基本計画における体系図

施策	基本的な方向	主要な施策
環境に配慮した暮らしの構築	1 環境保全意識の醸成	① 環境教育の推進 ② 環境保全団体や自治体間等の連携強化と活動の推進 ③ 環境に配慮した消費行動の啓発
	2 環境保全活動の推進	① 省資源・省エネ生活への意識啓発 ② 地球温暖化対策の推進 ③ 再生可能エネルギーの利用促進 ④ 公害監視体制の強化 ⑤ 生態系の保全
活力ある複合的産業基盤の形成	1 活力ある市内企業の育成	① 経営基盤の強化と経営支援機能の充実 ② 製品等の魅力の向上とブランド力・技術力の強化 ③ 事業機会の拡大と域内循環の推進 ④ にぎわい溢れる商業の振興
	2 市内産業を担う新たな企業の創出	① 起業・創業の促進 ② 企業立地の推進 ③ 新分野進出と新産業創出の支援
雇用の安定と快適な就業環境づくりの推進	1 生涯を通して働ける環境づくり	① 雇用情報の提供やキャリア教育の推進等による就業の促進 ② 労働環境の向上と勤労者福祉の充実
	2 産業を担う人材の育成	① 職業能力の向上・開発の支援
魅力ある観光地づくり	1 国内外の観光客に優しい観光地づくり	① 温かいおもてなしの心の醸成 ② 安全安心な観光施設の整備 ③ 観光客受入体制の整備
	2 感動と癒しのある観光地づくり	① 観光資源の充実と利用促進 ② 滞在型観光の推進
	3 多様な誘客事業の推進	① 魅力ある観光情報の発信
特色ある農業・漁業の推進	1 農水産物高付加価値化の促進	① 新鮮で安全・安心な農水産物供給の推進 ② 地場農水産物高付加価値化の推進 ③ 地産地消の推進
	2 ゆとりある農業経営の促進	① 新規就農者、担い手農業者への支援 ② 農業生産基盤の整備 ③ グリーンツーリズム（農村との交流を楽しむ余暇活動）の推進 ④ 有害鳥獣の捕獲推進
	3 時代に即した漁業生産の基盤づくり	① マリンビジョンの推進 ② つくり育てる漁業や資源管理型漁業の推進 ③ 漁業経営の安定 ④ 漁港の維持・管理と環境整備促進

(4) 基本目標4 観光地としての魅力を高め選択されるまちへ

① 数値目標

数値目標	単位	基準値 (H25)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
観光施策の市民満足度	%	79.1	84.0	76.6	-	-	73.9

② 重要業績評価指標（KPI）

a) 魅力ある観光地づくり（観光地としての魅力づくり）



重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
観光入込客数	千人/年	3,536	4,460	3,913	3,851	4,048	3,783

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (R4)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
ワーケーション受入企業数	社	30	30	-	-	-	-



b) 文化の保存・継承

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
歴史文化施設入館者数	人/年	5,490	6,000	5,016	5,369	4,776	4,225

③ 講すべき施策に関する基本方向

登別市の魅力を知っていただくことは、観光客が増える事のみならず、リピーターや移住者が増える可能性も考えられるなど、交流人口や関係人口の増加に向けて、魅力あるまちづくりに取り組む必要があります。過去の高校生・専門学校生アンケート調査結果をみると、若い世代が感じる登別市の良いところとして、温泉地が充実している点が挙げられています。また、登別市の将来像としても、「自然や観光地を全面に打ち出した観光都市」が求められています。

全国的にも有名な登別温泉など地域固有の資源や、地域の歴史や文化など有形無形の資源などの「文化の保存・継承」を行うとともに、観光地としての施設・資源の整備や人材育成、観光PRなど「魅力ある観光地づくり」を行います。

第2期総合戦略の計画期間においては、これまでの取組の強化に加えて、当市の観光地づくりにおける現状と課題認識から、観光客の増加を背景に高まる観光機能等の高度化のニーズに対応し、登別のまちの魅力や地域の観光資源等を広く発信するため、観光客が集積するJR登別駅前への（仮称）登別市情報発信拠点施設の整備を進めていきます。また、入湯税の超過税率分の税収を活用してバリアフリー環境を構築するため、同駅構内へのエレベーター等の設置に向けた取組を進めるとともに、登別温泉の宿泊施設の耐震化の支援などを行い、安全に安心して訪れていただけるよう、受入環境を整えていきます。

また、日本工学院北海道専門学校内に設置した「サテライトオフィス en（えん）」等を拠点に実施した企業研修型ワーケーションを契機にワーケーションに取り組む企業の受入を図っていきます。

さらに、当市は、アイヌ民族が古くから生活を送り、自治体名や地域名がアイヌ語に由来するなどアイヌ文化が根底に流れるまちであり、断絶の危機にあったアイヌ語の口承文芸を、後世に伝える決定的な役割を果たした知里幸恵、知里真志保、金成マツなどを輩出しています。令和元（2019年）年5月に「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」が施行されたことや、民族共生象徴空間ウポポイのオープン、登別観光の玄関口である登別地区に整備した登別市観光交流センターのオープン等を契機として、魅力あるアイヌ関連文献資料等の収集・提供、アイヌ関連収蔵品の保存処理を行うなどのアイヌ文化財の保存・啓発を図るとともに、民族共生象徴空間ウポポイのサテライト機能を担うことで、ひとりでも多くの人にアイヌ文化に触れてもらえる機会を創出し、後世へのアイヌ文化の円滑な伝承と更なる誘客促進に繋げていくなど、引き続き、『観光地としての魅力を高め選択されるまち』を目指します。

④ 主な事業・取組

I.	（仮称）登別市情報発信拠点施設の整備による観光情報の発信と商店街の活性化
II.	JR登別駅構内へのエレベーター等設置に向けた検討・調整
III.	JR登別駅前広場の整備
IV.	登別温泉の宿泊施設耐震化の支援
V.	観光資源の適切な維持管理
VI.	白老町の民族共生象徴空間ウポポイと登別温泉地区を結ぶ都市間バスの運行支援
VII.	増加する観光客の利便性向上等のため、登別温泉地区のバス停へバスシェルターを設置
VIII.	企業研修型ワーケーションを契機にワーケーションに取り組む企業の受入を図るとともに、地域で不足するDX人材の育成を図る。
IX.	郷土資料館のアイヌ文化展示コーナーのリニューアル
X.	アイヌ文化に関する収蔵品の適切な保存・啓発
XI.	アイヌ文化に関する文献資料等の収集・提供
XII.	アイヌ関連史跡等への看板の新設・改修

⑤ 第3期基本計画における体系図

施策	基本的な方向	主要な施策
魅力ある観光地づくり	1 国内外の観光客に優しい観光地づくり	① 温かいおもてなしの心の醸成 ② 安全安心な観光施設の整備 ③ 観光客受入体制の整備
	2 感動と癒しのある観光地づくり	① 観光資源の充実と利用促進 ② 滞在型観光の推進
	3 多様な誘客事業の推進	① 魅力ある観光情報の発信
文化の保存・継承	1 歴史の伝承と活用	① 郷土の歴史を学ぶ場の充実 ② 埋蔵文化財の保管、展示施設の整備と学習会の開催 ③ 郷土文化・郷土芸能に触れる機会の充実
	2 アイヌ文化の振興と連携した取組	① アイヌ文化に関する調査研究、記録の保存 ② 伝統芸能、工芸に触れる機会の充実 ③ 市民講座の開催、小・中学校への情報提供

(5) 基本目標5 移住・定住・応援したいまちへ

① 数値目標

数値目標	単位	基準値 (H26)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
ちょっと暮らし（体験移住者）	人/年	96	300	172	190	37	28

② 重要業績評価指標（KPI）

a) 国内における交流の場と機会の拡大



重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
姉妹都市（四五都市を含む）都市間交流人数	人/年	480	1,000	918	583	456	649



b) 海外との交流の場と機会の拡大

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
国際理解講座への参加者数	人/年	53	100	122	130	169	447



c) 定住の地を求める人の勧誘と定住支援

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (H26)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
移住ワンストップ窓口への相談者数	人/年	39	100	36	70	63	51

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (R2)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
オンライン移住相談者数	人/年	1	10	—	—	—	—

重要業績評価指標 (KPI)	単位	基準値 (R3)	目標値 (R7)	実績値			
				H27	H28	H29	H30
WEBGISの満足度	%	60	70	—	—	—	—

③ 講すべき施策に関する基本方向

地方への新しい人の流れをつくるためには、移住・定住施策が欠かせません。当市を訪れる方々に、当市の魅力を知っていただき、まちに住みたいと思っていただけるような施策を推進するとともに、移住・定住を希望していても、どうしてもわからない、情報が欲しい方に対して、機会の提供や情報提供の拡大を行うことが重要です。

また、当市を訪れる外国人観光客は、平成29年度（2017年度）に50万人を超え、現在も増加基調を継続しています。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のマラソン・競歩の札幌開催や、白老町での民族共生象徴空間ウポポイのオープンなどにより、さらなる観光客の増加が見込まれることから、市民の皆さんのおもてなしの機運の醸成や国際理解の深化はますます重要となってきますので、今後も継続して取り組んでいく必要があります。市民の郷土愛を育むほか、当市を訪れる多くの観光客に魅力を感じ応援していただけるよう、東京登別げんきかい交流事業や札幌のぼりべつ会交流事業、ふるさとまちづくり応援寄附金の積極的な取組などを通じて、関係人口の創出にも努めていきます。

さらに、数年後に迫った市役所本庁舎の建設という大きな機会を逃すことなく、進化したICTを社会に浸透させることで、市民の生活をより良い、住みやすいまちへ変革させる取組として、市役所新庁舎を見据えた総合窓口への移行を視野に入れ、印字された申請書の内容確認及び署名のみで申請が完了する「書かない窓口」やタブレット端末を活用し市役所本庁舎と支所間で手続きに関する相談等が可能な「リモート窓口」を導入し、市民サービスの向上を図っていきます。

また、Webブラウザを活用した地理情報システム（WebGIS）のプラットフォームを構築し、ハザードマップや子育て支援施設等、地図をベースに情報共有を行い、市民や事業者等が自らデータを利活用するなど、データに基づいた地域情報化の推進を図っていきます。

その他、令和4年（2022年）9月に「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域」及び「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震津波避難対策特別強化地域」に指定されたことから、地震や津波等の防災対策を推進し、住み続けたい住んでみたいと思われるまちづくりを目指していきます。

これらの取組に加え、移住・定住を検討されている方のニーズに沿った情報の提供やサポートに努めるとともに、国内外の方々との交流を促進し、『移住・定住・応援したいまち』の実現に向けた取組を推進することで、人口増加に向けた取組に繋げるとともに、新しい視点として関係人口の創出・拡大を図っていきます。

④ 主な事業・取組

I.	西いぶり広域連合など広域連携による取組の推進
II.	姉妹都市・友好都市等との交流の推進
III.	東京登別げんきかい等と連携した関係人口創出に向けた取組の検討
IV.	次代を担う若者の海外派遣など、国際経験や多文化共生に対する見識を深める機会の確保
V.	移住・定住・関係人口の創出に向けた取組の検討、情報発信
VI.	ふるさとまちづくり応援寄附金の取組の推進
VII.	民間企業や団体等との連携による各種取組の推進
VIII.	「書かない窓口」・「リモート窓口」の推進に伴う市民サービスの向上

Ⅸ. 地理情報システム（WebGIS）のプラットフォーム構築に伴う地域情報化の推進

⑤ 第3期基本計画における体系図

施策	基本的な方向	主要な施策
国内における 交流の場と機会の拡大	1 国内のさまざまな地域との 交流の推進	① 広域行政の推進 ② 姉妹都市交流等の推進 ③ 札幌圏・首都圏における交流拠点の 整備
海外との 交流の場と機会の拡大	1 地域国際化の推進	① 国際交流の推進 ② 外国人が快適に滞在しやすい まちづくり ③ 国際性豊かな人材育成 ④ 国際協力・貢献活動の推進
定住の地を求める人の 勧誘と定住支援	1 移住・定住の受入体制の充実 2 人口流出の阻止・都市機能の充実	① 移住・定住相談体制の整備 ② 移住体験の推進 ① 定住自立圏の形成
市民の信頼に応える行 政運営	1 行政機能の充実	① 公平、公正な行政運営と持続可能な 財政運営

参考資料 アンケート調査結果

1. 調査概要

(1) 調査目的

人口の将来展望や戦略を検討するうえでの基礎資料とするために、アンケート調査を実施した。

なお、アンケートの設問設計に関しては、当市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の3つの戦略の柱（平成27年2月 市政執行方針より）との整合を図った。

- 子どもを生み育てやすいまちへ
- 安心して老いを迎えることができるまちへ
- 各産業が元気に展開されるまちへ

(2) 調査日時

アンケートの配布は、7月上旬に実施した。

(3) 対象者

	区分	対象者
1	子育て	現在またはこれから結婚、出産、子育てを行うと想定される世代の18～44歳の男女（市内在住）
2	高齢者	現在またはこれから老後を向かえる世代の55歳・65歳・75歳の男女（市内在住）
3	高校生	将来の登別市を支える全高校生の男女（登別青嶺高校、登別明日中等教育学校）
4	専門学校生	将来の登別市を支える専門学校生の最高学年の男女（日本工学院北海道専門学校）
5	事業者	市内の営業している事業所（第1次産業～第3次産業）

(4) 配布回収数

アンケートの回収数は、以下の通りとなっている。

表 アンケート回収率

	区分	発送数（票）	回収数（票）	回答率（％）
1	子育て	800	197	24.6%
2	高齢者	500	228	45.6%
3	高校生	686	661	96.4%
4	専門学校生	475	236	49.7%
5	事業者	200	81	40.5%

(5) 調査結果

調査結果を、次ページ以降に示す。回答の割合については、四捨五入のため合計値が100%にならない場合がある。

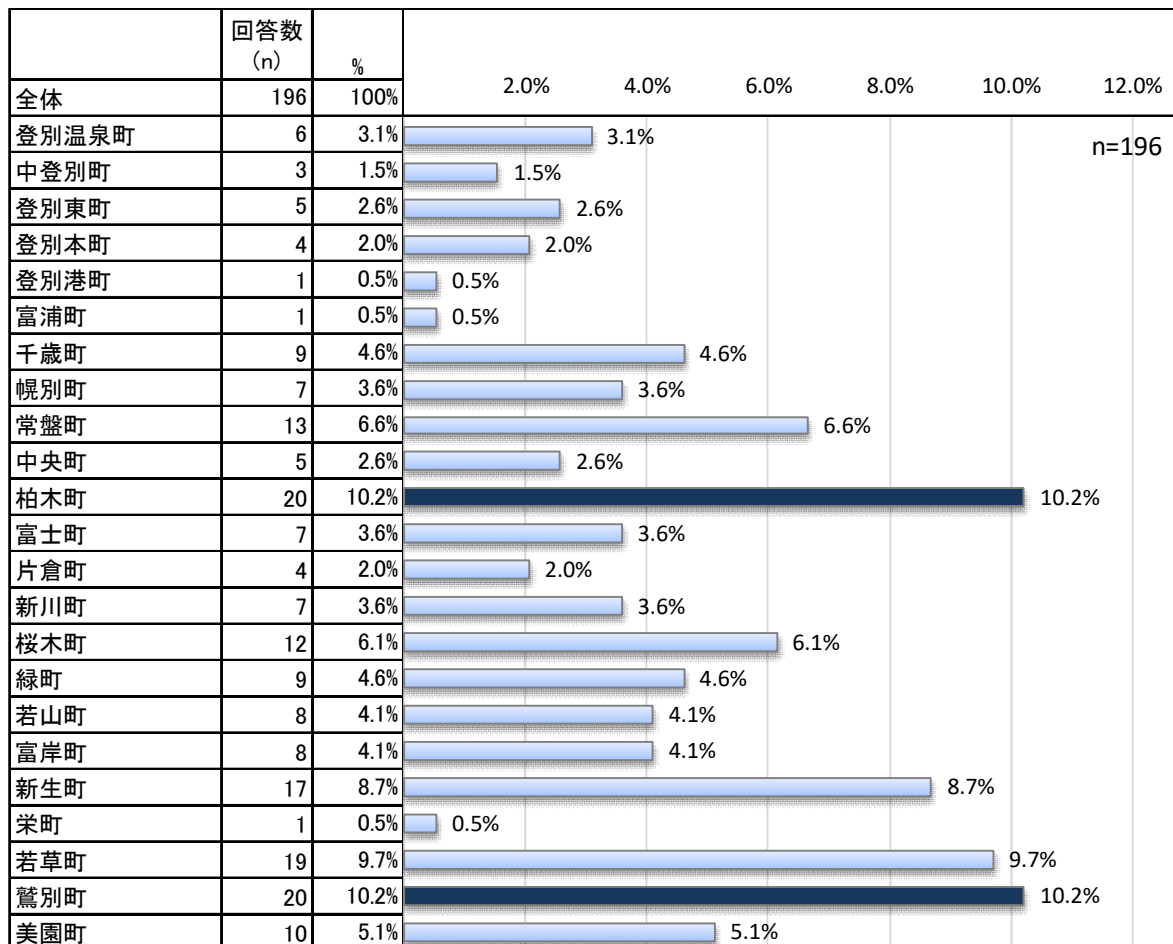
2. 調査結果

(1) 子育て施策向けアンケート結果

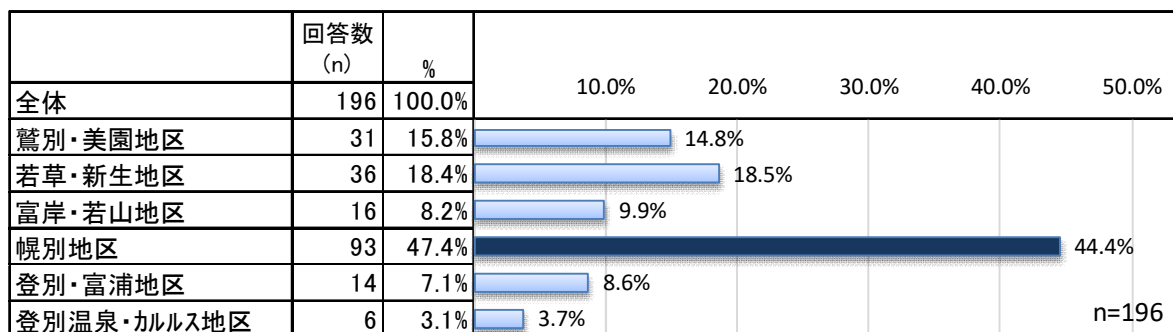
① 基本属性

問1 あなたのお住まいの町名を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の住まいは、「柏木町」・「鷺別町」が10.2%、次いで「若草町」が9.7%となっています。

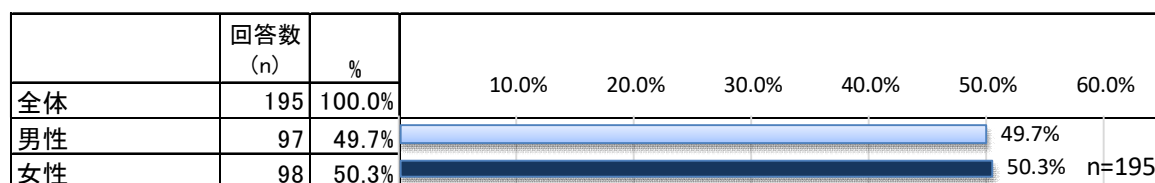


[参考 人口ビジョンにおける6地域区分]



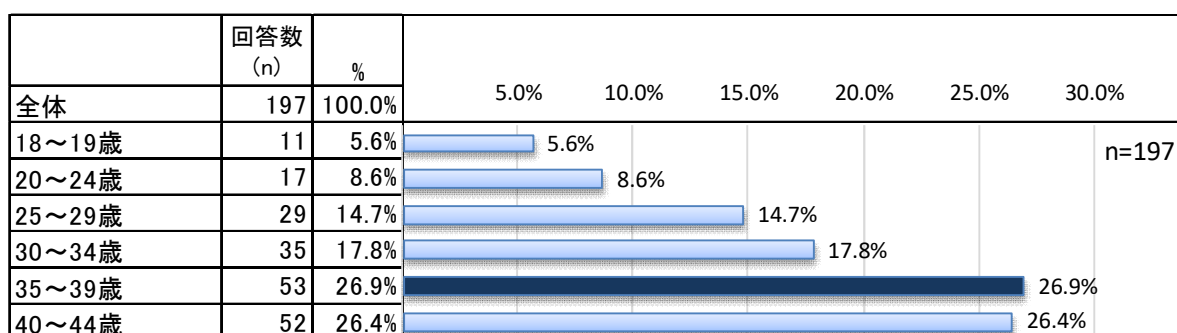
問2 あなたの性別を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の性別は、「男性」が49.7%、「女性」が50.3%となっています。



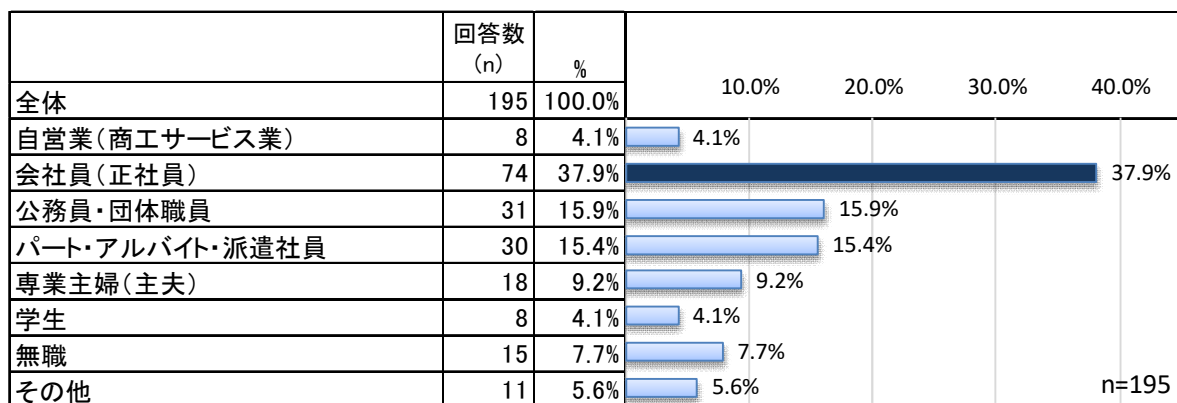
問3 あなたの年代（平成27年4月1日現在）を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の年代は、「35～39歳」が26.9%と一番多くなっています。



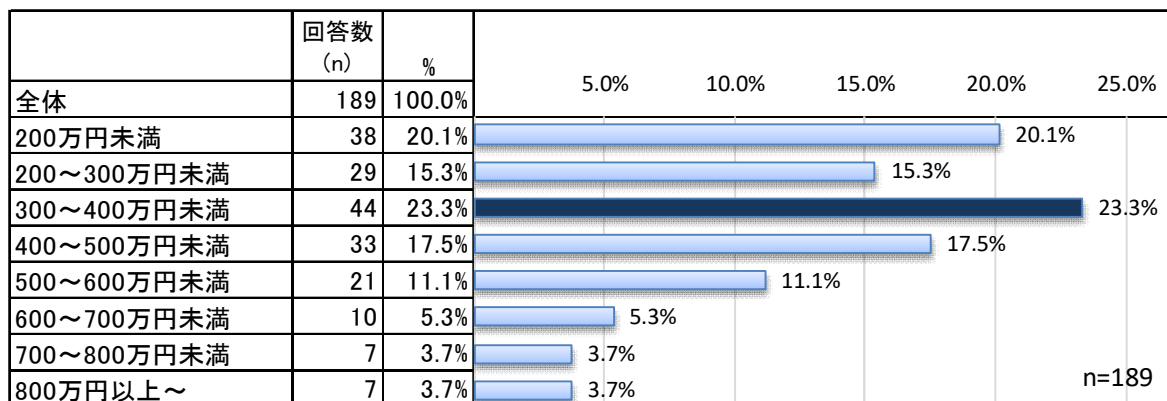
問4 あなたの職業を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の職業は、「会社員（正社員）」が37.9%と一番多くなっています。



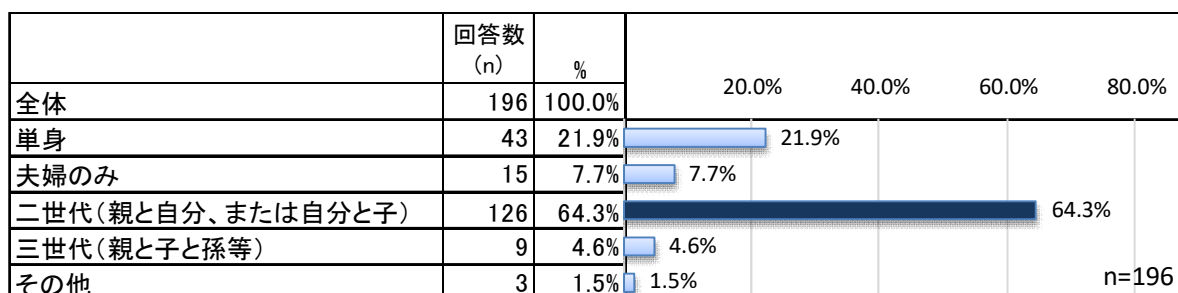
問5 あなたの世帯の収入について教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の世帯収入は、「300～400万円未満」が23.3%と一番多くなっています。



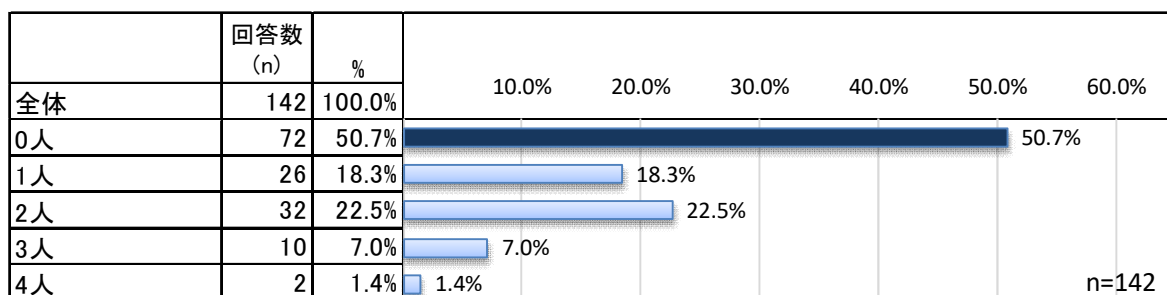
問6 あなたの世帯構成を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の世帯構成は、「二世帯(親と自分、または自分と子)」が62.8%、次いで「単身」が21.9%となっています。



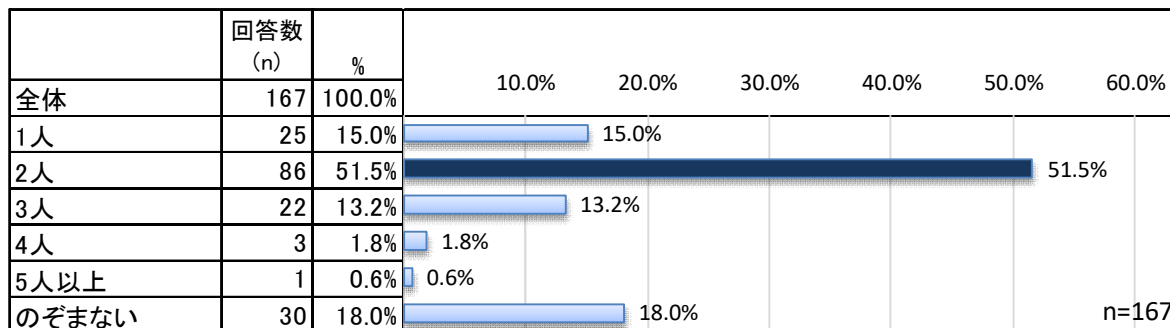
問7 あなたの子どもの人数を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の子どもの数は、「0人(いない)」が50.7%と半数を占めています。



問 8 あなたは、将来、子どもを何人希望しますか。子どもがいる方は、今の子どもの人数とあわせてお答えください（1つだけ選び番号に○）

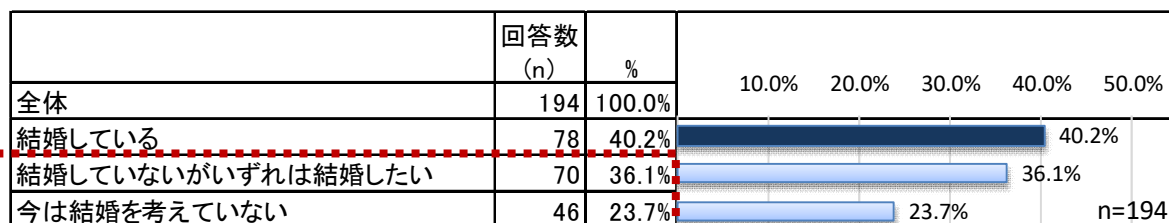
回答者の将来希望する子どもの数は、「2人」51.5%と半数を占めています。



② 結婚について

問9 あなたの結婚を取り巻く環境について、現在の状況を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の既婚率は、「結婚している」が40.2%、「結婚していないがいずれは結婚したい」が36.1%となっています。



問10 あなたは、「結婚」に関する環境についてどのような印象や不安がありますか（3つまで選び番号に○）

回答者の結婚についての印象は、「自由や気楽さを失うと感じる」が33.6%、次いで「学校・職場（企業等）・地域の中で、出会いがないと感じる」が32.8%となっています。

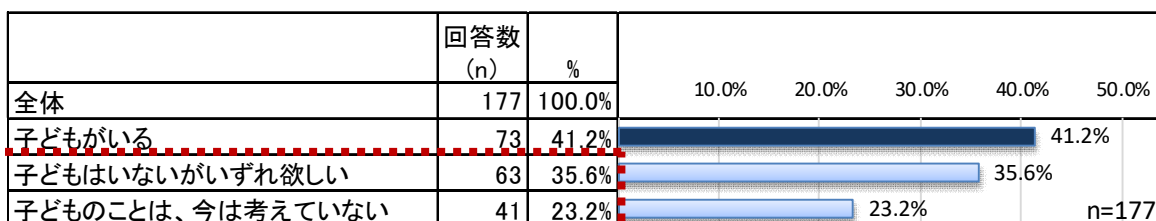


※有効回答数 116 票に対する割合

③ 出産・子育てについて

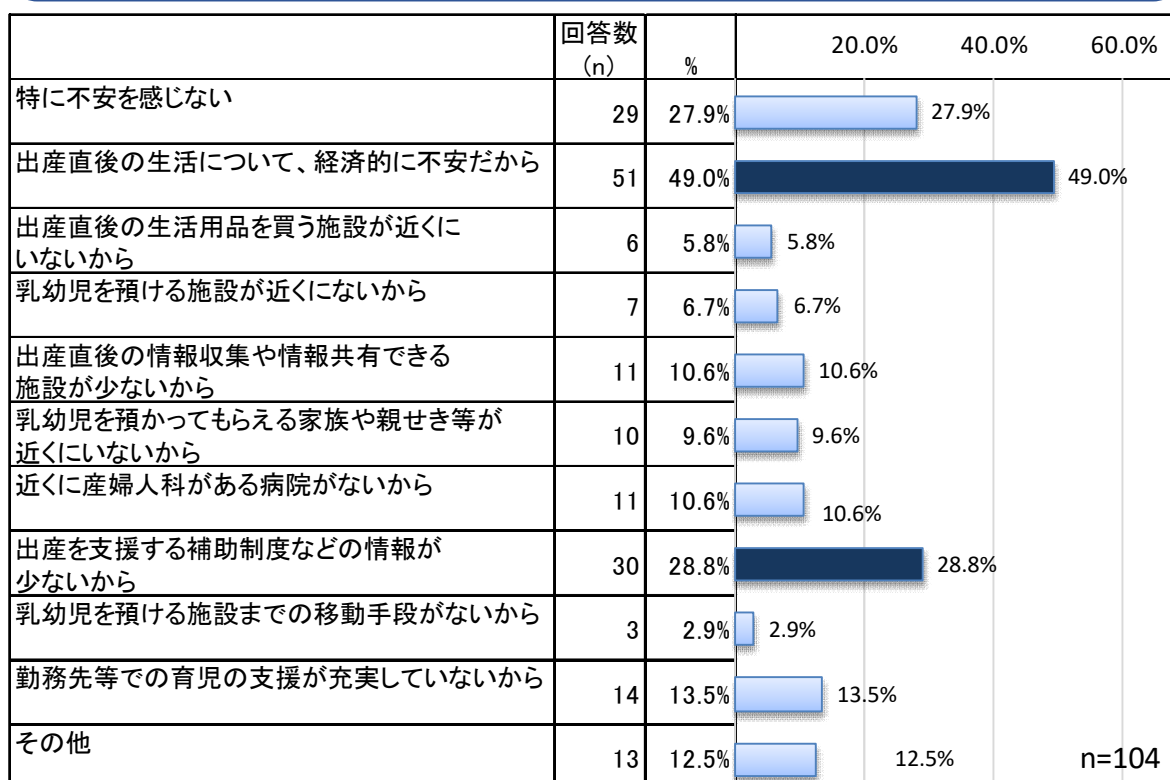
問１１ あなたの出産を取り巻く環境について、現在の状況を教えてください（１つだけ選び番号に○）

回答者の出産率は、「子どもがいる」が41.2%、「子どもはいないがいずれ欲しい」が35.6%となっています。



問１２ あなたは、「出産」に関する環境についてどのような印象や不安がありますか（３つまで選び番号に○）

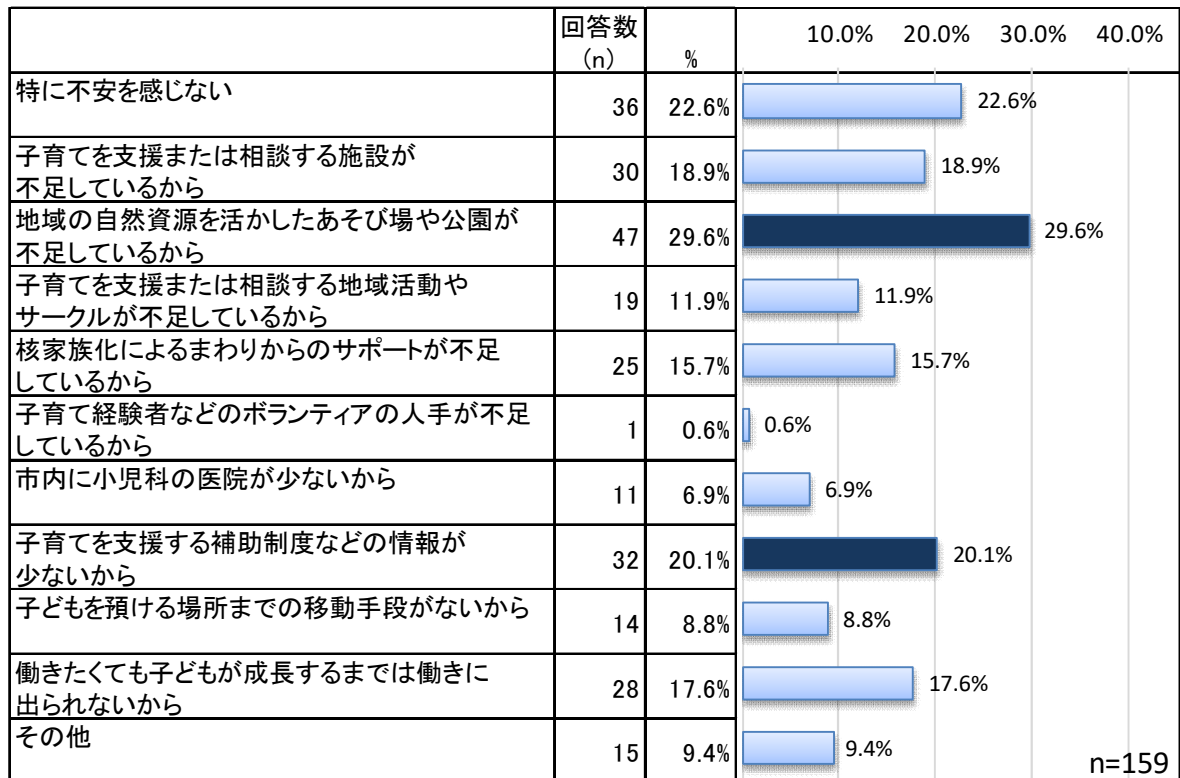
回答者の出産に関する環境は、「2.出産直後の生活について、経済的に不安だから」が49.0%、次いで「8.出産を支援する補助制度などの情報が少ないから」が28.8%となっています。



※有効回答数 104 票に対する割合

問１３ あなたは、「子育て」に関する環境についてどのような印象や不安がありますか
(３つまで選び番号に○)

回答者の子育てに関する環境は、「地域の自然資源を活かしたあそび場や公園が不足しているから」が29.6%、次いで「子育てを支援する補助制度などの情報が少ないから」が20.1%となっています。



※有効回答数 159 票に対する割合

子育て施策向けアンケート結果

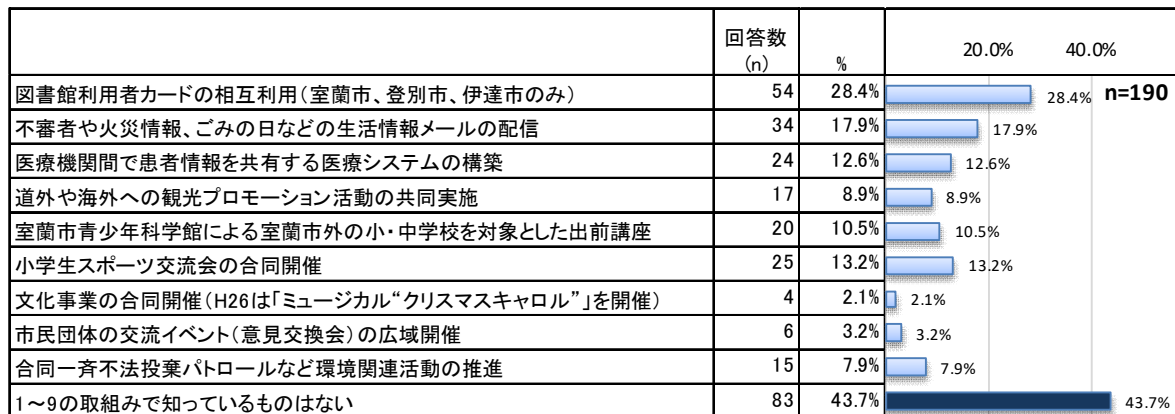
[その他]

番号	内容
1	お金の面が不安。子ども手当は 18 歳まで支給するべき
2	サークルや気軽に行ける子育てサロンの少なさにやや不満です。屋内遊園地もなく、毎日行く所がありません。
3	企業の育休制度が形骸化しているから
4	経済的不安
5	公園はあっても設備がない
6	子どもを預ける施設（児童クラブ等）の金額が高い
7	子育てにお金がかかり、大きくなり進学の事など心配
8	子ども医療費の助成が少なすぎる
9	助成金など支援を充実してほしい
10	同じく子育ても考えていないので子育てする人は大変だと思う。
11	日本の行先不安
12	富岸にも児童館を作ってほしい。
13	保育所や小学校の学童保育へ迎えに行く時間（残業すると大変）。年末年始は、仕事があってもあずける所がない。（学童保育はだいたい 1/5 頃まで休みのため）
14	問 12 とおなじ貧乏なのです
15	・雨の日などに子どもをあそばせられる屋内施設を作って欲しい。有料でも利用する人はいると思う。亀田公園は自然はあるが遊具が少ない。川上公園もイマイチ自然は大事だけど、虫が苦手な人にはあまり行きたくない。 ・暑い日に水遊びをさせられる噴水がある公園を作ってほしい。とうや湖畔にある公園が理想。 ・とにかくキレイに整備された公園をつくって!!伊達市がうらやましいです!!
16	ベビーシッターの制度が確立し不安なく利用できる環境になっていない
17	そもそも行政が少子化の事をちゃんと考えているとは思えない。
18	競争する機会が減り、成長するチャンスもへっている印象があります。
19	保育園等が不足しているから
20	雨天時に屋内で遊べる道具がある施設がない。

④ 圏域全体の活性化と魅力ある地域づくりについて

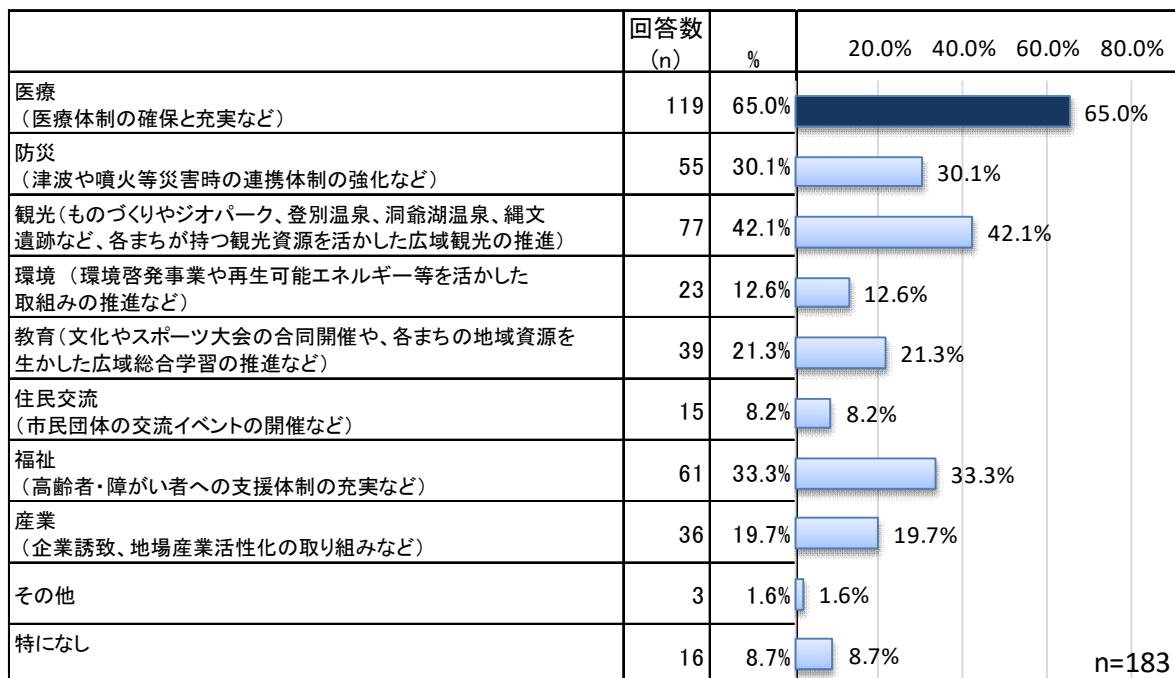
問 1 4 次の取組みから、あなたが知っている連携事業はどれですか
(該当するものをすべて選び番号に○)

回答者の連携事業の認知度は、「10.1～9 の取組みで知っているものはない」が 43.7%、
次いで「1.図書館利用者カードの相互利用（室蘭市、登別市、伊達市のみ）」が 28.4%と
なっています。



問 1 5 自分のまちだけで取り組むよりも、他のまちと連携して取り組んだほうが暮らしやすくなる、または地域の魅力が高まると思う分野はどれですか
(3つまで選び番号に○)

回答者の地域の魅力度向上に関しての意見は、「1.医療（医療体制の確保と充実など）」が半数以上を占めています。



問 1 6 問 15 を選んだ理由や期待する取組みについて、具体的に記入してください

[問 1 6 自由記述 (1/5)]

番号	内容
1	・子どもの医療費中学生まで無料化（3市3町どの病院使用でも） ・3市3町の観光施設のフリーパス又は割引券
2	1, 2 に関しては、各病院間、国道市の連携はあるので各市町村の横のつながりを密にする事によって、急な災害時に迅速に対応でき、市民も安心して暮らす事が出来るのではないかと。 7 に関しては高齢者の痴呆による行方不明の捜索や、様々な特色を持った障がい者、その家族に対して等、他市の情報も含めお伝えする事ができるので、やはり横の連携は必要だと思う。
3	1.今は、移動手段が車がほとんどなので、登別市外の間を利用する時が多い。7.幅広い場を利用できた方が、利用者の行動はんいも広がるし、「他のまちにも行ってみたい」という高齢や障がい者の人も多いと思うから。
4	①三大病院として市立、日鋼とあるが、産科の医師不足なのか市立においては産科がなく先日妊娠 10 週に出血したが、かかっている病院ですぐに診察してもらえず、他の病院へかかることを伝えると急に手のひらをかえたようにすぐに来てくださいといわれた。産科医が不足しているのではと思います。④エネルギー不足が今問題とされているので、コストは高いと思うが、太陽光パネルなど活用してみてもいいでしょうか？家を建てる時にエコ住宅ポイントなどがあるが、自宅で太陽光パネルをとりつけ北電に売る制度はあるがもうすこし周囲に広め売る
5	1 市だけでは実現が難しいと考えるから
6	3.8.9 に関しては、その街のグルメをピックアップし、活動するのもありかと思う。 4.に関しては、エネルギーを作る場と、その作ったエネルギーをどのように利用しているかを広く知ってもらうことも大事でないかと思う。
7	4 月に転勤で引越してきました。昔から子どもが 4 才になったら子どもにテニスを習わせてあげる予定だったのですが、子どものテニススクールがなく、断念し、とても残念です。又、病院も少なく、少ないためか待ち時間も長く不便に思います。胆振地方で協力しあい、子育てしやすい、子どもが生活しやすい環境をもっともっと望みます。
8	⑤いずれ、子ども達は、高校で、一緒になるかもしれない子ども達なので、早めに交流は、良いと思う。
9	この町じゃ少なすぎるから
10	なかなか職場以外の人と関わる場が少ないと思うので、歳等に関係なく様々な地域の色々な世代の人と交流をする場、（イベント）がこれから増えていくと良いと思います。定年退職後の人にとってもそういう取り組みが必要だと思います。
11	ひとの流れを大きな視点で見てほしい。

[問16自由記述 (2/5)]

番号	内容
12	まず、子どもが増えなければ意味がないので、子どもの医療費・学費を無料にすれば子どもが増えるはず。
13	まずは医療は自分のかかりつけの病院の情報交換や病歴のやり取りや医療費の減額、防災関係の充実、福祉関係の取り組みや充実を前提とした連携をふやしてほしいと思います。
14	みんなで協力しましょう
15	もっと色々な交流を行い情報共有したり、地域の活性化になればと思う。登別温泉を登別市民に例えば1ヶ月に1回、無料で入浴。(～町別に)
16	安心してらせるように。
17	安心して暮らしていく上で欠かせないから
18	伊達市のように障がいをもった方が暮らしやすい環境がもっと広がってほしいです(学校や仕事面など)
19	医療：都市部に任せてしまう傾向がある。難しい症状など、地域では十分でない事が多い。福祉：身体障がい者の作業所が無い。就労が難しい。産業：商業施設などを充実させ、雇用を充実させないと就労世代は雇用がなく、結局都市部へ流れる。
20	医療・福祉は高齢化社会がすすむので、近隣の市町村で連携をとって施設の利用などしやすい環境がほしい
21	医療・福祉は今後、誰れにでも必要なため
22	医療・防災等はいざという時に他のまちと連携した方がより被害を防げると思うから
23	医療は私たちの生活にかかせないものだと思うので。
24	医療を充実させてほしい。障がい者への支援体制を他のまちと連携して行い、充実させてほしい。高齢者が住みやすいまちづくりを他のまちと連携して取り組んでほしい。
25	家族が昼間は登別・室蘭とバラバラなので、何かあったときは、はなれていても連絡できるようにしたい。
26	海や火山が近くにあるから。他のまちと連携してより早く情報などが伝わるようにしてほしい。
27	各市町、主に取り組むものがバラバラなので、お互いの協力があれば更に伸びると思う。
28	観光について…たとえば「登別温泉」だけより、他にも洞爺湖温泉や壮瞥にも温泉がある！の方が選択の幅が増えるし、印象も良くなるのでは？ 福祉…それぞれの町だけの取り組みより、全体的に見た方が利用する側にとっても、自分のニーズにあった場所(施設)を選択できるので良いと思う 医療…室蘭には大きな病院があるが、登別、伊達には少ない。それぞれの病院の得意分野をアピールして、どこに行けばよりよい医療サービスが可能か情報を流してほしい。
29	観光に力を入れるべき。登別温泉にあぐらをかきすぎ。

[問16自由記述 (3/5)]

番号	内容
30	企業誘致が進むことで、職業選択の幅が広がり、札幌等の都市部に行かずに済めば住環境などももっと良くなると思うので。
31	教育が子どもの仕事だから
32	教育は、幅広い情報が有れば役に立つのではないかと思います
33	現在も室蘭の病院へ行く人が多いので室蘭の総合病院と登別の自然（温泉等）を利用してリハビリなどする。
34	交流を深めることにより、人の流れができ、いろいろな効果が期待できると思う
35	高齢の祖母の為色々情報を集めたが言葉がむづかしく何がしたいのか伝わらない事があった。”福祉”はこれから利用する機会が増えるものだがどんな取組みをしているのかわからない。何を期待していいのかわからない。
36	高齢者が増えるこれから、連携して医療・福祉が充実していると安心。デイ等受け皿が広がり交流の機会が増える。
37	高齢者が多くなるので12は大事だと思いました
38	今後ますます少子高齢化が進んでいくので医療・福祉については考えていく必要があると思います。まちの活性化については、自分のまち以外の人の意見を聞きながら行うと良い面は伸ばしていける、悪い面は改善していくことが可能ではないかと考えます。
39	今住んでいる辺りは不便なので、医療や移動手段など環境の改善を望んでいます。長くここに住みたいと思える環境作りや整備に期待しています。
40	災害時に物資の供給や疾病者への対応など、自分のまちだけでは負担も多いし不安も大きい。いろいろなまちと連携することによ手自分のまちでは出来なかったことも補うことが可能な気がするから。
41	札幌えきから、洞爺湖温泉までバスが来てほしいです。温泉に入りに行きたいです。
42	子どもがスポーツ（野球）をしていて、室蘭のチームとの大会等もあるが、野球だけではなく、バスケットやサッカー等、色々なスポーツを通して交流ができればその時に知り合った友達（高校等）再会した時に喜びがあるかなと思った。スポーツだけではなく『兄弟学校』のようなものを作って、違う学校と交流できる事（年に3回位）があれば、友達ができたり、楽しい時間を過ごせるかなと思う。電気代が値上がりしているので登別や伊達にあるソーラーパネルを独自で西胆振で提供できるようになると生活の面も助かるかな。よろしくお願いします。
43	子どもが少なく高齢者が多くなっているのので、登別市・室蘭市で色々な住みやすい環境になる為に町作りをしてほしいです。（良くわかりませんが…）
44	子どもの医療費で、中学生まで無料という市町村もあるので、比べると不公平さを感じてしまう。中学生まで無料となれば助かる。
45	市内には総合病院がなく、室蘭でも主要病院が3つなため、混んでいることが多く、もっとかかりつけ病院を発展させてほしい。

[問16自由記述 (4/5)]

番号	内容
46	室蘭の製造業が盛んなので、そのノウハウを他自治体にも伝授して産業創出を活発に行ってほしい
47	室蘭にすごい近い所に住んでいるのに、室蘭市民ではないからこれをうけられないということがあってめんどくさかった。市営住宅とかは登別市民も室蘭のに入れたりするとだから、全部一緒…合併しちゃえばいいと思います。
48	室蘭は総合病院が3ヶ所もあるので登別からの受診者が多い。より連携が必要と思う。観光客を呼びこめるように連携が必要と思う。高齢化がどんどん進んでいくのでサービスの共有やどこのまちでも同じような取り組みができるようにして欲しい。
49	室蘭や登別は苫小牧のような商業施設が少ないように思う。買い物の不便性を感じます。
50	借金減らすべき。
51	小樽や函館のように観光を主体として西胆振の活性化を強力に推進してもらいたいです。
52	新幹線が欲しかった。そうすれば観光目的の利用客の増加が見込めたのでは。その関連で企業が増えれば登別市が活性化したのでは。
53	人が少なく、活気があまりないと感じたので、人をもっと呼び込むべきと考えたから。
54	人口も減少し独自で観光産業の向上は望めないと思料する。防災は西胆振一帯に影響することから、連携強化は必要であり積極的に防災訓練を実施すべき。
55	人口減少の中で自分のまちだけで考えるよりも、もっと大きい地域で物事を考えた方がいいと思います。
56	全て命に関わるものを選んだが、具体策は考えられず。
57	他の地域と医療の分野等で連携したら人の暮らしはしやすくなると思う
58	他の地域と連携した末永い事業や、成果を明確ににできる事業・取組を期待。
59	大きい病院がない。観光に対する意欲が登別はいまいち感じられない。
60	地域経済活性のため。資源の有効利用、石油などの有限の資源を使うより、持続できるエネルギーを使う方がいいから。教育格差を減らし、子どもの将来の選択の幅をひろげるため。
61	地産地消のアピール
62	登別の温泉と室蘭のグルメと、伊達方面の何かしらのレジャースポットを組み合わせ一つにしたコースを作ったらどうでしょう？中国人富裕層に向けて…登別温泉に行った時、旅館以外で食べる所が全く無いのはびっくりでした。
63	登別の観光。室蘭は工業が産業の中心だと思うが、他にも仕事の選択肢があれば良いと思う。雇用・産業の分野において活性化すれば人も集まるし、子育てするにも良い影響があると思う。
64	本当は全てに○をしたかったが、とりあえず命に関わるものを選んだ

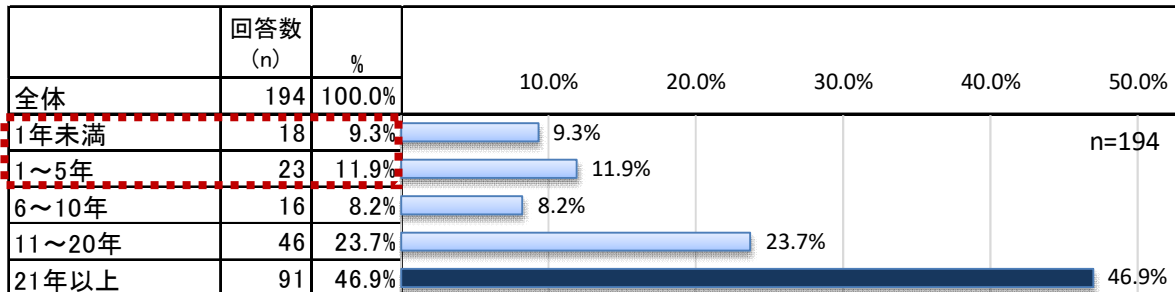
[問16自由記述 (5/5)]

番号	内容
65	登別は資源的にも恵まれている部分があるが、交通の便も悪く特に温泉街は現在外国人観光客が大多数を占めている。日本人観光客誘致を目指して、上記分野から何か活動出来ないかと思った。
66	登別駅前の閑散とした店並び、全ての観光客が目にして残念な気持ちにさせてしまう。登別駅前と温泉街の発展 札内町方面には体験型のアクティビティがいくつかあるが、そこからへ行くバスの充実も 登別温泉⇒サンチャイルド⇒オフロードパーク・ホースパーク⇒幌別駅
67	登別市・室蘭市で子どもを病院につれていくと医療費はその場でかからないが、他の市町村では支払わなければいけない。そのお金は戻ってくるが、小さい子どもをつれて市役所へ行って手続きするのは大変。
68	登別市だけ使用できる伊達時代村などのクーポンを他市にも使用できれば・・・
69	登別市は水源が豊かなので、水力発電や飲料水をブランド化して国内外に広く販売し利益を上げてみたらいかがでしょうか。
70	登別市内には、子どもの病院や援助してくれる場所が少ない。情報が少なく、又、親の耳に届きにくいので、何をどこでやってるか等わかりづらい。
71	特に環境は各自治体の特色を生かした再生可能エネルギーの取組をして、相互に助け合える状況にしていけるといい。
72	年代別のスポーツ大会（ソフトボール・バレー等）を行ってほしい。
73	不審者情報など（犯罪に関わる）
74	保育所や幼稚園の職員をもっと増やせるような体制をとって、子どもをあずけられる様にして頂きたいです。
75	防災に関してはどの地域でも意識しなければいけないし、観光・交流も他の地域に協力があってこそだと思います。
76	北海道新幹線が開通すると、胆振地区は少なからず集落が悪くなっていくと思います。登別市は温泉が有名で安心はしておりますが、登別だけでは胆振の発展にはつながらないと考えます。他のまちと連携して魅力を多方面に発信することで、人を集め、さらに産業を発展させることで、この地域への移住といった人口増加、活性化をすすめていただくことを期待します。
77	北斗市は子どもの医療費や学童費（登別では児童クラブ？をいうのでしょうか？！）がかからない。函館も中学生までは医療費 1 割・・・登別もぜひ取り組んでもらいたい。子どもを育てる上ですごく助かる。
78	問 14 の 2 は、今はじめて知りました。知っていれば利用できたということがないように、もっと連携事業のPRを積極的に行ってほしいです。広報や回覧板にもっと大きく告知するなどして、HPをあまり見ない人でもメールを利用できるシステムを作ってほしいです。

⑤ 今後の居住について

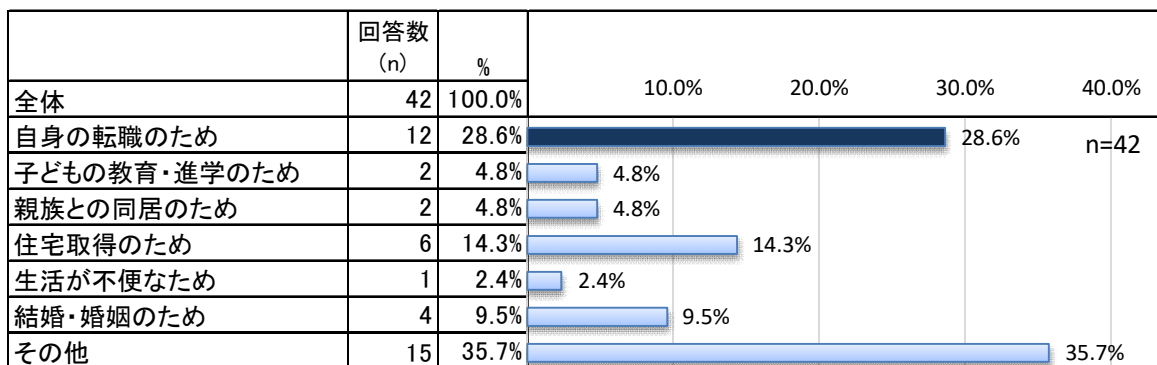
問 1 7 あなたは、登別市にどのくらいの期間お住まいですか（１つだけ選び番号に○）

回答者の居住期間は、「5. 21 年以上」が 46.9%と約半数近くを占めています。



問 1 8 あなたが、登別市に移り住んだ理由はなんですか（１つだけ選び番号に○）

回答者の移住理由は、「自身の転職のため」が 28.6%となっています。

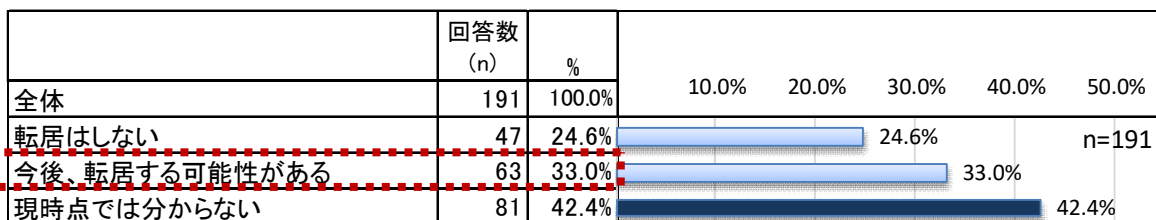


[その他]

転勤のため	進学のため
うちを買ったため	専門学校入学→そのまま入職
離婚して親と同居することになったため	人事異動のため
就職	

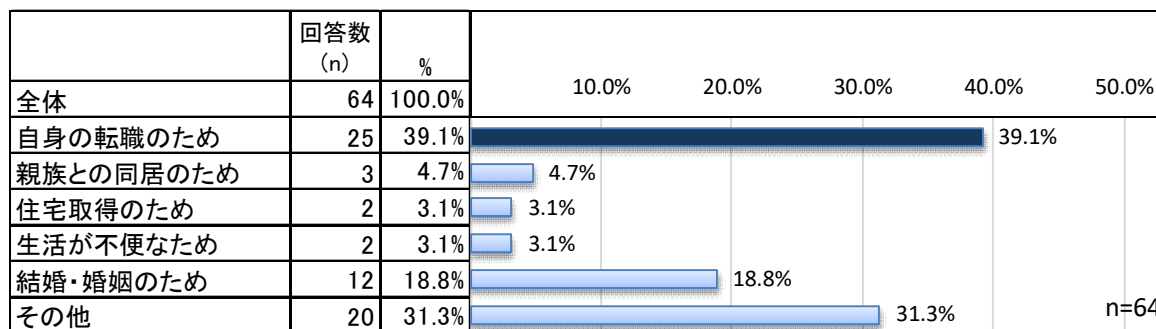
問19 今後、登別市以外に転居する可能性はありますか（1つだけ選び番号に○）

回答者の今後の転居可能性は、「現時点ではわからない」が42.4%となっています。



問20 あなたが、登別市から転居する可能性がある場合、理由はなんですか（1つだけ選び番号に○）

転居する理由は、「自身の転職のため」が39.1%で約4割を占めています。



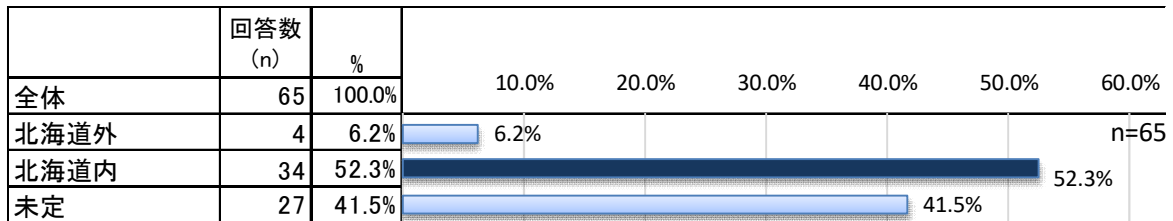
[その他]

いまの所はわからない	転職のため
就職	1～2年住んでみて、ずっと住めるかどうか決めることになっている
職務上	人事異動のため

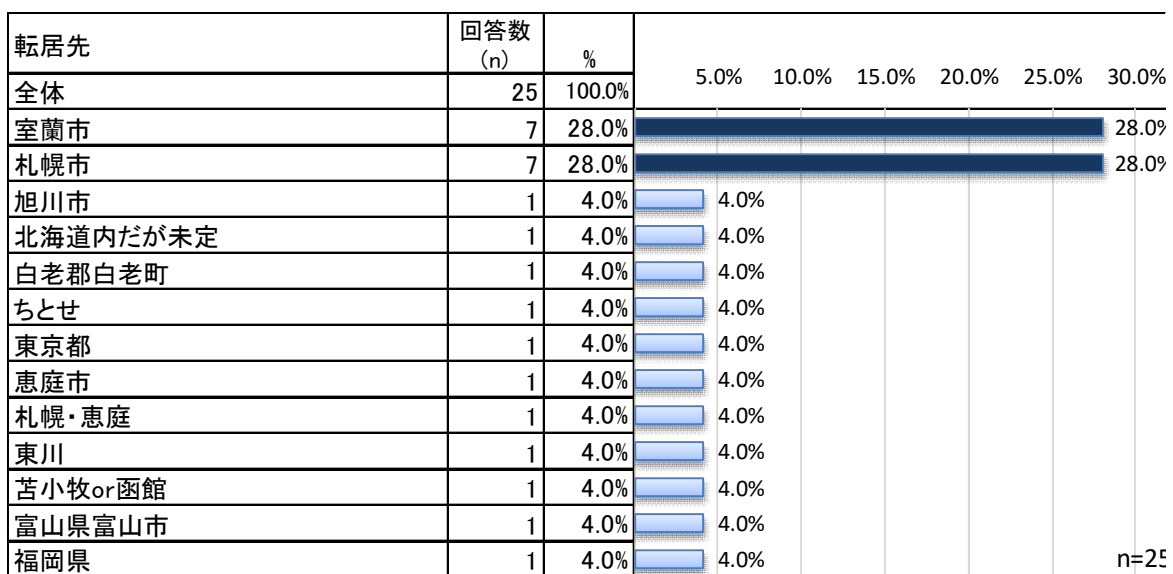
問 2 1 あなたが、登別市から転居する可能性がある場合、転居先はどこですか（1つだけ
 選び番号に○）

転居先は、「北海道内」が52.3%と半数以上を占めています。

また、転居先としては、「室蘭市」・「札幌市」が多くなっています。



[転居先]



問 2 2 最後に市政に対するご意見やご要望がありましたらお書きください

[自由記述 (1/4)]

番号	内容
1	登別は全国でも有名な温泉観光地。でも温泉だけでは若い観光客には物足りない。アクティビティの充実と、その場所へのアクセスを充実してほしい。
2	このアンケートの解答者は本当に無作為に選んでいますか。以前のアンケートと同じ人に出していませんか。
3	子ども医療費を見直して欲しい。救急システムをかえて欲しい。函館の救急システムはすごく良かった。学童・児童クラブも高すぎる。働いてもほとんど学童費になるのはこまる。
4	政策が見えない。市政とは何をしているのか、さっぱりである。
5	市民共有の目標をもって政治的な枠にとらわれず、何を糧とするか考えてほしい
6	道の駅を作ってください。
7	市会議員の数が多すぎると思う。人口が減っているのだから、議員の定数も然るべきだと思う。
8	犬を遊ばせることができる公園がない。子どもが公園の水道で水遊びしている。七夕の子どもがうるさい。来ないでほしい。前のアンケートの結果・集計はどこで見られるのか、いつ掲載されるのか書いてほしい。
9	医療や福祉の充実をのぞみます
10	医療費は3才から1割ふたんはきびしい！！住やすい町づくりして下さい！！
11	ムダをなくしてください、手続きとかの。観光面でいえば、個人客の増加にともなう人の流れの変化など、細かい視点での情報収集をお願いします。
12	子育てしやすい環境や住宅の提供に期待しています。
13	柏木方面へのバス路線の検討を希望→柏木・柏木団地があり子どもの数も多いが近いバス停はホームストア前と遠く、高校へ通う際等かなり不便。
14	雇用、企業誘致を積極的に行ってもらいたい。
15	くわしくは知らないことも多いですが、市民のためにしていただけることがあるならば、色々やっていただければと思います。
16	登別市職員は、他市と比べだらしがないと思います。
17	市役所の人が冷たい。態度が悪すぎ。不親切。だから室蘭に住みたくなる。
18	みんなで協力しましょう
19	子どもがいる家庭に対してもう少し支援があると嬉しい。東京都内では小6年まで医療費がかからない所があると聞きました。初診料も支払う事がない地域があるのと思ってしまいます。又、市立の幼稚園がないので私立の幼稚園が年々高い保育料になってるので市外で入園する所がないかと考える親は多い。

[自由記述 (2/4)]

番号	内容
20	今のところ特に不満はありません。
21	ちいさかっせいかになる為に色々取りくんでほしいです。収入が少ない分、税金があがってしまうとこまりますね。両親が亡くなったら生保を受給しなければいけないかも…
22	今まで、高齢者中心の市政であった印象があります。今回のアンケートのように働く若い世代に目を向けていただき、高齢者を支えながらも、若い世代に満足度の高い生活が送れるような市をつくっていただきたいです。
23	登別の公共施設(?) 体育館や図書館の老朽化が気になります。
24	小学生の子どもを持つ母です。私は専業主婦の為、子どもは放課後児童クラブは利用しておりませんが、働くママから聞いたところ、室蘭市と登別市とでは、利用料に大きな差があるとの事ですが、なぜでしょうか？同額とは言いませんが、せめて半額ぐらいにはならないでしょうか？登別市！！高すぎると思います。
25	医療費の負担額の減額と、市役所の役員の市民への対応の仕方が悪い
26	アンケートにお答えできる能力を持ち合わせていないので、簡単な問だけに記入しております。(保護者)
27	子どもの遊べる室内の大きな遊び場があればいいです。公園の遊具が少ない。登別にも科学館があればいい。
28	もっと市営住宅を…子どもを産んだ時のメリットをおしえてほしい。子ども手当がいくらとか、それによっては子どもを産もうかと思える。
29	子育て施策向けアンケートってなんですか。子どもがほしくても色々なことでない(できない)人もいるのに、きいてなにがしたいんですか。この用紙も税金で使ってるとおもうとはらたかしいですけど。
30	都市部に居住していた事もあるため、生活の中で地方と都市との格差を感じる事がある。とりわけ北海道の人はのんびりしている印象。それは良い面でもあり悪い面でもある。登別は登別温泉など、せっかく有名な観光地なのに、それを生かしきれていない声がとても多い。本当にもったいないと思う。
31	市外から引っ越してきて子どもも産んで永住を考えてる人に、田舎みたく何かしらの助成金があったらと思います。久しぶりにひっこしてきて、お年寄りばかりになっていて、若い人の減り方に少し驚きました。それと、そだいゴミ。年に2回は少なくないですか？自分ではこぶトラックがないと、急な引っ越しができません。それとゴミステーション、カラスに荒らされまくっています。全て金属製 Box にできないものでしょうか？ゴミステーションについては皆さん同じ考えかと思いますが・・・

[自由記述 (3/4)]

番号	内容
32	とてもびんぼうなので、せめて冬はとうゆ代をこまらないようにしてください。11~4月まで6カ月の冬はなんとか生きてるだけでとってもさみしく思い、北電も高くなってTVを見るのもなやみます。今の私には子どものことより自分のことでいっぱいです。もちろん結婚どころではないんです。
33	地元のお土産を持って行きたくても、おもいつかないくらい「ない」。
34	最低賃金が低く、またアパートなどの賃貸の家賃が高く若者や収入が少ない者にとってつらい面もあるのももっと住みやすくなると良いなと思っています。
35	子ども大きくなり利用回数が少なくなってきたが、図書館が明るくきれいになれば、利用する人が増えると思います。今は少し入りづらいので、室蘭の輪西にある図書館に行くことが多いです。
36	• 学校が終わったら遊びに行ける児童クラブがあってほしい。室蘭では、気軽に利用できたし、学校の中にあって便利だった。 • 図書館が遠い。大阪に住んでいた時は、無料シャトルバスがあって良く行っていたけど、驚別は、本が少ないし、幌別の図書館に気軽に、行きたい。
37	• 登別温泉や虎杖浜の温泉があるので、岩盤浴ができる施設もあったらいい。東苗穂にある千の湯が理想。 • 雨の日や冬など休みの日に家族でいけるところが全然ない!!結局、苫小牧イオンまで行くしかない。 • 子ども連れで入れる個室ありのランチができるカフェなどが全然ない!!つぶれそうな食堂などはカフェに変われば絶対需要があると思う!!とにかく女性はカフェが好きです。 • 11月か12月にもらえる登別温泉の優待券を3000円割引券とかに変えて欲しい。しかも土日祝日の前は使えないとか、期限もなしにして欲しい。平日しか使えない
38	• 土曜授業はなくすべき。 • 助産院がほしい。
39	レジャー施設などの割引券の充実や子どもに住みやすい町づくりをお願いしたいです。
40	婚活→少子化を食い止めることを積極的に行わないと登別市に未来はありません。職安と同じくらい婚活を斡旋してみるのはいかがでしょうか。
41	しんた21での検診、子育て支援センター、図書館など登別市役所の方に集中していて、室蘭よりの登別市民は、不便な部分が多いです。こちらの地区にも利用できる場所が増えるか、室蘭市への方が近いので利用してもよいなど何か考えてほしいです。(図書館は利用できるのは知っています)
42	登別といえば温泉街を想像する方がほとんどだと思います。 私たちのまちは三ツ星やマクドナルドなどたくさんの食べ物屋ができてきてさかんにはなっていますが、もりあがりにかけている部分もあると思います。 温泉街にも負けないようなビッグイベント、観光スポットを何かつくれば登別全体がもりあがっていくのではないかと思います。

[自由記述 (4/4)]

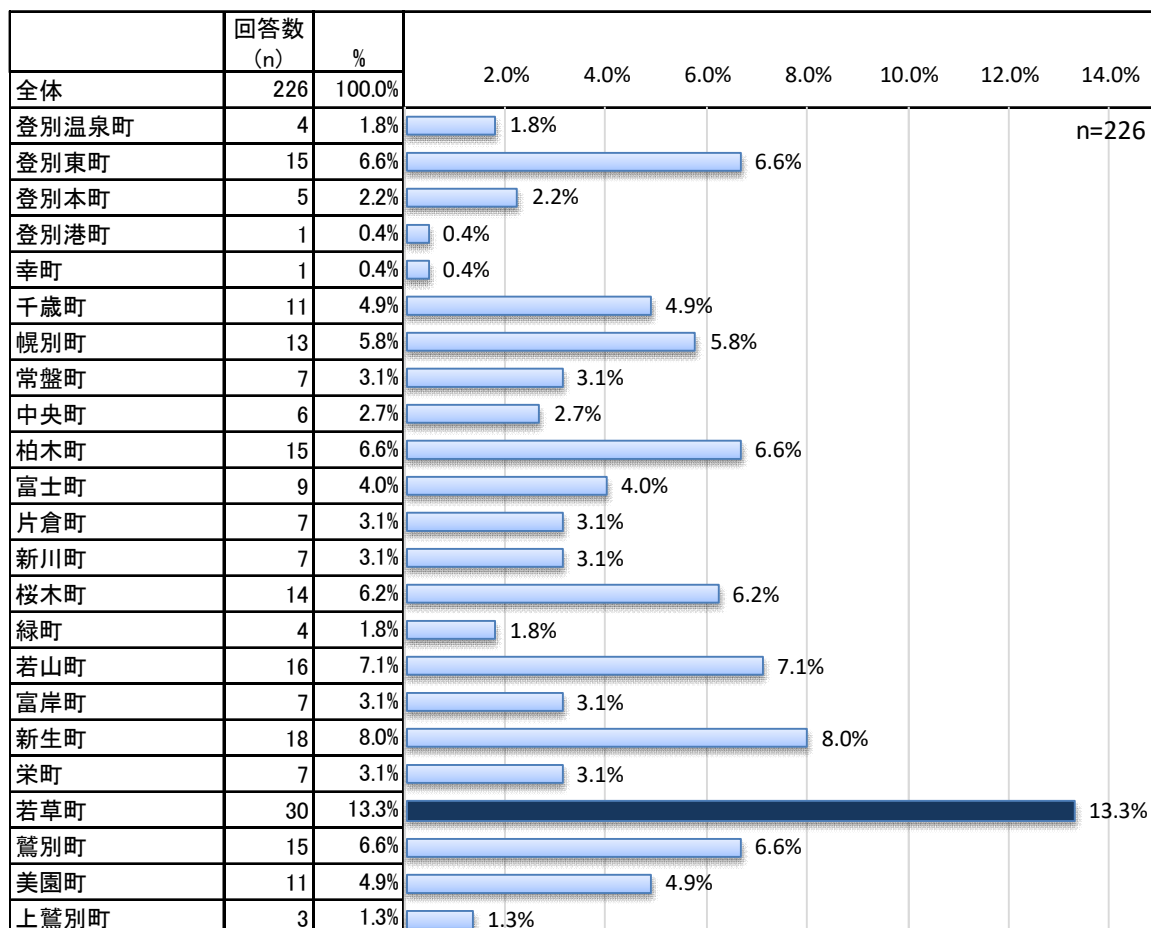
番号	内容
43	市民の立場にたった政策をお願いします。
44	子どもが安心して過ごせる環境にしてほしい。
45	借金減らすべき。
46	お金がないと嘆く前に、税収を上げる努力をして下さい。登別温泉という強みがあるのですから「こいのぼりマラソン」の参加者に温泉の割引券をつけるとか、来てくれるのを待つよりも、獲得するための戦略を練り、努力をして下さい。生まれ育った町が、豊かになってくれることを願っています。
47	室蘭市よりは住みやすいし市政もしっかりしていると思う。働く場所が市内にあまりない、温泉を除いて。若い人には住みにくいかもかもしれません。
48	登別市は電関係の電波が弱いと感じます。ラジオの電波、携帯電波のワンセグが入りづらい地域がある。隣の室蘭市は鮮明にスマホとかの電波は入るのに登別に入ったとたんに電波が悪くなる。もっとＩＴ関係にも力を入れた方がよいのでは。
49	常盤町の路地を出る際、垣根が視界を遮り、ヒヤリハットが何度も起こっているため、ミラーなどの対策をしてほしい。
50	登別温泉へ行くとマナーの悪い中国人、韓国人が多い。一時的にお金は落とすが、長期的に見るとブランドの価値が下がるので対策してほしい。
51	・ごみ袋の料金を下げてほしい。 ・粗大ごみの回収日を増やしてほしい。 ・子どもにお金がかからない様にしてほしい。（教材費の助成、医療費等）
52	自然災害（地震や強風等）の増加や温暖化による気温上昇を想定した際に、消防庁舎及び市役所庁舎の建て替え等が必要ではないかと考える。
53	ジャイアンが恐ろしい。
54	市議会議員の数や給料を見通して減らしてもよいのではないかと思います。
55	もっと財政を健全化し、市民が明るくくらせる市政をつくるため、もっと市役所に働く方の一層の努力を期待したい。登別に活力・活気がなさすぎます！

(1) 高齢者施策向けアンケート結果

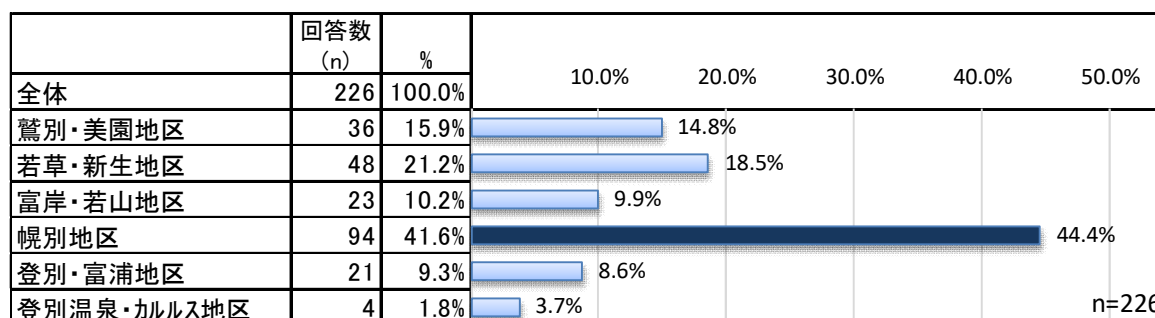
① 基本属性

問1 あなたのお住まいの町名を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の住まいは、「若草町」が13.3%と一番多くなっています。

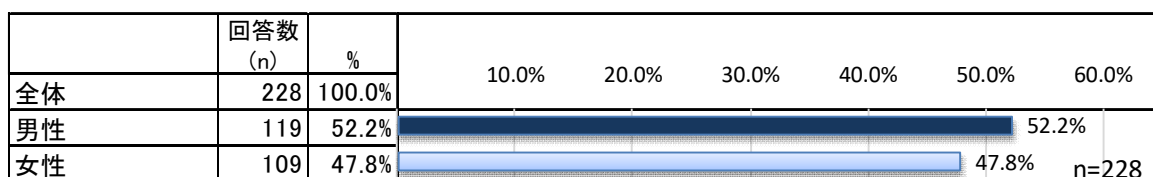


[参考 人口ビジョンにおける6地域区分]



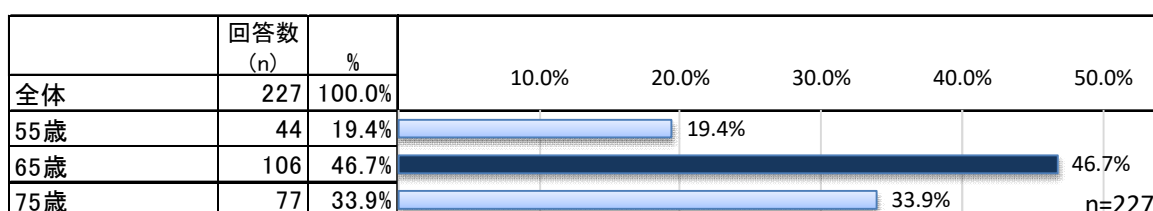
問2 あなたの性別を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の性別は、「男性」が52.2%、「女性」が47.8%となっています。



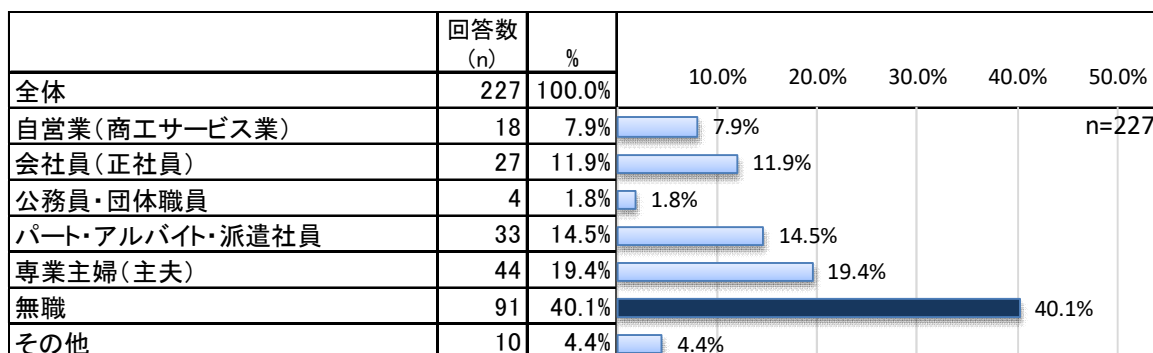
問3 あなたの年齢（平成27年4月1日現在）を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の年齢は、「65歳」が46.7%と半数近くを占めています。



問4 あなたの職業を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の職業は、「無職」が40.1%で半数近くを占めています。

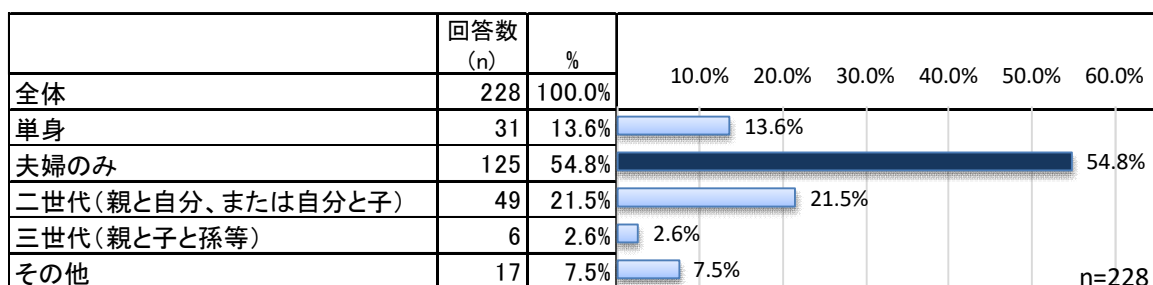


[その他]

団体職員	厚生年金	専門・技術職	介護職員	シルバー
AP賃貸業	加工業	嘱託	会社役員	

問5 あなたの世帯構成を教えてください（1つだけ選び番号に○）

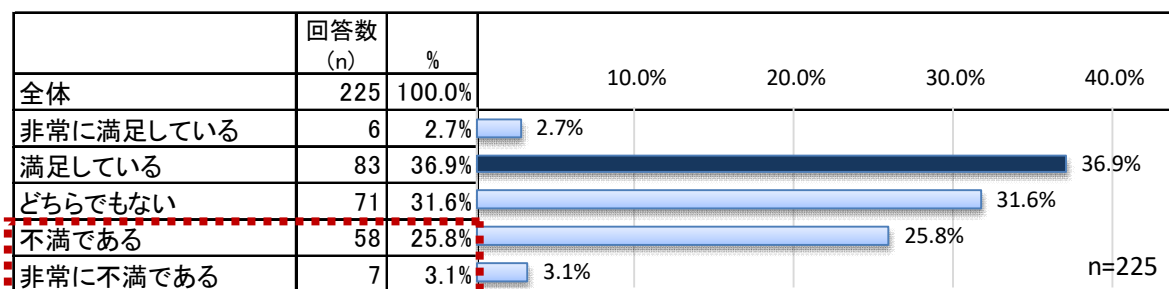
回答者の世帯構成は、「夫婦のみ」が54.8%と半数以上を占めています。



② これからの日々の生活について

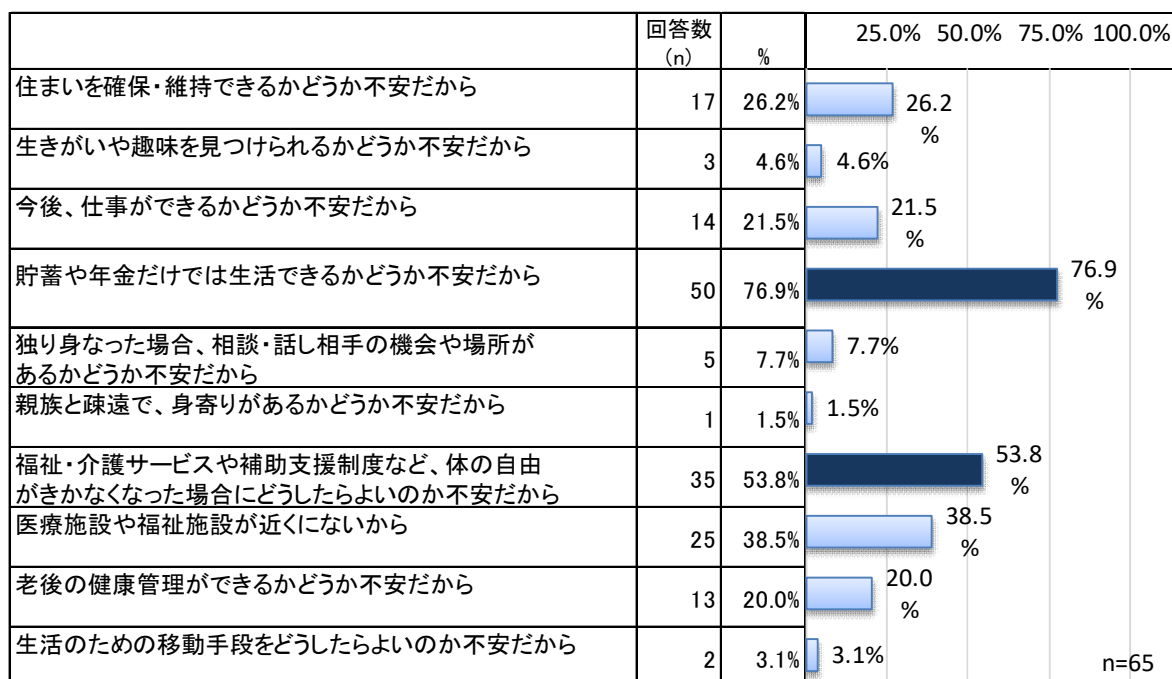
問6 あなたは、現在またはこれからの日々の生活について、満足度はどれくらいですか（1つだけ選び番号に○）

回答者の日々の生活への満足度は、「非常に満足している」と「満足している」をあわせて、39.6%と低い状況となっています。



問7 現在またはこれからの日々の生活について、不満を感じる原因はなんですか（3つまで選び番号に○）

日々の生活への不満原因は、「貯蓄や年金だけでは生活できるかどうか不安だから」が7割以上を占めています。



※有効回答数 65 票に対する割合

③ 技術・知識を役立てた地域協力について

問 8 あなたが、これまで培った技術や知識を地域のために役立てていただくことはできますか（1つだけ選び番号に○）

地域貢献についての意志は、「ボランティアでいいので、可能な範囲で役立てたい」と「有償ならば、可能な範囲で役立てたい」とあわせて 48.0%となっています。

	回答数 (n)	%	
全体	198	100.0%	20.0% 40.0% 60.0%
ボランティアでいいので、可能な範囲で役立てたい	61	30.8%	30.8% n=198
有償ならば、可能な範囲で役立てたい	34	17.2%	17.2%
役立てる技術・知識がない	103	52.0%	52.0%

問 9 あなたは、どのようなことならば、地域のために協力していただけますか（3つまで選び番号に○）

回答者の地域協力への可能性は、「地域の人々が住みやすくなるような町内会の活動」が 16.5%、次いで「保育所などに伺い、幼児との交流・保育サポート」が 16.1%となっています。

	回答数 (n)	%	
忙しい両親に代わって、乳幼児の預かりなどの保育サポート	26	14.4%	14.4% n=180
保育所などに伺い、幼児との交流・保育サポート	38	21.1%	21.1%
伝承遊びや絵本の読み聞かせなどの出前講座	12	6.7%	6.7%
小・中学校の教育サポート(家庭教師など)	27	15.0%	15.0%
就職活動支援のための高等学校や大学への出前講座	15	8.3%	8.3%
登別の観光案内などを行うボランティアガイド	25	13.9%	13.9%
地域の防犯・防災活動への参画	21	11.7%	11.7%
地域の人々が住みやすくなるような町内会の活動	39	21.7%	21.7%
自分の趣味の知識を活かした市民活動	33	18.3%	18.3%

※有効回答数 180 票に対する割合

④ 圏域全体の活性化と魅力ある地域づくりについて

問 10 次の取組みから、あなたが知っている連携事業はどれですか（該当するものをすべて選び番号に○）

回答者の知っている連携事業は、「1～9の取組みで知っているものはない」が38.2%、次いで「図書館利用者カードの相互利用（室蘭市、登別市、伊達市のみ）」が27.8%となっています。

	回答数 (n)	%	20.0%	40.0%
図書館利用者カードの相互利用（室蘭市、登別市、伊達市のみ）	59	27.8%	27.8%	n=212
不審者や火災情報、ごみの日などの生活情報メールの配信	35	16.5%	16.5%	
医療機関間で患者情報を共有する医療システムの構築	48	22.6%	22.6%	
道外や海外への観光プロモーション活動の共同実施	15	7.1%	7.1%	
室蘭市青少年科学館による室蘭市外の小・中学校を対象とした出前講座	17	8.0%	8.0%	
小学生スポーツ交流会の合同開催	35	16.5%	16.5%	
文化事業の合同開催（H26は「ミュージカル“クリスマスキャロル”を開催）	10	4.7%	4.7%	
市民団体の交流イベント（意見交換会）の広域開催	25	11.8%	11.8%	
合同一斉不法投棄パトロールなど環境関連活動の推進	25	11.8%	11.8%	
1～9の取組みで知っているものはない	81	38.2%	38.2%	

※有効回答数 212 票に対する割合

問 11 自分のまちだけで取り組むよりも、他のまちと連携して取り組んだほうが暮らしやすくなる、または地域の魅力が高まると思う分野はどれですか（3つまで選び番号に○）

回答者の地域の魅力度が高まると思う分野は、「医療」が58.1%、「福祉」が52.2%と半数以上を占めています。

	回答数(n)	%	20.0%	40.0%	60.0%	80.0%
医療 （医療体制の確保と充実など）	118	58.1%	58.1%			
防災 （津波や噴火等災害時の連携体制の強化など）	82	40.4%	40.4%			
観光（ものづくりやジオパーク、登別温泉、洞爺湖温泉、縄文遺跡など、各まちが持つ観光資源を活かした広域観光の推進）	57	28.1%	28.1%			
環境（環境啓発事業や再生可能エネルギー等を活かした取組みの推進など）	25	12.3%	12.3%			
教育（文化やスポーツ大会の合同開催や、各まちの地域資源を生かした広域総合学習の推進など）	16	7.9%	7.9%			
住民交流 （市民団体の交流イベントの開催など）	24	11.8%	11.8%			
福祉 （高齢者・障がい者への支援体制の充実など）	106	52.2%	52.2%			
産業 （企業誘致、地場産業活性化の取組みなど）	35	17.2%	17.2%			
その他	2	1.0%	1.0%			
特になし	24	11.8%	11.8%			

n=203

※有効回答数 203 票に対する割合

問 1 2 問 1 1 を選んだ理由や期待する取組みについて、具体的に記入してください

[問 1 2 自由記述 (1/4)]

番号	内容
1	既に取組みと思う
2	医療関係が心配
3	少子化、高齢化、人口減に向けての対応
4	海が近い
5	高齢化社会への対応として安全・安心なまちづくりが大切になってくる。豊かな暮らしの中で人と人との交流が深まり、地域で支えあえる環境の整備が求められる。
6	温泉が日本一と言っても地元の人が誇りを持って口に出せないのが残念！！孤立化していると思う。もう少し近隣地区の人達が他の土地の温泉あそこは良かったと言う前に「この登別が何といっても一番と果たして口に出している人は何割あるのか？地元の温泉であって地元の人にはなかなかこういうのがあるといいなあ・・・という言葉は口に出せないのが現実だと思っています。変な言い方をすると「ハイソサエティ」的かも！！と思う事もあります。地元地元とあちこち一生懸命前進してほしいですね！！
7	健康で楽しく生活出来る町にしたい
8	色々な意見、体験等を多くの中で活用した方が、魅力等が向上する
9	大型の医療設備がない
10	どこの病院もこんでいる。何とかしてほしい。年寄りには大変です。どうにかありませんか。つかれてしまいます。
11	総合病院が室蘭に多いので、登別市民として不安である
12	1. 休日の医療体制の取組、2. 文化・スポーツの取組が非常に厳しい。
13	高齢者の多い地域は特に医療や福祉に力を入れてほしい
14	救急の時に消化器科にかかりたかったけれど、かかり付医が休診中で対応出来ず市立へ行く。患者としてはとてもきつい。（私は市立を要望していたが直接行く事が出来ず改善してほしい）
15	・地域内での縄張り意識が強く、社会生活を営んでいくために広域の共同した考えが必要。特にインフラ・環境・教育・スポーツ・病院等。・人口が減少して市としての役割が少なくなっている時代に室蘭市との合併はメリットがあるのではないかと
16	他のまちの情報と高上心でもっと学習できるのではと期待したい。
17	7. 福祉：何処にどう云う施設があるのか、市、町の管理なのか、どう云う継がりがあるのか、特徴はどうか、特に施設では、違いがわかる様にしたい。利用する時の、紹介、手続 e t c もっと、まとめたものが欲しい。

[問12自由記述 (2/4)]

番号	内容
18	・滞在型の観光プランを（避暑地など）すすめる。・廃熱、小型水力などのプチエネルギー発電など、エコな町作りプランを発信。（観光でもよい）
19	1人でも多くの市民参加（1つでも自分で出来る範囲の取組み）。市職員だけでなく、又、議会で市議員の質問だけではなく、産業活性化の基本的な案の必要性を望む。各業種の若い人の意見交換会（市・市議・商工会議所会員・各業種会リーダー等）50代以下に限定した交換会があってもいいのではないかな。
20	西胆振だけではなく全道・全国との連携を進めてほしい
21	・人口が増える為に産業が活発になると良いと思います。・温泉熱（地熱）を利用して電気の利用に生かせないのでしょうか？
22	胆振地区は登別と洞爺という温泉の出る地域であるがもっと観光をひろめてほしい。登別駅は洞爺の虻田よりもみすばらしい。駅をもっときれいに造りかえてほしい！！
23	障がい者なので、自分が人になった時に不安だ
24	1 高齢化が加速している現状を踏まえ、医療機関の充実と終末医療の充実が、責務だと思います 2 日常からの防災意識を市民全員で確認・把握することが必要 3 近頃人気の“道の駅”伊達～洞爺方面では充実している。その土地の特色を、地元の産業者と共に手軽にアピール出来ると感じています
25	観光は、洞爺湖町、室蘭市、登別市と移動しながらの体験学習をしたり、環境は、地熱エネルギーや風力、太陽光発電を3市で利用する。
26	障がい者が参加できるスポーツ交流会等。
27	若者がたくさん集まる企業誘致がいいと思います。
28	1. 残念ながら登別市には、医療設備の整った病院がない。近隣の市と連携体制の強化が必要と思料する。2. 災害種別毎の連携体制（支援等態勢）を具体的にすることにより安心安全な生活のできる環境が作れる。3. 室蘭市が進める水素社会の構築に向けても連携し進めて行くと良いと思う。
29	3. 観光～住民を対象に、又、外部の人でも利用できるよう、閑散時期限定にシャトルバスを出し、温泉地をめぐるってもらう。（ホテルなど）収入アップになるのでは。
30	各市町村の交流を通して、知恵を高め、市町村の活性化を測ることができる
31	若草地区は高齢化が進んでおり家を持っている老人も多く、一人暮らしの高齢者への援助等
32	防災は特に身体の不自由な方の迅速な対応のしかた
33	これからの子ども達が大きくなって他の地方に行かないように
34	問11 選択理由
35	市の財政をキグして、市立の病院建設には、全くの及びゴシ、他市に頼る以外に方法がない。個人病院はキケンそのもの。

[問12自由記述 (3/4)]

番号	内容
36	上記は単体行使よりも連携することでより相互に利便性や資金面で有利では？
37	特に室蘭とは連携は反対である……。登別市にて、自分の市だけで十分。
38	8の産業。室蘭にある企業のベッドタウンとして登別に住んでいる人が多くいると思いますが、室蘭だけでなく、登別にも、何とか企業誘致してほしいと思います。多くの企業が活躍してくれる事が、登別市民の生活を、守ってくれるのではないのでしょうか？
39	町会の福祉部長をしていたが高齢で全員がやめてしまい福祉活動が中止になった
40	他の市町村にないイベント行事、情報の交流事業、高齢者住宅（空）の活用、次世代に受けつぐ人材の育成（居、食、住）
41	広域的に考えた方がいいアイデアや意見などがでてくると思うので
42	色々な人達との意見交換 アイデアが多くなる
43	障がいのある子ども達が親が亡くなり1人に成った時に、生活が出来る施設を造る事を考えてほしいです。登別大谷高校の跡地利用など考えてほしいです。私のまわりにも、何人か障がいのある方がいますので考えて下さい。お願いします。
44	災害時の連絡放送等準備設置はされているが、風向き等や建物の気密化で室内に居ると聞こえず解らないときがある。 観光都市であるが、玄関口である登別駅前がみすばらしい状況である。もう少し観光客に訴えるような環境にして、集客能力UPするべきと考える。 福祉については、高齢者がいきいきした目標を持った活動の場を提供して健常者と共に笑顔で生きがいを持てる様な環境作りをして欲しい。
45	観光だけで地域が生き残ることは難しいと思います。室蘭の技術、技能を売りとして、企業誘致を積極的に行なうことが必要だと思います。室蘭港の魅力は夜景ではありません。天然の良港です。登別温泉も入浴後温泉街を歩きたくなるような環境が欠如しています。他の温泉地を参考にし、独自色を出すことが必要です。しかしこれが難しいですね。
46	3市3町が協力しあって、医療が安心してどんな事があっても診察が受けられる体制や、温泉という宝がありますので、大事に広げていってほしいと思います。
47	私が受診している呼吸器科が近くになく（専門医が少ない）室蘭までの通院（入院）となり出来る事なら近くの病院で受診スリの方箋の発行までの処置ができるような病院同士の連携は不可能でしょうか？
48	登別市には大きな医療機関（総合病院）がない。たとえば脳外科など、脳に関する命にかかわる病に急激になったとしても救急車で大川原病院や日鋼・市立など室蘭市内までと時間はかかる。一刻をあらそう病などの対応をできる病院が市内にできてほしい。
49	環境に優しいエネルギー、登別市なら地熱とかそういう事が出来たら良いと思う
50	まちによって医療、福祉が違っていると困ってしまうので一定の基準を合わせたほうが良い。

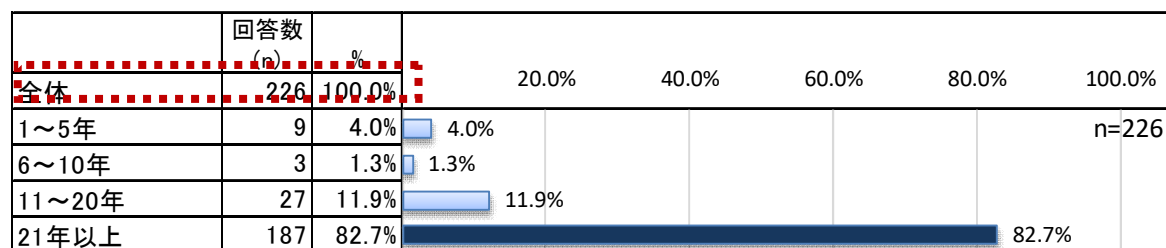
[問12自由記述 (4/4)]

番号	内容
51	北海道新幹線開通後に観光客がもっと多く地元に来て、活性化することを期待する
52	総合病院の設置（市立病院として）
53	個別の市より、隣接、関連する地域で連携し、効率をあげ、コストを下げるべき。
54	将来安心して生活が出来るため、子ども達が地元で生活していくために
55	広域で取り組んだ方が相乗効果が生まれより地域の特性を発揮した街づくりが出来ると 思います。
56	1) 医療：大型病院は室蘭市に集中しており、それらの病院で亡くなった故人の搬送は 割増しとなるようです。同じ胆振中央ゾーンとしての扱い方が望ましい。 2) 防災：登別・室蘭市民は仕事・買物等両市を横断することが多いので避難場所等の 情報を交換した方が良い。 3) 観光：登別温泉は国内外へのアプローチが強く、時々市民への優待券が発行される が、ネット上の価格と比べて魅力はない。地元の観光地の意識が持てない。マリナー パークの割引券も他市の友人が来ても登別市民しか割引対象でなく、行く動機付けが弱い。
57	これからの老後生活に医療、環境等など不安が少しでもなく穏やかに暮せる様に願いま します。
58	登別市には先進医療施設が少ないので、どうしても室蘭を頼ってしまうから。
59	災害などがおきた時の協力体制やボランティアなどの受け入れ体制を充実
60	医療は隣接する市に大型総合病院、専門病院があるので。
61	例えば病気で喉頭を摘出することを余儀なくされ声を失ない、代用音声を身につける時 に地元には自立する為の援護策がなされていないので、隣接した市に頼るのが現状とな っています。本人の前向きな意向がもちろん大切ですが高齢な方にとっては、隣りの市 へ出向くまでの交通手段が難しくなります。（室蘭市の発生教室へ）一度失ないはいしま しても再び代用音声で発声する喜びを知らずに過ごすのではもったいないことです。
62	⑦低賃金からくる介護職の人材不足。少子高齢化で、老を介護の不安。その他の支援体 制にも取りくんで欲しい。 ⑧工業大学・専門学校もあり、企業誘致等で若者の流出を防いで欲しい。
63	充実した老後をすごせる取り組み
64	要望は医療のことですが今は室蘭に車で行っているのですが車に乗れなくなった場合心 配です。（交通の便が悪い）
65	1.急病時の対応を速やかに連携できるシステム、2.近隣市町村による観光誘致の充実化、 7.高齢者の安全、安心できる施設の充実化
66	近隣市町との交流・親睦を図る事。医療体制救急時の搬送の確保等々

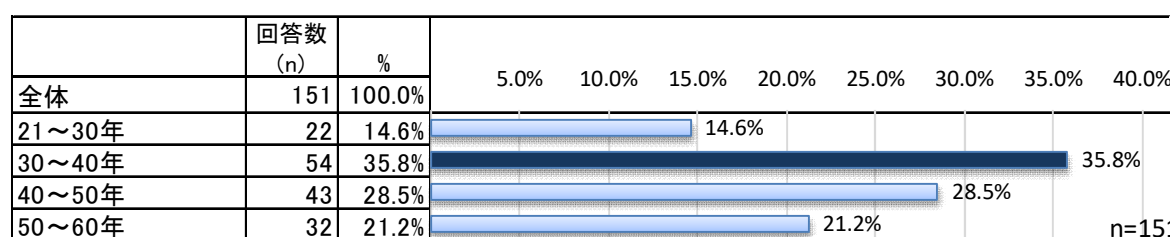
⑤ 今後の居住について

問 1 3 あなたは、登別市にどのくらいの期間お住まいですか（1つだけ選び番号に○）

回答者の居住期間は、「21 年以上」が 8 割以上を占めています。

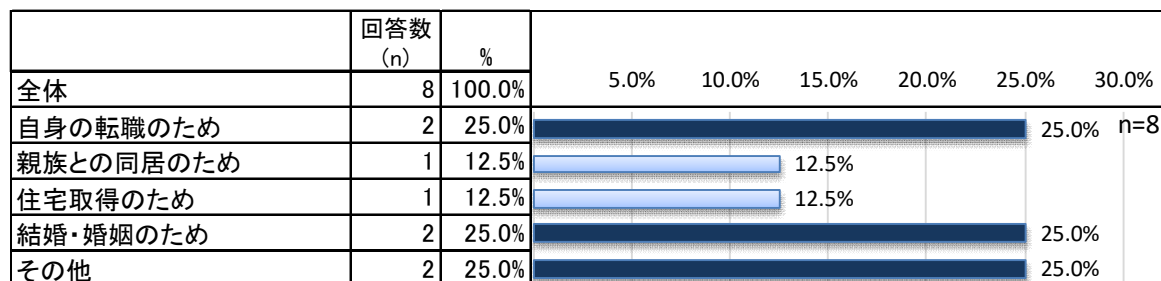


[21 年以上の内訳]



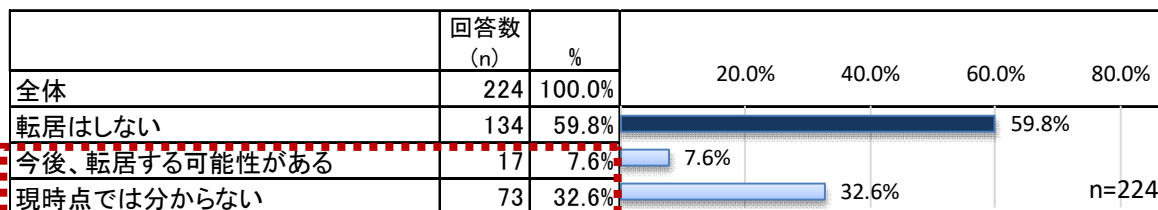
問 1 4 あなたが、登別市に移り住んだ理由はなんですか（1つだけ選び番号に○）

回答者の移住理由は、「自身の転職のため」・「結婚・婚姻のため」が 25.0%となっています。



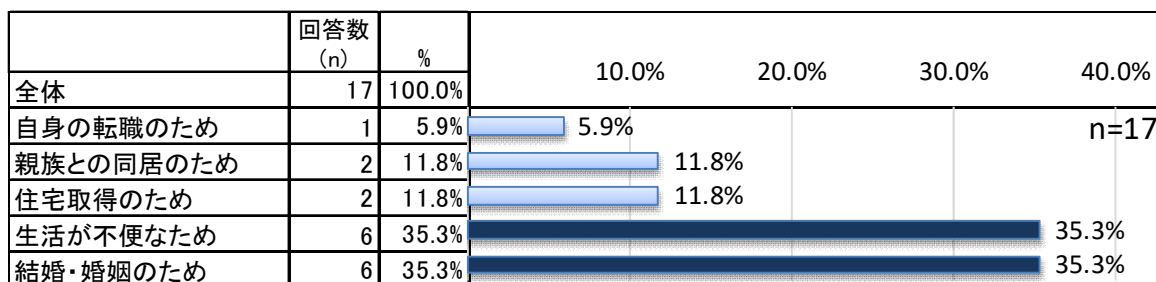
問 1 5 今後、登別市以外に転居する可能性はありますか（1つだけ選び番号に○）

回答者の転居の可能性は、「転居はしない」が59.8%と半数以上を占めています。



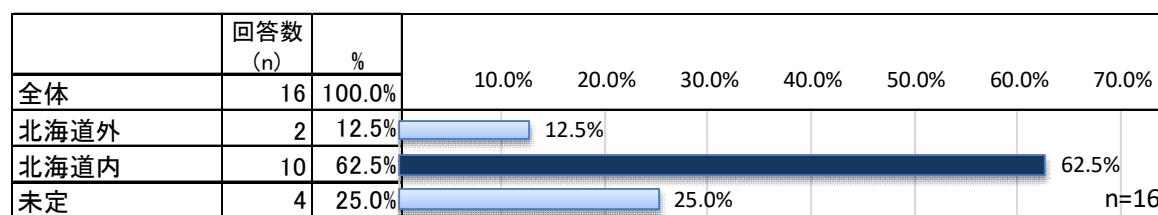
問 1 6 あなたが、登別市から転居する可能性がある場合、理由はなんですか（1つだけ選び番号に○）

転居の可能性がある場合の理由は、「生活が不便なため」・「結婚・婚姻のため」が35.3%となっています。

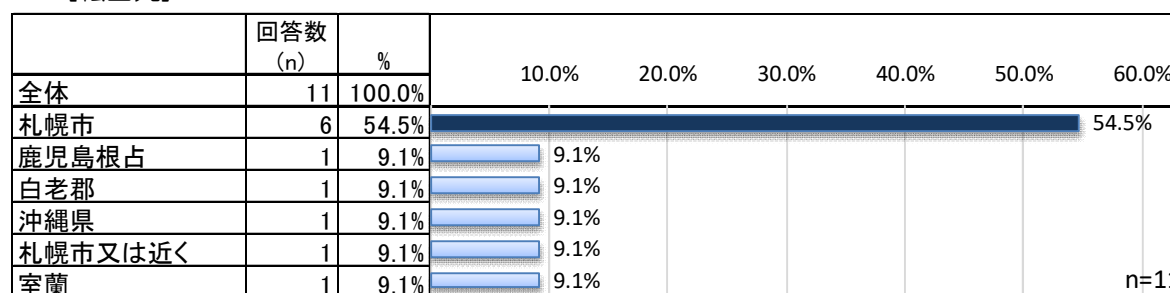


問 1 7 あなたが、登別市から転居する可能性がある場合、転居先はどこですか（1つだけ選び番号に○）

転出の可能性がある場合の転居先は、「北海道内」が62.5%と半数以上を占めています。



[転出先]



問 18 最後に市政に対するご意見やご要望がありましたらお書きください

[自由記述 (1/6)]

番号	内容
1	長い期間住み慣れると愛着が湧いてきます。高齢化が進む中安心して穏やかに暮らせる様に優しい登別市でいて下さい。今は満足していますが発展を望みます。
2	冬期、吹雪による停電を5時間以下にするように、計画願いたい。
3	総合病院が遠いのが不便です
4	何事にも単なる縦割行政を行うのではなく（かなり多い）常にやらせてもらっているという気持ちを持ちながら登別がより良い所と思われる様取り組んでいただきたい。
5	夫が軽い脳梗塞を患い、6年経過。マヒなどはないが、OT、PTさんの指導のもとに運動ができる施設があったらいいと思います。健康チェックをしながら、データを基に運動の指導を受けられると、納得してできると思います。男の人は、理屈など理解しないと、なかなか周囲の言うことをきかないです。介護度がついていない人の悩みです。
6	別にありません。今住んでいる所はとても良い所で安心してあります
7	他の都市はわからないので比べられないけれど登別市はそんなに悪くないと思いますよ。道の駅があるととってもいいのにね。栄町の今トライアルがある所、前に土地空いていた時、「ここに道の駅出来ないかなー」とずっと言っていました。
8	国道添に交通が便利良く仕手ほしい。
9	高齢者が安心して住める条件整備が求められる。施設・医療などの完備と高齢者への支援・対応。
10	アナログ生活に慣れてしまい、新しいことに挑戦はむずかしいが若い人たちが一歩、二歩と前進できる町作りは早急に必要。この近辺の不動産も一定の人の利だけで回っていたら死の街になってしまう。前向きな考えや行動力は老若男女に持ってほしい！！
11	住み良い町づくり
12	柏木の通りに、スピード違反のカメラの設置を、おねがいしたい。
13	課題が多くある中、全ては困難なので取組む事に順番を決め、数点に絞り実行をして下さい
14	1. 企業誘致、2. 若者が住める町、3. 安心して子育てができる町
15	高齢化社会は、さけてとうれな時代です、戦争はもうありません。平和でありつづけるような政治を努力して下さい。
16	市道を整備して下さい。
17	もっと楽しいことがあればいいとおもう。何も面白いことがなくてたいくつである。何か考えて下さいイベントを。他の町は色々考えてますよね

[自由記述 (2/6)]

番号	内容
18	老後の生活で、どのようになるかによって。老人の入る介護者の受け入れ場所が出来る様 お願いしています
19	小さな町ながら仕事先も少なく又少数の年金からのカットで生活が苦しくなるばかりで す。少しは市民の声をお聞き下さい
20	観光地で売るのであれば道端の草取り（すごく気になります）花を植える等の工夫が必要 ではないでしょうか。
21	少い人口での市政で経済的にも、種々の対応が出来ない。そのため大都市等に比べて、種々 の不利益を被っている。スポーツ・教育・文化・学校の能力、就職・札幌間のＪＲ本数、 特別な買物（衣類、本、・・・）が差別化されている。西胆振市等大きな考えで前向きに 検討すべきではないか。じり貧の一途をたどる傾向が、強くなっている
22	現時点の町内会のあり方や、公共施設の無料での使用など財政を圧迫する要素が蓄積され ている。無料で飲食するなどもってのほかだと思う。以前にも、いくつかのアンケートに 答えたが改善されているのだろうか。ましてやホームページだけの公表ではまったく意味 がない。広報等利用すべきである
23	道の駅を新設、各地の特産物の販売
24	老後の医療施設や老後安心して生活できる場所。１人暮らしの人は、毎日不安を持って過 ごしている人が多い。若者と老年寄りが助け合う生活があったりすると良いのでは。※市 民の合同墓地を（申入の中で資金は成り立つのでは）子ども市内にいないと墓の問題も悩 み
25	総花的で、まとまり、特徴がない。他市に対しても、どこが違うのか、どこに力点を置い ているのかわかりづらい。
26	草などが生い茂っている所や、川がきれいになると、もっと良い所になると思います。川 の周辺など、徒歩や自転車などで散歩できるとみんなが楽しめる場所になる事でしょう
27	友達が病院に入院していますが週一ぐらいで洗たくもの取りに行っているがあまりにも （差別）しすぎる
28	健康で、安心して、老後をすごせる登別市を作って、アピールする方向で、登別市が発展 すればいいと思います。
29	町内会の仕事を 10 年近く手伝いましたが市が住民の意見を良く聞こうと取くんで居ると 感心しました。今後も続けて欲しいと思います
30	環境作り（１人でも多くの参加）。劣悪な環境（登別市役所）で頑張っている市職員さん、 負けないで下さい。
31	登別駅周辺に活気がなさすぎる。退職者の雇用の受け入り先が不安だ
32	空家や統廃合した校舎の有効利用を考えて！
33	年金が少なく仕事が無くなると生活ができない

[自由記述 (3/6)]

番号	内容
34	若草町に住んで 40 年になりますが、登別の温泉以外は利用する事がなく、何もわかりません。室蘭で仕事、病院、買物、JR も東室蘭と室蘭のお世話になっています（生活全般）。これからも変わらないと思います。
35	千歳町ですんでいます坂が多いので道に車を駐車しているので子どもが出て来てこわい思いをしたので道路に駐車しないでほしいです。それから家と家の細い道路にも駐車しているので車が通りづらいのでこれもやらないでほしいです。
36	市庁舎も新しく立て直すようにしたらどうですか。新しい市民となった人は市役所が幌別にあるというのはわかりづらいと思います
37	登別は温泉地なのに足湯がほとんど無い。（温泉街の足湯は道のりが遠い）苫小牧では、街中に足湯ブースがあり、驚いた。子どもから年配の方まで、気軽に、無料で楽しみ施設が、不足していると思います。
38	少子高齢化を防ぐ為、雇用確保や、大都市からの移住を働きかけるといいと思う。室蘭地方（3 市）は、医療が進んでいるのでマスコミでも報道されています。（別府と室蘭地方の 2 ヶ所）
39	・小学校・中学校における「いじめ」への対応をしっかりやる事。・登別市内は、どうでしょうか？いつもどこでも事が起こってからあーでもない・こうでもないと言っている様な気がします。・サイン又は情報があったら直ちに対応して下さい。（先生、教育委員会等）・またそれらの感性を育てて下さい。
40	・活気ある市にしてほしい。・市役所の方の対応が不親切に思う。話し方が冷たい。
41	2013 年に道新に登別市が合同墓検討という記事が出ていたのですが、どの位話が進んでいるのか知りたいです。出来れば少しでも早く、決めてくれればと思っています。
42	登別全体の観光、介護事業、商業の活性化を願ってます
43	登別市で、ここは見学してもらいたいヶ所に停車できる循環バスを出す。利用者は一日乗車券で目的場所を次のバス時間迄ゆっくりできる。名古屋ではメーグルという一日乗車券 1000 円で名古屋城～トヨタ博物館など見学できます。入場料は別料金でしたが。
44	若者が、種々の活動に参加できる様な企画（若者が）を考える（経済的援助も含め）
45	高齢者向けの住まい
46	高齢者から税金を取る事だけでなく少しでも地域を巡回し、いろいろな面で支援するようにしてほしい。又、市の職員、特に女性が無愛想なので笑顔で、窓口対応をしてほしいと思います。
47	きめ細やかな市政をしていただいていると感じています。
48	苫小牧及び室蘭にても 2 年おきに市民会館プロの歌手を向かえています。登別にても市長が進んで向かえてほしい・・・・。

高齢者施策向けアンケート結果

[自由記述 (4/6)]

番号	内容
49	高齢者が多くなってきていますので、施設の充実、若いお母さん達が働ける為に、保育所の充実を望みます。施設では、ヘルパーさん、保育所では保育士さんの雇用に継がると思います。
50	過日登別の観光マップ（3つ折）を見る機会があり拝見しましたが、地元に住んでいる私でさえも、その内容が良く判らない。観光にいらした方々にしたら全く用をたしていません。一度考えてはどうでしょうか？
51	今現在は夫婦とも健康で心配はないので考えた事は子ども達が3人市外道外なのでありません。今後問題は沢山でるでしょう。（子どもはあてにしていませんで）せめて、貯金はするようにしています。
52	若草町2丁目12に住んでいるが土地が低いので排水工事をしてほしい。いつも雨の日水がたまる。
53	先天性下肢障がい(第一種2級)のために御市の地域貢献出来ず申し訳なく思っております。
54	温泉だけではない登別をもっとアピールして市の借金をかえしつつできれば新しい図書館を作してほしい
55	住みやすく大変良い町と思っています。
56	介護保険が高いので、1度も使っていない人には少しでも割り引いてほしいです。年金が少ないので困ります。
57	年を重ねるほどに魅力を感じられません。 芸術的に高いものに触れたいと思うのですが、札幌へ行かなければなりません。スポーツも高いレベルの技を観たいと思うのですが、登別ではできません。
58	年金が少ないので子どもにめいわくをかけず年金ではいれるしせつが少ないので心配である
59	これから年金生活になって、ゆとりのある生活ができるような安心できる町作りをお願いします。
60	共同墓地があったら良いです。子どもが遠くにいて、迷惑をかけたくないのです。
61	企業誘致、地場産業活性化等費用をかけなければ助成援ゴを実行してわずかでも成功すれば良しとし、三市があらゆる面で連携協調し、若年層の増加を達成し事件事故のない住み良い三市の発展を希望します。
62	財政赤字を子孫に廻してほしくない
63	財政のこともあるだろうが、魅力ある市政を望みます。 余りにも沈滞して活気なく若者が育たない市だと思う。
64	登別市、室蘭市、伊達市を含んだ、広域な事業を増やし最終目的として三市合併が望ましいと思う。

[自由記述 (5/6)]

番号	内容
65	できるだけ多方面の意見を聞くべき。
66	・メイン道路（36号線）に駐在所がない為以前同様にしてほしい。・コンビニが2件あったが閉店し身近な店がなくなった為不便である、それを解消してほしい。
67	若者が住みやすい町になってほしい（就職先が少ない）
68	次世代に続く活気ある街になってほしい。
69	・若い人が結婚出産をサポートできる様な市政を願う。 ・無駄のない、切れ目のない、市民の為の市政を、時には厳しさも？
70	市役所の窓口は他市と比較してもとても感じが良く行きやすい。市庁舎の老朽化が進んでいるようで庁内の環境が悪く職員の皆さんがたいへんそうです。移転新築を検討する時期に来ているかも知れません。
71	他の行政のまねをしたり、国や道の補助をあてにしない登別市独自の事業企画
72	高校を卒業した子どもたちが地元で就職できるように企業誘致などに力を入れて下さい。正社員になり働く所がありません。
73	現在民間の住宅に住んでおりますが、古い住宅のために冬は寒くて、灯油を400ℓ×3回仕入れます。又、風呂もないし、トイレもくみ取りです。 市営住宅、道営住宅も申込みしていますが、当らないです。 もう少し、单身住宅をふやしてほしいです。柏木団地や東団地は空いていると聞いています。
74	現時点でも市政に関して充分満足しているので、要望はとくに無い。
75	子どもさん達が笑顔で遊べる街を願っています。音楽・観劇などを市民会館へ出向いて観たり聴いたりする経験を出来るかぎり多くしてほしいです。現実的に無理な時でも優先する価値のあることだと思います。学校に音楽家の方に出向いてもらうこともしているのかと思いますが、なるべく回数を増やしてほしい」と思います。
76	高齢者世帯ですが地域の民生委員の方が訪ねてくださいますので少し安心しています。冬の除雪が大変です。除雪車が入るとせっかくきれいに除雪した玄関前に雪を置いていくのには毎年非常に困っています。除雪業者の方、また仕方に一考を！
77	1.体育館の建て直し 2.野球場（プロ一軍が来れる様に） 3.目・耳を楽しませてくれる各界のプロが来てくれる（一流の）スタジアムがあるといいですね。
78	生活弱者に寄り添える市政であってほしいと思います。
79	健康な老人が集う場所があると良いと思う。介護認定を受けていないと、行く所がなく、いえにこもってしまう。

高齢者施策向けアンケート結果

[自由記述 (6/6)]

番号	内容
80	今回のアンケートとは全く関係がないのですが一つ要望があります。ゴミ袋の販売方法ですが、もえるゴミ袋はいいのですが、もえないゴミ袋の場合割れた食器など小さな物から時には40Lにしか入らないような大きなものもあります。その為に10枚買っても結局それぞれの大きさで残ってしまい、だからといって小さな物を大きな袋に入れて出すのは不経済です。室蘭市が行っているように各種を1枚単位の販売にしてもらえないでしょうか。以前より気になっている点です。
81	○主人の転勤で17年登別をはなれていましたが、帰ってきたら以前にくらべて活気がないように感じます。 ○駅名をなんとかならないですか？（例：登別斎場にくるのに登別駅でおりた。） ○幌別駅を登別駅、登別駅を登別温泉駅はどうですか？
82	河川敷地樹木の整備
83	環境整備、特に幹線道路の樹木、雑草手入れ、花等を植え付け、美化に力を入れてほしい。
84	何時迄も住みやすい町であります様、知恵をしばって市政に取り組んでください。
85	最近各市町等で将来の墓地の問題を見ました。個人的には早期に共同墓地の実現を希望します。
86	市営住宅に長年いると色々問題があり、骨のすみから小虫、カビ、ケツロ、物置のケツロが最悪。

(3) 雇用・経済施策向けアンケート（高校生）結果

① 基本属性

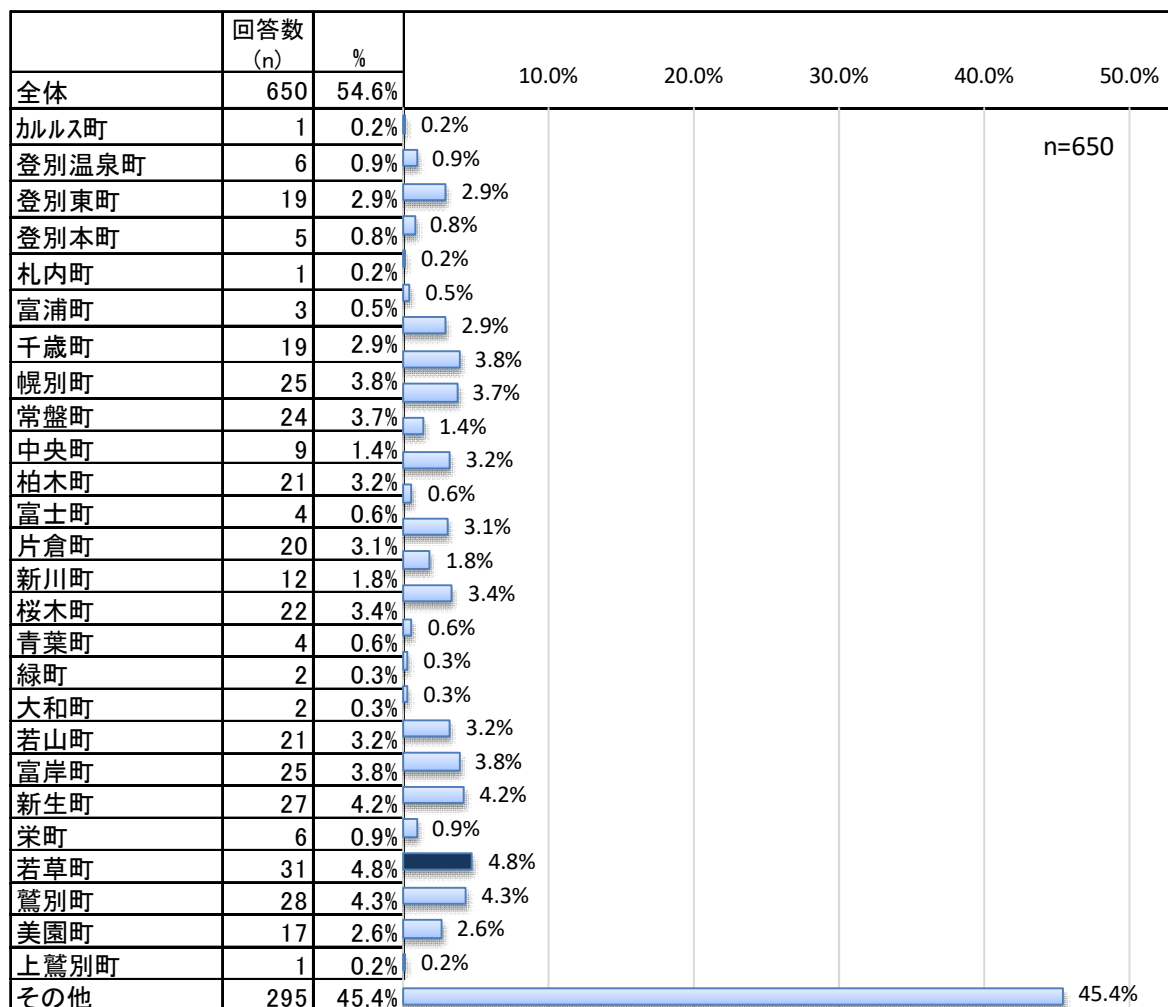
問1 あなたの学年を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の学年は、各学年ともに差はなく、3割以上となっています。

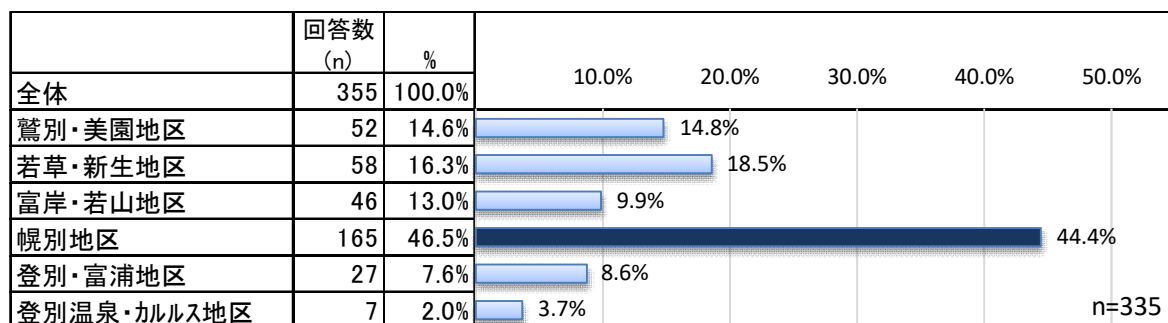
	回答数 (n)	%	
全体	636	100.0%	10.0% 20.0% 30.0% 40.0%
1年生(4年生)	226	35.5%	35.5%
2年生(5年生)	215	33.8%	33.8%
3年生(6年生)	195	30.7%	30.7% n=636

問2 あなたのお住まいの町名を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の住まいは、市内全域に広がっています。



[参考 人口ビジョンにおける6地域区分]



問3 あなたの性別を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の性別は、「男性」が35.9%、「女性」が64.1%となっています。

	回答数 (n)	%	
全体	658	100.0%	10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0%
男性	236	35.9%	35.9% n=658
女性	422	64.1%	64.1%

問4 あなたの世帯構成を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の世帯構成は、「二世帯（親と自分）」が8割近くを占めています。

	回答数 (n)	%	
全体	656	100.0%	20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0%
単身	9	1.4%	1.4% n=656
二世帯（親と自分）	510	77.7%	77.7%
三世帯（両親・祖父母と自分）	111	16.9%	16.9%
その他	26	4.0%	4.0%

問5 あなた以外の兄弟姉妹について教えてください（該当するものをすべて選び番号に○）

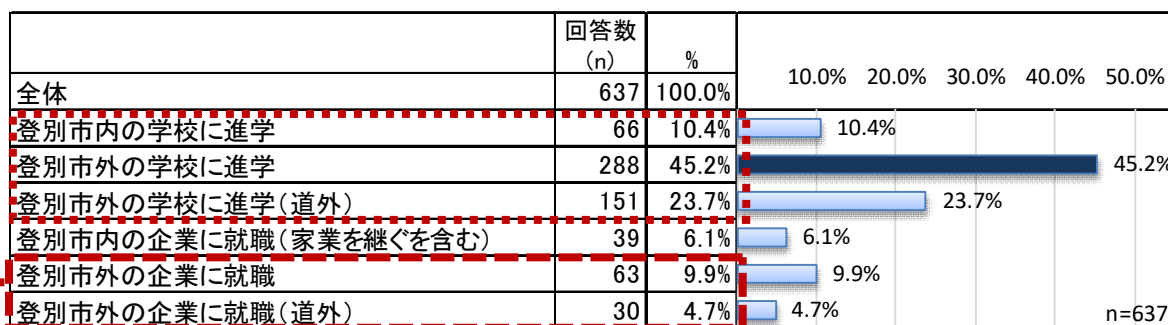
回答者の兄弟姉妹については、「弟がいる」が35.7%、次いで「兄がいる」が34.7%となっています。

	回答数 (n)	%	
いない（自分のみ）	126	-	5.0% 10.0% 15.0% 20.0% 25.0% 30.0% 35.0% 40.0%
兄がいる	188	35.7%	35.7%
姉がいる	149	28.3%	28.3%
弟がいる	183	34.7%	34.7%
妹がいる	159	30.2%	30.2% n=527

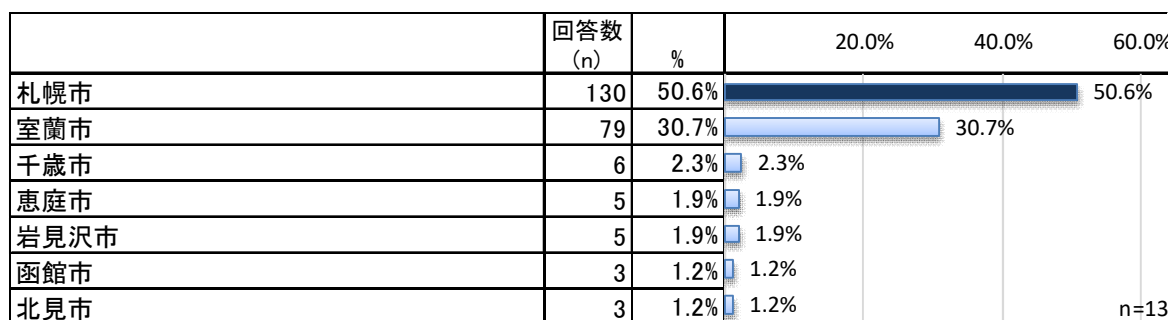
② 高校卒業後の進路について

問6 あなたの高校卒業後の進路について、予定または希望を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の高校卒業後の進路は、「登別市外の学校に進学」が45.2%と半数近くを占めています。

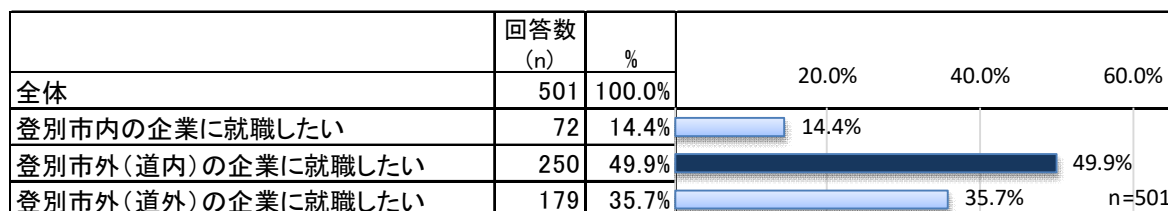


[市外（上位5位まで）]

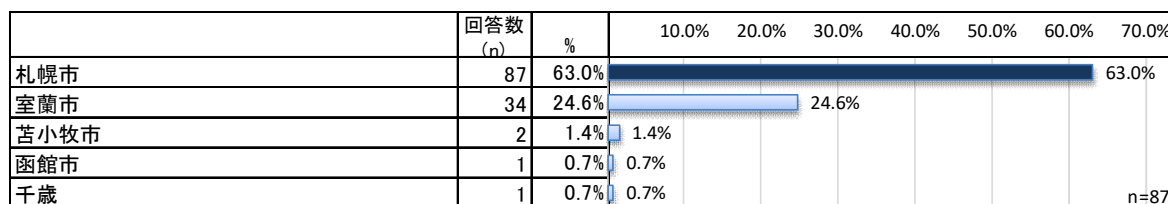


問7 あなたの進学後の地元就職の意志について教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の地元就職の意志は、「登別市外（道内）の企業に就職したい」が49.9%と半数近くを占めています。



[市外（上位5位まで）]



問8 あなたが市外で就職したいと思う理由はなんですか（1つだけ選び番号に○）

回答者の市外への就職希望理由は、「登別市内に志望する職場（企業等）が少ないため」が37.1%、「登別市外に出てみたい・出なければならないため」31.5%となっています。

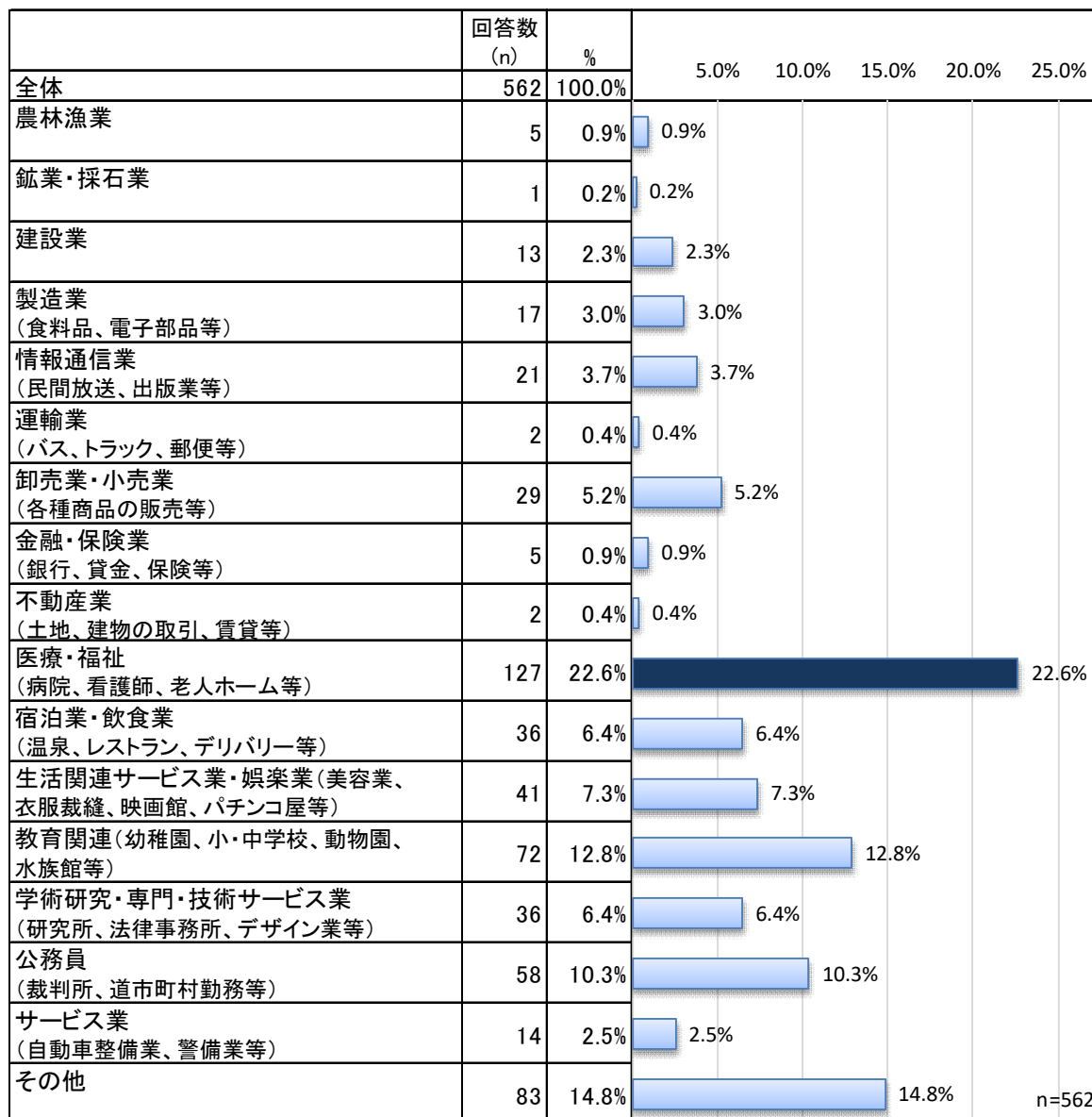


[問8 その他（1/1）]

番号	内容	番号	内容
1	車でかよえればいい	28	就職したい場所が登別市街だから
2	家が室蘭市のため、近い方が良くから	29	札幌って決めているから
3	登別市のことをしらない	30	住んでいる場所が室蘭だから
4	親戚のように海外で働きたいと思ったから	31	今住んでいる周辺にしたいから
5	すずしいから	32	登別市に住んでいないから
6	室蘭が地元だから	33	住んでみたいから
7	室蘭市にすんでるから	34	自分の就職したいことが道外じゃないとできないことだから
8	たくさんつとめられるところがあるため	35	地元じゃないから
9	札幌に働きたいところがあるから	36	就職したい企業が市外にあるため
10	ここではできないから	37	自分の地元だから
11	もっと広い視野で日本を見てみたいから	38	私は日本を変える
12	地元だと自分のやりたい仕事ができない	39	海外ではたらかたいから。
13	地元で就職したい	40	いなかすぎるから
14	自分の家が室蘭だから	41	全体的に不便だから
15	行きたい所がない	42	登別市に思い入れがないため。
16	人生もったいない	43	登別市に特別な想いがあるわけではないから
17	家が近くにあるから	44	室蘭市に住んでいて、室蘭に帰ってきて働きたいから
18	公務員の給料が他と比べて少ない	45	道職員を希望しているので
19	就職先によって、まだ分からない	46	地元が札幌だから
20	技術向上を目指したいため	47	地元思考だから
21	住んでる市だから	48	登別市がダサいから
22	働きたい職場があるのが市街だから	49	志望する職場がまったくない
23	登別市民じゃないから	50	登別はアクセスが悪いし、田舎はきらいだから
24	決まっているから	51	挑戦できる機会を増やすため
25	色々と不便だから	52	特に考えた事はない
26	北海道から出たい	53	流行に疎いため
27	実家から出てみたい	54	そもそも登別に住んでない

問9 あなたが就職する、また就職したいと考える業種を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の就職希望業種は、「医療・福祉」が22.6%となっています。



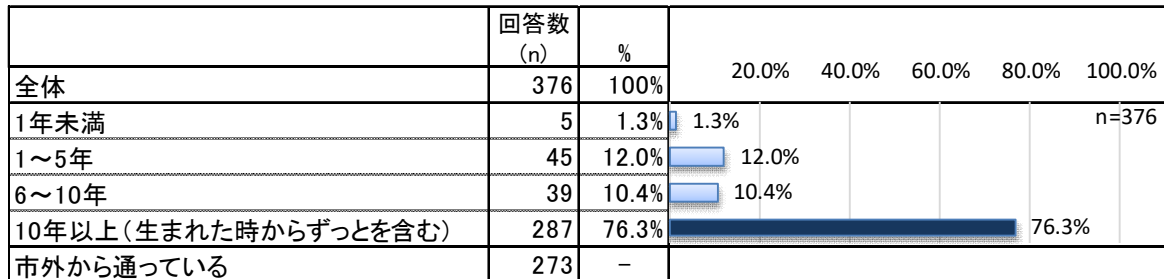
[その他]

イラストレーター	事務関係	情報関係	国際公務員
プログラマー・コンピュータプログラム系	スポーツ関係(プロ選手・インストラクター等)	芸能関係(声優・役者・マネージャー等)	IT企業
ゲーム関係(ゲームクリエイター等)	ダンサー	電気系の仕事	自衛官
ブライダル・ウェディングプランナー	社長・経営者	個人経営料理系	未定
接客業(観光等)	心理系	ペットショップ	考え中
接客業	なにかしらのプランを立てる、映像関係	旅行関係	考えていない
花火師	航空関係・空港関係	アーティスト・芸術系	わからない
調理師	音楽・舞台関係	栄養士・管理栄養士	教えない

③ 今後の居住について

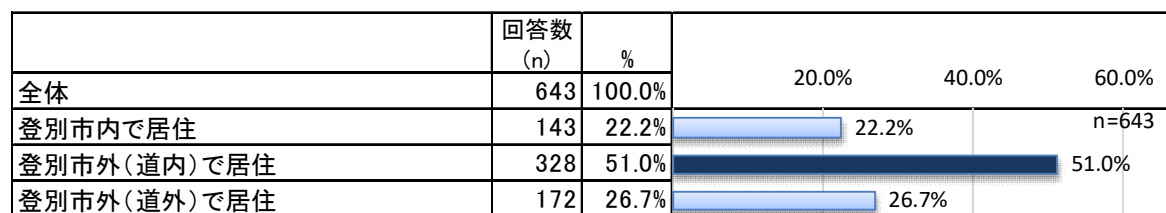
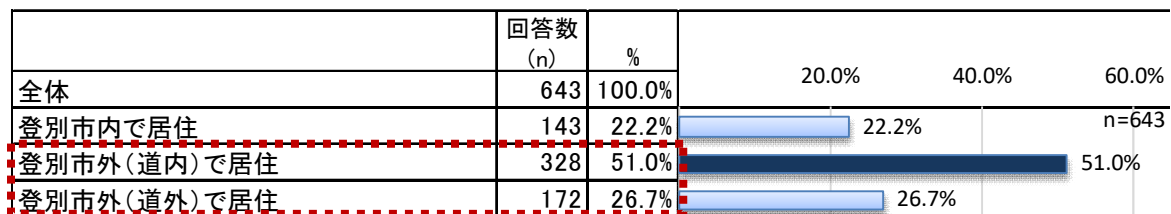
問１０ あなたは、登別市にどのくらいの期間お住まいですか（１つだけ選び番号に○）

回答者の居住期間は、「10年以上（生まれた時からずっとを含む）」が7割以上を占めています。

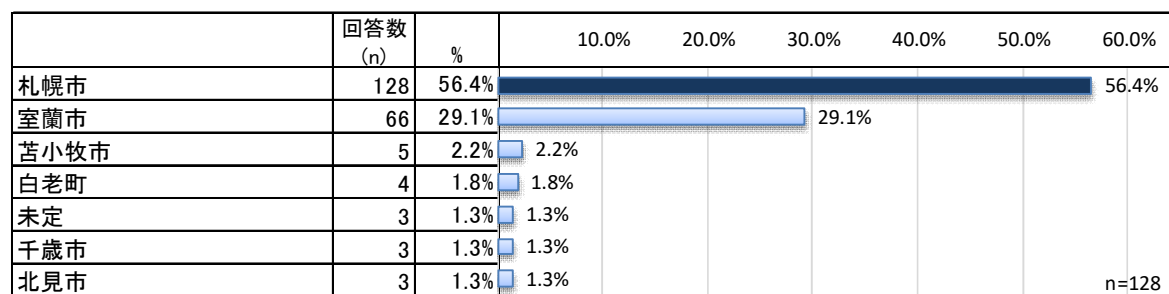


問１１ あなたの高校卒業後の居住地について、予定または希望を教えてください（１つだけ選び番号に○）

回答者の卒業後の居住地は、「登別市外（道内）で居住」が半数以上を占めています。



[市外（上位５位まで）]



問１２ あなたは、将来、登別市にＵターンして、定住する可能性はありますか（１つだけ
選び番号に○）

Ｕターン意向については、「将来、登別市に戻ってくる予定はない」が６割近くを占めています。

	回答数 (n)	%	
全体	490	100.0%	20.0% 40.0% 60.0% 80.0%
学校を卒業したら就職のために登別に戻ってきたい	24	4.9%	
結婚をしたら子育てのために登別に戻ってきたい	21	4.3%	
親の介護が必要になれば戻ってきたい	90	18.4%	
将来、登別市に戻ってくる予定はない	292	59.6%	59.6%
その他	63	12.9%	n=490

[その他]

登別市内に住んでいない	状況による
死ぬ時は登別で	観光しに
専門学校を卒業してから	まだわからない
道内のどこか	今のところはない
ずっとと思う	特に考えてもない
戻りたいと思うがいつかはわからない	

問１３ あなたが、将来の居住地を選択する際、何を重視しますか（１つだけ選び番号に○）

回答者が居住地を選択する際の重視点は、「職場（企業等）への近さ」が２４．３％となっています。

	回答数 (n)	%	
全体	596	100.0%	10.0% 20.0% 30.0%
職場（企業等）への近さ	145	24.3%	24.3%
小・中学校への近さ	31	5.2%	5.2%
実家への近さ	36	6.0%	6.0%
駅やバス停への近さ	60	10.1%	10.1%
土地や住宅の価格	105	17.6%	17.6%
周囲の自然環境	129	21.6%	21.6%
買い物や娯楽などのあそび場の近さ	67	11.2%	11.2%
その他	23	3.9%	n=596

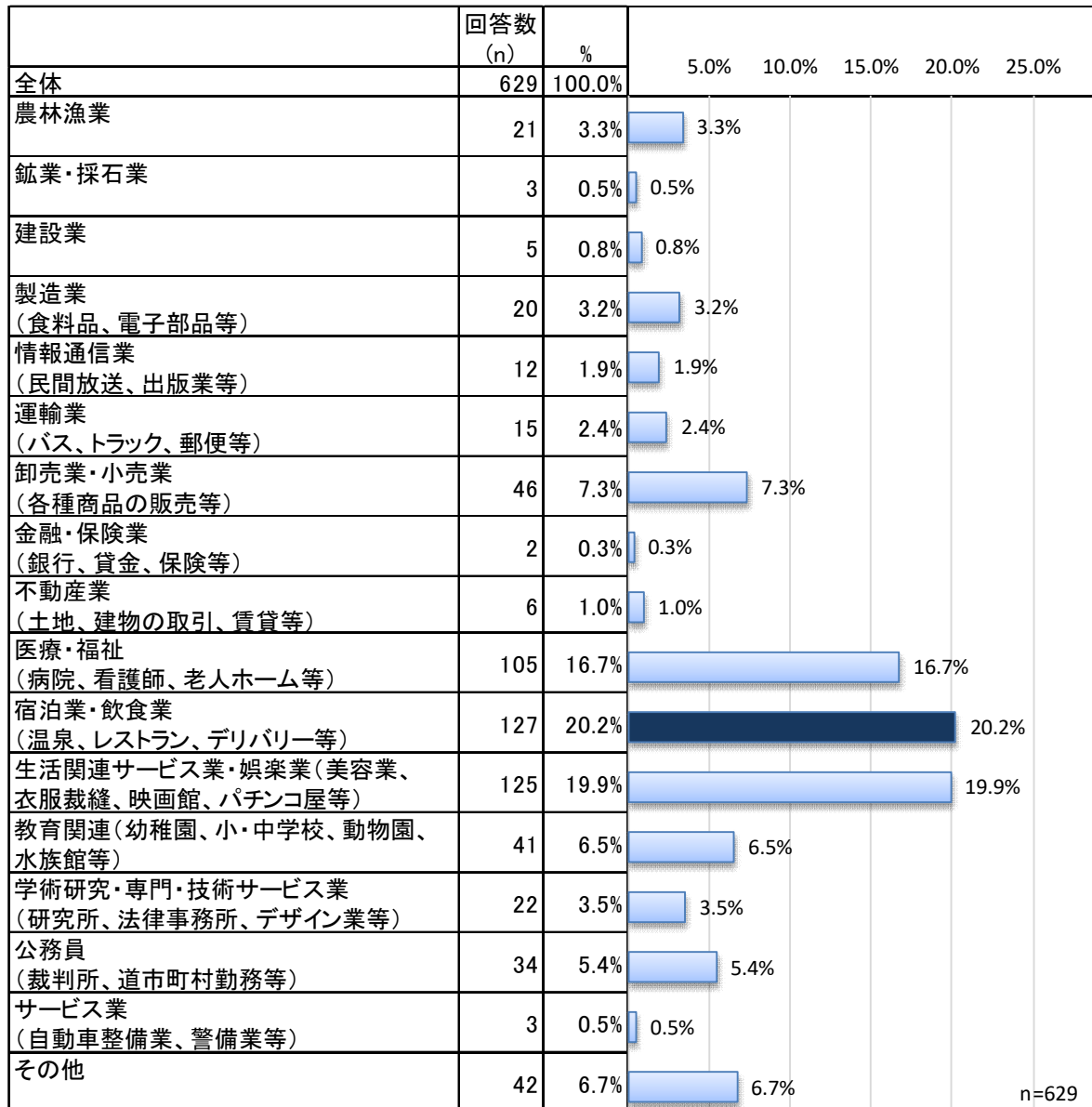
[その他]

住みやすさ	治安の良さ
引っ越すのが面倒	治安
近所付き合い	自然ではなく、きれいな所
親しみやすい街	自分がおちつけるかどうか
住みやすさ、その治安の良さ	芸術などやりたいことの本場
生まれた町	子供を育てやすい環境かどうか。
都心	

④ 将来の登別市の姿について

問１４ あなたが、今後市内で増えると思う働き口はなんですか（１つだけ選び番号に○）

今後市内で増えると思う働き口は、「宿泊業・飲食業」が 20.2%、「生活関連サービス業・娯楽業」が 19.9%となっています。

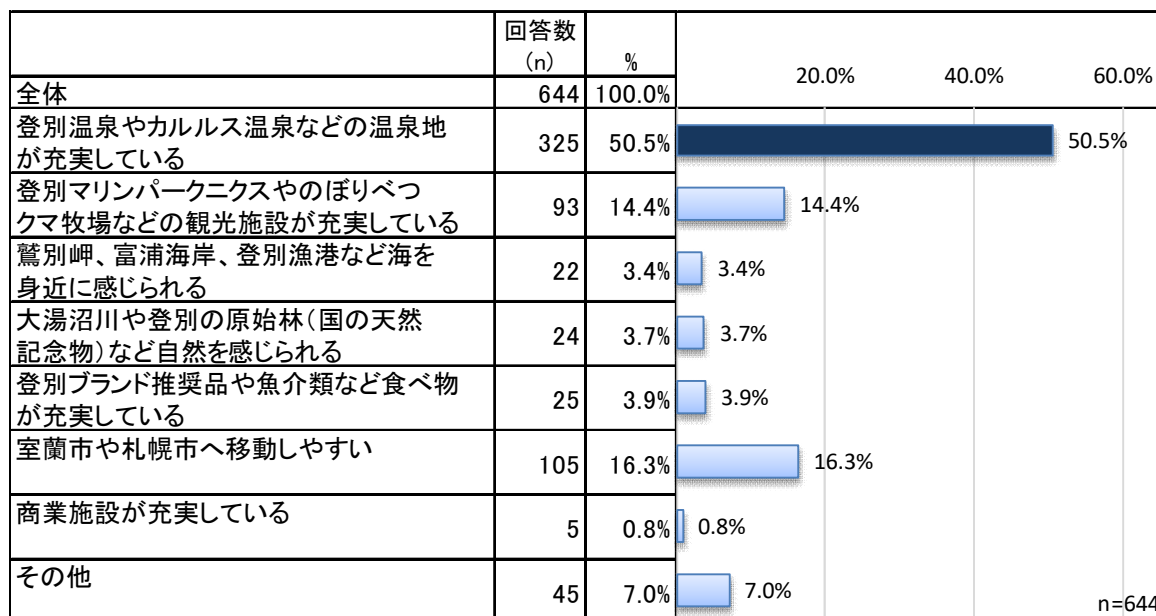


[その他]

イラストレーター	事務職
コンピュータプログラム系	ペットショップ
会計事務	遊園地
色々	温泉以外の観光施設

問１５ あなたが、今の登別市で良いと思うところはなんですか（１つだけ選び番号に○）

登別市の良いと思うところは、「登別温泉やカルルス温泉などの温泉地が充実している」が半数以上を占めています。

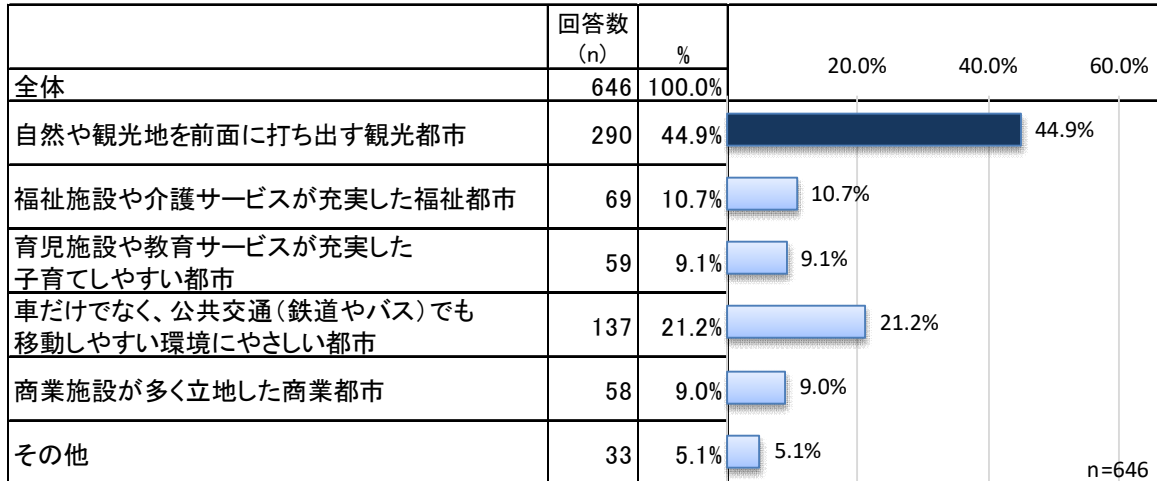


[その他]

人が利用しやすいお店が多い	程よい自然と町並み
また何があるかわからない	伊達時代村
すずしい	登別はすべてにおいて良い◎
まだ4か所ほどしかないのわからない	とても平和なところ
食べ物屋がたくさんある	アニメとコラボしてるとこ
海鮮がおいしい	全くそう思ったことはありません。ブランド品の値段は高いし・・・
登別伊達時代がある	住むのに不便がない程度には近隣に諸施設が充実している
平和なところ	

問 1 6 あなたは、将来の登別市がどうあるべきだと思いますか（１つだけ選び番号に○）

登別市の将来像は、「自然や観光地を全面に打ち出す観光都市」が 44.9%と半数近くを占めています。



[その他]

温泉を大事にする	大きいショッピングモールを作る
遊べるところを増やした都市	緑が多い街
とりあえず温泉を強調する。	バリアフリーをとて多くすべき
全部	ショッピングモールとかを増やす
都会化	お店を多くした方がいい
漁業が盛んな都市	温泉の周辺だけさかえてるから他にも重点をおくべき
登別市に産婦人科があるといいですよ	若者がたくさんいる活気あふれた都市
今のままで良い	どうも思わない
大都会であるべき	何もなくていい
国内アピールが少ない。カジノ施設をつくる	
登別にはなんにもなさすぎる。登別駅周辺がもっと人が集まるような場所になればよいと思う。	
様々な国の人が来る中で、全ての人がコミュニケーションに不自由しない都市	

問17 最後に市政に対するご意見やご要望がありましたらお書きください

[自由記述 (1/3)]

番号	内容
1	18時からの室蘭方向のバスの本数を増やして欲しい
2	アニメとコラボしたのナイスだと思います
3	いい市になるといいな。
4	いつも祖父がデイケアサービスにお世話になっています。
5	うす汚い商店街なんかを潰して新しいものにすればいいと思う。もっと店の種類を増やすべき
6	カラオケ店を増やして欲しい（幌別や登別に）
7	こちら（登別）にも札幌にあるようなデザイン学科があったらなと思っています。
8	ごみの分別はもっと細かくした方が良くと思います。
9	スタバつくって！！
10	スポーツする場所を増やして欲しい。
11	せっかく魚介がおいしい地域なので、もっとそういった店が増えたらいいな。（値段もお手軽で友達ともいける様な。）
12	そもそも通学生にとって登別は帰ってくる場所ではないんですが、質問内容をもう少し考えてほしい
13	デパートを増やしてほしいです。
14	電車やバスの時間を増やしてほしい
15	バスの本数があまり足りていない。お年寄りが車を運転できないのを考えて、もっと本数を増やすべきだ。
16	バスの来る時間のずれが激しい。など。税金を減らしてほしいなど。住んでいる団地が色々不便（桜木）。
17	バスを増やして、外灯をもっとつけてほしい
18	バス代が高い
19	ふるさと納税もっと頑張してほしい（商品とかあんまりよくない）
20	ほろべつえきと、わしべつえきの間にえきをふやしてほしい。朝と夜のバス時を増やしてほしい。飲食店を増やして欲しい。
21	マリンパーク、クマ牧場は書いてあるのになぜ時代村はかかないのですか
22	マリンパークニクスやクマ牧場はしょぼいので、もっと温泉をおしていくべきだと思う。
23	もう少し、遊ぶところを増やして欲しいです。ショッピングモールやもっと若者に人気になるような、所が欲しいです。正直に言うと、今の登別にはそんな所一つもありません

〔自由記述 （2/3）〕

番号	内容
24	もう少しお年寄りが住みやすい街づくりをして欲しい。いつも整地されるのは畠岸ばかりで桜木町は砂利があったり、そのほかにも全然バリアフリーになってほしい。
25	もっと楽しめる場所を増やして欲しいです
26	もっと観光地に力を入れて観光客を増やせるようにしてほしい。
27	もっと住みやすい街にした方がいい
28	もっと色々楽しめる場所を増やして欲しい。
29	もっと遊ぶところを増やしてほしい。街灯を多くしてほしい。
30	運動する場を多くしてほしい
31	温泉在住の人のバス賃を割引にして欲しい。月々1万5千円とかバカげてる。
32	温泉地をもっとうりだすべきだ。
33	海の眺めが最高だと思います
34	自由記入
35	外で遊べる場所を増やしてほしい
36	学校にエアコンを置くべき。暑いから。暑いと生徒も授業に集中できない。
37	漁師の手当とかをあつくしてほしい
38	交通機関が不便
39	公共交通機関で行けるところが少ない（市内で）。バス停はあっても便が少ないし通ってないところもある。
40	公務員での高校生採用者が工学院と同じでとても厳しいので考えてほしい
41	子どもがいないと町がつぶれるから育児しやすい環境を作ってください
42	子どもの遊び場は非常に少ないと感じる。また、海辺のゴミの多さは危険もあり、重要な問題だと思う。地域の学生等に意見を聞くこのような機会はとても良いと思う。市政は市民には見えづらく、積極的に市民の声を聞く姿勢が大切だと思う。
43	市外のインターンシップだけでなく市内でもすれば地元志向（就職面で）になるのでは…。
44	市内の高校のお金を平等にしてほしい
45	治安をもうちょっと改善してほしいです
46	自然のバランスを崩さない、生態系を壊さないようにしてほしい
47	若ものが楽しめる場を増やして欲しい。
48	若者が来やすいように、デパートや遊園地や公園（遊具いっぱい）などを作ればさかんになる。

[自由記述 (3/3)]

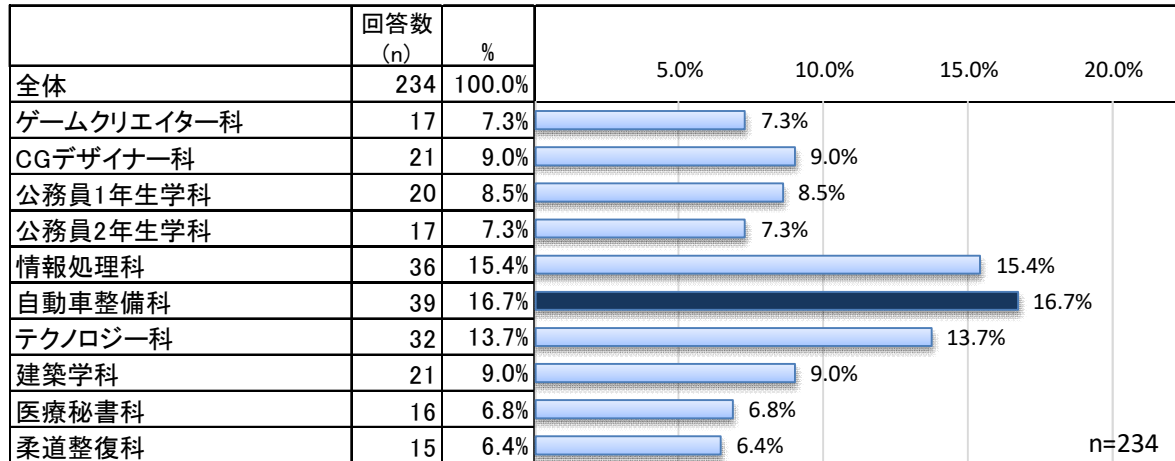
番号	内容
49	信号を多すぎ
50	新幹線開通&地下鉄開通
51	青嶺高校の近くにゲームセンターが欲しい。コンビニもカラオケも。
52	大きい複合施設（デパート）あと、自治体によってのうけられる支援金とか給付とか造ってほしい。（室蘭みたく）金とかの説明をしっかりとの方がいいと思う。
53	大変住み易そうな町だと思っています。伊達と同じく老後に住みたいかもしれません。
54	登別に来ないとないものがあるといい
55	登別の中心部などのお年寄りの施設ばかりではなく、西側の若い人たちがたくさん住むところにお金をかければ若い層が増えてくれると思います。
56	登別はとても良いところだけど全国に名が知れ渡っていないのもっとアピールしたらいいと思います。
57	登別駅側だけでなく、幌別や鷺別にもさかえてほしい
58	登別温泉最高っす
59	登別市にも 100 均一があると助かる
60	登別自然が良いです
61	道の駅が無い事。
62	富岸川のフェンスを直していただきありがとうございます
63	福祉施設や介護サービス、育児施設など、人々が暮らしやすい市になってほしい。
64	文化祭の合唱の日に市民会館開けてほしい。
65	幌別西小学校付近の路側帯を広くしてほしい。
66	遊べるところを増やしてほしい
67	例) 若草中央公園のそうじをしてください。きたないので。

(4) 雇用・経済施策向けアンケート（専門学生）結果

① 基本属性

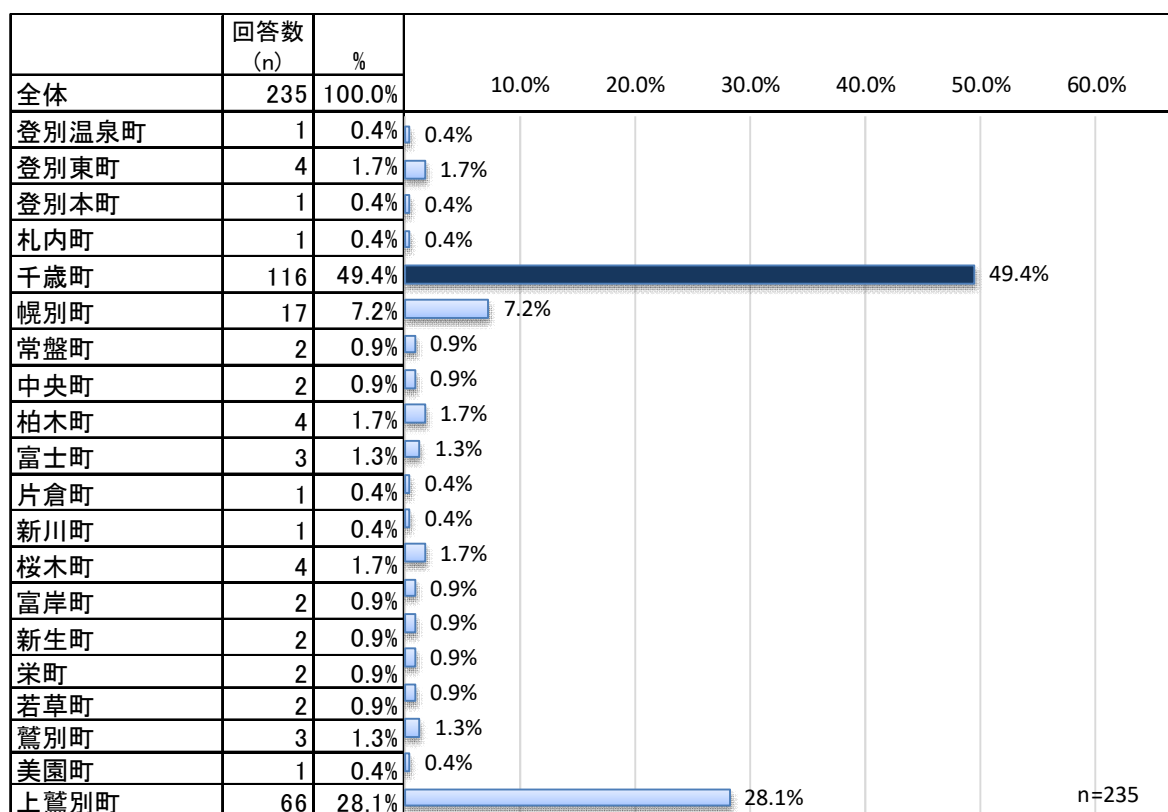
問1 あなたの学科を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の学科は、「自動車整備科」が16.7%、次いで「情報処理科」が15.4%となっています。

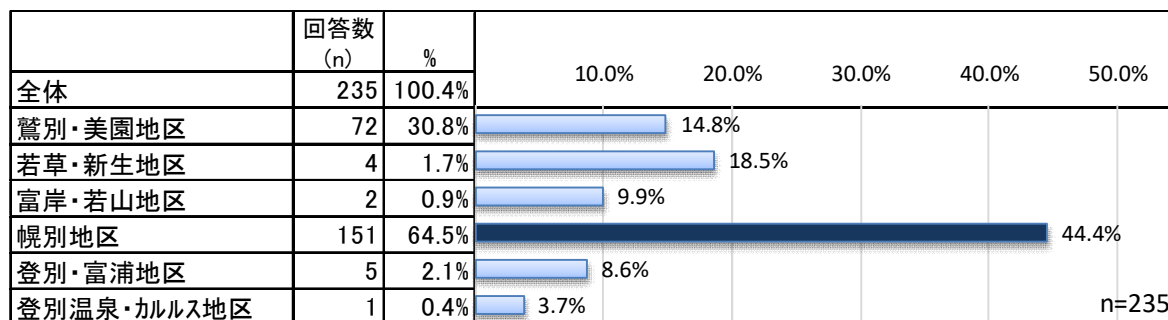


問2 あなたのお住まいの町名を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の住まいは、「千歳町」が49.4%と半数近くを占めています。



[参考 人口ビジョンにおける6地域区分]



問3 あなたの性別を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の性別は、「男性」が76.6%、「女性」が23.4%となっています。

	回答数 (n)	%	
全体	235	100.0%	20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0%
男性	180	76.6%	76.6%
女性	55	23.4%	23.4% n=235

問4 あなたの世帯構成を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の世帯構成は、「二世帯（親子自分）」が41.5%、次いで「単身」が38.9%となっています。

	回答数 (n)	%	
全体	234	100.0%	10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0%
単身	91	38.9%	38.9%
二世帯（親と自分）	97	41.5%	41.5%
三世帯（両親・祖父母と自分）	28	12.0%	12.0%
その他	18	7.7%	7.7% n=234

問5 あなた以外の兄弟姉妹について教えてください（該当するものをすべて選び番号に○）

回答者の兄弟姉妹については、「弟がいる」が39.1%、次いで「兄がいる」が33.2%となっています。

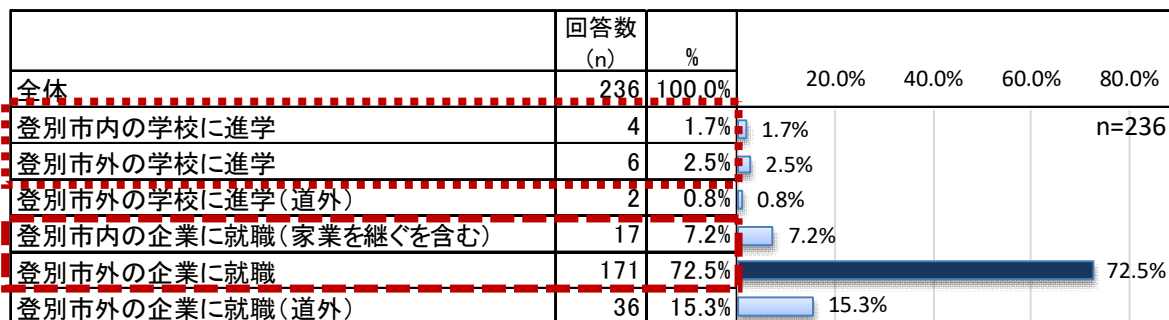
	回答数 (n)	%	
いない（自分のみ）	45	-	5.0% 10.0% 15.0% 20.0% 25.0% 30.0% 35.0% 40.0%
兄がいる	63	33.2%	33.2%
姉がいる	40	21.1%	21.1%
弟がいる	72	37.9%	37.9%
妹がいる	56	29.5%	29.5% n=190

※有効回答数 190 票に対する割合

② 専門学校卒業後の進路について

問6 あなたの専門学校卒業後の進路について、予定または希望を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の専門学校卒業後の進路は、「登別市外の企業に就職」が7割以上を占めています。



問7 あなたの進学後の地元就職の意志について教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の地元就職の意志は、「登別市外（道内）の企業に就職したい」半数以上を占めています。



問8 あなたが市外で就職したいと思う理由はなんですか（1つだけ選び番号に○）

回答者の市外への就職希望理由は、「登別市内に志望する職場（企業等）が少ないため」が40.6%となっています。

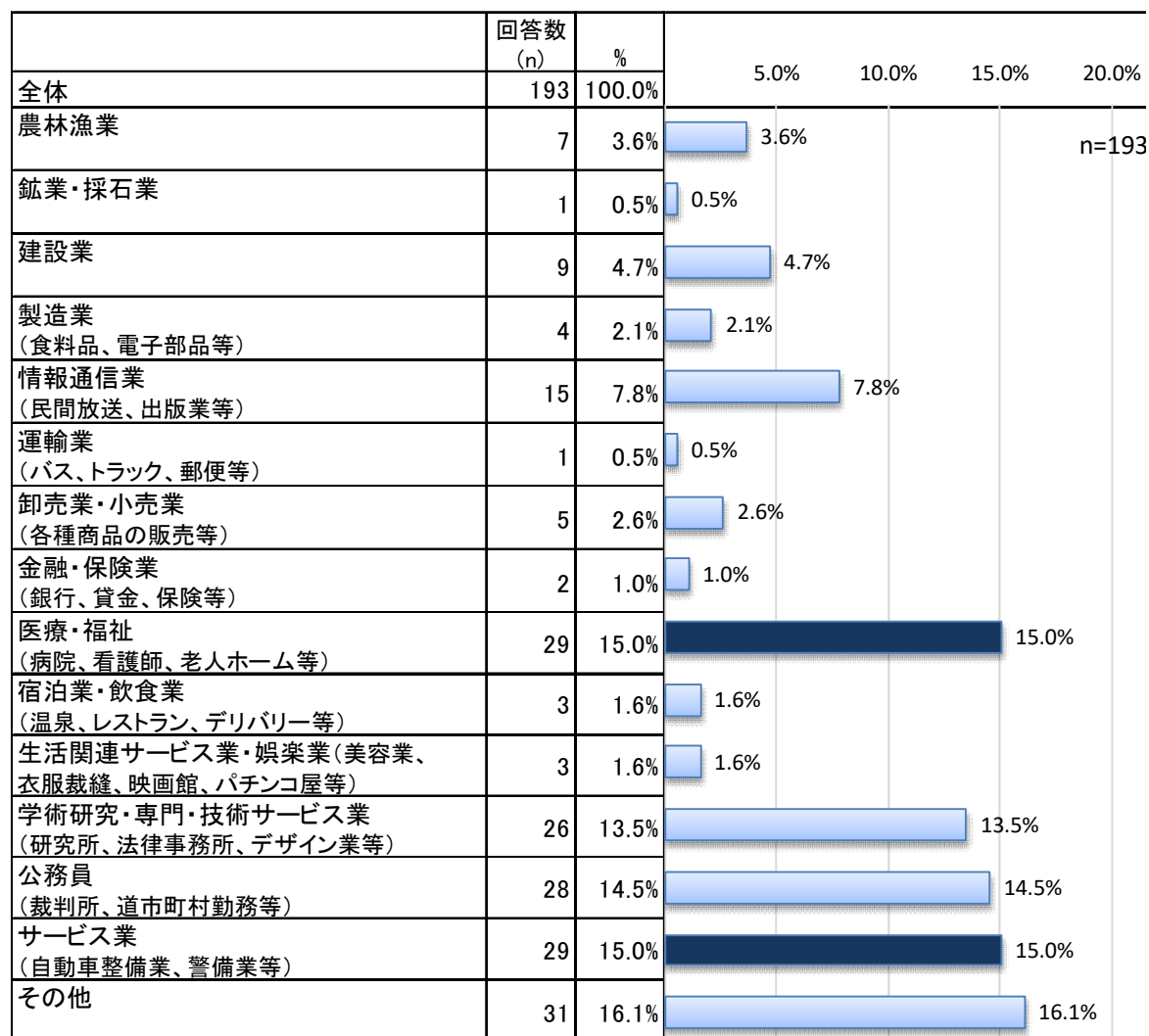
	回答数 (n)	%	
全体	212	100.0%	25.0% 50.0%
登別市内に志望する職場（企業等）が少ないため	86	40.6%	40.6%
登別市内の職場（企業等）までの交通手段が不便なため	8	3.8%	3.8%
登別市内には遊ぶところや買い物の場が少ないため	15	7.1%	7.1%
登別市外に出てみたい・出なければならないため	35	16.5%	16.5%
その他	68	32.1%	32.1% n=212

[問8 その他（1/1）]

番号	内容	番号	内容
1	全国で仕事がしたいから。国外含めて。	28	地元に戻りたいため
2	地元が帯広だから、そもそも求人が登別から来ていない	29	自宅から近いから
3	登別にいる理由がない。つまらない	30	家があるのが伊達市だから
4	企業の社長に魅力を感じたため	31	地元が登別じゃないから。
5	地元が遠いから	32	登別に会社がないから
6	就職先がないため	33	本州に対してのあこがれがあるため
7	求人が無い為	34	1～4 全てです。
8	地元が旭川だから	35	実家があるから
9	登別に興味がないから	36	実家に近い
10	小さい子がいっぱいいるため	37	実家が旭川だから
11	地元に戻りたいため	38	家の事情
12	ここが良いというところがなし	39	内定をもらった企業が道外だった。
13	就職できるならどこでも良い	40	地元へ戻り就職を考えているため
14	地元に近いほうが何かと安心できるため	41	志望する職場が市外だから
15	地元（根釧地区）の方が楽しく落ちつくため	42	地元が室蘭市なので。
16	実家を継ぐため	43	やりたい仕事があるから
17	地元就職がしたかったためです。	44	地元が釧路なので
18	実家へ就職	45	北海道警察を志望しているため
19	登別市外在住だから。	46	地元就職したいから
20	地元である北見市に就職したいから	47	登別市にあまり興味もないし、北海道を出たいとおもっていたから。
21	地元が室蘭なのでそこで就職したいから	48	求人が無いため
22	出身地が登別市外だから	49	地元だから
23	登別市内で就職する理由がないため	50	地元ではないから
24	実家に近い所に住みたいため	51	求人がないため
25	家が遠い	52	特になし
26	自宅が室蘭市にあるため		
27	国家公務員の事務を志望しているため		

問9 あなたが就職する、また就職したいと考える業種を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の就職希望業種は、「医療・福祉」・「サービス業」が15.0%となっています。



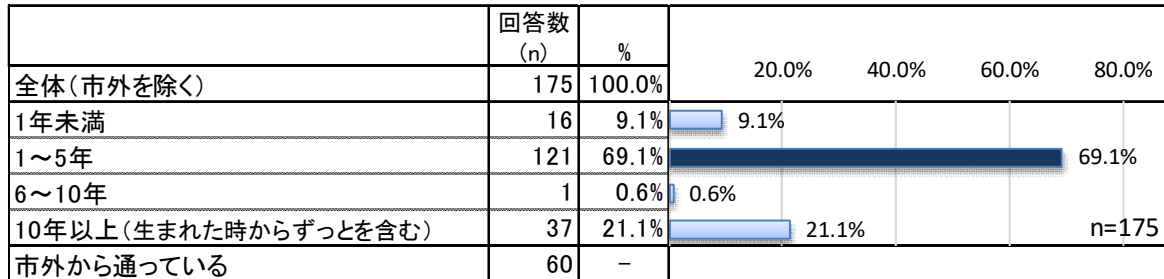
[その他]

電気系	CGクリエイター
IT系	事務
電気工事	開発・研究
整備士	プログラマー
IT(プログラマー)	警察官
IT系など	未定
イラスト系	

③ 今後の居住について

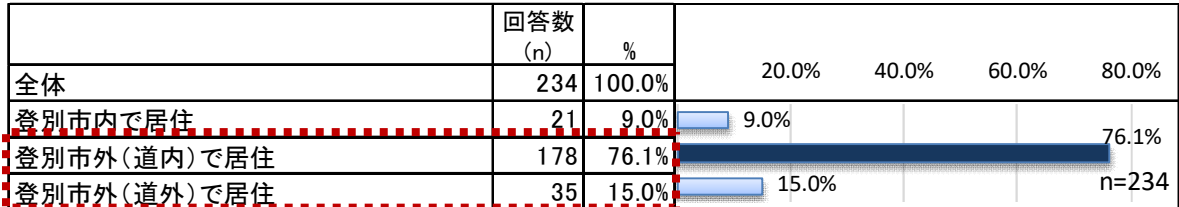
問 10 あなたは、登別市にどのくらいの期間お住まいですか（1つだけ選び番号に○）

回答者の居住期間は、「1～5年」が半数以上を占めています。

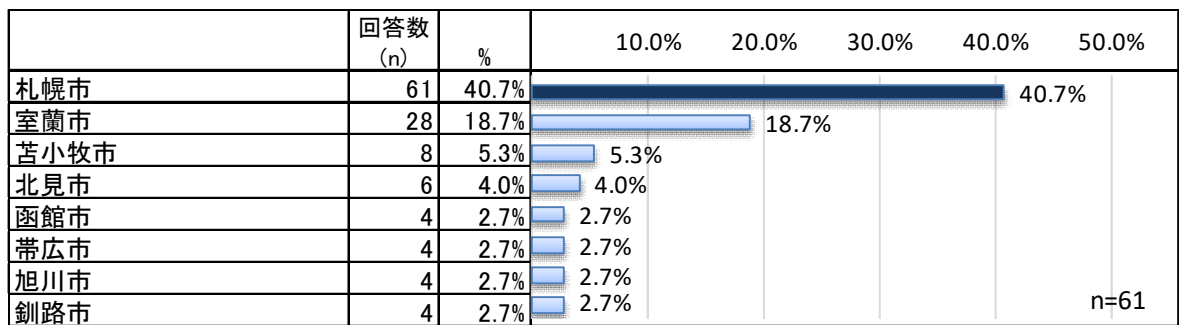


問 11 あなたの高校卒業後の居住地について、予定または希望を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の卒業後の居住地は、「登別市外（道内）で居住」が7割以上を占めています。
また、登別市外（道内）の内訳をみると、4割以上が「札幌市」の居住を望んでいます。



[市外（上位5位まで）]



問１２ あなたは、将来、登別市にＵターンして、定住する可能性はありますか（１つだけ
選び番号に○）

Ｕターン意向については、「将来、登別市に戻ってくる予定はない」が８割以上を占めています。

	回答数 (n)	%	
全体	210	100.0%	50.0% 100.0%
学校を卒業したら就職のために登別に戻ってきたい	1	0.5%	0.5% n=210
結婚をしたら子育てのために登別に戻ってきたい	1	0.5%	0.5%
親の介護が必要になれば戻ってきたい	14	6.7%	6.7%
将来、登別市に戻ってくる予定はない	176	83.8%	83.8%
その他	18	8.6%	8.6%

[その他]

もともと登別に住んでいない	地元じゃない
室蘭に行きたい	旅行などで
転勤であるかも	考えてはいるがはっきりきまっていない
やることがあれば戻ってくる	まだなんともいえない
室蘭市民なので。	わからない
親の介護などで伊達に	知らない
登別市民じゃないので住もうとは思わない	未定

問１３ あなたが、将来の居住地を選択する際、何を重視しますか（１つだけ選び番号に○）

回答者が居住地を選択する際の重視点は、「職場（企業等）への近さ」が35.3%、次いで「土地や住宅の価格」が15.8%となっています。

	回答数 (n)	%	
全体	190	100.0%	10.0% 20.0% 30.0% 40.0%
職場（企業等）への近さ	67	35.3%	35.3%
小・中学校への近さ	4	2.1%	2.1%
実家への近さ	22	11.6%	11.6%
駅やバス停への近さ	12	6.3%	6.3%
土地や住宅の価格	30	15.8%	15.8%
周囲の自然環境	18	9.5%	9.5%
買い物や娯楽などのあそび場の近さ	29	15.3%	15.3%
その他	8	4.2%	4.2% n=190

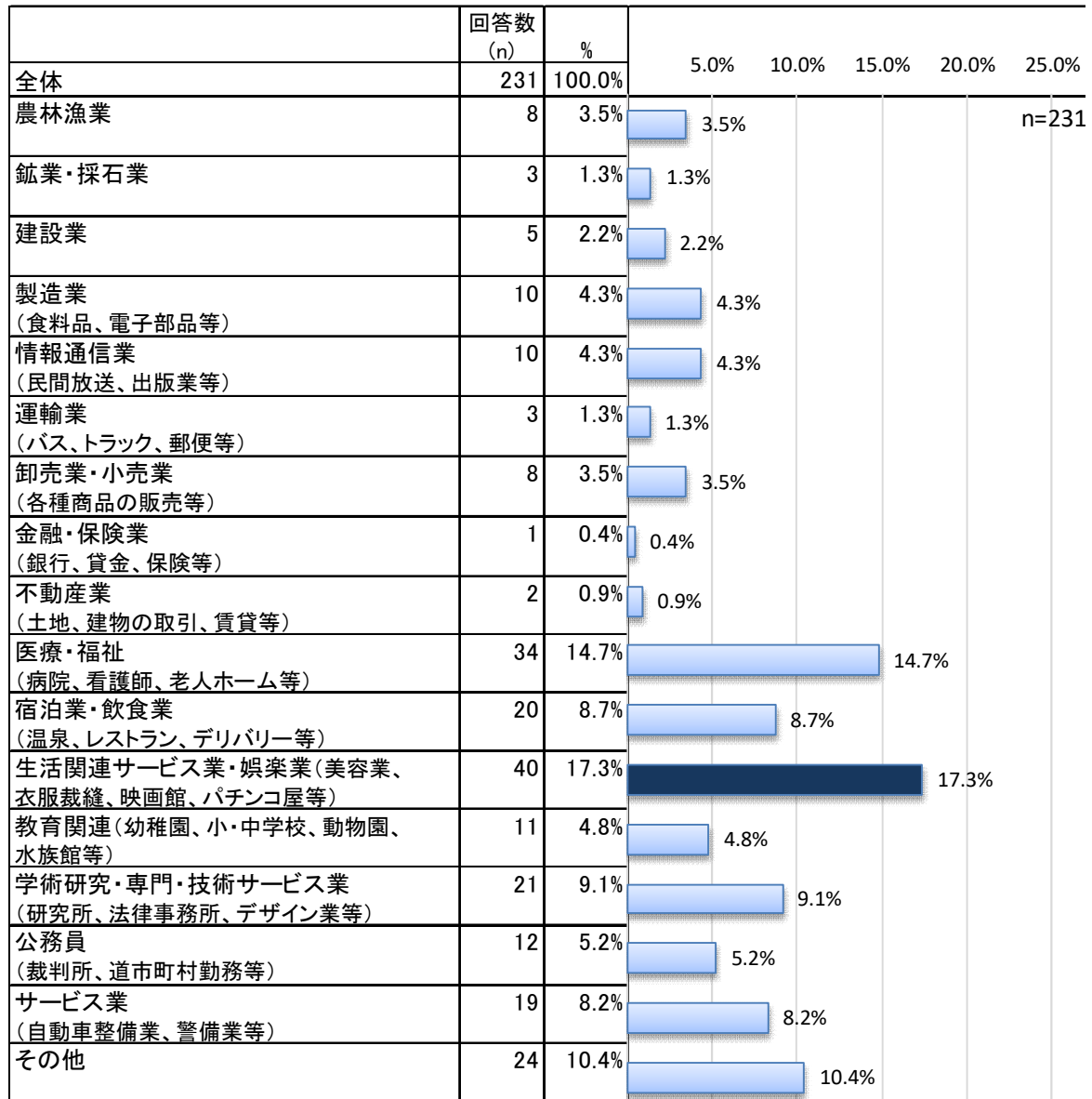
[その他]

周囲の人間関係、実家への近さ
生活に必要な買い物ができる場がどれくらいの距離にあるか
立地の良さ

④ 将来の登別市の姿について

問 1 4 あなたが、今後市内で増えると思う働き口はなんですか（1つだけ選び番号に○）

今後市内で増えると思う働き口は、「生活関連サービス業・娯楽業」が 17.3%、次いで「医療・福祉」が 14.7%となっています。

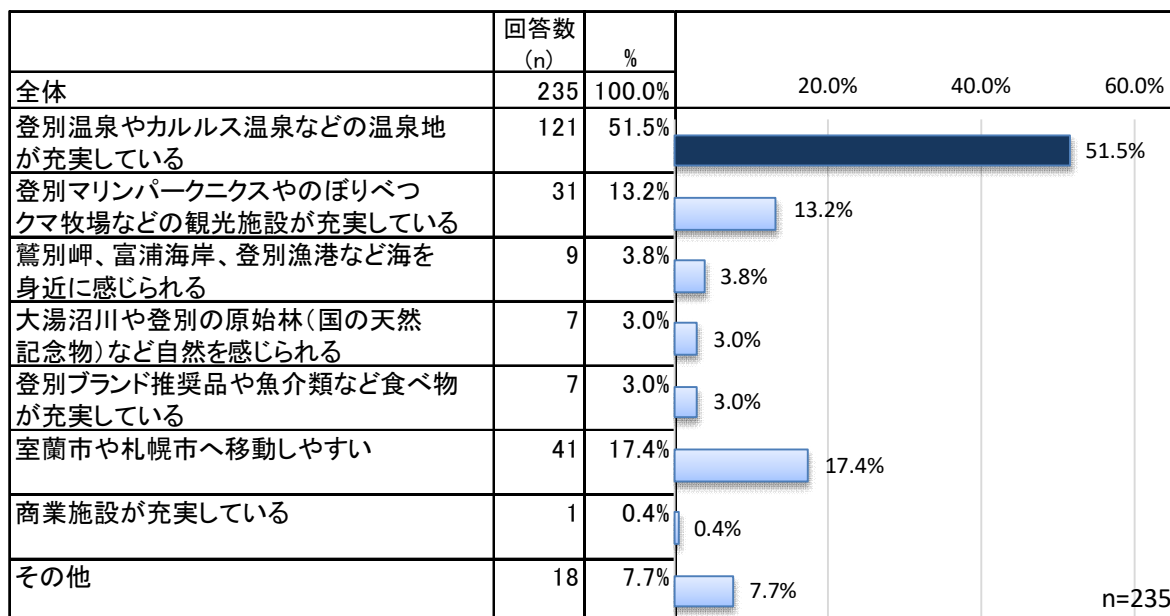


[その他]

電気系	デザイナー職
IT	娯楽系
娯楽施設	ラーメン屋
パチンコ	食べもの屋
送電線系の職	

問１５ あなたが、今の登別市で良いと思うところはなんですか（１つだけ選び番号に○）

登別市の良いと思うところは、「登別温泉やカルルス温泉などの温泉地が充実している」が半数以上を占めています。

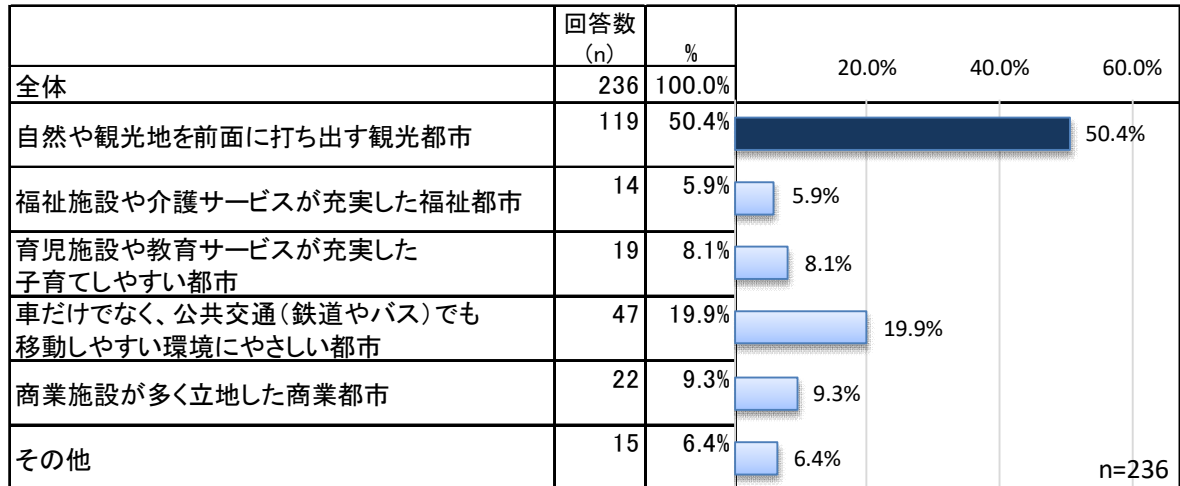


[その他]

何もない自然 自然がありますね。 牛乳がおいしい 少しだけ観光施設があるところ	林道の多さ 登別に来て、あまり日にちがたっておらず、よくわかりません。 考えても思いつかない。
--	---

問 1 6 あなたは、将来の登別市がどうあるべきだと思いますか（１つだけ選び番号に○）

登別市の将来像は、「自然や観光地を全面に打ち出す観光都市」が半数以上を占めています。



[その他]

たくさんの人がスポーツを楽しめるまち
もう少し駅をでかくしたらいいと思います。
子供がたくさんいる
パチンコ店を増やす

遊ぶ所が少ないので増やす。
ガソリンスタンドの営業時間
娯楽施設があるといい。
興味がない。

問17 最後に市政に対するご意見やご要望がありましたらお書きください

[自由記述 (1/2)]

番号	内容
1	自然環境を大切に
2	良い町だと思います。
3	工学院バスが少ないので、バスを増してほしい。
4	バスを増やしてほしいよ
5	札幌から登別へ越してきましたが、札幌に比べると、やはり、交通手段がおとっているかなと思う。生活するにあたっては、たのしくすごしています。
6	市内の巡環バスが欲しいです。
7	がんばって下さい
8	千歳町にもっとコンビニ、スーパーをたててほしい
9	学生寮の近くに買い物できる場所があったら便利だなと思います。
10	豊かな自然を大切にしてください。
11	せっかく多くの自然があるので、もっと力を入れて観光地にして欲しいです。
12	図書館をどうにかしてほしい
13	これ書いて変わりますか？
14	夜暴走族がうるさい
15	娯楽施設を増やしてほしい
16	道路交通法のとりしまりの強化（特に自転車）
17	学生としては車が無いと交通面が不便なのでバス等の増便をしてほしいと思います。
18	登別市に遊べる店を出してほしい
19	JR の不足により満員になることが主なので車両を増やしてほしい。
20	駅をでかくして
21	店を増やしてほしいです。
22	JR 増やしてください
23	交通をべんりにしてください
24	今残っている自然・古風を守り続けたい
25	交通機関の充実
26	子育てしえんとか教育にもっと力を入れてください

[自由記述 (2/2)]

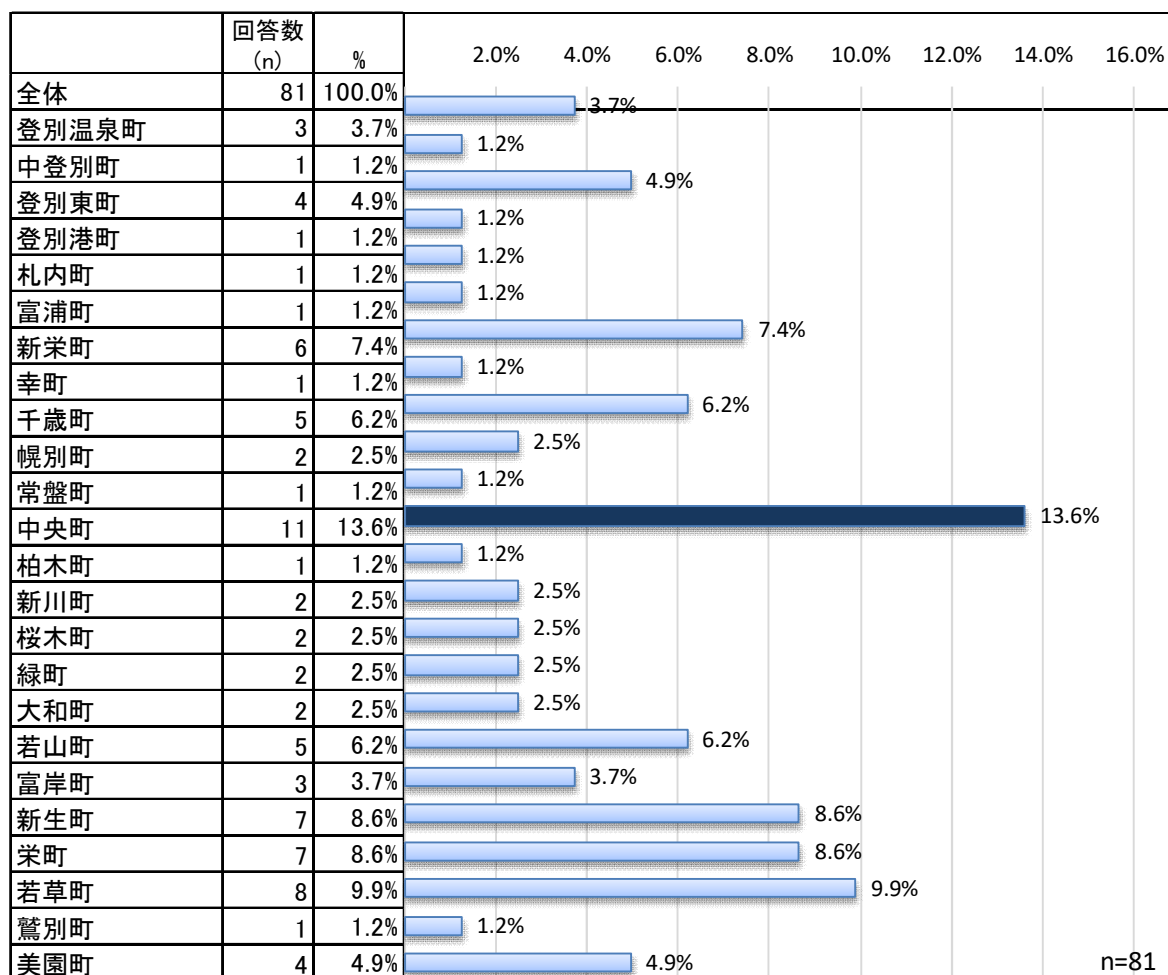
番号	内容
27	アミューズメントパークが増えるとうれしい
28	いい町にしてください
29	登別は高齢者が多いため、医療・福祉が充実した暮らしやすい場にすべきだと思う。
30	コンビニ作って下さい。
31	店を増やしてほしい
32	パチンコ屋をなくしてほしい遊び場を増やしてほしい
33	遊び場を増やしてほしい
34	もっとお店を増やしてほしい
35	特にありません。（温泉施設を多く！）
36	特に有りません（今のままでもいいと思います。）
37	大変で難しいと思いますが、若い人を増やし、お年寄りが安全に暮らすためには、職場を増やし、育児と福祉の両方の進歩が必要だと思います。
38	設備や施設をもっと増やしてほしい。（専門的電子機器など）
39	登別のイオン周辺に駅があると便利。登別温泉街の活性化（お土産屋等が少なすぎる。ホテルからの眺めが悪い。）
40	田舎なので特に求めている事はない
41	登別温泉をもっと市民が利用しやすいようにしてほしいです。
42	市をかせいかしてほしい！！
43	本屋とか店を増やしてほしい。
44	若者は室蘭と登別だと室蘭に住みたいと言うと思います。もっと若者を引きつかるものがあれば良いかと思います。
45	冬の除雪を国道以外にもしてほしい
46	観光客を呼びこもうとする政策と同じくらい今現在登別市に住んでいる人を外に出さないような政策をするべきだと思います。観光で面白いだけでなく住んでいて楽しい町づくりをしてほしいと思います。

(5) 雇用・経済施策向けアンケート（事業所）結果

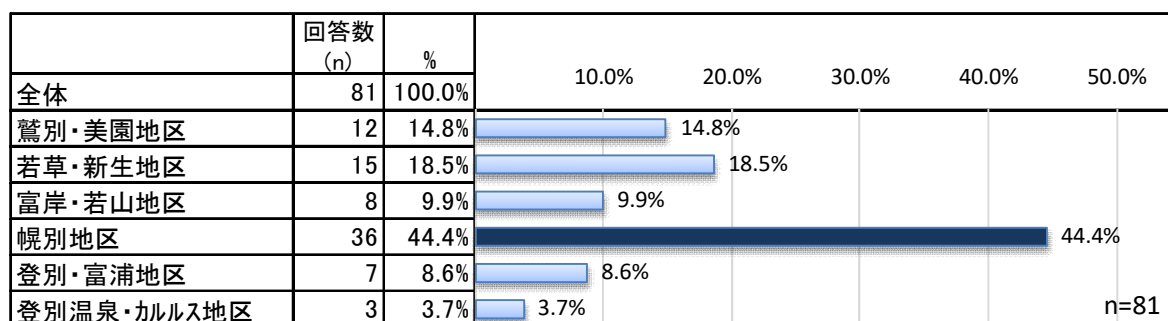
① 基本属性

問1 貴事業所の住所を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の住まいは、「中央町」が13.6%、次いで「若草町」が9.9%となっています。

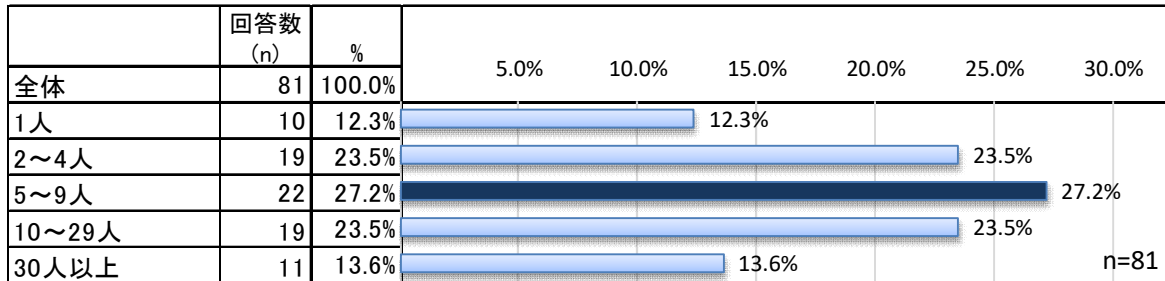


[参考 人口ビジョンにおける6地域区分]



問2 貴事業所の従業員数を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の従業員数は、「5～9人」が27.2%、次いで「2～4人」・「10～29人」が23.5%となっています。

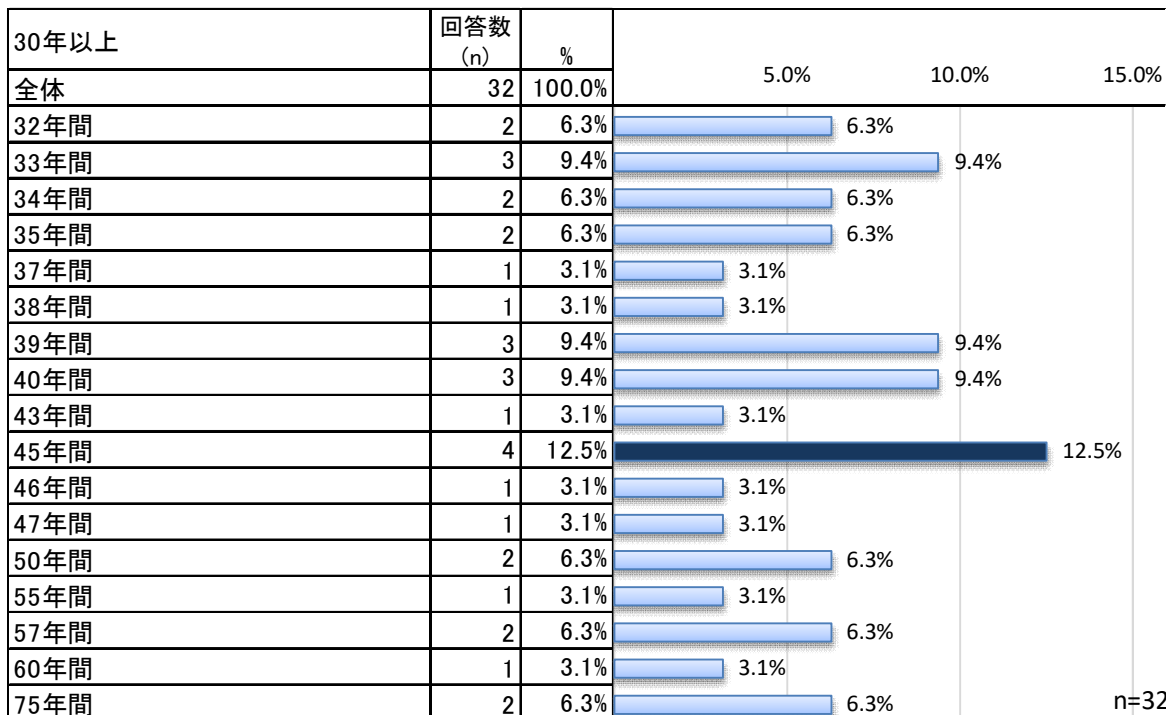
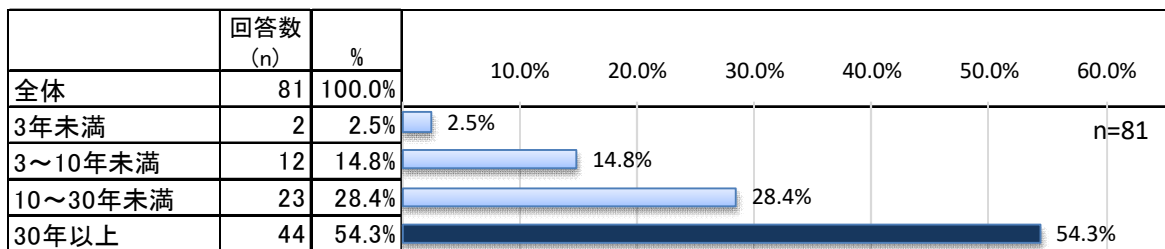


[その他]

30人以上	43人
34人	70人
38人	450人
40人	

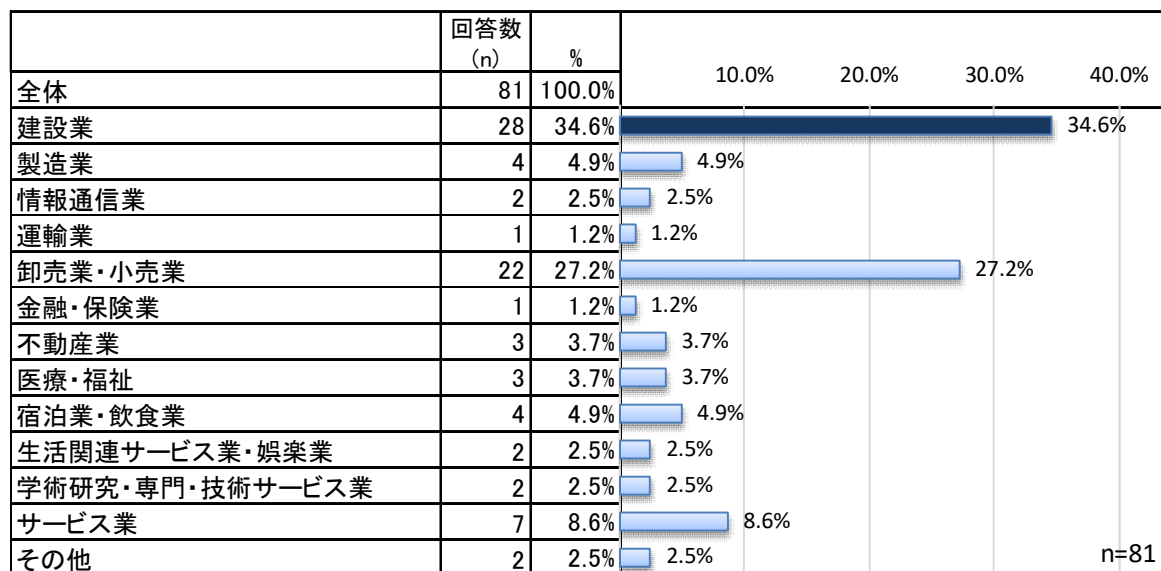
問3 貴事業所の当市内での営業年数を教えてください（1つだけ選び番号に○）

回答者の当市内での営業年数は、「30年以上」が半数以上を占めています。



問4 貴事業所の業種を教えてください（代表的なものを1つだけ選び番号に○）

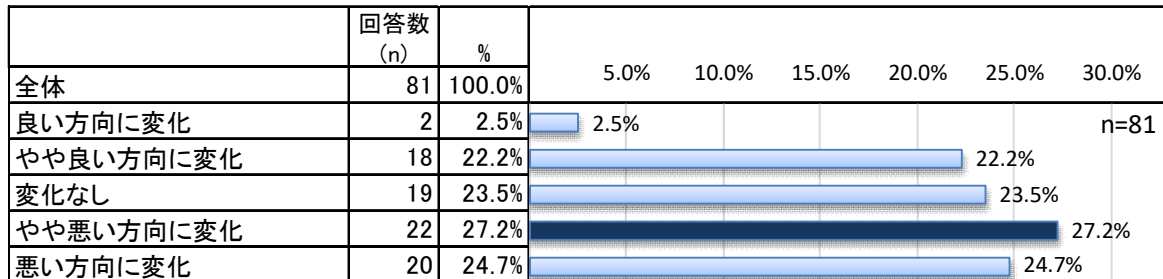
回答者の業種は、「建設業」が34.6%、「卸売業・小売業」が27.2%となっています。



② 営業の現状と今後の展望について

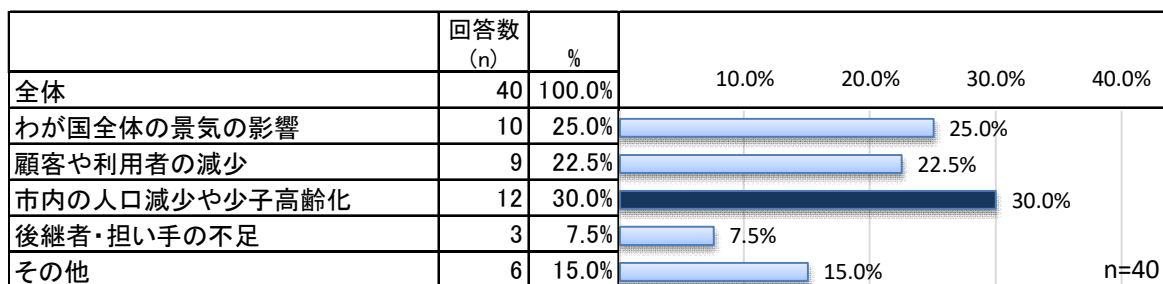
問5 以前と比べて最近の売上はどのように変化しましたか（1つだけ選び番号に○）

最近の売上の変化は、「やや悪い方向に変化」・「悪い方向に変化」があわせて、51.9%となっています。



問6 売上が悪い方向へ変化した主な原因はなんだと思いますか（1つだけ選び番号に○）

売上が悪い方向へ変化した主な原因は、「市内の人口減少や少子高齢化」が30.0%、次いで「我が国全体の景気の影響」が25.0%となっています。



[その他]

社内努力不足
 国の施策の展開（介護報酬の減額）
 消費税増税とデジタル化
 登別市民の景気の影響
 一人親方増加により顧客単価を下げられている。会社経費がかからず、申告せずやれているので、消費税も不要とのことで価格で負ける。

問7 今後数年間における事業継続の見通しについて教えてください（1つだけ選び番号に○）

今後の事業継続の見通しは、「市内で事業を継続する」が94.7%と9割以上を占めています。

	回答数 (n)	%		20.0%	40.0%	60.0%	80.0%	100.0%
全体	76	100.0%						
市内で事業を継続する	72	94.7%						94.7%
事業の撤退も検討している	4	5.3%		5.3%				n=76

問8 今後も市内で事業を継続するためにどのような支援が必要だと考えますか（1つだけ選び番号に○）

事業を継続するための必要な支援は、「顧客・利用者確保に対する支援」が22.7%、次いで「後継者・従業員確保に対する支援」が18.7%となっています。

	回答数 (n)	%		10.0%	20.0%	30.0%
全体	75	100.0%				
資金調達の支援	11	14.7%			14.7%	
新たな販路拡大に対する支援	12	16.0%			16.0%	
顧客・利用者確保に対する支援	17	22.7%			22.7%	
他業者との連携機会に対する支援	1	1.3%		1.3%		
後継者・従業員確保に対する支援	14	18.7%			18.7%	
事業所用地確保に対する支援	1	1.3%		1.3%		
技術支援や製品・商品開発に対する支援	3	4.0%		4.0%		
人材育成に対する支援	5	6.7%		6.7%		
その他	11	14.7%			14.7%	n=75

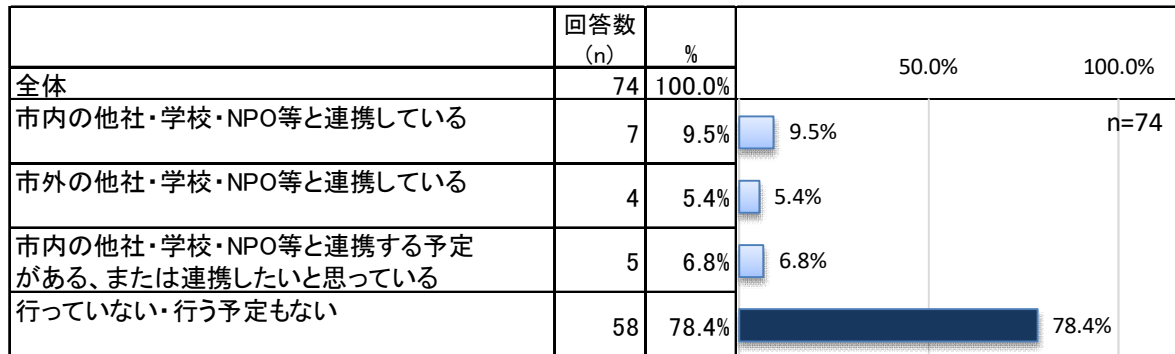
[その他]

企業誘致、移住の促進
 公共事業の地元発注
 空家等対策の推進に関する特別措置法のすすめ
 市内での市の工事及び市事業者の工事は市内の業者を使う！
 市内の産業構成をもっと深く斟酌した工夫に基づく支援
 人口流出のくい止め、移住・定住の促進、働く場の確保！！

③ 地域連携の現状と今後の展望について

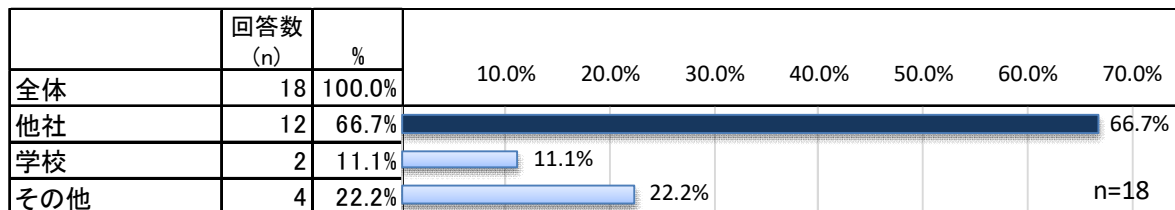
問 9 現在、他社・学校・NPO 等との連携※を行っているか教えてください（1 つだけ選び番号に○）

地域連携を行っている事業所は、1 割程度に留まっています。



問 10 具体的にどこと業務上の連携を行っていますか（該当するものをすべて選び番号に○）

具体的な連携先は、「他社」が 66.7%と半数以上を占めています。



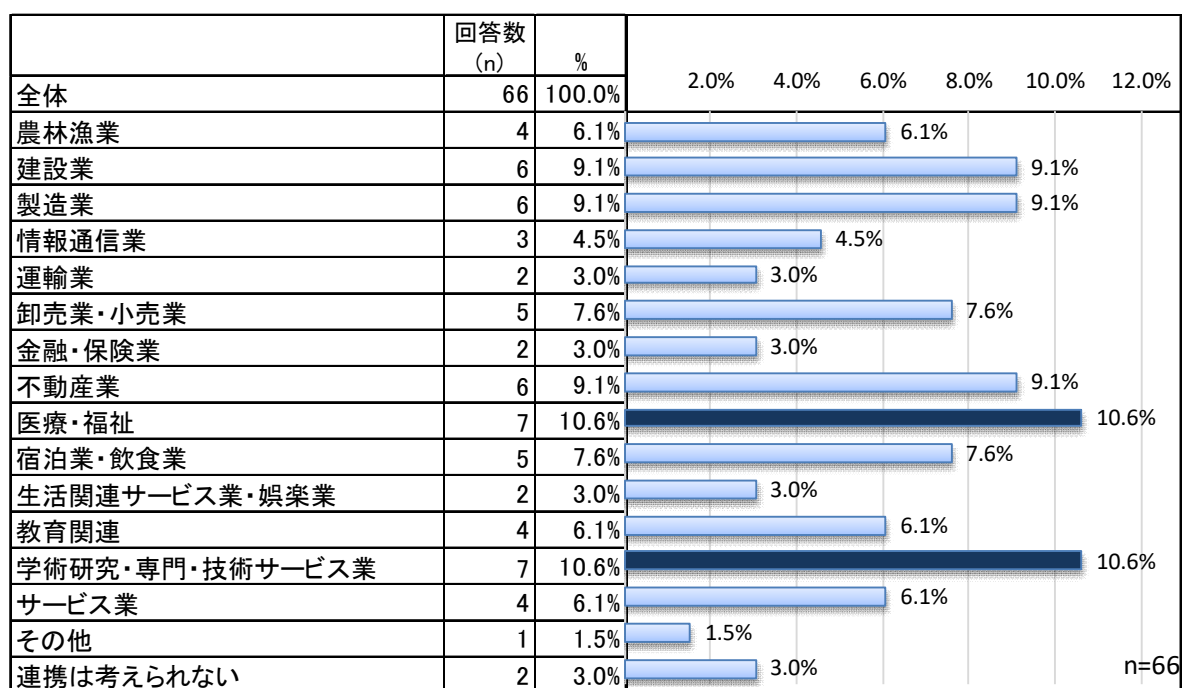
問１１ 業務上の連携内容について、具体的に記入してください

具体的な連携内容は、生産協力、人材派遣、研究開発など多岐に渡っています。

番号	内容
1	・ これまでに何度か実績がある
2	・ 仕事の分担、技術者のシェア、営業情報の共有
3	・ 商品物流、人材派遣
4	・ 他社：製造、販売等で連携している。ex.シンジケート等。 ・ 学校：大学と技術研究、開発を行っている。
5	・ 中小企業同士がお互いの状況に応じ、人材の貸借又は重機などの貸借をする。
6	・ 登別温泉の新しい食の魅力の開発等
7	・ 当施設で行う行事等への参加等
8	・ 良質乳、良質豚の協力生産
9	・ 他社：共同購入、情報交換など。 ・ その他：主に異業種の人が集まり、中小企業の活性化のための組織。 ・ 具体的に企業の決裁権者が集まり、商品開発や仕事の紹介、発注、共同での仕事を行う。 ・ 市町村の枠にこだわるとマンネリ化し、動きが遅いと感じている。

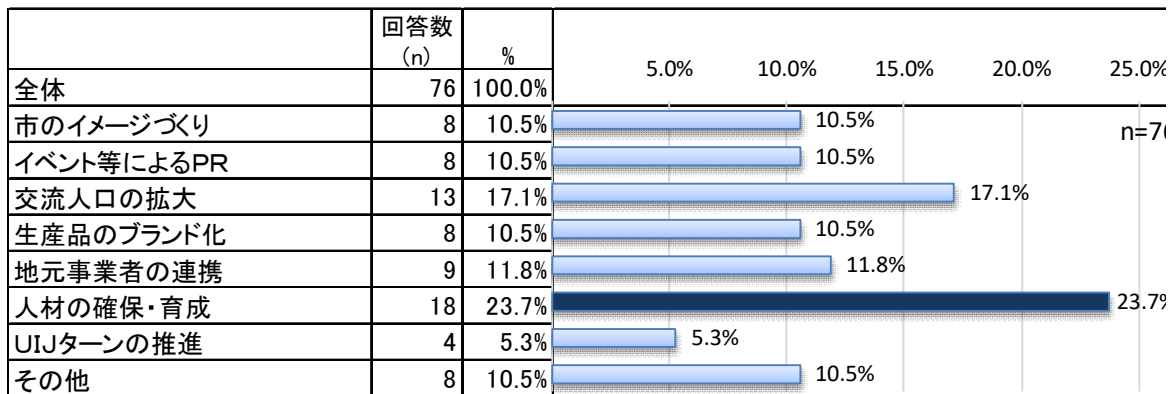
問１２ 現在または将来、市内で業務上の連携が可能な分野を教えてください（該当するものをすべて選び番号に○）

将来の業務上の連携可能分野は、「医療・福祉」・「学術研究・専門・技術サービス業」が10.6%と一番多くなっています。



問 1 3 地域活性化や産業振興のために重要と考えられるものを教えてください（1つだけ
 選び番号に○）

地域活性化や産業振興のために重要なものは、「人材の確保・育成」が23.7%と一番多く、次いで「交流人口の拡大」が17.1%となっています。



[その他]

企業誘致、雇用の拡大

問 1 4 最後に市政に対するご意見やご要望がありましたらお書きください

[自由記述 (1/1)]

番号	内容
1	【図あり】個人的にですが、道の駅があると嬉しい（毎日開いているといいな）。前に道内でどこの町か忘れたのですが、市の建物が道路沿いにずらっと並んでいるんです。どこかの建物で行事があったらその駐車場は混むけど、その続きの所へ止められるみたい。遅く行くとだんだん遠くへ止める事になるけれど、駐車場が空いていなくてぐるぐる回るといふ事がないようなので、いいなと思いました。例えばこんな感じだったから。
2	・新しい案件等に対して、面倒くさいから拒否というような姿勢を排除すべし！！ ・役所所全体のイメージとして積極性が非常に不足しているように感じる（一部を除く）。 ・役所内における様々な対立や葛藤を克服する努力をもっとキチンとするべき。
3	①投資効果と予測を正しく評価すること（市職員を正しく評価できる人材に育てる）。 ②小中学校で市税と自分の小遣いの関係を教育すること。大人・子どもが街の設備を壊す、汚す。ゴミを捨てる。→それらを外注で保全する（業者は潤うが、新しいことができない）→親の市税があがる＝子どもの小遣いが減る→自分たちができることは自分達です（グラウンドの石拾い、清掃、トイレの掃除、テニスコートの整備 etc.）③街おこし：36号線沿いに道の駅・山の駅・海の駅・街の駅
4	観光都市のわりに登別駅前がひどすぎる。駅舎もエレベーター、エスカレーターがなく、夜はタクシーもひろえない。世界中からの観光客からも苦情が出ているのを耳にしたことがあります。
5	希少性のきわめて高い登別酪農・畜産の振興と発展に大きく支援願いたい。生産から地元の素材又は地元根拠ある商品企画開発に対する強力なバックアップ方針をにかけて下さい。真のブランド開発をしっかりと目指していただけると明るい未来があります。食品加工（特に乳・肉製品）の技師者要請の機会をご検討下さい。
6	建設業及び関連業者のイメージアップにご協力下さい。
7	公共事業を地元で長く商売している会社にも割り当ててほしい。一部の業者のみが独占して、なかなか仕事が回らない様になっている。地元企業優先で会を持ち、労災雇用、社会保険をかけている会社に仕事を回してほしい。
8	市を活性化させる為に、市内の多種目の業者が連携を組み、業者が活気付けば市民も潤うと思われる。市内の活動しなければならぬ仕事は、市外からの業者を入れないで、市内の業者を使うべきだと思う。
9	市外からの投資を呼び込む政策、市民の消費を促す政策の推進を願います。
10	市職員、商工会議所職員はもっと勉強すべき。市・会議所が先頭に立って販路拡大すべき
11	将来において展望できるような計画的な事業量の確保を要望します。
12	働きやすい環境作り、子育てをしながら働ける保育と子育て支援、子育ての悩みの支援、若い人が登別で定住してくれることが大切。道路わきに毎年植えている花はもったいないので、多年草にしたらいいいのでは・・・市議会議員の数をもっと減らすべき。市のために仕事をしないで、議会に出れば給与をもらえるのは大きな間違いです。定数を減らせば真剣に仕事すると思うし、市の負担も減らせる。その分、市政の中で忙しい部署を増員したほうがいい。
13	働く場の確保、移住・定住の促進！！